令和 7(2025)年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書

いつも、人から。そして、心から。

長崎国際大学
Nagasaki International University

自己点検・評価委員会

	教育職員	氏名	頁
	人間社会学部国際観光学科		
1	学部長・教授	井上　英也	1
2	学科長・教授	落合　知子	6
3	教授	田中　誠	10
4	教授	滝　知則	15
5	教授	落合　和昭	20
6	教授	乙須　翼	25
7	教授	尾場　均	29
8	教授	城前　奈美	34
9	教授	松山　博明	38
10	教授	山内　美穂	42
11	特任教授(甲)	池永　正人	46
12	特任教授(甲)	嶋内　麻佐子	50
13	特任教授(甲)	山崎　祐一	56
14	准教授	浦郷　淳	62
15	准教授	川上　直彦	68
16	准教授	坂口　さとこ	72
17	准教授	塩田　裕明	76
18	准教授	竹田　文雄	80
19	准教授	東出　朋	84
20	准教授	森尾　真之	87
21	講師	井畑　敦子	91
22	講師	江島　弘晃	95
23	講師	川上　知子	99
24	講師	John Patrick Owatari—Dorgan	103
25	講師	末永　貴久	108
26	講師	張　美慶	112
27	助教	長津　恒輝	116
28	助教	吹上　新悟	120
29	助教	諸石　慈	124
30	助教	余　乾生	127
31	助教	Lohr Michael Cory Daniel	131
	人間社会学部社会福祉学科		
1	副学長・教授	木村　勝彦	135
2	学科長・教授	柳　智盛	140
3	教授	大畠　啓	145
4	教授	大町　いづみ	149
5	准教授	梅野　潤子	153
6	准教授	野田　健	157
7	准教授	韓　榮芝	162

	教育職員	氏名	頁
8	講師	足立　孝子	167
9	講師	浦　秀美	171
10	講師	中村　尚生	176
11	講師	久田　貴幸	181
12	講師	裵　孝承	185
13	講師	丸山　貴志	188
14	助教	針塚　緑樹	192
15	助教	山下　彦	196
16	助手	金子　麻美	200
	健康管理学部健康栄養学科		
1	学部長・教授	熊井　まどか	204
2	学科長・教授	古賀　貴子	208
3	教授	林　俊介	213
4	教授	廣田　昌彦	218
5	教授	山口　留美	221
6	准教授	川内　美樹	225
7	准教授	藤井　俊輔	229
8	准教授	松尾　嘉代子	233
9	准教授	吉村　亮二	237
10	講師	射場　仁美	241
11	講師	小田　和人	244
12	講師	川野　香織	248
13	講師	菊地　優子	252
14	講師	髙江洲　有沙	255
15	講師	吉永　奈津希	259
16	助手	井上　朋奈	263
17	助手	嘉数　圭祐	266
18	助手	野田　智章	269
19	助手	古田　美咲	272
20	助手	山下　千尋	275
	薬学部薬学科		
1	学部長・教授	藤田　英明	278
2	学科長・教授	椛島　力	282
3	教授	市川　和洋	286
4	図書館長・教授	岸原　健二	290
5	教授	宇都　拓洋	294
6	教授	大磯　茂	299
7	教授	大庭　義史	303
8	教授	小川　由起子	307
9	教授	隈　博幸	312

	教育職員	氏名	頁
10	教授	黒川　健児	316
11	教授	小島　直人	320
12	教授	小林　秀光	324
13	教授	佐々木　茂貴	328
14	教授	平良　文亨	332
15	教授	高井　伸彦	340
16	教授	長岡　寛明	344
17	教授	西奥　剛	348
18	教授	室　高広	351
19	教授	山口　拓	356
20	教授	山口　泰史	362
21	准教授	太田　一寿	366
22	准教授	神谷　誠太郎	369
23	准教授	川嵜　達也	372
24	准教授	神田　紘介	376
25	准教授	田中　宏光	380
26	准教授	出口　雄也	384
27	准教授	縄田　陽子	388
28	准教授	藤井　佑樹	392
29	准教授	藤木　司	396
30	准教授	藤本　京子	400
31	准教授	山田　耕平	404
32	講師	石原　知明	408
33	講師	榎本　彩乃	412
34	講師	大久保　伸哉	416
35	講師	倉岡　卓也	421
36	講師	末廣　真理恵	425
37	講師	相田　美和	429
38	講師	髙崎　伸也	432
39	講師	中村　沙織	436
40	講師	吉田　達貞	440
41	助教	大神　正次	444
42	助教	北川　翔大	448
43	助教	中島　健輔	452
44	助教	波多江　日成子	455
45	助教	福森　良	459
46	助手	李　政洙	463
47	助手	小櫻　竜騎	466
48	助手	福成　温	469

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 井上　英也

１．教育理念

観光産業を日本の主産業へとの機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な　“おもてなし”　に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、この人材層に高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1.　グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2.　経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3.　地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ＩＲ論	15/15(前期)	2	63	②④⑤⑦⑩
ホテル管理論	15/15(後期)	2	38	②④⑤⑥⑦
起業論	15/15(前期)	2	66	②④⑥
観光リーダーシップ論	15/15(後期)	2	47	②③④⑤⑥⑦⑧
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑦
Hotel Management	15/15(前期)	2	56	①②④⑤⑥⑦
観光事業論	15/15(後期)	2	252	②④⑤⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
宿泊業特講	15/15(後期)	2	2
事例研究（宿泊業）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【起業論】

多くのの学生が考えたことのない”起業”というテーマの授業に、学生が興味を持ち課題に取り組むことは、基本的な会社の理解、将来の職業への意識を高める上では意義のある授業だと感じている。これに関しては、学生の自由記述蘭でも評価されている。多くの学生に受講してもらいたいが、各自（あるいはグループ）への個別の指導が必要なため、受講生数に限りがある。ま

た、途中であきらめてしまう学生も一定数いる。引き続き課題として改善したい。

【IR論】
IRは、観光マネジメントの先端領域であり、カジノを含むことから議論百出のテーマである。特に日本においては、大阪において最初の開発がこれからスタートする未確定の事業形態である。そのため、授業内容を変化に応じてアップデートしていく必要があると感じている。また、IRには社会に与える負の影響もあるため、学生が観光面におけるプラスの効果とバランスよく考えられるような授業運営に心掛けた。

【観光リーダーシップ論】
リーダーシップは観光分野のみならず、社会生活や職業生活において重要な能力である。本授業では理論と実践を組み合わせることで、学生が自分自身のリーダーシップの可能性を考える機会を提供してきた。
履修者数の増加により授業運営の難しさもあったが、今後も授業方法の工夫を重ねながら、学生が主体的に学び成長できる授業づくりを進めていきたい。

【ホテル管理論】
本授業はホテル関連科目の総仕上げとして、ホテル経営や運営の実務的な内容を扱うため、学生にとってはやや難易度の高い内容となる場合もある。しかしながら、観光・宿泊産業の現状や将来のキャリアを考える機会として、一定の関心を持って受講している学生も多いと感じている。
今後は学生の理解度をより丁寧に把握しながら授業内容を調整するとともに、観光産業やホテルビジネスの最新動向を取り入れることで、学生の職業意識や学習意欲の向上につながる授業づくりを継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
② グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
③ 宿泊業におけるインバウンド戦略
④ 地域の観光振興 ーDestination Management Organizationの在り方ー
⑤ 統合型リゾート（IR）における人材マネジメント

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
計画的偶発性理論に基づく観光まちづくり論／2026年3月／長崎国際大学論叢　第26巻／49頁～64頁／単著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育	委員	なし
教員資格審査	委員	なし
防火・防災	委員	なし
危機管理	委員	なし
人事	委員	なし
輸出管理	委員	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし
地域連携センター	アドバイザー	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	委員	特記することはなし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①国際観光研究所の活動を通じたメディアへの情報提供

②シンポジウムでの登壇（九州新幹線西九州ルート整備促進シンポジウムなど）でのメディア露出

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第2回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州新幹線西九州ルート整備促進シンポジウム2025 in 福岡	8月29日	アクロス福岡	長崎県

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光審議会	会長	2019年2月～現在に至る	長崎県知事
佐世保市行財政改革推進会議	副会長	2023年6月～現在に至る	佐世保市長
佐世保市俵が浦半島の自然公園化に向けた民間提案選定委員会	委員	2024年11月～現在に至る	佐世保市長
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏	委員	2017年7月～2025年2月	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会会長
長崎県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援運営協議会	佐世保訓練センター部会委員長	2025年6月～現在に至る	長崎県職業能力開発促進センター佐世保訓練センター
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会	代表理事	2017年3月～現在に至る	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会理事会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（１）教育活動

本年度は、観光・ホスピタリティ分野の専門教育を中心に、IR論、観光リーダーシップ論、起業論などの科目を担当し、理論と実務の両面を重視した教育を実施した。授業においては、観光産業の実務事例や最新の業界動向を取り入れ、学生が現実のビジネス環境を意識しながら学習できるよう工夫した。特に、起業や観光ビジネスをテーマとする授業では、学生が主体的に課題を設定し、実践的な思考力を養うことを重視した。

また、リーダーシップやホテル経営などの科目では、理論的理解だけでなくディスカッションや課題研究を通じて学生の主体的学習を促進する授業運営を行った。一方で、授業内容の難易度が高くなる科目もあり、学生の理解度や学習意欲に差が見られる点が課題として認識された。今後は、授業方法や教材の工夫をさらに進め、学生の理解度に応じた指導を行うことで、より効果的な学習成果の実現を目指したい。

（２）研究活動

研究面では、ホスピタリティ産業における人材管理、ホテル経営、観光地経営（DMO）、IR産業などを主要テーマとして研究を継続した。本年度は、観光まちづくりと偶発性の関係を理論的に検討した研究成果をまとめ、論文として公表した。

本研究は、観光体験の価値創造や地域観光の発展を理論的に考察するものであり、観光学および地域政策の分野において一定の学術的貢献を行うことができたと考える。今後は、観光まちづくりや観光産業の人材マネジメントに関する研究をさらに深化させ、国内外の研究者との連携や外部資金の獲得などを通じて研究活動の拡充を図ることが課題である。

（３）社会活動・社会貢献

社会活動においては、長崎県観光審議会会長をはじめとする複数の行政委員会や地域関連組織の委員として、地域観光政策や地域振興に関する助言・提言を行った。また、九州新幹線西九州ルート整備促進シンポジウムに登壇するなど、観光政策や地域発展に関する専門的知見を社会に発信した。

さらに、地域団体や行政との連携を通じて、地域観光の振興、人材育成、地域産業の発展に貢献する活動を継続している。これらの活動は、大学の知的資源を地域社会へ還元するとともに、教育・研究の内容を社会の課題解決へ結び付ける機会にもなる。今後も大学と地域社会を結ぶ役割を果たしながら、観光分野における社会貢献活動を継続していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 落合　知子

１．教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから4冊の本を雄山閣から出版した。令和6年11月に『医学・歯学・薬学系博物館事典　増補改訂版』を出版した。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習A	15/15(前期)	1	48	⑥⑦⑪
博物館実習C	15/15(通年)	1	30	⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①③④
卒業研究	15/15(前期)	4	1	①③④
博物館実習C	15/15(前期)	1	1	⑦⑪
博物館実習C	15/15(後期)	1	1	⑦⑪
博物館資料保存論	15/15(前期)	2	121	②⑨
博物館資料論	15/15(後期)	2	197	②⑨
博物館実習B	30/30(通年)	1	12	⑥⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑥
博物館実習B	30/30(通年)	1	14	②⑪⑫
博物館概論	15/15(後期)	2	108	②⑨
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	5	①④⑥
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	7	①④⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	①④⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	3
特別研究	15/15(前期)	8	1
博物館特講	15/15(後期)	2	2
博物館特講	15/15(後期)	2	5
事例研究（博物館）	15/15(前期)	2	4
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	3

特別研究指導Ⅱ	30/30(通年)	4	2
特別研究指導Ⅲ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは博物館実習で実施している。ほとんどが満足しているとの評価で、学芸員資格を取得することの意義を理解している学生が多くみられる。大学院のティーチングアシスタントを配置し、一人一人丁寧に指導していることが評価に繋がっている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

博物館学全般（博物館資料保存、医学系博物館、道の駅博物館、野外博物館等）、考古学

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
カリキュラム委員会	委員	カリキュラム改正のために尽力した
観光マネジメント委員会	委員	観光学科の運営のために尽力した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第3回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
家具の博物館	理事	2024年～現在に至る	一般社団法人家具の博物館
波佐見町歴史文化交流館	評議員	2021年～現在に至る	波佐見町教育委員会
長崎市恐竜博物館	評議員	2022年～現在に至る	長崎県教育委員会
公益財団法人佐世保地域文化事業財団	評議員	2018年～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

佐世保市内の文化財調査と目録制作

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

西海国立公園水族館、ハウステンボス美術館の収蔵資料調査を学生・大学院生たちと実施した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 田中　誠

1．教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかり行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしたら「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他の学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	3	⑥⑫
事前・事後指導	4/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	40/40(通年)	2	4	④
TOEIC対策Ａ	15/15(前期)	2	86	①⑩
TOEIC対策Ｂ	15/15(後期)	2	48	①⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	12	①④⑤⑥⑦⑪⑫
英語科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	3	①⑤
英語科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	2	①⑤
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	4	①⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	4	①⑥
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	10	①⑥
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	10	①⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	10	①⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	10	①⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に関しては、例年、私が最も力を入れている事項である。今年度も、熱意のある、わかりやすい授業を展開できるように努力をした。しかし、近年の学生の質の変化にうまく対応できない点があった点があったことは反省したい。もちろん、昨年度までの反省点を活かし授業内容を検討したのであるが、こちらの思う通りに効果的な授業が展開できないこともあり、次年度に

向けて改善に取り組みたい。

まず履修生の多くが1年生である講義型の授業について、前期の「TOEIC対策A」に関しては、授業終了時に、これまで同様にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらうことを実施した。学生のコメントに関しても、次回の授業で導入時に話をしたり、プリントを作成し配布したりした。また、授業外学修の時間を増やすことを意図して、こちらも例年通り毎回２つの課題を与えた。１つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、２つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにしておき、復習がすぐできるような工夫もした。このような努力もあってか、授業アンケートのQ13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目については、昨年度が4.4で、今年度は4.7という結果となった。これは、こちらが想定する以上に、もっと低いレベルの層に対する指導方法を検討していかないといけないと痛切に感じ、試行錯誤を繰り返した結果である。また、留学生の履修生のことを考慮し、できるだけ平易な日本語を使用するように努めた。その結果、今回は高いポイントになったが、非常に厳しい状況であることに変わりはない。現状に満足することなく、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、プリントの作成の仕方などを学び続けることで、改善していけるように努力していきたい。

後期の「TOEIC対策B」においても、前期同様に丁寧な熱意のある授業を心がけた。授業アンケートQ7の「熱意の感じられる授業でしたか」に関しては、毎年常に意識して授業を展開しているが、4.9というポイントを得られた。この結果は、こちらの熱意が授業を聞いている学生に十分に伝わった結果だと思うので、正直に言ってうれしい。今後とも、熱意の感じられる授業を展開していきたい。Q13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目は4.6であった。昨年度が4.5であったので、少し上昇した。しかしながら、なかなか全員を満足させることは難しいと感じている。英語が苦手な学生にも満足できるような授業内容になるように常に工夫してはいるが、非常に難しい。今後とも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、参考資料の作成の仕方などを研究していくことで、さらに改善していきたい。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、例年通り、双方向型の授業が適切に行えるよう意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせるよう努力した。授業外学修時間を確保するための課題も毎回提出させ、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。しかしながら、特に留学生で、授業を欠席しがちな学生が複数いて、なかなか改善させることができなかったことについては、大きな反省点である。

教職科目に関しては、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、例年通り、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。履修学生たちは、熱心に取り組んでくれたと考えている。

大学院の科目に関しては、今年度も厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。英語が得意な学生ばかりではなかったので、英語の文献の読み込みには苦労した。そのような中でも、パワーポイント等を効果的に使用し、理解の促進に努めた。レポート等に関しては、丁寧なフィードバックも意識して行い、今後の論文を書く際の手助けになるような指導を心がけた。満足度は4点満点中の3.3であった。

全体を通しての反省としては、ますます学生の学力格差が目立つ状況となり、それに対応するため、様々な工夫をするものの、こちらの想定どおりには授業が進まない場合が増えてきた。また、やる気のない学生の相対的な数も増えてきているような気がする。このような学生にやる気を出させるために、色々試してみるのだが、そう簡単にことは運ばない。この点は、ずっと試行錯誤している状況が続いている。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。時には授業内容から離れてでも、やる気がでるような話しを入れていくことも行っているのだが、なかなか効果は見えてこない。多様な学生が入学してくる中で、理想的な授業を提供することは至難の業であるが、今後とも様々な方策を実施し、ポートフォリオ等を活用して、教育力の向上に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
TOEIC対策（オンデマンド型）	5	28	2025年10月8日～11月29日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・外国語としての英語教育
・教育学
・言語学
・翻訳研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
自己点検・評価委員会	委員	令和7　年度大学機関別認証評価に向けての適切な対応を行った。
発明等審査委員会	委員	発明等審査委員会委員として、適切な委員会畝衣に寄与した。
教職課程委員会	委員	教職課程委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育基盤センター運営委員会委員として、適切な委員会運営に寄与した。
産学連携・研究支援センター委員会	委員	産学連携・研究支援センター委員会委員として、適切な運営に寄与した。
グローバルツーリズムコース委員会	委員長	学科のグローバルツーリズムコース委員会の委員長として、適 切なコース運営に寄与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業 対策会議 ワーキンググループ（タイプ4）	メンバー	私立大学等改革総合支援事業 対策会議 ワーキンググループ（タイプ4）のメンバーとして、資料作成等に寄与した。
九州文化学園 創立80周年記念誌編集委員会	編集委員	九州文化学園 創立80周年記念誌編集委員会 委員として、記念誌の編集に従事した。

(3) 課外活動の指導等

①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導
②TOEIC対策講座 担当
③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパスにおいて、英語教育、留学等の説明担当。
・佐賀学園高等学校の大学訪問の対応。
・佐世保南高等学校の探究発表会の講評担当。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第4回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019年11月～2025年11月	佐世保市
佐世保市教育委員会自己点検及び評価における外部評価委員	委員	2022年6月～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
ホーチミン青少年交流訪問団受入	国際観光学科長として歓迎の挨拶	2025年7月11日	長崎県 文化観光国際部

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際観光学科 学科長として、学科マネジメントを担当。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も、国際観光学科の学科長という要職を遂行しながら、日々、格闘していたというのが率直な感想である。そのような多忙な中、教育の質を下げないために、なんとか業務を遂行してきた。私に限らず、学科教員の業務過多の状況は続いており、

かなりのストレスをかかえて業務に当たっている教員もいて、その対応に心を痛めた。そのような困難な状況下でも、学科のマネジメントは、待ったなしで遂行していかなければならず、私のストレスレベルはかなり高い状況であったが、周りの教職員のサポートのおかげで、なんとか学科長の業務を今年度も遂行できたという状況である。学科運営をどうにか運営できたことは、本当に私をサポートしてくださる教職員の方々の献身的な努力のおかげだと考えている。心から感謝したい。

教育面に関しては、例年通りのレベルの業務遂行はできたと考えている。その他の様々な業務についても概ね満足のいける内容であったのではないかと考える。ただし、研究面に関しては、時間がほとんど取れなかった。これは、反省点ではあるが、学科長を務めている間は、なかなか時間の確保ができそうもない。

全体を通して、今年度も多忙な一年であったが、どうにかこうにか乗り越えることができた。私が体調を壊してしまうと、周りの方々に多大な迷惑をかけてしまうので、体調管理には、これまで以上に留意していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 滝　知則

１．教育理念

１．教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いるはずである。この人たちには、本学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。(2025年になり、「グローバル化の終りの始まり」という言い方が聞かれるようになった。ある国が動きの中心となっていた「グローバル化」については、この言い方があてはまるであろう。しかし地球全体に視線を向けるとき、グローバルなつながりは続いていると考える)

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障がいのある人たちと（今は）ない人たちの文化、地方（農村部）の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときにも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働（グループワーク）や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会（地元）で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べるとき、地方（農村部）の地域社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方（農村部）の地域社会の文化を創造するための大変さ、創造されたすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

本学を卒業後に働き、暮らす場所が都会である人にも、地方（農村部）である人にも、地元に生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人になってほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいメッセージがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、そのメッセージが聞き手に伝わりにくいことがある。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実習系科目のフィールドは佐世保市（三川内町と黒島町）である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）を行う。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ⅠA	15/15(前期)	1	29	②④⑥
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	31	②④⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	12	⑥⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	1	⑥⑫
地域連携活動ⅡA	15/15(前期)	1	2	②④⑥
International Relations	15/15(前期)	2	19	①⑥⑨
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	④⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	④⑥
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	15/15(前期)	2	100	①⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	④⑥

ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	1	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	52	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	2	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	2	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	④⑥
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	8	④⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	④⑥
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
政治学	15/15(後期)	2	68	①⑥⑨
ビジネス文書	15/15(後期)	2	91	①⑨
国際交流研究	15/15(前期)	2	73	⑥⑨
比較文化論	15/15(後期)	2	211	⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	1
アカデミックライティング特講	15/15(後期)	2	4
国際関係特講	15/15(前期)	2	2
事例研究（国際関係）	15/15(後期)	2	2
地域観光政策特別演習	15/15(後期)	2	2
国際関係特講	15/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（前期）International Relations

Q13　R7実績　4.6

この科目の授業アンケートは、今年度初めて実施した。今回は令和7年度の評価結果のみを示す。次年度もアンケートを実施する。

Manabaで予習確認問題と復習問題に答えてもらった。これらを行うことが、各回の授業内容の理解、学修したことの定着に一定の貢献をしたと考えている。南北問題について学ぶ回では、14世紀以降の国際経済史の概略を説明することにより、今日の南北問題の背景に19世紀以降の植民地主義があることを伝えた。

ウクライナでの戦争、ガザ地区を初めとする中東での紛争、ならびに世界各地での異常気象などが進行中であり、国際関係のできごとに関する学生の関心は、日本人学生・留学生ともに昨年度以上に高かった。これからの世界でどのように行動していくべきかを考えるためのツールとして、この科目を活用してもらいたいと考えている。そのためにも、さらなる授業改善に励む。

（後期）ビジネス文書

Q13　R6実績　4.4　R7実績　4.6

検定試験の教科書の記述に加え、具体例を盛り込み、受講生が職場でのコミュニケーションをイメージしてもらえるように努めた。

留学生の学修支援を念頭に支援授業プリント、マナバの課題にふりがなを付けた。ビジネス文書の学修に用いる日本語の中には、日本人の学生も日常では触れることのない用語がある。ふりがなを付けることは、結果としてこのようなニーズにも対応したと考える。

昨年度までと比べ、留学生の受講者数が増えた。さらには、留学生の単位取得者が増えた。日本語でビジネス文書を読んだり書いたりする力の取得への関心が高いと推察される。日本人学生・留学生ともに、次年度はさらに学修効果を高めてもらうように励む。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
b. 国際観光がホストとゲストの相互認識（ナショナリズム）に与える影響
c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
d. 引揚の歴史との対比を通しての国際観光の特徴
e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす影響の調査

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

初年次・共通教育部門の活動報告／2026年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第８巻／p. 43／共著／活動報告

佐世保市立広田小学校でのQSP異文化理解教室／2026年3月／QSP異文化理解教室活動報告書（令和6年度）／11頁～15頁／単著／活動報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員長	（１）キャリアセンターが提供する就職支援プログラムと各学科の就職支援活動の協働に向けた調整を行っている。 （２）進路決定届の提出率向上を、各学科に依頼した。一部の学科では決定届の提出を１月下旬から開始した。
自己点検・評価委員会	委員	（１）授業公開の企画・実施・アンケートの集計・意見交換会の実施・アンケート集計結果の委員会への報告。 （２）授業アンケート結果に関する学部長面談の準備・面談結果の委員会への報告。 （３）大学評価・IR室の支援を得て、卒業生アンケートの提出率向上のためのリマインダー送付を複数回行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	初年次教育部門を担当し、「ホスピタリティとSDGs」の実施と、入学前教育の準備・実施を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

サイレントブルーサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第5回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

地域連携活動（前期は佐世保市黒島町、後期は佐世保市三川内地区の小森川周辺）の授業では、それぞれの地域の地理・歴史と観光対象の特徴を調べた。これに加え、環境整備活動も行った。

地味な活動のように見えるが、人口減少を背景とした地域づくりの観点から、インフラ整備の一環を手伝うことには意義があると考える。また受講した学生たちにとっては、大学の地元にある地域社会の住民の人たちと協働したり話したりすることが、将来のために貴重な体験であると考える。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
QSP異文化理解教室	小学６年生４クラスと留学生７名（台湾、韓国、スリランカ、ネパール）との文化交流	R6年7月、11月	佐世保市立広田小学校
QSP異文化理解教室	高校２年生１クラスと留学生４名（ミャンマー、アメリカ、中国）との文化交流	R6年7月	長崎県立猶興館高等学校
QSP異文化理解教室	高校１年生４クラスと留学生２名（スリランカ、中国）との文化交流	R6年12月	九州文化学園高等学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動

授業アンケートの評価が伸びている科目でも、改善の余地のある科目でも、授業内容のさらなる充実に励む。

研究活動

QSP異文化理解教室の企画と運営には、着任間もない学科教員が複数、貢献してくださっている。この先生方とともに、地域社会における国際交流活動のさらなる充実に励む。

地域貢献活動

黒島と三川内における地域連携活動では、短期間とはいえ環境整備活動を行い、各地域社会のインフラ整備に関与している。観光対象の理解に止まらず、地域づくりの一旦を担うことは、この科目の本来のねらいからも望ましい展開と考える。今後もさらに充実した活動を行う。

大学運営活動

（１）就職委員会

キャリアセンターと学科との間の情報のやりとりがさらにスムーズに、かつ効果的に行われるように励む。結果として就職率の向上につながることを目指す。

（２）自己点検・評価委員会

授業公開ならびに公開授業アンケートの意見交換会には、公開担当者と公開に参加する学科教員の双方が前向きに取り組んでおり、どちらにも意義のある活動であると感じる。こうした流れを次年度も維持し、またさらに深められるように励む。

授業アンケート結果に関する学部長面談を、国際観光学科では、着任後間もない教員に受けてもらっている。学部長・学科長が新任の教員のがんばりを認識していること、新任の教員を応援していることを理解する場にもなっている。被面談者にとって、その後の業務の励みになると推察する。こちらについても、この流れを維持・発展させたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 落合　和昭

１．教育理念

建学の理念を基として、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現を図るため、これまでの実務経験を背景にホテルビジネスマネジメントを追求する。また人を育てる喜びを通じて、その普及や浸透を図るとともに、今後一層期待される「事業性を正しく理解し、その向上をもって礎とする」人材の育成と研究を推進し、もって文化と健康を大切にする社会の建設に資する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修C（西日本）	7/7(後期)	2	7	②④⑥⑦
卒業研究	15/15(通年)	4	12	②④⑥⑦
卒業研究	15/15(前期)	4	2	②④⑥⑦
ホテル・ブライダルオペレーション	15/15(後期)	2	65	②④⑤⑥⑦
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	286	①②⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	13	②④⑥⑦
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホテルビジネス実務エキスパート	15/15(前期)	2	54	①⑨
宿泊業論	15/15(後期)	2	149	②④⑤⑥⑦
学際連携と地域の理解	5/15(前期)	2	250	⑪
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	15	②④⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	16	②④⑥⑦
観光倫理	5/15(前期)	2	202	①③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期】

ホテルビジネス実務エキスパート：回収率75.8％・総合満足度4.6

ホスピタリティセミナー：回収率54.5％・総合満足度4.7

満足度はいずれも高いものの、ホスピタリティセミナーの回収率が低く（前年75.0％）課題となる。コメント等からも懸念される事項は見当たらないが、出席率自体が低く学習意欲の喚起が必要と認識された。

【後期】

宿泊業論：回収率71.1％・総合満足度4.5

ホテル・ブライダルオペレーション：回収率62.3％・総合満足度4.8

後期はいずれも大教室での授業を計測したが、一定以上の満足度を得ることができた。評価される点としては、いずれも極めて多くのポジティブなコメントが得られたこと、改善すべき点としては、宿泊業論に関して、少数（3%未満）ながら満足度が２以下が存在ことがあげられる。次年度に向けて、項目別満足度で比較的低位な、資料掲示期間やレポート提出期限などに配慮していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス実務検定（ベーシック2級）認定に向けたマナバによる遠隔授業	30	31	2025年4月～2026年3月
ホテルビジネス実務検定（ベーシック2級・1級）団体受験主宰	2	31	2025年11月・2026年3月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ホテル開発論・顧客満足とホテルの事業性における考察

2021年度より、3年間にわたり長崎国際大学論叢に寄稿した。2021年度はコロナ禍におけるホテル開発の適切な対処方法について研究し、2022年度ではホテルの事業性向上に必要とされる評価方法について考察した。2023年度では、部門別に要件整理を行うことでホテルが有する多様性や拡張性などの事業特性について認識し、更に事業性の向上を月次単位での繁閑格差是正に求め、その要因を収入諸元の回帰分析や相関係数の検証によって明らかにすることで、ホテルタイプ別に最も効果的な事業方針を提言した。今後の課題として、これらの研究結果を踏まえた顧客満足度との検証を行うため、大学周辺で実践的な研究活動が可能な宿泊施設を模索している。一方で、来年度よりホテルビジネス英語の授業を予定していることから、「ヒルトン長崎」の協力を得て、現役ホテリエによる英会話指導を行い、人材育成とともに実践的な英語力育成に関する研究を検討している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	3	0	0	3	3	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

ホテル・旅館の経営者から次世代へおくる熱いメッセージ／共著・編著／2017年1月／株式会社オータパブリケーションズ／70頁～71頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

市場変動を見据えたホテル開発プロセスの再見／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／85頁～102頁／単著／研究ノート

ホテルの事業性向上に資する実績評価の考察／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／33頁～46頁／単著／研究ノート

ホテルの特性理解と要因解析から導く運営改善の方向性／2024年3月／長崎国際大学論叢第24巻／73頁～92頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
満足度調査の活用による事業性向上について	一般社団法人　平戸観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考Ⅰ	一般社団法人　宇久町観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考Ⅱ	一般社団法人　宇久町観光協会	2022年3月	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研修・地域連携委員会	委員長	研修・地域連携委員会の任務は、今年度の「観光研修」「地域連携活動」プログラムの履修者確認と催行不催行の確認、引率補助教員の選任を行うとともに、次年度のプログラムの募集と調整を行うことである。 １．2025年度計画の国内観光研修・海外観光研修の催行（海外研修は不催行）及び地域連携活動の催行 2025年度の観光研修について、国内6本は無事催行され、海外も1本が開講された。なお地域連携活動は、新たに加わったスポーツや茶道に関わる新プログラムを含め計12本のうち、履修者のあった9本は全て催行される。 2．2026年度観光研修・地域連携活動プログラムの募集と調整 2026年度の観光研修プログラムについては、学科教員から提案された観光研修国内3本、海外4本の計7本を計画する。地域連携活動プログラムについては計12本が承認された。
キャリア委員会	長期インターンシップ責任者	長短インターンシップのうち、ホテル関連施設の合計5施設・12名（前期：短期6名・長期3名・後期：短期3名）を担当し、キャリア開発の促進を図った。特記事項として、本年度ではホテルオークラJRハウステンボスの長期インターンシップに関して、後期はホテル事情により受入れ中止となり、今後の課題とする。また、キャリア委員会およびキャリアセンター協力のもと、第３回目のキックオフセミナーを7月12日に開催し、合計19社の企業が本学で294名の学生を対象とした合同説明会を実施した。加えて、本学の就職成就率向上に向けた取り組みとして、マイナビの協力を得て、学外の合同説明会への参加を出席に振り替えて、より有効な就職支援活動を模索した結果、アンケート調査によれば高い満足度を得ており、今後の活動指針と考えたい。
コース委員会（観光マネジメント）	委員	観光マネジメントコースで想定される取得資格として、「ホテルビジネス実務検定」の認定を鑑み、受験指導と団体受験の主宰を行うものである。 一般財団法人日本ホテル教育センターによる「ホテルビジネス実務検定ベーシックコース1・2級」団体受験の実施 11月27日の第1回団体受験では過去最大となる28名（うち留学生12名を含む）が応募し、全員が受験に臨んだ。2021年の担当開始以降、本学の受験者は100名を超え、ホテルビジネスキャリア醸成に相応の周知がなされたものと考える。結果前期の認定者は2級12名であった。2月28日の第2回団体受験は3名（2級2名・1級1名）が応募、2級2名が合格し、2級は通年で昨年の合格者数を上回り、更にうち1名は留学生で、本学二人目の認定となった。今後の課題として、1級合格を目指し、より専門性の高い学修が検討される。
カリキュラム委員会	委員	観光への意識高揚と就職成就率向上による離学防止を図るため、「ホテルビジネス実務検定」認定に特化した授業として「ホテルビジネス実務エキスパート」を2024年度より開講、「ブライダルマネジメント」と「ホテルオペレーション」の2講義を統合して「ホテル・ブライダルオペレーション」として再編し、授業の臨場感と目的達成の両立を図った。加えて、現在不開講となっている「ホテルビジネス英語」授業を、長崎ヒルトンの協力により現役ホテリエによる英会話授業として再開講し、一層の改善を図っていきたい。なお、学習成果の醸成を目的として、次年度よりホテルビジネス実務検定の認定者には級別に1～2単位が付与されることとなった。
男女共同参画推進委員会	委員長	本年度より本委員会の委員長を拝命し、本学での共同参画啓蒙活動や委員会活動を推進するほか、佐世保市市民生活部人権男女共同参画課主催による「男女共同参画審議会」に参画することとなった。併せて、2026年1月14日には、佐世保市からの派遣講師による「大学生向けキャリア形成セミナー開催」を開催し、29名の学生が参加してジェンダーの視点から視たキャリア形成を推進した。
地域連携センター委員会	副委員長	7月4日に行われた「佐世保北中学校研究所訪問」では、専門演習Ⅱの学生によるホテル調査を公開し、92%の満足度を得ることができた。今後も地域との連携強化に向けた諸活動を実践していきたい。
国際観光学会	編集委員	本年度は大会の開催が見送られたほか、観光研修との日程重複により編集統括作業を退くこととなったが、引き続き担当論文に対する査読指導を行っていく。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	IR誘致は見送りとなったが、本学への波及拡大に関して活動を行う。

オープンキャンパス	ブース担当	2025年度は、7月20日、8月3日、8月24日の3回いずれもホテル・ブライダル関連のブースを出店して、学生主導による観光人材の確保に向けた取り組みを積極的に行っている。加えて学生募集の観点から4回目にもブース設営を依頼され、結果全回でテーマブースを設営することとなった。
観光人材養成大学間連携会議	メンバー	長崎へのIR誘致は見送りとなったため、近畿地区大学間連携会議に引き続き参加して、本学における人材育成に関する活路を確保していく。

(3) 課外活動の指導等

2025年度は、専門演習Ⅱを中心とするゼミ生により、引き続き開国祭に模擬店を出店し課外活動の実践を図った。天候にも恵まれて、前年を大幅に超える実績を残し、2日間合計で466個、20万円以上の売り上げを記録した。相応の人件費を見込んでも16%程度の営業利益を計上することができ、参加した学生にとっては、マーケティングや商品企画など、経済活動の実践における大きな学びとなったと思われる。

また、ゼミ有志による九州周遊観光に関するビジネスコンテスト応募もあり、学内審査で2作品が受賞している。今後は本選参加に向けた活動を支援していきたい。

サークル活動等への関与は行っていないが、自身の経験から音楽系の課外活動などを中心に課外活動の範囲を拡大していきたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

讀賣新聞等に対する有識者コメントを提供しているほか、委員長を務める「長崎コンシェルジュ」の授賞式では、県内メディアを中心に本学の貢献が告知されている。また、IHG・ANA社のCOOに対する商品企画提案をゼミ生が実施し、当該ホテルの社会貢献活動として認知される。また高等学校を中心として、ホテルを中心とする観光人材育成に関わる本学教育の意義を告知している。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第6回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	公務出張

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
8	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
サービス業とは	2021年5月	長崎県　佐世保東翔高校	長崎県　佐世保東翔高校
ホテル・観光・ブライダル	2022年11月	沖縄県　名護高校	沖縄県　名護高校
サービスの職業（ホテルマン等）	2022年12月	長崎県　私立創生館高校	長崎県　私立創生館高校
サービスの職業	2023年3月	長崎県　佐世保東翔高校	長崎県　佐世保東翔高校
長崎コンシェルジュ勉強会講演	2023年10月	長崎県庁	長崎県　観光振興課
サービス業体験型授業	2024年3月	長崎県　佐世保中央高校	長崎県　佐世保中央高校
長崎コンシェルジュ勉強会講演	2024年10月	長崎県庁	長崎県　観光振興課

長崎コンシェルジュ勉強会講演	2025年10月	長崎県庁	長崎県　観光振興課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
川棚町観光施設運営あり方検討委員会	委員長	2021年12月～2022年9月	長崎県 川棚町
長崎コンシェルジュ認定委員会	委員長	2023年7月～	長崎県 観光振興課
川棚町地域公共交通活性化協議会	副委員長	2023年12月～	長崎県 川棚町
長崎県観光人材交流公募型プロポーザル審査会	審査員	2024年8月	長崎県 観光振興課
佐世保市男女共同参画審議会	委員	2025年12月～	長崎県 佐世保市 人権男女共同参画課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

教養セミナー等を通じてSDG’ｓに関する講義を行い、学生への関心喚起と理解促進を図った。
なお、本学におけるクリーンキャンパス運動にも積極的に参加している。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
日本観光研究学会第39回全国大会	研究者間交流	2024年12月6日～8日	日本観光研究学会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

優秀指導校賞　一般社団法人日本ホテル教育センター　2022年4月

優秀指導校賞　一般社団法人日本ホテル教育センター　2025年4月

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は観光研修の対象地域を北陸に移動させ、新たな視点から実践的な観光学修を行いました。授業においても、専門会社を介したキャリア開発や、外資系ホテルの日本代表を招いた講義開催など、多角的な教育活動を目指した改善を図りました。一方で、資格試験の学習支援を強化して、受験者や合格者の増加を果たすことで、大学のブランド向上にも寄与することができたと感じます。今後も実務家教員としての特性を活かして、ホテルを中心とした観光研究や教育活動を行って参ります。併せて、大学の方針に沿って、離学防止や本学の認証評価への貢献などに尽力するとともに、実践的な観光人材育成に向けて、一層邁進したいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 乙須　翼

１．教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどういう特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史（文化や宗教も含む）や社会（法や制度、政治など）との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人（市民）として生きていくために最後に学ぶ場所であると考えると、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するということである。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	5	⑥⑩⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	2	⑥⑩⑫
事前・事後指導	2/8(通年)	1	27	⑥⑦⑫
教育実習Ａ	2/60(通年)	4	23	⑪
教育実習Ｂ	2/30(通年)	2	4	⑪
栄養教育実習	2/15(通年)	1	1	⑪
事前・事後指導(栄養)	2/8(通年)	1	1	⑥⑦⑫
教師論	15/15(前期)	2	40	②④⑤⑥⑦⑫
教育原理	15/15(後期)	2	45	①③⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	②⑤⑥⑫
教職実践演習(中・高)	4/15(後期)	2	28	①⑤⑦⑫
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	1	①⑤⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	7	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	7	⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	7/15(後期)	2	261	④⑨⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①⑤⑥⑦⑫

教養セミナー	15/15(後期)	2	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	7	⑥⑩⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	⑥⑩⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑩⑫
教育学	15/15(前期)	2	122	②③⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究（観光教育）	15/15(前期)	2	1
観光教育特講	15/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは前期にホスピタリティセミナーと教育学、後期に教育原理で実施した。満足度は、4.6と4.4、4.8であった。今年度は特に後期の教育原理の満足度が高く、過去最高であった。教職課程の授業に関しては、新しい試みを入れたり、授業方法を工夫したり、といったことよりも受講学生のモチベーションや雰囲気、また基礎学力に影響されやすい。したがって、学生のモチベーションを上げつつ、基礎学力をつけさせていくことが課題である。また、大学院の授業については、もちろんテーマに関する知識などをつけてもらうことも必要であるが、ほとんどの受講生が修士１年生であるため、研究者としての論文講読の技能や論文執筆の技能の向上につながるような授業方法を意識している。テーマに関しては、受講学生の興味の対象や、興味の度合いが毎年異なるため、受講生を見ながら授業内容を調整していくようにしたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	26
長崎外国語大学	教育原理	15/15(集中)	2	25
西九州大学	教職論	7/15(集中)	2	60
長崎県立大学	教育学概論	15/15(集中)	2	53

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・欧米の子ども・教育・家族の歴史（18世紀後半から19世紀初頭のアメリカを中心に）

・教師教育（教員養成段階）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	11万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

学校現場体験で生まれる学生の学びに関する研究／2026/3／長崎国際大学教育基盤センター紀要第９巻／1頁～10頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
教職課程履修学生の教職イメージの変容に関する研究	2025年度(令和7年度)国際観光学科学科共同研究費	2025年4月～2026年3月	11万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員長	会議の議事進行に加え、教育基盤センター紀要編集委員長を務めた。また、現状の活動に合わせて組織改編と規程の改訂に着手した。
教職課程委員会	委員長	会議の議事進行に加え、教職課程運営の事務的な調整や確認、教育実習事前事後指導や教職実践演習などのオムニバス授業の調整や進行、学生への履修指導や注意勧告などを中心に行った。また、今年度は、教職課程自己点検評価報告書の作成と、新学科における教職課程設置認可申請に向けた書類作成等を中心的に担った。
教務委員会	副委員長	会議での委員長の補佐を行うと共に、会議の事前打ち合わせでの教務課員との確認・調整、学部教授会での議題説明などを行った。また学科教員への教務事項の説明やオリエンテーションなどでの学科編入生への履修指導なども行った。
ハラスメント委員会	ハラスメント相談員	学科選出の相談員として、ハラスメント相談の流れを踏まえた上で相談事項に対応した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター紀要編集委員会（教育基盤センター運営委員会内）	編集委員長	編集委員と共に、『教育基盤センター紀要』の第9巻発行に向けて、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認などを行った。
初年次教育委員会（国際観光学科内）	委員長	委員長として、前期は合同セミナーの企画と運営、後期は教材や授業展開の作成と発信、及び教員への連絡等を行った。また、他委員会との協議や調整なども行った。
『観光学論集』編集委員会（長崎国際大学国際観光学会内）	委員	『観光学論集』の第21巻の発行に向けて、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認、校正作業などを行った。
人間社会学研究科観光学専攻会議	書記	人間社会学研究科観光学専攻の書記として事前打ち合わせ、資料準備、議事録作成、専攻教員等への諸連絡などを行った。（9月まで）

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第7回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席

2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立早岐小学校 学校評議会	学校評議員	平成23年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市立早岐小学校 学校支援会議「早岐っ子会」	委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は全学の2つの委員会の委員長となったため、議長として会議開催に関わる業務が増加した。また、全学の認証評価の実地視察への対応や、新学部設置に関わる教職課程認定申請への対応などの業務も重なったため、年間を通して大学運営に関わる時間や機会が非常に多い1年であった。

授業に関しては、全般的に順調に運営することができたが、他大学での教職科目の非常勤講師が2科目増えたため、集中講義の準備や成績処理に時間を要した。良かった点としては、昨年度から「キャリア開発Ⅰ」において開設している留学生クラスの運営が、昨年度に比べるとスムーズに運営できたところである。

自身の研究に関しては、上記に述べた大学運営業務などもあり、今年度は新たな論文への構想を具体化することができず、停滞状況にあった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 尾場　均

１．教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」
地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送、などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力（社会人基礎力）を身につけるカリキュラムをつねに考えている。
社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	8	⑦⑩
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	8	⑦⑩
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	25	⑦⑩
卒業研究	15/15(通年)	4	8	⑤⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	⑤⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	⑤⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	9	⑤⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	⑤⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	①⑥⑦⑧⑩⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	92	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	91	③⑪
映像文化論	15/15(前期)	2	58	③
情報処理論	15/15(後期)	2	46	③
コンピュータ基礎ⅡA	15/15(前期)	1	26	③⑩⑪
コンピュータ基礎ⅡB	15/15(後期)	1	26	③⑩⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	15	③⑪
栄養情報処理	15/15(後期)	2	49	④⑪
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	14	③⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	78	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	89	③⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	98	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	81	③⑪
コンピュータ基礎ＩA	15/15(前期)	1	69	③⑪
コンピュータ基礎ＩB	15/15(後期)	1	80	③⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ホスピタリティセミナー／教養セミナー
本年度の授業では、昨年度に引き続き共通シラバスとテキストを使い、学生の興味を引くために時事的なニュースを取り入れる

工夫を凝らした。
学生の主体的な学びを促すため、ディスカッションやグループワークの機会を多く設けるなど、授業への積極的な参加を促す試みを重ねた。
しかし、学生の反応は昨年度と同様、活発な議論には至らない点が課題として残り、学生の多くは静かな印象で、グループワークでも各自が個別に資料を収集する状況が見られた。教員の働きかけによって課題に取り組む形となり、活発な意見交換や深い思考に基づく議論は生まれにくく、期待されたような協同的な学びには繋がらなかった。そして前期とくらべ後期になると、学習態度、出席率やレポートなどの提出物の未提出が多くみられた。今後の学習そして態度に対して不安である。

コンピュータＩA
授業内容の見直しと工夫により、学生の評価は昨年度から高水準を維持している。自由記述のアンケートでも、学生の満足度の高さがうかがえた。特に、毎回課している復習や宿題が、学生自身のスキル向上と学習意欲に繋がっていることが明らかになった。
数年前から授業の進度をゆっくりにし、同じ内容を繰り返すようにしたことで、学生の理解度が深まり、それが評価向上に繋がっていると考えているす。また、授業では学生が個々に問題解決に取り組むことを重視しており、質問しやすい環境づくりや学生が主体的に学習できる授業展開を心がけている。
教科書や到達目標以外の内容を授業に取り入れたり、現実的な課題に基づいた文章作成やレイアウトを学んだりすることで、学生の学習意欲はさらに高まった。毎回の授業で自分のスキルの向上を実感できることが、モチベーション維持に大きく貢献した。
話すスピードや発音を丁寧にすること、授業の重要な部分を明確に提示すること、演習を通じて内容のまとめを意識させることは、高い評価に繋がっている。また、学生の様子を観察し個別に対応する努力も、スコアに反映された。
応用問題や実践的な内容を多く盛り込み、丁寧に解説することで学生の理解を深めることができた点、さらに視覚的に分かりやすい教材を提示する工夫も、学生からの評価を高めた要因で、これらの取り組みを継続し、より良い授業づくりを目指す。

コンピュータＩB
今年度の授業アンケートでは、評価項目で昨年度を上回り、特に「授業への熱意」に関する評価が向上したことを大変心強く受け止めている。これは、説明方法や授業構成の見直し、進行スピードの調整など、継続的に改善に取り組んできた成果であると考えている。毎回の冒頭で前回内容を振り返る形式の導入や、授業中の意見共有の機会設定により、学生の主体的な参加と理解の定着が促進された。また、授業後アンケートを通じて学生の声を把握し、迅速に反映してきたことも満足度向上につながった。演習の進度に課題はあったが、学生アシスタントと連携し個別に進捗を確認することで対応した。課題提出率や成績も良好であり、理解の深化がうかがえる。今後も質を維持しつつ、実務やICT、時事的テーマを取り入れた実践的な授業を展開していきたい。

映像文化論
昨年度に引き続き、学生の深い学びを促す授業が展開できた。学生は現代の映像文化に強い関心を持っており、その興味を授業に取り入れたことが学習意欲の向上に繋がったと確信している。特に、SNSなどの身近なプラットフォームを入り口に、多様な国や時代の映像作品に触れる機会を提供することで、歴史や文化への理解が深まった。
授業では、高画質な映像や豊富な資料を用いて、学生の知的好奇心を刺激するよう努め、学生の意見を積極的に取り入れ、SNSや広報・広告といった現代社会の要素を授業に組み込んだことで、より実践的で魅力的な内容になったと感じる。
毎回、一つのテーマを完結させる構成も、学生の理解を助け、スムーズな学習を促す上で効果的でした。自由記述のアンケートや高いレポート提出率、そして熱心な授業への参加態度からも、学生が積極的に学習に取り組んでいる様子が伝わった。
また、今年も資料の見やすさやスライドの工夫、そして熱意を持って授業に臨んだことが、学生の満足度向上に繋がったと分析している。授業中の機材トラブルにも柔軟に対応できたことは、これまでの経験と事前の準備の成果であり、学生が不満を感じることなく学習を続けられた要因の一つである。
これらの成功体験を活かし、次年度はさらに準備学習に工夫を凝らし、学生の主体的な学びを一層促進していきたいと考えている。今後も、学生の探究心を刺激する、魅力的で質の高い授業を提供していく。

情報処理論
昨年度より、複数の企業の協力を得た授業を新たに導入し、実社会と接点を持つ学習機会を拡充した。その成果の一つとして、授業内アンケートからは、情報分野に関する資格取得への関心が高まっている様子がうかがえた。授業では常に社会の動向に目を向け、多角的な視点で物事を捉える姿勢の重要性を繰り返し指導した。現代はインターネットを通じて容易に情報を入手できる反面、接する情報が偏りやすいという課題も抱えている。とりわけ、新聞やテレビなどの従来型メディアに触れる機会が少ない若年層に対しては、国内外の情勢や社会的事件に加え、仮想通貨やネットカジノといった賭博に関わる問題など、法的リスクを含む現実の社会課題も取り上げた。こうした題材を通して、情報社会を生きるうえで必要となる正しい知識と判断力を身につけさせることを重視している。履修後も本分野への関心を持ち続け、社会の中で主体的に活躍できる人材へと成長していくことを期待している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	10/10(前期)	1	27

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

GPS情報を活用した地域情報コミュニティの研究
VRを活用したシュミレーションおよび教育の研究
ポートフォリオによる授業の実践とプロジェクト学習
地域活性化イベントの企画運営と回遊分析
社会人基礎力と起業支援、アントレプレナー醸成について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	14万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
仮想空間・ Meta Quest の活用方略に関する研究	人間社会学部国際観光学科	2025年4月～2026年3月	14万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学 地域連携センター委員会	センター長	地域連携、広報に関するすべての事項
全学 産学連携・研究支援センター委員会	副委員長	産学連携、研究支援に関するすべての事項
国際観光学科 企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項
国際観光学科観光マネジメントコース委員会	委員	学科コースの運営・提案に関する事項
国際観光学科 カリキュラム委員会	委員	学科リキュラムに関する事項

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

起業部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎国際大学ベンチャー企業　株式会社ジャックラビット（SNS広報）
若者活躍アワード（佐世保市委託 企画・運営）
させぼまち巡りミステリー商店街に眠る6つの地図と宝の謎（企画・運営）
長崎県内の大学・企業・就活情報紙「長崎新聞 NR(エヌアール)
2025年きらきらフェスティバル in SASEBO」
ラジオ番組「はっぴいRadio場」水曜19時

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第8回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
SDGsフェスティバル 未来の技術を体験できるVR体験	令和7年4月	佐世保中央公園（名切公園）	佐世保市
佐世保東翔高等学校「創造1」地域振興に関する特別講座	令和7年10月	佐世保東翔高等学校	佐世保東翔高等学校
九州文化学園小学校VR体験	令和7年7月	九州文化学園小学校	九州文化学園

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県立佐世保中央高等学校理事会	委員	2025年4月～2026年3月	長崎県立佐世保中央高等学校

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

させぼ戸尾市場で食べ歩き！
きらきらフェスティバル佐世保独楽大会
ラジオ番組「はっぴいRadio場」水曜19時

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本年度の活動全般について自己点検を行った結果、教育・大学運営・地域連携の各面において成果を上げることができたと評価している。

授業に関しては、授業アンケートで非常に高いスコアを得ることができた。約90名規模の必修科目において評価4.8を達成できたことは、毎回実施しているアンケート結果を丁寧に分析し、次回授業へ即時反映する改善サイクルが有効に機能した結果であると考えている。学年ごとの理解度や特性を踏まえ、説明の重点や進め方を柔軟に調整し、丁寧な解説を心がけたことも高評価につながった。

大学運営面では、地元センター長として地域住民や企業との連携を推進し、大学の社会的認知向上に寄与した。学科では企画広報委員長としてSNS運営を中心に広報活動を強化し、長崎県内企業や就職関連媒体への掲載、さらに毎週水曜日のラジオ番組を継続した結果、東京・大阪など県外からもメッセージが届くなど、学科の発信力向上を実感している。

地域イベントやボランティア活動においても、佐世保の戸尾市場での食べ歩き企画や、年末のきらきらフェスティバルにおける佐世保独楽や大パーティーの企画運営など、多面的に関わった。個人ではなく「大学として」認知されている点は大きな成果であり、今後も発展させたい。

さらに、長崎国際大学発ベンチャーである株式会社ジャックラビットは4年連続黒字を達成した。佐世保市委託事業「若者活躍アワード」や「させぼまち巡りミステリー」も高評価を得ており、参加者・商店街双方から次回開催を望む声が多く寄せられた。

教育と地域実践を結びつけた取り組みとして、社会的意義の高い成果であったと総括できる。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 城前　奈美

１．教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
旅行業務エキスパートＩB	6/15(通年)	2	1	①⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑥⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	12	⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	⑥
観光経済論	15/15(後期)	2	124	⑨
旅行業法・約款	15/15(前期)	2	76	①⑨
資産管理とライフプラン	15/15(後期)	2	17	②⑪
旅行業務エキスパートＩA	8/15(前期)	2	24	①⑨
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	15	⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	14	⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	14	⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	14	⑥
地域観光研究A（ｱｼﾞｱ・ｵｾｱﾆｱ）	15/15(後期)	2	175	⑥⑨
観光学概論	15/15(前期)	2	249	②⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	2
観光経済特講	15/15(後期)	2	2
事例研究（観光経済）	15/15(前期)	2	3
観光経済特講	15/15(後期)	2	4
地域観光開発特別演習	15/15(前期)	2	3
特別研究指導Ｉ	30/30(通年)	4	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2025年度前期「旅行業法・約款」の満足度評価は4.4であり、2024年度の「観光学概論」4.5と比べて、微減であった。国家試験対策科目として、中間試験を実施し、中だるみを防いたことが、理解力の結果につながっていると考える。

2025年度後期「地域観光研究A（アジア・オセアニア）」の満足度評価は4.6、2024年度「観光経済論」の満足度評価は4.5、2023年度「観光経済論」の満足度評価は4.3と、徐々に向上している。191名の履修生がいながらも、留学生と日本人学生と共創するグループワークの時間を作ることで、満足感を高められたと考える。

2025年度「ホスピタリティセミナー」は4.9であり、2024年度の4.7と比べると0.2ポイント上昇し、全体平均よりも上回った。学生に発言する機会を与え自発性を促したことが、この結果につながったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	183

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国内旅行業務取扱管理者試験対策　自習室の設置	16	7	2025/9/2～2025/9/5
国内観光研修（大阪万博）の補助引率	15	23	2025/9/8～2025/9/11
観光事業論（担当：井上教授の代理）	1	200	2025/12/18

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・台湾原住民のエスニック・ツーリズム研究
・日本国内クルーズ観光の動向
・世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の自治体別観光施策

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	・学科会議決定事項の教務委員会への上程 ・教務委員会依頼の学科会議審議資料の作成 ・国際観光学科カリキュラムおよび担当者（編成） ・GPA3期連続1.0未満の学生への退学勧告の進行管理 ・3ポリシーの点検 ・学科オリエンテーションでの教務事項説明
（学科内）カリキュラム委員会	委員長	5回の委員会を開催し、「初年次インターンシップ」「ホテル実務検定（認定単位）」の追加、日本語科目の必修化、等のカリキュラム再編を行った。
（学科内）観光マネジメントコース委員会	委員長	・観光ビジネスプランコンテストを企画・実施し、学生の総合力強化、学修モチベーションの拡充を図った。 ・学科オリエンテーションで、コース説明を行った。
（学科内）国際観光学会編集委員会	委員	・印刷所の相見積 ・査読 ・投稿学生との査読結果のやりとり ・投稿論文の修正確認

国際観光学科事務局	副学科長	・離学防止対策としての出欠管理の情報共有 ・専門演習の選考手続きの運営（年間３回） ・卒業研究題目・卒業研究・ルーブリックの提出スケジュールの作成とチェック ・学科会議の議題管理と資料作成 ・学科事務局の打ち合わせ、学部長へのブリーフィング ・学科会議議事録のチェック
茶道文化研究所	副所長	・ハイスクール茶会の応援（大村高校担当）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部の顧問として、年度の部員申告、会計報告等のチェックを行った。
また、春季リーグや秋季リーグ、練習試合の引率をした。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・九州文化学園高校１年次Sクラス模擬授業　2026/3/4　長崎国際大学
・九州文化学園高校１年生内部進学説明会　2026/3/9　九州文化学園高校
・オープンキャンパス　2025/7/20　（カリキュラム説明・旅行業務取扱管理者ブース準備運営）
・オープンキャンパス　2025/8/3　（カリキュラム説明・ブース補助）
・オープンキャンパス　2026/3/15　（カリキュラム説明・ゼミ活動紹介ブース準備運営）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第9回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
地域の観光コンテンツ造成	2025/9/17	八戸商工会議所	八戸商工会議所

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県 推し魚委員会	委員	令和6年4月～令和9年3月	長崎県水産部水産加工流通課
長崎県 土地利用審査会	委員	令和7年11月～令和10年10月	長崎県地域振興部土地対策室

長崎県 奈良尾漁港施設等活用事業の審査委員会	委員	令和7年12月～令和8年5月	長崎県水産部漁政課
佐世保市過疎等地域振興持続支援事業審査委員会	委員	令和6年4月～令和9年3月	佐世保市地域未来共創部地域政策課
佐世保市景観審議会	委員	令和2年3月～令和8年3月	佐世保市都市整備部まち整備課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本観光研究学会九州韓国南部支部 副支部長として、

・研究会の企画・実施。研究会テーマ「九州のクルーズ観光の未来」2026年2月14日九州産業大学

・学部生論文発表大会の企画・実施。2026年1月10日九州産業大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
学部生論文発表大会の開催	企画・実施	2026年1月10日	日本観光研究学会九州・韓国南部支部
研究会の開催「九州のクルーズ観光の未来」	企画・実施	2026年2月14日	日本観光研究学会九州・韓国南部支部

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2・3年生のゼミ生が5チームを編成し、日本観光研究学会九州・韓国南部支部が主催する学部生論文発表大会に出場し、「観光と地域住民によるサンゴ保全活動を通じた価値共創の可能性」と題した研究チームが支部会長賞を受賞した。

また、国際観光学科観光マネジメントコースが主催する観光ビジネスプランコンテストで、「地域の日常に滞在する「暮らし体験型ステイ」事業」と題したプランが奨励賞を受賞した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

国際観光学科の副学科長３年目、カリキュラム委員長２年目、観光マネジメントコース委員長２年目となる2025年度は、「初年次インターンシップ」の科目開設や、「観光ビジネスプランコンテスト」の主催という新たな展開に加え、学科生の離学防止対策や、ゼミ決定までの手続き、卒論運営管理など、地味に事務的労力が必要な業務を全うした。

教育活動では、59名の学科ゼミ生と院生ゼミ生を担当し、10名の卒業生、3名の修了生を輩出した。

社会活動では、八戸市商工会議所主催の講演会で講師を務め、100名もの聴衆者の中には近隣市町村長がいた。また、日本観光研究学会では、「九州のクルーズ観光の未来」と題して研究会開催を企画・実施した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 松山　博明

１．教育理念

近年、学生の多くは様々な局面の中で自ら自分で考え、行動に移すことができない学生が散見している。これは、大学という最終教育機関で考えると大学教育全体の課題だと捉えている。したがって、学生の人材の育成で最も大切な一つとして、学生自ら自分で考え、行動に移すことができる高い自己管理能力が必要である。また社会で羽ばたいていくためには、社会適応能力を併せ持ち、優れた特質を社会に活かすことのできる人材の育成を目指していく必要がある。したがって、これからの世代の学生にとっては、、世界に目を向けて学ぶグローバルな姿勢を重視し、社会適応能力を併せ持ち、優れた特質を社会に活かすことのできる人材を育成していきたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	11	①⑥⑦⑪⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	1	①⑥⑦⑪⑫
事前・事後指導	3/15(通年)	1	27	⑦
教育実習Ａ	1/15(通年)	4	23	⑦
教育実習Ｂ	1/15(通年)	2	4	⑦
スポーツ心理学	15/15(後期)	2	138	⑦⑧
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	⑦⑧
球技Ｃ	15/15(前期)	1	40	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	①⑥⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	①⑥⑦⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	①⑥⑦⑫
スポーツ科学概論	3/15(前期)	2	123	①②⑦
ジュニアスポーツ指導法	15/15(後期)	1	16	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	12	⑥⑦⑧
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	28	⑥⑦⑧
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	16	①⑥⑦⑧⑫
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	18	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	18	①②⑤⑥⑨⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	⑦⑧
スポーツコーチング論	15/15(前期)	2	31	⑥⑦⑧
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	20	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

全ての講義での学生アンケート評価が4.5以上であり、授業内容に関しては、特に気になるところはなかった。また、教育効果の中で、より多くのアクティブラーニングを取り入れたことで学生が飽ることなく授業に取り組めたことは良かったと思う。スタライドだけでなく、動画や作業、グループディスカッションは引き続き継続していきたいと思う。しかしながら、毎年変化する学生のニーズに沿って、これからも柔軟に対応していきたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
京都先端科学大学	サッカー	15/15(通年)	2	100

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
個人サッカーレッスン	1	10	2018年～

３．研究活動

(1) 研究テーマ

アジアサッカー育成環境における研究博士論文では、海外派遣サッカー指導者の実態を明らかにすることを目的とした。具体的にはコーチング環境の特徴を明らかにすることを研究課題とした。

今後の研究計画としては、これまで行ってきた研究を基に、アジア地域での育成年代選手の心理的競技能力を明らかにするため、心理検査や実態調査を行う。また、アジア地域の日本人や現地の指導者、関係者に対してインタビュー調査を行っていきたいと考えている。尚、アジア地域の主な対象国は、これまで実施できていなかったスポーツが盛んに行われている国を対象となる。

加えて、日本人や現地の指導者、関係者に対してインタビュー調査を行う。主に、これまで実施できていなかったアジア地域44か国とアダプテッドスポーツが盛んに行われている国を実施する。

調査結果を踏まえて、本研究から得られた成果を積極的に公開し、有益な情報をJFAや現地のFA、JICAに寄与し、国際交流の活発化を図る。具体的には、アジア地域での育成年代サッカー選手の実態を明らかにして、現地のサッカー協会や指導者に心理面での知見を競技力向上のために情報提供を行う。また、アジア地域や日本の心理面での競技力向上のために情報提供を行う予定である。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大学生の水泳授業におけるICT活用に向けた実践的検討／2026年3月／教育基盤センター紀要／39頁～46頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

大学生における心理的競技能力の研究 ～体育会強化指定部に着目して～／2026年2月／第26回学術研究報告会

ラオス人民民主共和国サッカー 育成環境に関する研究 ～ラオスで赴任している日本人選手を対象として～／2026年3月／日本産業科学学会中部・関西合同部会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学内での学生に関する案件に関して、学生委員として参加している。九州地区大学体育協議会総務委員会に3回出席し、学外の体育会の総務委員も兼任している。

スポーツサポートセンター	センター長	スポーツサポートセンターとして、強化指定クラブの競技力向上や普及活動、ボランティア活動等、多岐にわたって関わっている。
スポーツツーリズムコース	コース長	国際観光学科にあるスポーツツーリズムコースをまとめている。また、イベント、ボランティア活動など学外などの開催にも積極的に参加している。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎県立佐世保南高等学校	講師	実施方法として、探究活動を実施している教室で行った。生徒は事前に共有したpptのフォーマットを使用して行った。1グループあたり3～4分の発表を実施した。またポスターを教室前面のプロジェクタに投影する形で行った。 最後に、発表の最後に各テーマごとの感想と総評を行った。
長崎県立佐世保東翔高等学校	講師	体育館内で総合学科発表会の口頭発表やポスター発表に参加した。発表では、高校生が堂々と自身の調査結果を発表する姿を確認することが出来た。また、校長先生ともお会いし、今回の発表会の狙いや意図も確認できた。生徒の中では大学進学が多い中、大学進学に向けた教育がなされていることも確認できた。

(3) 課外活動の指導等

スポーツサポートセンター長として、各クラブの視察やコミュニケーションを積極的に行っている。また、定期的に指導者連絡会議を開催して、体育会強化クラブとの交流を図っている。 佐世保ロータリー
クラブ顧問として、忘年家族会や佐世保ロータリークラブ創立75周年記念式典ならびに祝賀会などに参加した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第10回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	公務出張

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	10

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
リーダーズ研修「スポーツ心理学」	2025年9月16日	長崎県海星高等学校	長崎県海星高等学校教員

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州地区大学体育協議会評議員	総務委員	2024年4月～	学生課
ロータリークラブ佐世保	会員	2025年4月～	大学執行部

Jリーグマッチコミッショナー	委員	2016年～	Jリーグ
KBS京都	解説者	2015年～	KBS京都
日本サッカー協会技術委員	FAチューター	2018年～	日本サッカー協会
日本サッカー協会技術委員	JFAキッズリーダーチューター(サッカー競技キッズ年代指導者資格)	2015年～	日本サッカー協会
日本サッカー協会	JFAこころのプロジェクトメンバー	2019年～	日本サッカー協会
WEリーグマッチコミッショナー	委員	2021年～	Jリーグ
京のスポーツ夢バンクメンバー	会員	2017年～	京都府スポーツ協会
佐世保市スポーツ協会評議委員	委員	2025年～	佐世保スポーツ協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

1.2025年11月02日（日）、駅前不動産スタジアムで行われた公式戦「J2リーグ第35節サガン鳥栖vs.徳島ヴォルティス」に、国際観光学科・松山ゼミの学生19名＋他ゼミ生6名の合計25名がボランティアスタッフとして参加しました。サッカー競技で豊富な経験がある塩田裕明准教授が帯同し、学生たちに的確なアドバイスやサポートを行いました。ボランティアの活動内容は「座席誘導」や「ビラ配り」、「撤収作業」などです。また、ボランティアに合わせて試合を観戦し、Jリーグのレベルを体感することができました。ボランティア活動に参加した学生は、観戦者に対して親切かつ丁寧な対応をしてくれました。スポーツマネジメントを学ぶ学生にとって貴重な体験の場になりました。これからも、スポーツの「する」「観る」「支える」の観点から積極的な体験活動を実施していきます。

2.2025年10月10日、国際観光学科の学生がツール・ド・九州2025佐世保クリテリウムをサポートしました。
その際のボランティア活動の学生指導や誘導を行いました。佐世保市の佐世保駅裏～五番街周辺の周回コースにて、「ツール・ド・九州」の初日イベントである「佐世保クリテリウム」が盛大に開催されました。「ツール・ド・九州」は自転車競技（サイクルレース）の大会であり、国際的な基準である「クラス1」に該当する国際大会で、9カ国から18チームが参加しました。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
ラオスサッカープロ日本人サッカー選手との交流会	サッカー育成環境の討議	2026年1月27日	ラオスリーグ1Salavan United選手とスタッフ
Singthong AcademyU15の選手・スタッフとの交流	サッカー育成環境の討議	2026年1月26日	Singthong AcademyU15スタッフ

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

スポーツサポートセンター長として大学内での体育会強化指定部員に対して、文武両道を掲げている。
大学内では、スポーツのみに興味を示し、学内での勉学がおろそかになっている学生が多い。そのため、修学支援活動も含めて、週1回、朝8時半から実施している。もちろん、一般学生も同様のことが言える。何のために大学に来ているのか、大学でしっかりとした目標を持ち、何事にも挑戦する姿勢を持った学生が多くならないと、大学の未来も厳しいと感じている。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

大学内では、国際観光学科スポーツツーリズムコース長として、学科やコースに関する業務をこなしていた。また、全学では、学生委員委員やスポーツサポートセンター長として、スポーツ全般や学内に関わる業務を行っていた。学外では、Jリーグ/WEリーグマッチコミッショナーとして、全国で開催されているJリーグの統括を行っている。また、メディアにおいてもKBS京都放送でテレビやラジオを通して解説なども行っている。現在、サッカーProライセンスを取得しているため、指導者養成や普及活動なども行っている。来年度も、継続して実施していく予定でいるが、更なるレベルアップを図っていきたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 山内　美穂

1．教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたいと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐくむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
海外観光研修A（ｱｼﾞｱ）	15/15(通年)	2	17	⑦⑩
卒業研究	15/15(通年)	4	9	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
日本事情Ⅰ	15/15(後期)	2	57	①②③⑤⑥
日本語Ⅰ	30/30(前期)	2	14	②③⑧⑨
日本語Ⅰ	30/30(後期)	2	19	②③⑧⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	①②⑥⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	①②⑥⑫
日本事情Ⅱ	15/15(前期)	2	52	①②⑤⑥
日本語表現法	15/15(前期)	2	143	⑧⑨⑩
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	12	①④⑤⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	14	①④⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	14	①④⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光言語特講	15/15(前期)	2	1
観光言語特講	15/15(前期)	2	2
特別研究	15/15(通年)	8	1
事例研究（観光言語）	15/15(後期)	2	1
地域マネジメント論特別演習	5/5(前期)	2	3
特別研究指導Ⅰ	15/15(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの評価はいずれの項目も4-5点であり、学生は授業にほぼ満足して取り組んでいたと考える。しかし、アンケートをとったのは教養セミナーを除く1科目だけなので、これがすべて学生による授業の評価を示しているとは言えない。各授業では学生の興味と理解を深めるための様々な工夫はしたが、成績良好だった学生の半面、C判定にとどまった学生が複数名いた科目もあった。今後、全体的な理解度アップをするために各授業の運営方法について振り返り、見直しや新たな工夫を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

国際共修

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

留学生との国際共修から地域の協力者が得た気づき／2025年9月／第30回 留学生教育学会 年次大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員長	海外提携大学との交流協定関連活動 留学生の支援活動
国際観光学科学事委員会	委員	保護者会実施 学科卒業式実施
国際観光学会論文集編集委員会	委員	論文集編集

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ダンスサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第11回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	議長	2025年4月～2026年3月	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

九州のものづくり地域における留学生の産業体験活動と多言語WEB構築と発信

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2024年度に採択された科研費を使用し、ものづくり地域における留学生と地域住民のそれぞれの学びについて調査を進めている。本年度は留学生教育学会で発表したほか、2024年度に収集したデータを用いて論文執筆中で採択されれば来年度学会誌で公開する予定。また来年度は日本語教育国際研究大会（ICJLE2026)へのパネルディスカッション応募もしており、採択されれば2026年11月にパネルディスカッションで実践の方向と議論を予定している。

今後も国際共修の新たな側面を開拓するために調査研究を進め論文などで得られた知見を報告する予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 特任教授(甲)　　氏名 池永　正人

１．教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	13	⑦
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	12	⑦
地理学	15/15(前期)	2	214	②
観光政策論	15/15(後期)	2	163	②
観光地理学	15/15(前期)	2	198	②
社会科地理歴史科教育法	15/15(後期)	2	4	④⑦
地理歴史科教育法	15/15(前期)	2	4	④⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15/15(前期)	2	5
地域マネジメント研究方法	15/15(後期)	2	3
観光資源特別演習	15/15(前期)	2	3
特別研究指導Ⅲ	15/15(前期)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【学部授業】

講義科目の授業アンケート評価は、地理学（前期・履修者286名、過去最多）4.5、観光地理学（前期263名、過去最多）4.5、観光政策論（後期223名、過去最多）4.5であり、いずれも昨年度同様の数値であった。

上記3科目の成績評価については、昨年度同様に授業中に実施した2回の小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。3科目の単位修得者数は全体の75%程度であり、単位未充足者の対策が課題である。

受講者の多国籍化が急速に進んでいる近年、授業内容、説明方法、毎回の宿題「確認問題」、試験等については、次年度に向けての改善の余地がある。とりわけ、「授業の時間配分」の改善は重点項目である。

受講者からのたくさんの意見・感想は、謙虚に受け止めて授業改善に取り組むことにする。受講者の自由記述に「熱量が伝わってくる授業でした。」の言葉がある。とても励みになるありがたい言葉である。

実習科目の地域連携活動ＩA・ＩBは、前期ＩA（13名）で実施した平戸野外学習は、平戸の自然や産業、歴史や文化を学ぶことのできる施設等の見学・体験を通じて、茶道鎮信流の成立の経緯と現状の課題について理解を深めた。このことが後期ＩB（12名）の平戸茶会に臨む学生の意欲を高め、教育効果を得たものと認識している。

課題としては、昨年度同様に履修者を増やす工夫が必要である。また、次年度の通年の授業内容は、前期ＩAの平戸野外学習のプログラムを充実させたい。

前期ＩA　①茶会催事の稽古
　　②日帰りの平戸野外学習
　　・平戸茶会の内容および会場の松浦史料博物館の視察
　　・平戸の自然や産業、歴史や文化を理解する地理・歴史学習　など

後期ＩB　①茶会催事の稽古の仕上げ

②茶会催事の実施

教職課程の地理歴史科教育法（前期4名）は、学習指導案の作成と模擬授業の個別指導による教育実習の準備を行った。また、社会科地理歴史科教育法（後期4名）に関しては、　高等学校の地理・歴史教育の内容と歴史的変遷、新課程の「地理総合」、「歴史総合」の科目内容について教授した。

【大学院授業】

講義科目は、観光学専攻修士課程の観光地理特講（前期5名）、事例研究（観光地理）（後期0名）、地域マネジメント博士後期課程の観光資源特別演習（前期3名）、地域マネジメント研究方法（後期3名）であった。毎回の授業では、予習・復習の課題を与えて専門用語の説明記述レポートを提出させた。毎回の課題レポートは添削をして、授業開始時に文章表現の解説を行った。また、統計数値の表・グラフ表現および研究対象施設の地図表現の技法も指導した。これは各自の修士論文および博士論文に資することを念頭にした演習である。

研究指導については、修業年限内の学位論文提出を前提とした指導学生1名の博士論文（地域マネジメント専攻）の作成は、毎週定期的に指導を行い、秋季9月に博士号の学位を取得して3年間の博士課程を修了することができた。

以上、昨年度同様の教育・研究指導であり、授業アンケート評価に関しても問題点は指摘されておらず良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

【研究テーマ】

① スイスアルプスの温泉療養地に関する研究

② 日本の国立公園における観光資源の研究

【研究内容】

スイスアルプスの温泉地形成に関する研究については、昨年度同様にこれまで現地で収集した原書や聞き取り・観察調査結果の分析を行い、全国規模の学会誌「温泉地域研究」に論文を投稿して掲載された。

国内では、阿蘇くじゅう国立公園（熊本県阿蘇山、大分県九重連山）、瀬戸内海国立公園（大分県姫島、兵庫県六甲山）、雲仙天草国立公園（長崎県雲仙岳）、日高山脈襟裳十勝国立公園（北海道アポイ岳、襟裳岬、十勝平野）、西海国立公園（長崎県九十九島、安満岳、志々伎山）の特色ある地形および温泉地の観光資源調査を実施して、その成果は学部・大学院の授業の教材として活用した。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

新版　日本温泉地域資産（増刷改訂版）／共著・編著／2025年11月／日本温泉地域学会／74頁～76頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

スイスアルプス・バートラガッツにおける温泉療養地の形成／2026年3月／温泉地域研究 第46号／9頁～16頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員、国際交流・留学生支援センター長	海外大学との教育・研究交流協定の締結、留学生募集、留学生の学修・生活支援等
グローバル推進協議会	委員、国際交流・留学生支援センター長	教員の海外渡航目的、外国人留学生の入国等の把握、長崎国際大学「国際化ビジョン」の進捗状況
作問委員会	作問者・校閲者	本学独自の入試に関する作問・校閲

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

中国遼寧省の学院（短期大学）および高級中学（高等学校）を訪問して大学説明会を実施。

【時　期】2025年10月20日（月）～23日（木）

【訪問校】瀋陽学友外国語培訓学校（協定校）、長春市の吉林科技職業技術学院、
撫順市の撫順職業技術学院（協定校）、瀋陽市の私立志成高校、
瀋陽市の私立科匯(かかい)高校（協定校）、営口市の私立営口信威高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第12回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

ながさきサンセットロード清掃活動　主催：ながさきサンセットロード推進協議会　2025年11月15日（土）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
ベトナム青少年交流団雲仙･島原野外学習	雲仙温泉・島原城下町案内	2025年7月12日（土）	長崎国際大学国際観光学科
上海大学社会学院雲仙･小浜野外学習	雲仙温泉・小浜温泉案内	2025年7月29日（火）	長崎国際大学社会福祉学科
日本語学習成果発表会	審査委員	2025年10月23日（木）	中国遼寧省営口市 信威高級中学
留学生日本語弁論大会	審査委員	2025年11月8日（土）	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

特任教授（甲）（常勤）2年目の今年度は、昨年度同様に学部の学科専門科目および教職課程科目、大学院の修士課程および博士後期課程の科目を担当した。教材研究や個人の研究活動に多くの時間を費やし、講義・研究指導の内容を充実させることができた。

大学運営では、国際交流・留学生支援センター長の役職として、本学来訪の海外大学や交流団の研修プログラムの編成、中国・協定校への表敬訪問など、国際交流に尽力することができた。

個人の研究活動の成果に関しては、著書（共著）を出版し、全国規模の学術誌に拙稿が掲載された。これらの研究成果は、学部・大学院の授業に活用する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 特任教授(甲)　　氏名 嶋内　麻佐子

１．教育理念

私は現在、長崎国際大学茶道文化研究所所長として、全学共通科目である「茶道文化」の講義と実技を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心（ホスピタリティ）を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、不時点前や雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、
波佐見町歴史文化交流会館において「波佐見茶会」、学内では、「卒業の茶事」と3回の茶会を通して、学内外よりお客様をお呼びし、もてなしの実践をする。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。さらに「茶道文化ⅡとⅢでは、「ミニ茶会」と茶事を簡略化した茶会を授業時間内に実施。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。また、平成31年度に開校した九州文化学園小・中学校の茶道教育も担っており、そこで得た知見を「茶道文化」に反映し､教育活動に活かしている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ⅠA	15/15(前期)	1	13	⑦
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	12	⑦
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	45	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	40	②③⑥⑨⑩⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	5	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(後期)	1	32	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	117	②⑥⑨⑩⑪
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	111	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	11	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	14	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	35	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	35	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅢB	15/15(後期)	1	11	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	12	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	8	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	43	②④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡB	15/15(後期)	1	26	②③⑥⑦⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅳ	15/4(前期)	0.5	77	①④⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	58	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	104	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	5	②③④⑥⑩⑪⑫

茶道文化ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡＢ	15/15(後期)	1	31	②③⑥⑦⑨⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

茶道文化Ⅰでは、満足度は,4.6,4.8,4.7、と全体平均より0.2ポイント高い。茶道文化1は必修のため観光学科のように人数が100人を超えるクラスについては、茶室２か所と一般教室１か所にて授業を行っている。教室については、座る、立つ、道具を運ぶ練習はできないが、道具を使っての部分練習並びに、動画を使っての割稽古を中心に行った。後半の点前の流れについては、３会場をローテーションしながら点前確認（実技試験）に臨んだ。一部マナーの悪い学生が他の学生に対して不快な印象を与え、今後の対応に見直しが必要と思われる。後期も同様のスタイルで授業を実施し、特に少人数クラス（平均50人程度）の学生は質問がしやすいとか、丁寧な指導が受けられることに満足している。留学生は、言葉の壁や日本文化に不慣れなこともあり、点前を習得することは困難であったが、担当の指導をよく聞いて熱心に取り組んでいる様子が見受けられ、良好であった。前期と後期を比較すると前期は初めてのことばかりで、所作を覚えることに終始一貫するなど、指導者も学生もゆとりがなく、課題を必死にやり抜くことが多かった。後期になると、ゆとりが生まれ指導者と学生間の交流もでき、実技試験まえの個別指導にも熱が入り、茶道に対する意識の芽生えが見られた。茶道の歴史や禅語の紹介、茶花などに関心を寄せる学生も多くみられた。茶道文化Ⅱでは、満足度は、4,8で全体平均より0,2ポイント高い。Ⅱからは、自由選択となり人数的にも学びやすい環境となった。履修時間帯も他学科との混合履修もあり、学生間の交流も生まれコミュニケーション能力を高める良い機会となっている。また、少人数教育が徹底されており、学生間並びに指導者にも質問しやすい環境が整っており、点前習得につながっている。また今年度は、各種茶会（開国祭の茶会、錦秋茶会大学の茶会）のサポートをフィルドワークの一環として取り入れた。水屋としての裏方のサポートを通して、茶会の運営を学ぶ良い機会となった。100名近いお客様に対して、おいしいお茶の出し方等実践できたことで満足度の向上に繋がったと考える。さらにⅡを習得することで希望者には、鎮信流初歩伝免許を申請できるのも学生にとっては付加価値となっている。茶道文化Ⅲでは、満足度は4,7で全体より0,1ポイント高い。今年度は、錦秋茶会（観月茶会）の稽古を夏休みから実施することで学生間の協調性と満足度を上げることができた。地域の方々を迎えて、学生が主催者になり茶会を開催できたことは、学生にとっての大きな達成感につながった。さらに、自分自身の役割を考えながらの行動は、自分のおかれた状況を把握するうえでも、大きな成長につながったと考える。茶会以外にも、色々な点前の種類、たとえば中風炉点前、雪吹点前の習得を目指し、様々な点前に挑戦できる楽しみは、学生の満足度の向上に付与したと考える。さらに一部の学生は、アルカスにおいて九州文化学園８０周年記念茶会にて、広間の席にて茶席の運営に携わり、大きな経験を得ることができた。

茶道文化Ⅳでは、満足度は4,6（全体平均と同数）である。本クラスは、前期に学外にて波佐見茶会を経験し、後期には４年間の集大成として懐石料理を含めた形の卒業茶会を開催することができた。さらに九州文化学園８０周年記念茶会での点前席を設定し、究極のもてなしである「数寄屋の茶会」を開催できたことは学生にとって未知の体験であったと思われる。学外、学内共に一般の客を呼んでのもてなしの実践は、それぞれの責任ある役割を遂行することができ、満足度の向上に繋がったと考える。同時に仲間とのチームワークづくりの大切さを学ぶ良い機会となった。４年間茶道を続けたことで、より茶道に向き合える自分に出会えたことに感動した学生の様子も見受けられた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化 Ⅱ	1/15(後期)	1	169
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	1/15(前期)	1	193
九州文化学園歯科衛生士学院	茶道文化Ⅰ	2/15(後期)	1	22
九州文化学園調理師専修学校	カップリング＆シュガー	2/15(後期)	1	16
九州文化学園中学校１年	日本文化教育	10/25(通年)	1	27
九州文化学園中学校２年生	日本文化教育	10/25(通年)	1	17
九州文化学園中学校３年生	日本文化教育	14/25(通年)	1	18
九州文化学園小学校１年生	日本文化教育	10/25(通年)	1	34

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
補助員研修（春季研修）	15	26	3/5, 3/6, 3/7, 3/10, 3/11
補助員研修（夏季研修）	9	15	9/11, 9/16, 9/17
補助員会議	4	19	8/6, 2/4

茶道部開国祭の指導（道具説明、点前指導、リーはサル等）	17	15	10/22，10/28，10/29，11/5，11/6，11/7
平戸茶会の補習	13	12	8/19，8/26，8/29，9/2，9/18．10/8

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「茶道と教育について」

「感性を育む大学教育の実践事業」

「小・中学の取り組みを還元した茶道教育の実践」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	アドバイザー	2025履修プログラム、長崎国際大学寄付講座に関する実践の検討、GSPの活動報告アドバイスを行った。キッズキャンパスでは、茶道部門での指導に当たった。また、学園内での行事に ついての見直しや開催する行事などについてのアドバイスを行った。
ハイスクール茶会実行委員会	実行委員長	本年度「第12回ハイスクール茶会 in ハウステンボス」の実行委員長として、企画・運営全般を担当した。本茶会は、高校生による茶道文化の促進、日本文化への再認識、さらには地域社会との交流を通じて健全な青少年育成に寄与することを目的として開催したものである。 当日は、多くの高校生が参加し、茶道を通した礼節や思いやりの心を体験的に学ぶ機会となった。参加者同士の交流も活発で、茶道が持つ文化的価値と人と人をつなぐ力を改めて実感する場となった。

茶道文化研究所	所長	本年度、九州文化学園における茶道教育の充実と発展を目的として、学園全体の教職員および児童・生徒・学生を対象に、幅広い指導と行事運営を行った。 まず、教職員研修として、学園全体の教職員に対し茶道教育の理念と実践方法についての研修を実施するとともに、新任１年目教員に対しては、授業で茶道文化を指導するために必要な基本技術の確認と指導法の助言を行った。これにより、各校種における茶道教育の質的向上と指導体制の強化を図ることができた。 大学においては、３年生による「錦秋茶会」を学内で開催し、学生が主体となって企画・運営を行った。また、４年生は「波佐見茶会」を波佐見歴史文化交流館にて実施し、地域文化との連携を深めながら、学びの集大成としての茶会を成功させた。 義務教育段階では、小学１年生から６年生、中学１年生から３年生までの参観日に向け、各学年の発達段階に応じた行事内容の指導を行った。特に、中学３年生による「観月茶意義や取り組み内容について紹介した。保護者からは、生徒の成長を実感できる貴重な機会であったとの声が寄せられた。 以上の取り組みを通して、学園全体で茶道文化の理解を深めるとともに、児童・生徒・学生が主体的に学び、成長を実感できる教育活動を展開することができた。今後も、茶道を通した人間教育の推進と文化継承の基盤づくりに努めていく。 会」、小学６年生による「卒業茶会」では、保護者を招き、これまでの学びの成果を披露するとともに、茶道教育の意義や取り組み内容について紹介した。保護者からは、生徒の成長を実感できる貴重な機会であったとの声が寄せられた。 以上の取り組みを通して、学園全体で茶道文化の理解を深めるとともに、児童・生徒・学生が主体的に学び、成長を実感できる教育活動を展開することができた。今後も、茶道を通した人間教育の推進と文化継承の基盤づくりに努めていく。
九州文化学園８０周年記念大茶会「絆の茶会」実行委員会	実行委員長	本年度、九州文化学園は創立80周年という大きな節目を迎え、学園全体（大学・短期大学・歯科衛生士学院・高等学校・小中学校）が一体となった記念事業として、アルカスSASEBOにおいて大規模な茶会を開催した。本茶会では、同会場3階に四席の茶席を設け、学園を挙げての「大茶会」として500名の来場者を迎えることができた。 実行委員長として、学園全体の企画立案および実施計画の策定を担当し、各校との調整を図りながら、円滑な運営体制の構築に努めた。また、各茶席のテーマに沿った茶道具・設えの選定と準備を統括し、茶席の世界観が十分に表現されるよう細部にわたり調整を行った。 さらに、大学生・短大生・高校生・中学生・小学生に対して、茶道の所作・点前・接客に関する技術指導を実施した。学齢に応じた段階的な指導を行うことで、児童・生徒・学生が自信をもって茶席に立てるよう支援し、学園全体としての茶道教育の成果を来場者に示すことができた。 当日は、各校の特色が調和した四席がそれぞれに趣向を凝らし、来場者からは「学園の茶道文化の厚みを感じた」「子どもたちの姿に感動した」といった多くの好評をいただいた。500名を超えるお客様をお迎えし、滞りなく茶会を終えることができたことは、学園全体の協力体制と、日頃の茶道教育の積み重ねの賜物である。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
茶道文化補助員の教育指導	特任教授	大学規定に沿って補助員指導を行い、春、夏に補助員指道研修を企画し、技術指導と授業での教育指導を行った。また、授業終了後の反省会や１年間全体での反省会を企画し、教育指導を行った。
九州文化学園小中学校教員の茶道指導	特任教授	学年ごとの発達段階に応じた日本文化学習の一環として、担当教員に対して茶道の技術指導を実施した。各学生の授業目標に合わせ、基本的な所作、道具の扱い、礼法や意味や背景に至るまで段階的に内容を構成し生徒、児童にわかりやすく伝えられるように支援した。
九州文化学園小中学校夏季茶道研修	特任教授	夏季茶道勉強会を企画し、８月に教職員に対して集中的に実技指導を行いった。（授業において指導できるレベルに到達できるように貢献した。）
長崎短期大学教職員の茶道指導	特任教授	短期大学の茶道文化教育に向けた取り組みとして、教職員を対象に技術指導を企画し、授業指導者が必要とする実技面の強化と指導力向上を図った。また、８月には、「夜茶」において３５名の参加者に対して、作法。点前。茶席での振る舞いを丁寧に指導を行った。

(3) 課外活動の指導等

・茶道部顧問　茶道部の茶道活動の支援を行っている。学祭での茶席運営と点前指導を行った。

・補助員研修　大学及び小中学校の茶道指導のための支援活動を行った。

・茶道文化Ⅳ　波佐見茶会実施（７月５日）の際、茶席運営と茶会運営指導並びに技術指導を行った。
・茶道文化Ⅲ　錦秋茶会の技術指導、茶席運営と茶器運営指導を行った。
・中学３年生　観月茶会の技術指導並びに茶会運営指導を行った。
・小学６年生　卒業茶会の茶席運営並びに技術指導を行った。
・学園80周年　「絆の茶会」にて学園全体の茶席運営と技術指導を行った。
・学園全体で開催の茶席の道具組と設営、指導を行った。
・九州文化学園中学校の参観日の生徒指導とリハーサルを行った。
・九州文化学園小学校の参観日の児童指導とリハーサルを行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/7/20/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/8/3長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/8/24/長崎国際大学（自明堂）
オープンキャンパス/3/15長崎国際大学（自明堂）
大学祭にて鎮信流茶道紹介11/8.11/9長崎国際大学（自明堂）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第13回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
新任教育研修会「建学の精神と茶道教育」	令和７年４月	長崎国際大学	長崎国際大学基盤センター/自己点検・評価委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO法人茶道鎮信流梶の会（全国組織）	幹事	２０１２年～現在に至る	茶道鎮信流宗家　松浦章
茶道鎮信流佐世保支部松清会	幹事	２００６年～現在に至る	鎮信流佐世保支部長　川崎君代

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①5月17日　「第12回ハイスクール茶会inハウステンボス」実行委員長として参加　主催：大学と参加高校17校とで構成し、2250人規模の茶会を開催した。

②7月5日「波佐見茶会」茶道文化Ⅳ指導者として参加（波佐見史料博物館に100名の客を導入。その客が館内見学を導入する企画　主催：大学と波佐見町歴史文化交流館館長

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
ベトナム青少年交流会	学生間茶道交流会	７月１１日	長崎国際大学国際交流・留学生支援室
上海大学社会学院	学生間茶道交流	７月３１日	長崎国際大学社会福祉学科及び国際交流・留学生支援室

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

本年度は、九州文化学園創立80周年記念事業として実施された大規模茶会「絆の茶会」において、実行委員長を務め、高校・学院・短大・小中学校・大学の各校が連携する学園横断型の企画・運営を主導した。各校の特色を生かした構成により、500名の来場者を迎えることができ、学園全体の一体感の醸成と茶道文化の継承に大きく寄与した。

また、学芸員課程の教員および大学院生との共同制作による茶道具カレンダー「道具の絆」を監修し、今年で3年目の取り組みとなった。茶会参加者や茶道関係者、長崎短期大学茶道大会の保護者、さらに大学の入試広報として高校にも配布され、高い評価を得た。学園の茶道文化を視覚的に発信する教材としても有意義な成果となった。

小中学校における茶道教育では、1年生から中学3年生までの保護者を対象に授業公開を実施した。特に中学3年生による「錦秋茶会」、小学6年生による「卒業茶会」を開催し、生徒の成長を保護者が間近で実感できる機会となった。感極まり涙を流す保護者の姿も見られ、6年間の学びの節目を茶会という形で表現できたことは、生徒・保護者双方にとって大きな意義をもつ取り組みとなった。

これらの活動は、学園全体で茶道文化を未来へとつなぐ基盤づくりに大きく貢献したものであり、今後も小中学校の茶道行事として継続していく予定である。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度の教育面では、茶道文化Ⅲ履修学生による「錦秋茶会」を実施した。「錦秋茶会」では、亭主・半東・接待・水屋・受付・舞台づくり・客席づくりなど、すべての準備を学生自身が手作りで行った。特に表舞台に立つ学生たちは、何度も自主練習を重ね、主体的に挑戦する姿が見られた。

また、茶道文化Ⅱ履修学生にはフィールドワークとして水屋業務を依頼した。先輩学生との協働を通して、裏方の仕事の大切さやチームワークの意義を学ぶ良い機会となった。今後も各茶会において、後輩が裏方として活躍できる場を継続的に提供していきたい。

今年度は多くの留学生を迎え、国や文化の違いを超えて茶道文化の授業に取り組んだ。お箸の使用が難しい、正座ができない、日本語が理解しづらいなどの課題もあったが、授業内容を柔軟に変更し、まずは「日本文化を楽しむ」ことを重視した指導へと切り替えた。その結果、留学生なりに一生懸命に日本文化に向き合う姿が随所に見られた。授業では補助員の学生が中心となってサポートし、学生間の交流も深まった。授業の終わりには留学生と補助員が一緒に写真撮影をするなど、楽しく充実した時間となった。今後は、留学生の国籍や日本語レベルに応じた独自の授業内容の工夫をさらに進めていきたい。

また、アルカス佐世保にて開催された九州文化学園80周年記念茶会では、4年生が数寄屋での濃茶点前を、3年生が広間での炉の濃茶点前を担当した。学生にとって初めての本格的な茶会経験であり、準備から本番、片付けまでを自ら行うことで、多くの学びと成長が見られた。これらの経験は、実践的な技能習得に加え、公共の場での振る舞いや責任感を育む教育的効果が高かったと考える。

総じて、本年度の活動は、学生の主体性・協働性・文化理解を深めるうえで大きな成果があった。一方で、留学生への対応や学年間連携のさらなる強化など、改善すべき点も明らかになった。今後も、学生一人ひとりが成長できる学びの場を創出し、茶道文化教育の質向上に努めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 特任教授(甲)　　氏名 山崎　祐一

1．教育理念

学生の英語習得の促進のため、教育方針として心理的要因を重視し、教室において学生が持つ不安感を取り除き、安心して学べる環境を作り、また、学生一人一人の意見や学習スタイルを尊重し、さらには、学生と教師の緊密なコミュニケーションを維持していくことにより得られる学生からの信頼を大切にする教育を実践している。学生の教師へのアクセシビリティや学生に対するリスポンシブネスを重視し、学生との粘り強い対話から、学生が教師を信頼できるリソースとして認識し、それが学習の促進につながるという理念のもと、日々の教育活動に従事している。

専門分野の教育については、異文化コミュニケーションに不可欠な「目標文化圏における思想や価値観の理解」を意識しつつ、英語圏の文化やその中でのコミュニケーションの在り方と日本独自の文化との相違を視野におさめ、英語を用いた幅広いコミュニケーション能力の育成を目指す教育を実践している。

外国語を学ぶことは「新しい視点」を得ることでもある。1つの世界を複数の視点から見て、学習者たちはもっと楽しく面白く生きていくことができる。異文化に関する知識の獲得と外国語（英語）学習に対する動機づけとの関連、また、地域とリンクした研究から得られた知見をもとに、コミュニケーションの効果性と行動の適切性が外国語（英語）を使った円滑な異文化コミュニケーション能力の獲得に大きな影響を及ぼすことについて学生たちに伝えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語コミュニケーションA	15/15(前期)	2	54	②⑨⑩⑪
英語コミュニケーションB	15/15(後期)	2	37	②⑨⑩⑪
英語ⅠA	15/15(前期)	1	36	②⑨⑩⑪
英語ⅡA	15/15(後期)	1	41	②⑨⑩⑪
英語ⅠA	15/15(前期)	1	42	②⑨⑩⑪
英語ⅡA	15/15(後期)	1	41	②⑨⑩⑪
英語ⅠB	15/15(前期)	1	32	②⑨⑩⑪
英語ⅡB	15/15(後期)	1	27	②⑨⑩⑪
英語ⅠB	15/15(前期)	1	38	②⑨⑩⑪
英語ⅡB	15/15(後期)	1	21	②⑨⑩⑪
英語ⅠB	15/15(前期)	1	43	②⑨⑩⑪
英語学	15/15(後期)	2	19	②③⑨⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策については、多くの学生が課題や他学生とのペアワーク等に積極的に取り組んでいた。これらの評価から判断すると、授業の進め方・内容から見た学習成果に関しては概ね良好だったと判断できる。

予習・復習を促していけるような課題の出し方のさらなる工夫や、それらに機能的、かつ体系的に取り組めるような課題を出す。授業内容や方法に関してはこれまで通り続けていきたい。

改善策としては、英語コミュニケーションに不可欠な、発音指導と異文化理解の内容をさらに充実させ、今後も出来る限りの個別指導に努めたい。

音声に関する指導方法については、ミニマルペアや自作の発音指導書に基づいて演習を実施し、英語の授業で素通りされがちな異文化理解については、受講生がイメージをつかみやすいように映像や画像を使用する。

受講生の受講生の発音力がかなり上達した。日本語と英語、日本文化と異文化の違いなど、言語の特徴や異文化理解についても意欲的に取り組み、受講生のコミュニケーション能力は高まったように思える。今後も言葉と文化はコミュニケーションの両

輪だと考え、教室で学習した知識を実際のコミュニケーションの現場で活用できるよう継続的に学習に取り組んでもらいたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
活水女子大学	国際コミュニケーション論	15/15(前期)	1	20
長崎県立大学	英語Ⅰ	15/15(前期)	1	34
長崎県立大学	英語Ⅱ	15/15(前期)	1	34
長崎県立大学	英語Ⅲ	15/15(後期)	1	34
長崎県立大学	英語Ⅳ	15/15(後期)	1	34
武蔵野大学	Remedial English A	14/14(集中)	1	12
武蔵野大学	Remedial English B	14/14(集中)	1	12

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
英検二次面接指導	4	5	2025/06/17/, 06/27, 07/04, 12/05,

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）持続的な地域ネットワーク構築及び実効性のある連携事業による地域活性を目的とした英語教育・グローバル人材育成に関する調査研究と教育実践

（２）異文化コミュニケーションを視野に入れた英語教育が、地域の異文化共生や英語力改善・英語学習の動機付けに及ぼす効果

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
2	12	0	0	2	1	1	80万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『クイズメソッドでどんどん話せる英会話』／単著／2025年４月／Jリサーチ出版／全216頁

『英語がどんどん聞き取れる リスニング大特訓（DL版）』／単著／2025年12月／Jリサーチ出版／全203頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』4月号／共著・編著／2025年4月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』5月号／共著・編著／2025年5月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』6月号／共著・編著／2025年6月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』7月号／共著・編著／2025年7月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』8月号／共著・編著／2025年8月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』9月号／共著・編著／2025年9月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』10月号／共著・編著／2025年10月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』11月号／共著・編著／2025年11月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』12月号／共著・編著／2025年12月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』1月号／共著・編著／2026年1月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』2月号／共著・編著／2026年2月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

『DEKIRU英会話マガジン・英会話フレーズバンク』3月号／共著・編著／2026年3月／Jリサーチ出版／49頁～60頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

グローバル時代における外国語教育の方向性とその実践／2025年8月2日／長崎県小学校英語教育研究会

英語発信力の育成と課題～コミュニケーションの効果性と適切性～／2025/11月29日／長崎県小学校英語教育研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
Sasebo Global Kids Challenge	佐世保市	2025年4月～2026年3月	80万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	欠席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第14回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
40	17

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
英語学習と異文化理解	5月29日	波佐見町立波佐見東小学校	波佐見町教育委員会
小学校外国語教育教員研修	6月2日	波佐見町立波佐見東小学校	波佐見町教育委員会
グローバル人材育成のための小学校外国語教育	6月13日	佐世保市立祇園小学校	長崎県教育庁
英語学習と異文化理解	6月19日	波佐見町立波佐見南小学校	波佐見町教育委員会
グローバル人材育成英語発信力強化	7月2日	佐世保市立祇園中学校	長崎県教育庁

英語の発音力はリスニングの向上につながる！	7月22日	平戸市たびら活性化施設	平戸市教育委員会
英語の中をのぞいてみよう！異文化理解ってなぜ大切なの？	7月24日	平戸市たびら活性化施設	平戸市教育委員会
グローバルな視点で英語を学ぼう！	8月8日	明星大学（佐々町公民館）	佐々町教育委員会
先生のための英語発音法	8月19日	西海市教育委員会	西海市教育委員会
異文化コミュニケーションを視野に入れたグローバル人材の育成と英語教育	8月20日	アルカス佐世保	佐世保日米協会
小学校外国語教育における指導の改善	9月16日	波佐見町立波佐見東小学校	波佐見町教育委員会
小学校外国語活動で音声と異文化理解をどう取り入れるか	9月18日	西海東小学校	西海市教育委員会
英語の中をのぞいてみよう！異文化理解ってなぜ大切なの？	9月19日	長崎県立大学	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（１）	9月20日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（２）	9月20日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
グローバル時代の英語教育	8月18日	長崎市立山里小学校	長崎市教育委員会
小学校外国語教育に音声指導を取り入れることの意義	10月9日	波佐見町立波佐見南小学校	波佐見町教育委員会
どうしたら英語を話せるようになるの？～先生が描く子どもたちのゴールの姿～	10月17日	長崎市民会館	九州地区英語教育研究団体連合会
異文化コミュニケーションを視野に入れた英語教育～たちはどうしたら英語に興味を持つの？～	10月17日	長崎市民会館	九州地区英語教育研究団体連合会
英検受験に必要な知識と技能（３）	11月1日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（４）	11月1日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
題材を重視した発信型の英語教育	11月10日	松浦市立福島中学校	松浦市教育委員会
小学校英語教育における異文化理解の導入	11月11日	佐世保市立黒髪小学校	佐世保市教育委員会
リスニングに役立つ英語発音クリニック	11月12日	長崎国際大学	長崎県立佐世保商業高等学校
グローバル人材育成に向けた小学校英語教育の実践	11月14日	佐世保市立祇園小学校	長崎県教育庁
中学校i授業改善～題材を重視した英語教育の推進～	11月17日	佐世保市立広田中学校	佐世保市教育委員会
グローバル社会における英語教育と異文化理解	11月18日	九州産業大学	九州産業大学
グローバル人材育成のための英語発信力強化	11月27日	佐世保市立祇園中学校	長崎県教育庁
小学校外国語教育授業改善～異文化コミュニケーション能力の基礎を培う英語教育～	11月3日	佐世保市立黒髪小学校	佐世保市教育委員会
異文化理解ってなぜ大切なの？	11月11日	長崎県立大村高等学校	長崎県立大村高等学校
異文化理解ってなぜ大切なの？	11月18日	長崎県立大学	長崎県立佐世保商業高等学校
英検受験に必要な知識と技能（５）	12月25日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（６）	12月25日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（７）	1月5日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検受験に必要な知識と技能（８）	1月5日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
異文化理解ってなぜ大切なの？	2月17日	長崎県立大学	佐世保市立相浦中学校
Speaking English is So Much Fun	2月26日	佐世保市立光海中学校	佐世保市立光海中学校
小学校外国語教育における音声指導	2月27日	西海市教育委員会	西海市教育委員会
英検二次試験（面接）に必要な知識と技能（１）	2月28日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会
英検二次試験（面接）に必要な知識と技能（１）	2月28日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県グローバル人材育成協議会	委員	2017年度～現在に至る	長崎県教育庁
日本比較文化学会	理事、九州支部副支部長等	2007年度～現在に至る	日本比較文化学会
小学校英語教育学会	理事	2016年度～現在に至る	小学校英語教育学会
長崎県小学校英語教育研究会	会長	2016年度～現在に至る	長崎県小学校英語教育研究会
映画英語アカデミー学会	理事	2012年度～現在に至る	映画英語アカデミー学会
平戸市英語スピーチコンテスト	審査委員長	2015年度～現在に至る	平戸市教育委員会
長崎県高等学校英語スピーチコンテスト	審査委員長	2023年度～現在に至る	長崎県教育庁
全商英語スピーチコンテスト	審査委員長	2020年度～現在に至る	全国商業高等学校協会
長崎市あじさい英語スピーチコンテスト	審査委員長	2015年度～現在に至る	長崎市教育委員会
聖和杯英語スピーチコンテスト	審査委員長	2020年度～現在に至る	聖和女子学院
九州文化学園小学校英語暗唱大会	審査委員長	2025年度	九州文化学園
日野小学校コミュニティースクール評議会	委員	2024年度～現在に至る	佐世保市
広田小学校学校評議員会	委員	2024年度～現在に至る	佐世保市
江上小学校学校評議員会	委員	2007年度～現在に至る	佐世保市
新興出版社啓林館小中学校英語教科書編集委員会	委員（著者）	2016年度～現在に至る	新興出版社啓林館
長崎県立佐世保北中学高等学校学校評議員会	委員	2023年度～現在に至る	長崎県教育庁
聖和女子学院中学高等学校学校評議員会	委員	2025年度～現在に至る	聖和女子学院

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

(1)長崎新聞に英語教育に関する記事が掲載された。
(2)テレビ佐世保でグローバル教育に関する取組が放映された。
(3)近隣の小学校（広田小学校）と連携し、本学学生が同校で学習支援をする企画立案し、実践した。
(4)九州文化学園小学校において、小学校外国語教育の観察、及び指導助言を行った。
(5)佐世保市長と佐世保市のグローバル教育と英語教育推進について面談した。
(6)佐世保市教育長と、佐世保市の中学校英語の学力と来年度の取組について面談した。
(7)佐世保市の教育フォーラムにおいて指導限をした。
(8)佐々町教育長と、同町のグローバル教育の推進について面談した。
(9)波佐見町教育長と、同町の英語教育・異文化理解教育の展望について面談した。
(10)広田小学校の外国語教育に関する継続的な指導助言。
(11)文部科学省外国語教育推進局の担当者と、今後の日本の英語教育に関して面談した。
(12)祇園小学校のグローバル教育に関する継続的な指導助言。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・University of Hawaii, Kapiolani Community Collegeの教授との異文化理解や異文化交流に係る協議。
・Sacred Hearts Academy, World Languages Department（ハワイ州）の担当教員との国際交流と言語と文化を統合した外国語教育に関する協議。
・Waialae Charter School （ハワイ州）の管理担当職員と、小学校外国語教育分野での交流に係る来年度の取組について協議。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

概ね良好と言える。特に、大学の地域貢献として、英語教育、グローバル教育研究分野で地域と協働、連携を深めることができた。来年度も、これを継続し、地域とリンクした研究教育をさらに充実させていく方針である。過去初めて、今年度、学会の全国大会で発表ができなかった。来年度は国際学会で研究発表をすることになっている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 浦郷　淳

１．教育理念

Ｉ　think Ｉ can.
学びは一生涯続くもの。学校は、その価値に気付く場。
子どもは有能な学び手であり、その学びを支える存在として環境が存在する。
教師は一環境であり，学びの邪魔にはなってはならない。
授業は、単に知識を教授するのではなく、先人の知恵でもある知識に問いかけ、新たなものを見い出し、さらに世に発信する契機となるもの。
子どもを信じ、彼らに「I think I can(私にはできると思う)」そんな自信をもたせること。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修B（東日本）	15/15(通年)	2	13	⑦⑩
卒業研究	60/60(通年)	4	12	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
事前・事後指導	5/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習Ａ	5/60(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	5/30(通年)	2	4	④
栄養教育実習	1/30(通年)	1	1	④
事前・事後指導(栄養)	5/8(通年)	1	1	④⑦
ＩＣＴを活用した教育の理論及び方法	8/8(前期)	1	29	①④⑥⑧⑩
道徳教育論	15/15(後期)	2	27	⑤⑥⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	12	①②③④⑤
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	12	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	12	⑥⑩⑫
学際連携と地域の理解	3/15(前期)	2	250	②④
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	③⑤⑥⑧
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	③⑤⑥⑧
教育方法論	15/15(後期)	2	43	①④⑥
教育課程論	15/15(前期)	2	32	③⑤⑥⑧
総合的な学習の時間の指導法	8/8(前期)	1	32	①④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業の満足度は、授業アンケートを実施した12科目（前期7科目・後期5科目）で、4.5が1科目、4.6が1科目、4.7が4科目、4.8が6科目と概ね好評であった。学生の興味・関心に応じた指導ができた。

特に、学外からのゲストスピーカーを招いて実施した科目や、学生自身が企画、運営するようなイベント参加型の科目での評価が高かった。このことから、授業計画の段階から高い評価を得たと言える。
また、学生自身の学び方についてのアンケート結果が芳しくない科目であっても、教師の指導方法についての部分での評価は高かった。
以上のことから、学生の実態に合った指導計画に基づく指導ができたと言える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	教育方法技術論	5/15(前期)	2	31
西九州大学	教育方法・技術論	8/8(集中)	1	15

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
第1回教員採用試験模擬試験	4	7	2025年10月15日
第2回教員採用試験模擬試験	0	3	2025年12月
第3回教員採用試験模擬試験	4	9	2026年3月12日～17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①経験主義と系統主義を結び付けた教育活動の組織と展開
②グループ・モデレーション法を中心とした指導方法改善に資する評価研修法の開発
③児童・生徒の学びを促進する授業展開の在り方と教材開発
④教師が主体的に向かう校内研究の展開

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	5	1	7	8	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

算数の学びを愉しむ子ども／共著・編著／2025年8月／全国算数授業研究会/東洋館出版社／（６）98-103

変動社会の学校教育／共著・編著／2025年8月／日本学校教育学会/三恵社／（４）198-201

教師として成長したいと思うときに読んでおきたい42の道標ー私が，子どもが，変わったあの瞬間ー／共著・編著／2026年3月／田中博史/東洋館出版社／（４）140-143

多様な子がともに学ぶ学力差に寄り添う算数授業／共著・編著／2026年3月／田中英海・浦郷淳・他/東洋館出版社／（19）20-23・28・36-37・50-51・70-71・82-83・88-93

「教職の魅力共創」社会共創編『新たな学び・学校のかたち５』／共著・編著／2026年3月／愛知教育大学出版会／（5）　25-29

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

総合的学習における中学校教師の鑑識眼に関する一考察ーモデレーション法を活用した研修を通してー／2025年8月／個性化教育研究第16号／（12）22ー33／共著／論文

小学校入学初期における学びの姿に関する研究ー1年生生活科「できた！がいっぱい」の単元を通してー／2026年２月／佐賀大学教育実践総合センター 紀要論文 佐賀大学教育実践研究第44巻／（10）63ー72／共著／論文

小学校入学初期の生活科における表現としての”かく”ことの意義／2026年２月／佐賀大学教育実践総合センター 紀要論文 佐賀大学教育実践研究第44巻／（8）73ー80／共著／論文

小学校入学初期の生活科における情報活用能力育成の在り方に関する研究／2026年２月／佐賀大学教育実践総合センター 紀要論文 佐賀大学教育実践研究第44巻／（8）81-88／共著／論文

学校現場体験で生まれる学生の学びに関する研究／2026年３月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第９巻／(10)1-10／共著／研究ノート

「他との関わり」に焦点をあてた指導方法の研究―数学的な見方・考え方の表出に焦点をあてて―／2026年３月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第９巻／(10)11-20／共著／研究ノート

中動態を視点とした総合的な学習の時間における学び方に関する一考察／2026年３月／『長崎国際大学論叢』第26巻／(12)1-12／単著／研究ノート

「わからない」を起点とする数学的な見方・考え方を育む授業づくりに関する研究／2026年３月／『長崎国際大学論叢』第26巻／(11)13-23／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

冬遊びで深まる児童の気付きの質に関する研究／2025年6月27日／第34 回 日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会

目的意識を育む指導法に関する研究-５年生における食をテーマにした実践を通して-／2025年6月27日／第34 回 日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会

総合的な学習の時間における児童の学習意欲に関する研究 -中動態を視点として-／2025年6月27日／第34 回 日本生活科・総合的学習教育学会 全国大会

「わからない」を出発点とする 算数科指導法の工夫 -4 年生「分数」での子どもの姿を通して-（田中友梨・浦郷淳）／2025年8月8日／第107回 全国算数・数学教育研究(石川)大会

系統性を意識したかけ算指導（戸越利佳・浦郷淳）／2025年8月8日／第107回 全国算数・数学教育研究(石川)大会

小学校 1 年生における乗法・除法の 素地指導に関する研究／2025年8月8日／第107回 全国算数・数学教育研究(石川)大会

「他との関わり」に焦点をあてた 算数科指導方の研究 -5 年生「単位量あたりの大きさ」に焦点をあててー（古賀きらら・浦郷淳）／2025年8月8日／第107回 全国算数・数学教育研究(石川)大会

算数科における数学的な見方・考え方の検討 ー１年生「おなじかずずつ」に焦点をあててー／2025年8月9日／日本個性化教育学会第18回全国大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター委員会	委員	人間社会学部国際観光学科の担当者として、学科内意見のとりまとめと委員会での報告、委員会で示されたデータをもとに学科への情報提供に努めた。
教職課程委員会	委員	教職課程委員として、教育実習校への訪問、介護等体験施設への訪問等を行った。
教育基盤センター運営委員会	部門長	教育基盤センター運営員会、初年次・共通教育部門長を務めた。入学前教育及び入学前体験会の企画等について、部門の意見を取りまとめ、報告等行った。
学生生活サポート室	室員	学生生活サポート室室員として前期の相談業務を担当した。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパス委員会の委員長として、4回のオープンキャンパスの企画・運営を行った。
国際観光学科初年次教育委員会	委員	学科内の初年次教育が円滑に進むように、委員長指示に沿って準備等に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティセミナーWG	委員	本年度から実施視された初年次科目、ホスピタリティセミナーWGの一員として、学科教員への内容の周知、質問への対応等を行った。

(3) 課外活動の指導等

ソフトテニス部顧問

フットサルサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

講演の際には、本学のオープンキャンパス並びに広報活動を行うように努めた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席

2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第15回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
49	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
講演「学会発表から学会誌へ」	5月26日	オンライン	日本生活科・総合的学習教育学会東京支部
講演「授業の中での小中連携」	5月29日	佐賀県唐津市立厳木小学校・厳木中学校	唐津市教育委員会・厳木小学校・厳木中学校
講演「問いと授業づくり」	6月5日	佐賀県鹿島市立能古見小学校	鹿島市立能古見小学校
講演「学力向上のための土台作り」	6月12日	佐賀県嬉野市立吉田中学校	嬉野市立吉田小学校・吉田中学校
講演「子どもの進路選択子どもたちに何ができるのだろう？」	6月14日	長崎国際大学	長崎国際大学（リケフェスIN　SASEBO）
講演「自ら問いをもち、学びを深める児童の育成～算数科における数学的活動の充実を通して～」	6月18日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演「“問い”を意識した授業づくり」	6月25日	佐賀県鹿島市立能古見小学校	鹿島市立能古見小学校
講演「主体的に学び続ける児童を育成するには」	6月26日	佐賀県武雄市立東川登小学校	武雄市立東川登小学校
指導助言：山形大学教育学部附属中学校・第3学年の総合的な学習の時間の実践について	6月28日	山形県山形大学附属中学校	日本生活科・総合的学習教育学会
講演「問いをもって生活し、他者と関わり合いながら、主体的に学び続ける児童の育成～2年生の授業実践を手がかりに～」	7月11日	佐賀県嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
講演「自ら問いをもち，学びを深める児童の育成～算数科における数学的活動の充実を通して～」	7月28日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演「児童生徒の学びに向かう力の育成～児童生徒の自己調整力を高めるための授業づくり～」	7月29日	佐賀県唐津市立馬渡小中学校	馬渡小中学校
講演「総合的な学習の時間の授業づくり」	7月31日	佐賀県白石町役場	白石町教育委員会
講演「生活科の基本的な考え方と進め方」	8月2日	福岡県久留米シティプラザ大会議室3	福岡県生活科・総合的学習教育学会
全国算数授業研究会・授業シンポジウム司会	8月6日	東京都筑波大学附属小学校	全国算数授業研究会
第107回 全国算数・数学教育研究(石川)大会・小学校部会「数学的な見方・考え方」分科会司会	8月8日	オンライン	日本数学教育学会
日本個性化教育学会第18回全国大会自由研究発表司会	8月9日	オンライン	日本個性化教育学会
日本個性化教育学会第18回全国大会分科会Ⅱコーディネーター	8月9日	オンライン	日本個性化教育学会

指導助言・指導案検討会	8月18日	佐賀県嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
講演「学力向上のための日常的な土台作り」	8月20日	佐賀県嬉野市立吉田小中学校	嬉野市立吉田小中学校
講演「小中で実践を積み上げることの価値」	8月20日	佐賀県唐津市立厳木小中学校	唐津市教育委員会・厳木小学校・厳木中学校
指導案検討会指導助言	8月25日	佐賀県小城市立岩松小学校	小城市立岩松小学校
講演「質の高い探究的な学びの実現」	9月17日	佐賀県佐賀市立赤松小学校	佐賀市立赤松小学校
小学校3年生「小数」授業の授業研究会パネリスト	9月20日	東京都成城学園初等学校	日本数学教育学会
小学校2年生・小学校5年生算数指導案検討会における指導助言	9月22日	長崎県佐世保市立金比良小学校	佐世保市教育センター
ワークショップ担当「元小学校教員が教える！親子の関係アップデート」	9月28日	佐賀大学	佐賀大学ダイバーシティ推進室
算数の眼で見る子どもを育てる	10月10日	長崎県佐世保市立中里小学校	佐世保市教育センター
コーディネーター：「学校教育を取り巻く課題にどう向き合うか？」	10月25日	佐賀県サンメッセ鳥栖	九州個性化教育学会
指導助言「資質・能力の深まりと一体的育成に向けて」	10月31日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
指導助言「主体的に学ぶこと」と「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」との関係性	11月5日	佐賀県武雄市立東川登小学校	武雄市立東川登小学校
講演「系統性を意識した学習づくりと心づくり」	11月12日	佐賀県唐津市立厳木小中学校	唐津市教育員会･唐津市立厳木小中学校
指導助言「“問い”を連続させる授業づくり」	11月14日	佐賀県鹿島市立能古見小学校	鹿島市立能古見小学校
指導助言「学力向上のための土台づくり」	11月17日	佐賀県嬉野市立塩田小学校	嬉野市立塩田小学校
指導助言「算数の眼をもち、一歩踏み出す子どもを育てる」	11月18日	長崎県佐世保市立歌浦小学校	佐世保市教育センター
講演「学力向上のための土台作り」	11月19日	佐賀県嬉野市立吉田中学校	嬉野市立吉田中学校
指導助言「問いをもって生活し，他者と関わり合いながら，主体的に学び続ける児童の育成 ～問題発見・解決能力を育む理科・算数科の授業づくりを通して～」	11月21日	佐賀県嬉野市立轟小学校	嬉野市立轟小学校
主体的に表現できる子の育成	11月26日	佐賀県武雄市立朝日小学校	武雄市立朝日小学校
租税教室	11月27日	九州文化学園小中学校	佐世保法人会
票育事業	11月28日	大村市立玖島中学校	大村市選挙管理委員会
問いを生み出し、数学的活動を支える教師の観	12月5日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
租税教室	12月11日	長崎県佐世保市宮中学校	佐世保法人会
総合的な学習の時間を『探究の時間』へ	12月15日	佐世保市教育センター	佐世保市教育センター
自分の気持ちや考えを表現できる児童の育成～発達段階に応じた系統表を基にした活動を通して～	12月17日	佐賀県嬉野市立大野原小中学校	大野原小中学校
小学校5年生割合授業研究会パネラー	1月11日	新潟県新潟市立日和山小学校	全国算数授業研究会
授業公開2年生「かけ算のきまり」4年生「分数」	1月26日	佐賀県嬉野市立塩田小学校	塩田小学校
授業公開3年生「小数」4年生「分数」	1月28日	佐賀県鳥栖市立旭小学校	鳥栖市立旭小学校
講演「授業を通して見る児童生徒との関わり方」	2月3日	佐賀県鹿島市一般財法人藤津地区教育会館	鹿島嬉野藤津地区教育相談部会
租税教室	2月5日	聖和女学院中学校	佐世保法人会
講演「主体性をどう育てるか、鹿島・太良の教育の未来と可能性」	2月8日	佐賀県鹿島市立民文化ホール「サクラス」	佐賀県教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県「さがすたいる」教材作成委員会	委員	2025年1月～2026年3月	佐賀県県民環境部

佐賀県武雄市立山内中学校学校評議委員会	委員	2024年6月～現在に至る	佐賀県武雄市立山内中学校

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①日本生活科・総合的学習教育学会の理事を務め、学会誌編集部員として、論文執筆者セミナー等を担当する。
②日本学校教育学会の広報・デジタル委員会幹事として、ホームページ掲載記事の管理を行う。
③日本数学教育学会実践研究推進部小学校部会幹事を務める。
④九州個性化教育学会事務局長を務める。
⑤新興出版社啓林館から、生活科・算数教科書に関する業務委嘱を受ける。
⑥大村市選挙管理委員会主催の票育活動について、依頼を受け、参加者募集・事前指導・当日運営等に携わる。
⑦6月14日　リケフェスIN Sasebo の企画・運営に携わる。保護者向け講演を行う。
⑧9月28日 リケフェス2024　佐賀大学　保護者向けワークショップ講座を担当する。
⑨11月8日 NIUキッズキャンパス　ブース担当
⑩2月7日　佐賀県生活科総合的学習教育研究会主催の指導者研修会において事務局長を務める。
⑪令和9年度開催の日本生活科総合的学習教育学会全国大会の事務局長を務める。
⑫日本個性化教育学会学会誌編集委員を務める。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（ベストアウトリーチ部門）

８．活動全般についての自己点検・評価

①教育については、担当する4年生の学生全員が卒業を迎えることができ、単位習得、卒論指導ともに適切な指導ができた。1年生～3年生についても、個別指導を行いながら、それぞれの単位習得を促すことができた。教職課程の履修学生についても、しっかりとした指導をできたと考える。
②研究については、論文も9本のと学会発表が8本あり、数としては良いが、自身の専門分野での研究の充実と、学会への貢献を図っていきたい。
③地域貢献については、長崎県・佐賀県の教育委員会・教育センター・各学校への指導助言、講演等を多数行うことができ、自身の研究の還元ができていると考える。また、租税教室を佐世保法人会の方々と継続的に実施し、本年度も３つの中学校で実施することができた。さらに、大村市選挙管理委員会の票育活動にも関わることができた。
④校務については、全学関係業務（教育基盤センター運営委員・IRセンター委員・教職課程委員・相談員）、学科内業務（オープンキャンパス委員長・初年次教育委員）のいずれも、自身の担当する部分についてはしっかりと取り組むことができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 川上　直彦

1．教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力（①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニュケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力）を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業（世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A＆B）および専門演習IA-IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組ませることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力につて、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業（英語演習IA-IIB）においては、③と⑤を重視している。③コミュニュケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニュケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常の生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	2	⑥⑫
世界史	15/15(前期)	2	71	①⑤⑥⑨⑩
英語ⅡA	15/15(後期)	1	33	①②
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	6	①⑤⑥
英語ＩB	15/15(前期)	1	13	①②
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	①⑤⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	4	①⑤⑥
History A	15/15(前期)	2	3	⑤⑥⑨⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
History B	15/15(後期)	2	6	①⑤⑥⑨⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	5	①⑤
英語ⅡB	15/15(後期)	1	33	①
美術と観光	15/15(前期)	2	49	①⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
文化財特講	15/15(前期)	2	3
文化財特講	15/15(前期)	2	3
特別研究	30/30(通年)	8	2
事例研究（文化財）	15/15(後期)	2	2

事例研究（文化財）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナー　満足度4.8/5.0
教養セミナーの授業内容については、最初から決まっているものなので、学生が興味を持てる内容に勝手に変更することができないため、個人による改善は難しい。しかし、4.8と非常によい評価結果であった。授業内で学生をとにかくほめるようにしたことが良かった。

世界史　理解度4.4/5.0&満足度4.5/5.0
世界史の授業への満足度平均は、理解度と満足度は、4.4と4.5と良い結果であった。世界史の授業については、学生に考えさせる授業を展開できるよう工夫したことが、学生にポジティブにとらえられ、評価が高い結果になったと考える。

英語演習IIA　理解度3.8/5.0&満足度3.8/5.0
履修学生のこの授業に参加しての満足度は、3.8とあまり評価はよくなかった。学生のコメントに記載があったが、授業内容がむずかしすぎたようである。標準レベルのクラスなのだが、年々学生のレベルが低くなっていると感じる。来年度からは、授業のレベルは下げるようにして対応する。

大学院文化財特講（前期）：満足度3.7/4.0；事例研究（文化財）（後期）：満足度3.5/4.0
大学院事例研究（芸術文化資源）（後期）：満足度4.0/4.0
前期は、履修した学生は6人で、後期が4名であった。前期・後期共に満足度はそれなりに高かった。日本人学生と留学生との間で日本語能力のギャップが大きく、日本人の日本語レベルに合わせて授業を展開した。何人かの留学生はかなり理解に苦しんでいる様子だったので、多少満足度が低かったと推測する。来年度についても良い評価を取得できるようがんばりたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

紀元前2300年頃、古代メソポタミアにおいてアッカド王朝が人類史上初の統一国家を建設し、史上初の首都と定義可能な都市「アガデ」を創設した。しかし、このアガデの所在地は未だ発見に至っていない。近年、申請者は、楔文字史料、3次元地形データ、及び衛星画像・写真を、地理情報システムを介して分析し、テル・シンカーの遺丘が、アガデに推定できることを示した。今後の研究では、1950年代まで遡り撮影されたアメリカ軍のU2スパイ偵察航空機及びGAMBIT衛星とHEXAGON衛星写真を、地理情報システムを介して分析し、機械による農地開拓から失われた同遺丘の地形景観の全貌を復元し、アッカド王朝の首都と定義可能な規模・範囲を持った遺丘であったのか検証する。更には、遠隔から地表面に散在する土器片の編年確立を試み、アッカド王朝時代に同遺丘を年代付けできるのか検証する。本研究の成果は、自身のアガデ＝テル・シンカーの仮説を補強し、次の発掘調査へ繋げることが期待できる。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	2548万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
南メソポタミア最北部のシュメール初期王朝及びアッカド王朝時代の古代都市遺跡―イラク、テル・シンカー遺跡の地表面調査（2024～2025年度）―／2026年3月／第33回西アジア発掘調査報告会報告集／31頁～36頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Japan's Most Recent Contributions to the Field of Mesopotamian Archaeology in Iraq: The Japan-Iraq Joint Survey at Tell Sinker／2025年12月／The 16th Iraq-Japan Joint Academic Conference: Panel 3 Archaeological Research in Iraq: Past and Present

南メソポタミア最北部のシュメール初期王朝及びアッカド王朝時代の古代都市遺跡 ―イラク、テル・シンカー遺跡の地表面調査（2024～2025年度）―／2026年3月／日本市アジア考古学会：第33回西アジア発掘報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
人類初の統一国家古代メソポタミア・アッカド王朝の首都アガデの日本・イラク合同調査	日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(開拓)	2024年6月 － 2028年3月	2548万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会（学科、全学）	委員長（学科）、委員（全学）	学科の研究倫理委員会委員長として、教員が行う研究11件、学科生の卒業研究23件の計34件の研究倫理審査を行った。
研究センター委員会（全学）	副委員長	「長崎国際大学論叢第26巻」の出版および「長崎国際大学第26回学術研究報告会に関連する業務に携わった。
ボランティアセンター運営委員会（全学）	副委員長	大学のボランティア活動に携わった。
国際観光学科共同研究予算委員会	委員長	令和7年度の学科共同研究、国際観光学会運営補助費、学科教育研究充実費、そして予備費の予算管理を委員長として厳正に行った。また令和8年度の共同研究の募集についても実施した。
国際観光学科グローバルツーリズムコー委員会	委員	前期・後期の国際観光学科所属の1年生及びグローバルツーリズム所属学生対象の英語試験（CASECテスト）の運営・管理業務を補佐した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	－	第16回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席

2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	公務出張

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市国民保護協議会	委員	2024年度～現在に至る	佐世保市役所

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
The 16th Iraq-Japan Joint Academic Conference: Panel 3 Archaeological Research in Iraq: Past and Present	講演	12月7日	早稲田大学	千葉大学特任教授 酒井啓子

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】大学院修士課程の学生3名への論文指導を無事に終えることができた。学部では、継続して歴史に興味がある学生を幅広く受け入れられる内容のゼミ授業にするため変更を加えている。

【研究】研究代表者として2024年度科学研究費「挑戦的研究（開拓）25,480,000円」に採択された。2025年度に日本の学会と国際ワークショップにおいて口頭発表を行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 坂口　さとこ

1．教育理念

私は三つの教育理念を持っています。

一つ目は、地域に貢献できる学芸員を養成することです。博物館は地域のアイデンティティを再構築し、多様な人々が交流する「社会教育のハブ」へと変化しています。急速な少子高齢化、グローバル化、そしてデジタル化の進展により、地域の文化資源をいかに守り、次世代へ継承していくかが問われています。高度な専門知識を礎としながらも、既存の枠組みに捉われない柔軟な思考を持ち、自ら課題を発見・解決することで地域社会に真に貢献できる学芸員を養成したいと考えています。

二つ目は、学生の主体性を育てることです。教育は、教員から学生への一方的な知識の伝達ではないと考えています。学芸員という職種は、定解のない問いに対して自ら答えを見出していく創造的な仕事です。また、これから複雑化していく世情の中、自ら考え、判断し、行動できる主体的な個人が、豊かな社会の構築に寄与できると考えます。そのためにも学生の「主体性」を育むことを基盤にしていくことを理念としています。

三つ目は、学際的視点を持つことです。博物館学の本質は、歴史、美術、自然科学といった既存の学問領域を横断する「学際学」としての性格を持っています。自らの専門分野に閉じこもるのではなく、多様な視点を取り入れ、問の境界を越える視点は、資料の新たな価値を発見し、それを現代的なメッセージとして展示・発信するために不可欠な能力です。教養と俯瞰的な視野を備えた人材を育成したいと考えます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習A	15/15(前期)	1	48	⑥⑦⑪
博物館実習C	30/30(通年)	1	30	⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	7	⑥⑫
博物館実習C	15/15(前期)	1	1	⑦⑪
博物館実習C	15/15(後期)	1	1	⑦⑪
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	7	①⑥⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	7	①⑥⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	9	①⑫
博物館実習B	30/30(通年)	1	15	②⑪⑫
日本史	15/15(後期)	2	95	②⑩
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	9	①⑥⑫
博物館経営論	15/15(後期)	2	122	②⑨⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	④⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	④⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	④⑤⑥
生涯学習概論	15/15(前期)	2	146	②⑨
博物館展示論	15/15(前期)	2	71	②⑨⑩
博物館情報・メディア論	15/15(後期)	2	102	②⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	1	⑥⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	3	⑥⑫
文化財保護論	15/15(前期)	2	164	②⑨⑩
民俗学	15/15(後期)	2	126	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートでは満足度を含めて、総じて全体平均と同等か、それを上回る数値が出ており、理論の解説にとどまらず、具体的な事例や視覚資料を積極的に導入して分かりやすい授業を行った。学生アンケートにおいても「毎回内容が面白くて授業参加するのが楽しみでした」「専門職の実際を知ることができた」といった肯定的な意見が多く、学習意欲の向上に繋がったと評価している。講義内での双方向性を高めるため、リアクションを把握して学生の理解度をリアルタイムで把握しながら進行を調整したいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
杉野服飾大学	博物館実習	1/15(集中)	1	5

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
博物館課程で学芸員資格取得のために必要な単位取得のための補講	1	2	2025年7月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.博物館の機能（収集・保存・展示・教育）の考察を基盤としつつ、現代社会における博物館の新たな役割と可能性を多角的に研究している。

2.江戸時代に確立された光琳派（琳派）が、明治以降の主に京都において、近代化の波の中でどのように変容し、京都の工芸やデザイン、そして都市文化に影響を与えたのかを考察することによって、日本における意匠からデザインへの概念の変化のあり方を研究している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員	運営委員	配慮申請面談やサポート業務等々の活動を行った。
観光学専攻	書記	専攻会議の書記として資料準備や会議の運営を行った。
キャリア委員会	支援員	キャリア委員会委員ではないが、美術館や発掘調査会社のインターン生の面談およびインターンの支援や評価を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学会	編集委員会員	国際観光学会が発行する学会誌の編集委員として編集活動を行った。

(3) 課外活動の指導等

地域文化研究会の顧問として指導を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスで博物館学関係のブース出展や模擬授業を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第17回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市図書館協議会委員	教義委員	2025年度より現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

九十九島水族館海きららの所蔵資料（コレクション）を調査し、体系的な目録作成事業に参画して、地域の自然資料の保存と活用の活動を継続している。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

・本学へ赴任して初年度ということで、佐世保市及び長崎県内の博物館・美術館との連携強化に取り組んだ。5館以上の博物館を実地訪問し学芸担当者との意見交換を通じて基盤づくりを進め、また外部博物館と共同の調査活動に参加して研究教育への還元を目的とした取り組みを行った。

・研究面では科学研究費助成事業への応募を通じて、研究計画の具体化と質の向上を図った。

・演習形式の授業において、また、講義形式の授業において、学生の主体的な参加や理解の深化を目的として双方向的なやりとりを積極的に取り入れた授業を行い、また学生の意見も取り入れて、質の向上に努めた。

・CHの活動においては、その本質を理解するとともに面接や相談などの諸活動に積極的に参加した。今後も教育・研究活動との両立を図りながら、運営に貢献していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 塩田　裕明

１．教育理念

「グローバルツーリズムコース」を担当する教員として、観光の多面的な視点を備え、国際社会を牽引できる人材の育成に取り組みたいと考える。学生には、基盤となる英語力と高度なコミュニケーション能力の習得を促すとともに、異文化を尊重し共生を目指す倫理観を養う。また、学生には常に国際的な視野で物事を見るように指導したい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
事前・事後指導	2/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習Ａ	2/60(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	2/30(通年)	2	4	④
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	18	④
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	5	①④⑥⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑥⑩
English Writing Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	14	④⑧
英語ⅠA	15/15(前期)	1	37	①②
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	①④⑥⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	①④⑥⑩
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
英語科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	4	①⑤
英語科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	3	①⑤
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果では、授業に対して総合的に満足している学生が多かったが、あまり満足していない学生もいるので、その点については今後改善を図りたいと思う。その際、授業アンケートの自由記述欄に記載されていること、また授業中に別に回答してもらったアンケートの結果を参考にしたい。また、学生に授業規律をしっかり守るように常日頃から声掛けをしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
久留米大学	英語科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	18
久留米大学	教育とICT	14/15(後期)	2	154
長崎短期大学	日本語検定Ⅰ／Ⅲ	15/15(1th/5th Quarter)	2	15
長崎短期大学	地域と人々／応用日本語	15/15(2nd/6th Quarter)	2	15
長崎短期大学	日本語検定Ⅱ／総合日本語	15/15(3rd/7th Quarter)	2	21

長崎短期大学	基礎日本語Ⅱ	15/15(4th Quarter)	2	19

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

日本の学校教育で使用されている英語教科書と日本以外の国の学校教育で使用されている教科書における英文法や題材内容等の比較研究を行っている。また、英語ライティング指導に活用できるプログラムの開発を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

日本及びトルコ共和国の初等・中等教育における英語教科書の機能表現分析ーSFLの視点からみたコーパスによる英語習得過程の比較検討ー／2025年8月30日／日本言語教育ICT学会 2025 研究大会（兵庫大会）

英語教科書における文章情報の可視化技術の改善（１）ー談話標識に焦点を当てた比較研究への活用ー／2025年8月31日／日本言語教育ICT学会 2025 研究大会（兵庫大会）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員会	副委員長	委員長を補佐するかたちで教職課程委員会の運営に携わった。
教育基盤センター運営委員会	副センター長	センター長を補佐するかたちで教育基盤センターの運営に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター紀要編集委員会（教育基盤センター運営委員会内）	編集委員	『教育基盤センター紀要』の編集作業、査読等を行った。
オープンキャンパス委員会（国際観光学科内）	委員	委員としてオープンキャンパスの実施に携わり、志願者確保に尽力した。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	委員としてグローバルツーリズムコースの運営に携わった他、「長崎国際大学 人間社会学部国際観光学科 英語資格特待生に関する内規」に基づく対象学生の申請にかかわる事務処理を行った。
国際観光学会編集委員会	編集委員	『観光学論集』の編集作業、査読等を行った。

(3) 課外活動の指導等

ピックルボールサークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第18回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県鳥栖市教育委員会	外部評価委員	令和4年度～現在に至る	佐賀県鳥栖市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、着任1年目ということで、大学運営活動など新しい活動については覚える段階であった。また、授業については、学生

の状況を常に把握しながら、教授方法や課題内容などについて調整し、学生にとってより良い授業となるように工夫に努めた。
今後は、今年度に得られた成果をもとに、また反省点を改善するかたちで、より良い研究・教育活動を行っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 竹田　文雄

１．教育理念

実務家教員であるからこそ出来る教育の在り方を常に考え、そして常に進化向上させていくことに力点を置く。
学生に対しては、常に以下の４点を求めていく。
・世間の動きを知ることを心掛けて、「様々なことに興味や関心を持つことを習慣化」する。
・「自身の意見をまとめる力」を伸ばす。
・自身のまとめた意見を他者とシェアすることで、「自身の意見を伝える力」を伸ばす。
・意見を出し合うことで、自分自身の「聴く力」と「語る力」を伸ばす。
以上の４点について、学生が自発的に取り組むように後押しをしていく。
そして長崎国際大学の学生を、ホスピタリティに溢れた、どこででも誰とでも堂々と渡り合える社会人となれるように育成していきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	4	②④⑥⑦
海外観光資源Ａ	15/15(後期)	2	125	②⑨
地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ･ﾖｰﾛｯﾊﾟ）	15/15(前期)	2	101	②⑨
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	4	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	4	②④⑥⑦
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	①②⑩⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	①②⑩⑫
航空業論	15/15(前期)	2	127	②⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	10	①②⑩⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	①②⑩⑫
観光倫理	6/15(前期)	2	202	①③
旅行ビジネス英語	15/15(前期)	2	22	②⑨
ツアープランニング	15/15(後期)	2	41	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

スムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面において担当授業の準備とフォローアップを優先させました。また前年度の省察を踏まえた上で、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法についての改善を施すことができたと自己レビューしております。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・国際観光論
・航空事業論
・国際観光とマスツーリズム/オーバーツーリズム
・中世イタリアの都市国家群

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
観光税の導入と背景、そしてその効果について／2025年10月11日／第21回長崎国際大学国際観光学会　研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学入試・募集委員会	副委員長	・毎月の委員会審議内容を学部教授会審議にダウンロードし、その結果を再びに委員会へ建設的にアップロードすることを心がけた。 ・入試の学力試験会場では受験生への応対に留意し、受験生の本学への入学動機の向上を心掛けた。 ・入試面接も同様に、本学の良さをアピールしつつ、入学しようという動機付けを心がけた。 ・入試募集媒体（NIU STUDY、NIU LIFEなど）の改編に参画し、より魅力的な内容に改編できた。 ・一般選抜A日程入試では、急遽決定した東京試験会場の現地監督を遂行。 ・全学入試・募集委員会の副委員長として、委員長をサポートしつつ、毎回の会議および委員会活動、そして本学の入試・募集活動がスムーズに運営されるように注力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①男子硬式テニス部　顧問
②女子硬式テニス部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

NIU キッズキャンパスにて、自身のブースを開設。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第19回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
海外観光に関する講義＋学科ガイダンス	6月12日	長崎国際大学	長崎県立 清峰高校
観光に関する仕事について＋学科ガイダンス	6月18日	長崎国際大学	長崎県立　宇久高校
観光学に関する模擬授業＋学科ガイダンス	6月20日	長崎国際大学	長崎県立 佐世保東翔高校
国際観光学科の特色と秀でた点について	10月8日	長崎国際大学	長崎県立 佐世保東翔高校 PTA（保護者）
観光に関する仕事について＋学科ガイダンス	10月22日	長崎国際大学	長崎県立　大村城南高校
国際観光学科の特色と秀でた点について	11月12日	長崎国際大学	長崎県立　川棚高校 PTA（保護者）
観光・旅行の仕事（アクティブラーニング）	2月13日	私立　創成館高校	私立　創成館高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県県民生活環境部 食品安全・消費生活課
一般社団法人大学ゴルフ授業研究会	委員	令和3年度より現在に至る	一般社団法人大学ゴルフ授業研究会
九州・長崎 国際観光人材育成コンソー委員会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県および佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県平戸市の「アルベルゴ・デイフーゾタウン」正式認証に向けたサポート活動（年間活動）。

（平戸市 文化観光商工部 観光課へのサポート活動）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻修士課程に在籍し、自己研鑽に努めております。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

スムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面において担当授業の準備とフォローアップを優先させました。前年度と比較して、前期・後期のいずれにおいても、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法については進歩・進化があった手ごたえを感じております。

次年度に向けてはポートフォリオを一層活用するとともに、ワークシートの利用を100人超の授業にて取り組むこと、さらに学生にメモを取らせるように工夫をしていくことを心がけてまいります。

またマナバを用いて学生から収集する授業後コメントにて、自身が気が付かなかった留意点や改善点を確認し、都度対応をすることで授業内容の向上を計ります。

同時に学生からのグッドコメントについても、次年度の授業準備プロセスにフィードバックすることで履修学生の受講満足度の向上を目指してまいります。

そして令和７年度に得た知見を担当授業の運営に反映させて、授業運営の一層の充実を図ってまいりますとともに、九州文化学園法人全体、大学、学部、学科の運営に一層寄与できるように努めてまいります。

最後に、長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻修士課程を卒業予定です。在籍中に体得したアカデミアの考え方と実務家教員の経験のハイブリッドに傾注してまいります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 東出　朋

１．教育理念

・批判的に物事を観察し、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢を持つ人を育てる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	8	①④
日本語入門ライティングA	15/45(前期)	2	15	①④
日本語入門ライティングB	15/45(後期)	2	6	①④
日本語コミュニケーションＡ	30/30(前期)	2	16	①④
教養セミナー	15/15(後期)	2	12	①④
教養セミナー	15/15(後期)	2	12	①④
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	①④
日本語Ⅳ	15/15(後期)	2	3	①④
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	52	①④
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	①④
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	①④
言語と文化B	15/15(後期)	2	135	①④
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	13	①④
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	15	①④
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	9	①④
言語と文化A	15/15(前期)	2	112	①④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

概ね良好

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

非漢字圏日本語学習者の漢字学習ストラテジー

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	180万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

非漢字圏初級日本語学習者の漢字学習ストラテジーに関する実態調査 ――ネパール人留学生に焦点を当てて――／2026/03／長崎国際大学教育基盤センター紀要／29-38／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
異文化理解を目指す、言説的アプローチによるロシア語（イン）ポライトネス研究	日本学術振興会　科学研究費助成事業　若手研究	2024/04~2027/03	180万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	なし
学部事務局	委員	なし
国際観光研究所運営委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

6/25水に企業向け異文化理解促進セミナー（長崎留学生支援センター主催）にて講演を行なった。6/26付長崎新聞に掲載された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第20回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席

2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
企業向け異文化理解促進セミナー	6/25	出島メッセ	長崎留学生支援センター

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市し尿収集運搬に係る検討委員会	委員	2023~	佐世保市
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	2025~	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

6/25水に企業向け異文化理解促進セミナー（長崎留学生支援センター主催）にて講演を行なった。6/26付長崎新聞に掲載された。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

特になし

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 森尾　真之

１．教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。
１．「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
２．「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
３．「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修A（北海道）	15/15(後期)	2	27	⑦⑩
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	23	⑦⑩
旅行業務エキスパートＩB	8/15(通年)	2	1	①⑨
インターンシップA	15/15(通年)	2	32	④⑦⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	12	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
国内旅行実務	15/15(前期)	2	61	①⑩
観光まちづくり論	15/15(後期)	2	157	①②⑥⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	4	②⑥⑦⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	②⑥⑦⑫
国内観光資源	15/15(前期)	2	93	①⑩
旅行業論	15/15(後期)	2	72	①⑩
旅行業務エキスパートＩA	8/15(前期)	2	24	①⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	②⑥⑦⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	②⑥⑦⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	②⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	②⑥⑦⑫
MICE論	15/15(後期)	2	39	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	2
事例研究（観光マーケティング）	15/15(後期)	2	2
まちづくりマネジメント特講	7/15(前期)	2	6
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケートの評価については、例年通りのスコアであった。学生の質が変化し、講義の進め方も変化していかなければならないが、できるだけ問いを立てて、現実的におこっていることから問いに対する考え方を示すように進めた。そのことでの評価の向上はわからないが、引き続き次年度も取り組みを進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡女学院大学	旅行業務研究A	15/15(前期)	2	25
福岡女学院大学	旅行業務研究B	15/15(前期)	2	9
福岡女学院大学	旅行業務研究C	15/15(後期)	2	8
福岡女学院大学	旅行業務研究D	15/15(後期)	2	9

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

大村湾岸の一体的な観光地経営について

地域における観光人材育成（アウトドア人材、ＭＩＣＥ）

ＣＢＴ（コミュニティベーストツーリズム）の拠点づくり

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

我が国における地方移住政策に関する一考察 －リカレント教育による地方における人材循環モデルの提起－／2026年3月／長崎国際大学論叢第26巻／65頁～79頁／単著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和７年度　川棚町大崎地区 地域ブランド強化のための観光コンテンツ開発連携事業	川棚町	2025年5月28日～2026年2月28日	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職活動における学生支援
広報委員会	委員	広報委員会の在り方についての議論
スポーツサポートセンター会議	委員	スポーツ学生のキャリア支援

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ゴルフ部顧問

バドミントン部顧問

NIU LABO同好会顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第21回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎空港開港50周年記念シンポジウム	９月４日	大村市プラザおおむら	長崎空港ビルディング（株）
講演会「自然体験と通して学ぶ　ひと×地域の豊かさ」パネルディスカッション	１月２５日	くじゃく荘	川棚町まちづくり団体「瑠璃の水辺」

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	４月１日～２月２５日	東彼杵町
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会	委員	４月１日～３月３１日	佐世保観光コンベンション協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①　４月１９日・２０日　「アースデイかわたな」出店参加

②　１１月２９日・３０日　「しごと能力研究学会」全国大会コーディネート（本学）

③　１２月７日　「第一生命・長崎国際大学わくわくボッチャ大会」実行委員（本学）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

１．講義の新しい取り組み：特に新年度に向けた大学のブランディングのための取り組みを行った。
①MICE論講義での出島メッセ長崎での実習（１２月１３日）
②新年度「初年次インターンシップ」の準備討議
③新年度履修証明プログラム「ローカルいとなみカレッジ」の企画立案

２．学生のキャリア支援　より現実的で具体的なキャリア支援の取り組みを行った。
①旅行業向けの新たな取り組み（旅行業キャリアデザインプログラム、旅行業リレーセミナー）
②学内企業合同説明会の外部連携

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 井畑　敦子

１．教育理念

本教育実践の根幹は、「学生を教育の主体に据える」点にある。これは専門である医療人類学の視座に基づくものであり、既存の知識を一方向的に伝達するのではなく、現実の経験や多様な声から学びを構築する帰納的・批判的思考を重視する立場である。

医療人類学は、文献的知識にとどまらず、フィールドワークを通じて現場の実態に接近し、「与えられた前提を疑う」姿勢を基盤とする。この方法論は教育においても有効であり、学生自身が既存の枠組みを相対化し、複数の視点から現実を捉える力を育成することを目的とする。

こうした立場から、授業は教員主導ではなく、学生の反応・理解・問いを基盤に構成される。毎回のリアクションペーパーや対話を通じて学習内容を可視化し、それを次回以降の授業設計に反映させることで、固定的ではない動的な授業運営を行っている。結果として、授業内容そのものが学生との相互作用によって生成される構造を持つ。

一方で、学生の声をそのまま受容するのではなく、「声なきニーズ」や将来的に必要となる能力については、教員が専門的視点から補完的に提示する必要がある。そのため、短期的理解と長期的成長の双方を見据えたメタ認知的な枠組みを共有することを重視している。

具体的には、ICTを活用した反転授業、継続的なライティング訓練、フィードバックの共有を通じて、英語運用能力と同時に分析的思考力の向上を図っている。また、他者の意見を参照しながら自己の理解を更新するプロセスを組み込むことで、協働的かつ内省的な学習環境を構築している。

さらに、本教育観は、看護教育における全人的理解とも接続している。対象を一側面から捉えるのではなく、社会的・文化的文脈を含めた全体像として理解する姿勢は、人類学的アプローチと共通するものである。前任校において実践してきた異文化コミュニケーション教育においても、患者を単なる対象ではなく主体的存在として捉える視点を重視してきた。

最終的に目指すのは、予測困難な時代においても、自ら問いを立て、状況に応じて柔軟に思考し行動できる人材の育成である。そのために、既存の知識の習得にとどまらず、仮説形成や意味生成を可能とする思考様式（アブダクション）を重視し、学習者自身の内発的な成長力を引き出す教育環境の構築を行っている。

教育とは、教員が知識を与える営みではなく、学習者が本来持つ可能性を発現させるための環境を整える営みである。この前提に立ち、学生の主体性を最大限に引き出す教育実践を今後も継続していく。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	8	②③④⑥⑦⑩⑪⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	2	②③④⑥⑦⑩⑪⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	1	②③④⑥⑦⑩⑪⑫
English Reading Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	18	①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
Practical English ⅡB	30/30(後期)	2	14	①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
Practical English ⅠB	30/30(前期)	2	18	①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	3	②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	5	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	5	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫

専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	5	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
English Reading Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	14	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	3	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	2	②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

数値上は比較的高い評価が並んでいるが、学生は概して自己抑制的であり、波風を立てないよう空気を読む傾向が強い。したがって、表層的な数値のみをもって授業が機能していると判断するのは早計である。実際、高評価の多くは授業の大半を担ったチームリーダーの運営努力に依拠している側面が大きい。しかし現実には、今年は18名という小規模にもかかわらず半数以上がコースを離脱している。昨年、その前も同様に離脱率は高い。表向きの理由は「金銭的事情」と整理されるが、個別に相談を受ける中で繰り返し聞かれるのは「英語力が伸びる実感がない」「これなら自分で勉強した方がいい」「英会話教室のようで、中学時のALTと変わらない」という訴えが繰り返されることである。これは個人の努力不足ではなく、既に指摘してきた授業構造上の問題に起因する。とりわけ、大学教育の根幹である質的な認知能力形成の機会が十分に設計されていない点は看過できない。

こうした声を受け、チームおよびコース運営側に対し複数回にわたり改善提案を行ってきた。しかし実質的な変更はなされず、設計思想も共有されないまま三年が経過した。本来であれば議論と検証を経て再設計が図られるべきであるが、その回路自体が機能していない。この場以外に公的に共有する手段がないため繰り返し記しているが、問題意識が組織として受け止められている実感は乏しい。

さらに懸念すべきは、こうした構造的課題に沈黙したままでも評価や昇進が進むという制度環境である。アンケートに実質的な記述を残さない教員が存在しても、それが問題視されない現状は、教育改善のインセンティブを根底から損なう。逆に大学の発展を願い改善を提案する者は異物排除となり、ここに記すことの実効性に疑念を抱かざるを得ない。しかし、学生の抑圧と離脱という事実が積み重なっている以上、沈黙こそが最も無責任であると考え、最後に声を上げておきたい。大学が大学であるために、大学が提供すべき英語教育が実現するために、構造の問題としてここに注意喚起し、再検討されることを強く求める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

プラネタリーヘルス、認識・存在論、社会病理、医療化・脱施設化、脱人間中心主義と人新世、ウェルビーイングとメンタルヘルスリテラシー、代替医療、治療儀礼、治療的共同体、社会・文化資源

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

River view and traditional ecological knowledge／2026年1月6日／National seminar on River and Culture in Bengal

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学事委員会オリエンテーション担当	委員	なし
ハラスメント対策委員会	委員	なし
ボランティア委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第22回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
International seminar on River and culture in Bengal	Guest speaker	１月６～8日	Alipurduar University	Vice chanceller
Negotiating Asian Borders: Actors, Displacements, Multiplicities, Sovereignties	Observer	1月１３～１５日	National Taiwan Universit	the 8th Asian Borderlands Research Network

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本学における教育実践および組織運営に関わる三年間にわたる経験を踏まえ、活動全般の自己点検として、以下に所見を記す。

在職期間を通じて、教育現場における運営方針と実際の教育実践との間に、一定の乖離が生じている状況が確認された。特に、定員確保を優先する意思決定のもとで、教育内容の質的担保および指導体制の整合性が十分に確保されているとは言い難い場面が複数見受けられた。

また、教育内容および授業運営に関する判断において、担当教員の専門性に基づく提案や改善案が、十分な検討過程を経ることなく変更または制限されたと認識される事例があった。これにより、教育方針の一貫性の維持が困難となり、結果として学生の学習機会に影響が及ぶ可能性があると考えられる。

さらに、教員配置および指導体制の変更に関して、当事者への事前説明や合意形成が十分に行われないまま決定がなされたと受け取られるケースが見受けられ、業務遂行上の混乱および心理的負担が生じる状況があった。これらは在職期間中に複数回確認されたものである。

加えて、在職期間中において、新任教員を中心とした短期間での離職が複数発生しており、人材の定着に関して一定の課題が存在することが示唆された。これらの離職について個別事情は多様であるものの、教育環境および組織運営との関連性について検討の余地があると考えられる。

国際教育および専門教育の推進を掲げる一方で、それを担う人材の専門性が制度的に十分活用されているとは言い難い状況も見受けられた。対外的に掲げる教育理念と内部の運営実態との間に、一定の不整合が存在する可能性がある。この点は、教育の質保証および機関としての持続可能性の観点から重要な検討課題である。

本所見は、在職期間中に複数回にわたり同様の状況が確認されたことを踏まえ、個別的事象ではなく一定の傾向として記録するものである。また、これらの状況が継続する場合、教育の質保証および組織運営の持続可能性に影響を及ぼす可能性がある。

以上は、特定の個人に帰責するものではなく、本学における教育実践の中で観察された事実およびそれに基づく認識の整理である。教育機関としての説明責任および今後の検討の必要性の観点から、ここに記録する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 江島　弘晃

1．教育理念

大学機関を通して、高度な学術的および専門的内容を主体とした知識を獲得する学生の育成教育を信条とする。具体的には、学生には、高い専門性と幅広い見識を獲得できるように、自身の講義、実習や専門演習を通して課題認識・課題解決を図る能力を育成する。講義に関しては、運動生理学を軸に授業内容の理解度を高めるために実例を多用したスライドを用いる工夫を行っている。専門演習に関しては学生の卒業論文を学術誌に掲載させることを目標にすることで学生の専門性向上を高めることを心掛けている。

大学教員として学生とともに探求心を育み、研究の醍醐味を理解させ教育することを大学教員としての理念として掲げている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ研修A（マリンスポーツ）	15/15(前期)	1	12	①⑫
マリンスポーツⅡ	15/15(前期)	1	2	①②⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	10	⑥⑫
武道	15/15(後期)	1	20	④⑪
発育発達論	15/15(前期)	2	144	①②⑨⑩
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	⑤⑪⑫
スポーツ科学概論	15/15(前期)	2	123	②⑤⑥⑩
運動生理学	15/15(後期)	2	117	②⑤⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	⑤⑪⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②⑤⑥
健康科学	15/15(前期)	2	84	②⑦⑧⑩⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	39	④⑤⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	②⑤⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	10	②③⑤⑧
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	12	②③⑤⑧

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

勤務5年目ということで授業で使用するスライドや資料作成に修正を加え、学生が集中しやすい環境整備を図った。授業アンケートでは、概ね学生から理解しやすい、説明が丁寧などの好評を得ることが出来た。実習形式の授業では安全面に留意し、怪我などをおこした学生にも対応できた。教育効果としては授業ごとのレポート提出を求め、学生主体とした教育効果を行うことが出来、次年度ではさらに学生が授業に参加できるよう課題を提出させることで教育効果を担った授業を展開していく。アンケートの評価は次年度と今年度の比較を行うことで授業改善の内容を考慮していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	15/15(通年)	2	45
長崎短期大学	スポーツ科学	15/15(通年)	2	6

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脂質が骨格筋の形態・機能に及ぼす影響

健康増進を打ち出す運動の新規メカニズムの解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	2	2	2340万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Deuterium-reinforced polyunsaturated fatty acids protect against muscle atrophy by STZ-induced diabetic mice.／2025／Free Radic Biol Med.／10.1016/j.freeradbiomed.2025.02.015.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

JSPFSM-KSEP Joint symposium-2025／2025年4月9日／JSPFSM-KSEP Joint symposium-2025

骨格筋の筋量・筋力減少を引き起こす 脂質ヒドロペルオキシドの役割／2026年2月17日／Metabolic Research seminar National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

重水素多価不飽和脂肪酸は STZ誘発性糖尿病マウスの骨格筋萎縮を防ぐ／2025年6月9日／第67回日本脂質生化学会

重水素化多価不飽和脂肪酸はマウス骨格筋の 持久性運動によるミトコンドリア量酵素活性増加を亢進させる／2025年8月30日／日本スポーツ栄養学会　第11回大会

絶食はマウス骨格筋のLPCAT3を介して筋萎縮と 固有張力低下を引き起こす／2025年9月17日／第79回　日本体力医学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)（研究代表者）	日本学術振興会	2025年4月 － 2029年3月	1885万円
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)（研究分担者）	日本学術振興会	2025年4月 － 2029年3月	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター	委員	委員として競技力向上支援部門および地域スポーツ振興・事業開拓部門を担当した。
国際観光学科スポーツツーリズムコース	委員	コースの運営、イベントの企画などを担当した。
オープンキャンパス委員	委員	オープンキャンパスの企画、準備、運営を担当した。
長崎国際大学国際観光学会	主幹事	長崎国際大学国際観光学会の主幹事として評議委員、編集委員運営、補佐、幹事を主として担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

陸上競技部　顧問

剣道サークル　監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園オープンスクール講師／2025年8月22日／九州文化学園

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第23回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
The United Japanese researchers	学術企画理事	2025年4月～2026年3月	非営利団体

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、講義・実習を多数担当した。とくにマリンスポーツ実習の主担当を実施し、満足のいく教育活動を展開できた。職務では、全学委員会および学科内委員会を担当した。とくに今年度は国際観光学会の主幹事として学会、会議運営を主で担当するすることで学科に大いに貢献できた。他委員活動も概ね職務を全うできた。社会活動では、UJAという海外研究者ネットワークの理事を担当し、広報活動に尽力できた。

充実した研究活動を実施することで社会貢献に繋がる活動が出来たと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 川上　知子

１．教育理念

最も大事にしたいことは、学生一人ひとりの実態を把握することである。そのためには、時間を丁寧に共有することを意識したい。少人数のゼミであれば、定期的な個別面談を実施し、学生が何を目指し、どんなことを日々頑張って取り組んでいるのかを把握し、その学生の取り組みを認める声かけを大事にしたい。その積み重ねて構築された信頼関係を土台とし、時には学生自身の悩みや進路相談などにも丁寧に心を傾け、学生の主体的な人生への一歩を応援できる存在の一人となりたい。また、授業で関わる学生においては、週に1、2回の関わりとなることから信頼関係の構築には時間を要するものと思われる。しかし、授業準備や授業の展開、授業後の対応において、名前を意識的に呼ぶようにし、「自分のことを認識してくれている」という学生の自覚を促し、学生の授業内での変容もキャッチし、その成長をしっかりと言語化して伝えることを大事にしたい。学生たちは高い学費を払って学びに来ている、その学びの保証はもちろんだが学生自身の自信と成長を促せるような関わりを大事にしたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	8	①④⑤⑥⑪⑫
事前・事後指導	30/30(通年)	1	27	④⑦
教育実習Ａ	30/30(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	30/30(通年)	2	4	④
教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)	15/15(前期)	2	32	②⑤⑩
生徒指導論（栄養）	15/15(後期)	2	3	②⑤⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑩⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
生徒指導論	8/8(後期)	1	28	②⑤⑩
進路指導論	8/8(後期)	1	28	②⑤⑩
教職実践演習(中・高)	4/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	4	①④⑤⑥⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
特別活動論	15/15(前期)	2	32	①⑤⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑩⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

毎年度，新しい学生と出会うことを意識し，これまでの授業内容は，学生の実態に応じて，柔軟に適宜アップデートしながら授業に臨むことができた。学生のアンケートの結果をみると，教職の学生は特に，授業者としての視点で教員を評価し，自身の教育実践に取り入れようとする意識が垣間見られた。このようなアンケート結果を受け，改めて，自分自身が学生たちにとっては一つのロールモデルになり得る自覚をもち，教員としても自分自身を常にアップデートしていきたいと実感した。ここ3年ほど続けていることとして，全ての授業で，一人一人にファイルを準備し，そのファイルに授業のワークシート学生のレポートなどを

綴じて，紙媒体のポートフォリオを作成させている。自分の学びがすぐに確認できたり，自分がまとめたものを参考にしながら，思考を広げている一つのツールにもなっており，次年度も継続したいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学保育学科	教育経営論A	15/15(前期)	2	35
長崎短期大学保育学科	教育経営論B	15/15(前期)	2	34
長崎短期大学保育学科	教育方法論A	15/15(後期)	2	35
長崎短期大学保育学科	教育方法論B	15/15(後期)	2	34

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「青年期の不登校経験による自己再構築過程についての検討」

今年度は，このテーマにおける研究活動が主なものであった。半構造化面接を実施し，TEAの手法で，TEM図を描き，中学校での不登校経験の前，渦中，その後（現在に至るまで）のプロセスを描くことができた。まだ分析途中ではあるが，2026年3月に日本発達心理学会のポスター発表でその進捗を発表し，参加者からの有意義なコメントを得ることができた。特に，不登校支援に携わっている方，不登校経験のある方にとって，意味ある研究となっている手ごたえを感じることができた。引き続き，調査を継続し，今回の研究成果のブラッシュアップを図りたい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

高校段階の不登校の現状と課題についての検討／2026年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第9巻／21頁～28頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

青年期の不登校経験による自己再構築過程についての検討／2026年3月4日／日本発達心理学会ポスター発表

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員会	委員	教職を履修している学生の事前指導として，人権講話の担当を行った。また随時，進路に悩む学生対応は丁寧に行うことができた。
CHサポートセンター委員会	委員	その他 学生生活サポート室員 ピアサポート支援

学事委員会	学事委員長	卒業式，保護者会，オリエンテーション（2回），それぞれの主担当の先生方と協力して，チームで良い雰囲気のもと活動できた。
初年次教育委員会	初年次教育委員	主に，1年生のセミナーの運営に携わった。
教育基盤センター運営委員会	運営委員（学修支援部門）	学修支援部門の委員として，離学防止対策に対する取組，ラーニングコモンズの運営における，学生選出などに取り組んだ。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
南高愛隣会との障害学生支援活動	メンバー	定期的に行われる，南高愛隣会と本学のメンバーとともに会議に参加し，障がいをもつ学生の進路におけるサポート体制の構築についての話し合いに参加した。

(3) 課外活動の指導等

バスケットボール部　顧問（事務的な対応）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

川棚大崎半島で地域活性のためのプログラム構築，実践中

例：2月21日「自己回復プログラム」参加者10名

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第24回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「自身の教育実践の傾向にみる生徒指導のあり方の提案」	2025年11月21日	福岡県立香椎工業高等学校	福岡地区生徒指導主事協議会秋季研修会講演

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

川棚大崎半島で地域活性のためのプログラム構築，実践中

例：2月21日「自己回復プログラム」参加者10名

学校心理士としての活動（教員（小学校），発達障がいの子をもつ親を対象に無料カウンセリング）

川棚町「ゆめまある」不登校支援教室でのボランティア活動

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究・教育・地域貢献・学内の4つの視点で，自身を振り返ると，研究に対する時間の捻出が不十分であった反省がある。その分，地域貢献への時間が増えたことは，活動の範囲を広げる良い機会になったと考える。課程内博士の取得がかなわず，2026年4月からは，論文博士を目指して，より一層気を引き締めて，忙しさの中でも時間をうまく捻出できるよう，精進したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 John Patrick Owatari-Dorgan

1．教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標においているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気を心がけています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語ⅡA	15/15(後期)	1	25	①②
Practical English ⅡB	30/30(後期)	2	14	①②③④⑤
Practical English ⅠB	30/30(前期)	2	18	①②③④⑤
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	15	②③④
Practical English ⅢA	15/15(前期)	1	13	②③④
Practical English ⅠA	30/30(前期)	2	18	②③④
English Reading Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	13	①④⑤⑪
Japanese Culture B	15/15(後期)	2	25	②⑤⑥⑨
Japanese Culture A	15/15(前期)	2	27	②⑤⑥⑨
英語ⅡB	15/15(後期)	1	20	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期、「Practical English IA」と「Practical English IIIA」の授業で、授業アンケートを実施しました。「Practical English IA」の授業では、学生満足度は4.9点でした。「Practical English IIIA」の授業では、学生の満足度は4.8でした。学生の意見を参考に、授業中の教材を充実させることで、満足度を向上させることができると思います。

後期、「Practical English IIA」と「Japanese Culture B」の授業で、授業アンケートを実施しました。「Practical English IIA」の授業では、学生満足度は4.7点でした。「Japanese Culture B」の授業では、学生の満足度は4.6でした。学生の意見を参考に、授業中の教材を充実させることで、満足度を向上させることができると思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	Intercultural Communication Ⅳ	15/15(後期)	1	20
佐賀大学	Cultural Metaphors	15/15(後期)	1	38

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、教育学、カリキュラムデザイン、言語学、異文化コミュニケーションです。特に、カリキュラム計画、バイリンガリズム、多読、留学、コンピュータ支援学習について研究しています。さらに、私は英語学習者に関する民族誌的研究に興味を持っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	14	16	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations Regarding Blog Writing Tasks for EFL Extensive Writing／2026/03／長崎国際大学論叢／25~32／共著／論文

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology／2022/03／長崎国際大学論叢／59~73／共著／論文

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2022/01／2021 ICLE SIG Conference Proceedings／9~16／単著／論文

Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology／2021/03／長崎国際大学論叢／1~16／共著／論文

Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan／2020/03／長崎国際大学論叢／1~8／共著／論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum／2019/03／長崎国際大学論叢／31~44／共著／論文

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands／2019/03／長崎国際大学論叢／1~10／共著／論文

Preparing Students for IELTS with Weekly Video Journals／2018/08／2017 KoTESOL Conference Proceedings／60~72／単著／論文

Review of xreading／2017/11／Extensive Reading in Japan／23~28／共著／論文

Improving the Global Tourism Course Curriculum with Regard to Study Abroad Preparation: Initial Observations on One Student's Experience at a Dutch University／2017/03／長崎国際大学論叢／127~132／共著／論文

An Exploration of Creative Sentence Writing as a Means for EFL Vocabulary Acquisition／2017/03／長崎国際大学論叢／97~104／共著／論文

Methodological Changes to an Active Learning Tourism Video Project／2017/03／長崎国際大学論叢／91~96／共著／論文

The Benefits and Challenges of Using Google Forms with Extensive Reading／2017/03／2016 PanSIG Conference Proceedings／100~119／共著／論文

Active Learning Tourism Video Project／2016/03／長崎国際大学論叢／1~12／共著／論文

Supporting Active Learning with Moodle／2015/03／長崎国際大学論叢／13~22／共著／論文

Building a Sustainable Curriculum／2015/03／2014 PanSIG Conference Proceedings／98~112／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Engaging Students in ER with Bibliobattles?／2025/11／51st Annual JALT Conference

Google Assignments LTI workshop／2024/2／2024 MoodleMoot

Developing a Moodle User Guide for Students and Faculty／2024/2／2024 MoodleMoot

Methods for Managing Classroom Engagement／2024/2／??????????????

Creating a Multi-Lingual User Guide in Moodle／2023/03／2023 MoodleMoot Japan

Benefits of Asynchronous Debates using Online Tools／2022/11／48th Annual JALT Conference

Evaluating Three Semesters of On-Demand Courses／2022/2／2022 MoodleMoot Japan

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2021/11／47th Annual JALT Conference

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021/11／47th Annual JALT Conference

Teaching Culture in an On-Demand Context／2021/7／1st ICLE Conference

Developing a Multilingual On-Demand Curriculum for English Communication Classes／2021/2／2021 MoodleMoot

Implementing a Mobile App for University Classes／2020/11／46th Annual JALT Conference

Moodle Strategies for On-Demand Lessons／2020/9／2020 MoodleWeek Japan

Making a MOOC／2020/2／2020 MoodleMoot Japan

Preparing Students for Study Abroad with Video Journals／2020/2／16th Annual CamTESOL
Making a MOOC – What We've Learned So Far／2019/11／45th Annual JALT Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
グローバルツーリズム 委員会	委員	GT活動や学生の育成について話し合い、計画する。
オープンキャンパス委員会	委員	国際観光学科オープンキャンパスの準備します。
男女共同参画推進委員会	委員	長崎国際大学における男女共同参画の様々な取り組みについて議論。
国際交流委員会	副センター長	国際プログラムの企画および実施に携わっている。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

クラブやサークルの担当ではありません。グローバルツーリズムコースの学生のために、イベントや活動の企画を手伝いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保海軍基地での「ひな祭り茶会」の企画をします。
毎年恒例のグローバル・リーダーシップ・フォーラムの企画をします。
佐賀県ディベート大会審査員
佐賀県スピーチコンテスト審査員
第35回 全九州高等学校 英語スピーチコンテスト
佐世保東翔高校出張講義
九州文化学園高校との高大連携授業

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	–	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	–	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	–	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	–	第25回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Homestay English Preparation	10月～2月	山内町 農村環境改善センター	ター たけおワールドフレンズ
Volunteer Morning English Class	4月～2月	武雄市立山内東小学校	武雄市立山内東小学校
Takeo City Christmas Event	12月24日	武雄市こども図書館	武雄市こども図書館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
JALT（全国語学教育学会）異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月~現在	国内委員会
Takeo World Friends	委員	2009年4月~現在	国際交流団体

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

5月　ICE-T 異文化交流活動　ボランティア
9月 ICE-T スポーツエベント　ボランティア
武雄市国際ウィンターフェスティバルボランティア
武雄市図書館冬の子どもイベントボランティア

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
Global College Network Conference	大学の会議でNIUを代表しました。	2025年12月	CURIO専門学校
Short Term Exchange at Lapulapu Cebu International University	プログラムを企画・運営し、実施中は学生をサポートする。	2026年10月	Lapulapu Cebu International University

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

アメリカ留学を企画する。
フィリピンでの短期留学を企画する。
武雄の中学生に国際交流の準備をさせる。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

GTコースのと英語演習の学生の英語レベルアップに大きく貢献できたと思っています。多くの GTコースの学生は、TOEICテストで学期ごとに50点以上の向上を達成しています。さらに、海外大学進学に活用される英検をはじめとするEIKEN対策の見直しと戦略を再構築し、多くの学生もテストで良い結果を残しています。本年度、GT教員陣は現代の学生ニーズに応えるためGTプログラムの再構築に注力しました。私は他の英語教師と協力して、基礎英語のカリキュラムをよりよく改善し続けています。学生からのフィードバックをもとに、基礎英語と日本文化の授業に多くの改善を行いました。
研究面では、国際会議で複数回発表を行うことができました。また、NIU 論叢に論文を掲載しました。新たに科学研究費補助金に応募し、新たなテーマでの研究開始を目指しています。加えて、SDGsとアフリカ関連のボランティア活動に焦点を当てた国際共同研究プロジェクトにおいて、他大学の研究者と協力しました。
国際交流センターのスタッフと緊密に連携し、学生の短期留学および長期留学を支援しました。また、国際センターを代表して海外に赴き、複数の大学を訪問し、より良い関係を構築することで、学生により優れた留学機会を提供しました。さらに、NIUに入学する留学生に対し、円滑な移行を保証するための支援も行いました。

キャンパスコミュニティの一員として積極的に活動することを心がけ、他の先生方と密に協力して学生の体験を向上させました。GT委員会および国際センター委員会のメンバーとして、学生の留学や将来のキャリアのために全力でサポートしていきます。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 末永　貴久

１．教育理念

長崎国際大学の国際観光学科（特にスポーツツーリズムコース）の学生に対する教育理念を、大学が掲げるホスピタリティを念頭に置き、以下のように考える。

１.スポーツには様々な領域や考え方があることから、多角的な視点を身につけさせる
　将来、スポーツ選手だけではなく、コーチ、マネージャー、トレーナー、スポーツ経営者、スポーツジャーナリスト、研究者など、何らかのスポーツに関連する仕事に就くことを考え、それぞれの職種に必要な知識や技術、視点が異なることを踏まえ、多角的な視点を身につけることで、自分が将来どのような仕事に就いても対応できるような、幅広い分野で活躍できる人材を育成する。

２.専門性に富んだ視点を身につけさせる
　スポーツにおいては、上記の多角的な視点に加え、それぞれの要素に対する専門的な視点を持つことが求められる。スポーツ指導の種目的な専門性、トレーニング方法を提供することが必要であるように、多角的な視点に加え、深い専門性取り組む視点を身につけさせる。

３.組織運営能力を身につけさせる
　スポーツには様々な組織が関わる。例えばクラブやチーム、リーグ、協会などの組織には、それぞれ役割があり、連携が求められる。組織運営能力を身につけることで、チームを成長させるために必要な戦略的な判断や、効果的なマネジメントが可能になる。

４.常に学び続ける姿勢を持たせる
　スポーツは日進月歩で進化し、選手のトレーニング方法や戦術、技術も常に進化し続けている。また、スポーツ界に関わる環境も急激に進化していることから、常に新しいアイデアや情報を学び続けることが必要となる。

５.コミュニケーション能力を養う
　人としてスポーツに関わる限り、コミュニケーション能力は必須であり、社会からもその能力は求められていると考えられる。常に自分に関わる人の気持ちを考え、行動できる人材に育成していく。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	45	②④⑥
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	30	②④⑥
スポーツ研修A（マリンスポーツ）	15/15(前期)	1	12	①②⑪
マリンスポーツⅡ	15/15(前期)	1	2	①②⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	12	④⑥⑦⑪⑫
エアロビクス（陸上・水中）	15/15(前期)	1	11	②④⑩⑪
地域スポーツ	15/15(後期)	2	124	④⑤⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	13	②③⑤⑧
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	12	②③⑤⑧
スポーツ科学概論	3/15(前期)	2	123	②⑤⑥⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	15	②③⑤⑧
スポーツ社会学	15/15(後期)	2	146	②③④⑤⑥⑩
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	39	④⑤⑪
コンディショニング	10/15(後期)	1	49	⑩⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	15	①⑥

スポーツ医学	2/15(前期)	2	40	②⑨⑩⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツマネジメント	15/15(前期)	2	122	④⑤⑥⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	16	①⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	15	②③⑤⑧

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業への満足度や全体的な興味としては概ね良好であった。しかし、特に高得点であった実技に対し、講義は4点の中盤であり、特に人数が多い講義にはやや課題が残った。

全体としては、受講学生が教員の意図を理解し、ある程度満足しながら授業に取り組んだことが伺える。その要因としては、授業の前週に次回実施の内容を明示し、その内容を課題として調べておくよう指示を明確に出した。授業当日は、改めて実施方法について資料で示し、学生に主体性を持たせつつ、運動能力やコミュニケーション能力も配慮しながら実施した。

人数や環境の要因により、シラバスの種目・内容が授業で実施できないときもあり、十分に説明しながら、変更し、取り組むこともあった。常に学生に伝え、準備をしながら取り組んだため、シラバスとの整合性はある程度あるとの評価を得たと考える。

上記に加え特に実技の授業では、まずは興味を持って楽しく参加できる雰囲気作りを重視した。さらに、熱中症対策や感染対策も取りつつ、スペースや人数を考慮して取り組んだが、注意喚起しながら行動の指示を出したことによって、学生が安心して参加できたのではないかと考える。

これらのことにより、大きな問題もなくある程度の満足度を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	80
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	地域・在宅看護論	1/15(後期)	1	40

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康運動実践指導者試験対策講座	10	3	2025年10月～1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者に対するフレイル対策

地域におけるスポーツ・部活動地域展開

ジュニアへのマルチスポーツ指導

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

佐世保市における部活動地域展開の実証事業について／2026年2月27日／第18回日本スポーツマネジメント学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター会議	副センター長	副センター長として会議運営をサポートし、会議の活性化や決定事項の実現化に向けて活動した。強化指定部に対する活動だけではなく、特に地域連携の活動では中心的に動いた。
入試募集委員会	委員	委員会での発言の他に、委員として募集に関わる学科担当として模擬授業の講師選任や、パンフレットや諸資料作成のための学生や教員の連絡担当としても活動した。
キャリア委員会	委員	学科の就職セミナーやインターンシップなどにおいて、特にスポーツ系の担当をした。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

1) 駅伝部　顧問

2) コンディショニング・トレーナー同好会　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

○「スポーツフェスタ2025」を今年も開催し、外部から450名を超える参加者を集め、スポーツによる地域連携・貢献を行った。

○学科コースにおけるコンディショニングセミナーを開催し、学生は100名以上が参加。学内の競技力向上や学外との連携を行った。

○佐世保市スポーツ振興課と協働し、スポーツマンスイベントの「キッズスポーツ体験会」の企画運営に関わった。当日はゼミ生と共に2ブースを担当し、200名を超える参加者の対応をした。

○高大連携事業の一環として、九州文化学園高等学校のオープンスクール、スポーツ総合の授業に講師として参加した。

○地域連携活動において「中学校部活動地域展開の支援」をカリキュラム化し、中学校の支援を行った。

○「NIUマルチスポーツ塾」を開催し、地域の子どもへの運動指導を学生と共に実施した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第26回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
8	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市東浜町地域支援事業	8/7	東浜第1公民館	佐世保市地域包括支援センター
佐世保市西天神地域支援事業	7/30　11/12	西天神公民館	佐世保市地域包括支援センター
長崎県消防学校	6/14	長崎県消防学校	長崎県
佐世保市運動普及推進員養成講座	9/20	佐世保市保健所	佐世保市
九州文化学園高等学校スポーツ総合	7/28	九州文化学園高等学校	九州文化学園
長崎県消防学校初級幹部	12/20	長崎県消防学校	長崎県
佐々町健康＆食育フェア	3/3	佐々町総合保健センター	佐々町
佐世保市学校教育審議会	2/15	佐世保市教育センター	佐世保市

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県健康ながさき21推進協議会	委員	H26~現在に至る	長崎県
長崎県健康ながさき21身体活動運動専門部会	委員	H29~現在に至る	長崎県
長崎県健康長寿日本一推進会議	委員	R4~現在に至る	長崎県
佐世保市学校教育審議会委員	委員	R7~現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本健康運動指導士会長崎県支部支部長として諸活動に参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

①常勤３年目であり、学内のこと全般に慣れたと感じる。
②スポーツツーリズムコース（教員５名）において全体を取りまとめ、コース内の様々な問題についてマネジメントした。
③「スポーツフェスタ」「コンディショニングセミナー」「NIUマルチスポーツ塾」などのイベント、佐世保市との協働である「キッズスポーツ体験会」なども開催し、学生の実践的な学修の場を広げ、大学の広報にもつながっていると考える。
④佐世保市教育委員会との協力が進み、学生を部活動の指導者として派遣したり、学内において部活動の地域活動の実証事業なども行うことができた。
⑤駅伝部の顧問としても、監督・コーチをサポートし、学生の指導も手伝っている。また、スカウト活動も行い、成果を出した。コンディショニングトレーナー同好会としても選手のサポートに取り組んでいる。
⑥スポーツツーリズムコースの学生増加に伴い、ゼミ生も多く、よりきめ細やかな対応をしていくことを課題とし、また次年度からハラスメント委員を拝命しているため、より学生のサポートに力を入れたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 張　美慶

1．教育理念

社会が国境を意識しないグローバル化、先進国を中心とする少子高齢化、すべての物がインターネットでつながるIoT（Internet of Things）化へ進んでいる現在、物（モノ）から事（コト）へと価値基準が変化してきている。経済活動も、製造･農林水産･建設（モノ）からサービス業･情報通信･運輸･不動産･金融保険といったサービス産業の時代（コト）に突入し、欧米では対GDP比で80%以上（日本は、71.6%）に達している。サービス産業の財産は人そのものであり、「人財」という漢字が生まれるほど人の能力が経営を左右する。優秀な「人財」を育てる教育の持つ意味は大きい。

一方、21世紀は「観光の時代」と称されるように、未来の高付加価値成長産業になる観光産業が要求する専門的思考と実践力を備えた観光人材養成に重点をおき学生自身が自ら行動する、行動力を教育基盤にしたい。具体的には学生たちが自ら地域社会問題解決、地域振興のためのアイデアを提案し、参加してその結果を発表するよう指導する。このような教育活動は、学生たちのフォロワーシップとリーダーシップを育てることができる。また、教育需要者である学生たちの満足につながるよう常に努力する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	2	③⑤⑧
地域振興論	15/15(後期)	2	61	②③⑤⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	9	②③⑤⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	9	②③⑤⑦
教養セミナー	15/15(後期)	2	9	②③⑤⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	3	①②③
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	1	①②③
テーマパーク論	15/15(後期)	2	120	②③④⑤
学際連携と地域の理解	3/15(前期)	2	250	②③④⑤
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	4	①②③
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	5	①②③
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	8	①②③
キャリア開発Ⅰ	15/15(後期)	2	261	②③
マーケティング論	15/15(前期)	2	174	②③⑥
環境デザイン論	15/15(前期)	2	26	②③⑥
観光倫理	3/15(前期)	2	202	②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「マーケティング論」

①5点満点で平均4点獲得

②④⑥

②自由記述の項目で発表よりは、もう少し詳しく教えてほしいという要請で、今後は、学生たちの目線に合わせる教育をします。

「卒業研究」

①担当学生が卒業論文を執筆し、卒業できるよう適切に指導・支援した。

「環境デザイン」

①5点満点で平均4点獲得
②自由記述項目で授業の熱意は感じたが、もう少し分かりやすく説明の必要性と、授業中に私語する学生についてもっと注意します。
「教養セミナー」
①5点満点で平均4点獲得
②1年生の学生に対して、キャンパス生活に関する諸説明ならびにレポート作成や発表等に関する指導を実施した。
①5点満点で平均4点獲得
②自由記述項目で授業の熱意は感じたが、もう少し分かりやすく説明の必要性と、授業中に私語する学生についてもっと注意します。
「長期インターンシップ」
①留学生の長期インターンシップ活動が円滑に進むよう、複数回にわたり説明会の案内連絡等を行い、留学生への周知を図った。

「地域振興論」
①5点満点で平均4点獲得
②本講義は、地域の観光振興のために、地域住民、産業、自治体、学界の役割の重要性が浮き彫りになってきたところ。関係機関の担当者を招待し、現場の活動を伝え、地域振興に向けた観光活動に対する学生たちの理解度を高めようとした。しかし、何人かの学生は本講義の意図についてよく把握していないようである。観光産業の特性は現場のことを通じて実務スキルを培養することが何より重要であるため、学生たちの理解度を高めるために本講義の意図についてもっと詳細な説明をして本講義を進めていきたい。
「テーマパーク論」
①5点満点で平均4点獲得
②テーマパーク論の授業では、テーマパークの基礎的知識概念と形態について学び、理論的授業のベースをもとにハウステンボスの実務者による講義の形で行われた。本授業を受講した学生たちの授業満足度は大部満足をした。学生たちの意見の中で収斂する内容は今までは要請した学生だけ授業資料を提供をしたが、今後は授業ごとに講義資料をプリントして提供します。
「キャリア開発Ⅰ」
①261名の学生が履修する「キャリア開発Ⅰ」において、主担当教員の指示のもと、毎回の授業に誠実に取り組んだ。
「観光倫理Ⅰ」
①「観光倫理Ⅰ」において、担当分である3回分の講義を実施し、最終授業では担当教員および学生とともにディスカッションを行い、学生の意見等を聴取した。
「学際連携と地域の理解」
①「学際連携と地域の理解」において、自身が担当する3回分の講義を実施し、履修学生が多かったため、学生の集中力を高めるよう努めた。
「専門演習ⅡＡ」
①専門演習においては、学生の論文作成に必要な基礎力を養うため、参考文献の読解を指導した。
「専門演習ⅢＡ」
①「専門演習ⅢA」においては、論文作成を円滑に進めるため、執筆要領等に関する指導を行った。
「専門演習ⅡＢ」
①学生の論文作成に必要な基礎力を養うため、参考文献の読解を指導した。
「専門演習ⅠＡ」
①学生の論文作成に必要な基礎力を養うため、参考文献の読解を指導した。
「専門演習ⅠＢ」
①「専門演習ⅢA」においては、論文作成を円滑に進めるため、執筆要領等に関する指導を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動
(1) 研究テーマ
地域観光資源

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	2	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

An Exploratory study on the creation of a Japanese landscape and touriam building a village: Focusing on Unzen City／共著・編著／2025.6／韓国 コンテンツ学会論文誌／503-504

タキソノミー分類法を適用したオーバーツーリズムの視点／共著・編著／2025.5／韓国 コンテンツ学会論文誌／394-400

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「The Effect of Participation Motivation in DMZ Eco-Tourism on Behavioral Intention: Focusing on the mediating effect of eco-friendly attitudes」／2023年10月／韓国 海洋観光研究 16巻／249頁~269 頁／共著／論文

「The Effect of Wellness Tourism Selection Attributes on Subjective Satisfaction and Behavioral Intention: Focusing on Temple Stay 」／ 2023年12月／韓国 コンテンツ学会論文誌 23巻／ 651頁~662頁／共著／論文

「The Influence of Hallyu Cultural Contents on tourism attitudes and visit intentions: Focusing on Japanese university students」／2024年10月／韓国、観光振興研究 特集号／297頁~317頁／単著／論文

「About DMO Policy for Sustainable Tourism: Nagasaki, Japan case 」／ 2024年12月／韓国 海洋観光研究 17巻／ 29頁～43頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	大学キャンパス内の安全確保のため、注意喚起および有給に関する案内を定期的に行った。
学部事務局	委員	学部会議のための資料を作成した。
観光学論文集	編集委員会	論文編集の完成度向上に寄与した。
国際交流委員会	副委員長	韓国の大学と姉妹校交流を締結するための国際交流活動を行った。
CHサポートセンター	相談	学生の悩み相談等を受け持つ役割を担った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

韓国のメディアを通じ、長崎および日本の観光を紹介・発信した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外

2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第27回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

履修学生数の多い科目を多数担当していたことから、より細やかに学生とのコミュニケーションを取ることができれば、さらに望ましかったと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 長津　恒輝

１．教育理念

私は2つのことを教育理念として掲げ、教育を実践している。

1つ目は「知識の活かし方を学ぶ」である。理論系の授業において、科学的根拠に基づいた最新の情報を教示し、それを学生は単に知識として蓄積するに留まらず、それが実社会でどのように生かされているのか、自身の生活にどうすれば落とし込めるかを考え、実践するところまでを重要視している。それにより学生自身の情報収集力や課題解決力の向上につながると考えているため、各授業の後半や授業後の復習時には、学んだことを実際に試すような課題を提示し、次回以降に振り返る時間を設けている。

2つ目は「できないことへの挑戦」である。これは実技・実習系の授業において特に当てはまる。学生の可能性を引き出すために重要なのは、様々な経験を積むことであり、それは成功・失敗を問わない。ただし、成功を目指してトライするべきであり、成功したら次のステップに挑戦することに意味があると考えている。そのため授業時には、現状や課題の確認、実行後の振り返りをするためにグループディスカッション等で発言する機会を提供するようにしている。また、私も様子を巡視しながら傾聴し、時にはポートフォリオ等を用いて情報を共有することで、ファシリテートできるように努めている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｃ（キャンプ実習）	15/15(通年)	1	36	②④⑤⑫
水泳・水中運動	5/15(通年)	1	31	⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	7	⑥⑫
事前・事後指導	4/8(通年)	1	27	④⑧
教育実習Ａ	5/60(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	5/30(通年)	2	4	④
トレーニング論	15/15(前期)	2	64	②⑨⑩
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	37	⑥⑫
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	①②③④⑤⑥
保健体育科教育法Ⅱ	1/15(前期)	2	20	⑨⑩
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	39	⑥⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	9	⑥⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	9	⑥⑦
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	②③
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	②③④
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	7	②③④⑤
スポーツ科学概論	3/15(前期)	2	123	⑤
ホスピタリティとSDGs	3/15(前期)	2	52	⑨
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
ジョギング・ウォーキング	15/15(前期)	1	28	⑩⑪
レジスタンストレーニング（理論・実践）	15/15(前期)	2	35	④⑩⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	①②③④⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	11	③
保健体育科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	35	⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

各授業アンケートの各項目を平均すると4.5点を上回っており、今年度も概ね高い評価を得ることができたと考えている。授業においては、主体的な学びを促す展開を各回に少なくとも1つ取り入れることを意識し、学生の参加意識や理解の深化につなげるよう努めた。また、自身の専門性を生かした内容を展開することで、学問的な関心を高めることにも一定の成果があったと考える。一方で、専門性を重視するあまり、学生の理解度や到達レベルに対して難易度が高くなってしまった内容や試験も見受けられた点は課題である。今後は、専門性と分かりやすさのバランスをより一層意識し、学生の学修段階に応じた授業設計の改善に取り組んでいきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康科学	30/30(通年)	2	77
武蔵野大学	スキー実習	15/15(集中)	2	5
佐世保市立看護学校	体育	15/15(後期)	1	53

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
JATI認定トレーニング指導者資格試験のための補習	2	2	2026年1月30日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・呼吸筋トレーニングの効果
・高地トレーニングの効果
・テーマパーク散策の疲労と活動量
・ノルディックウォーキングの生理応答
・ブローライフルのトレーニング効果

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	468万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

体育授業における女子中学生の体力差を踏まえたウォーキングフットボール教材の参画向上に関する有用性の検証／2025年12月／静岡大学教育学部研究報告／148頁 ～ 159頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

カフェイン摂取が野球のスイング速度に及ぼす影響 カフェイン摂取に関する実態調査とともに／2025年9月6日／九州体育スポーツ学会第74回大会

マスクを着用した30分間のウォーキングが呼吸機能と認知機能に及ぼす影響／2025年9月17日／第79回日本体力医学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
呼気量を調整可能なトレーニングマスクの開発と準高地トレーニングへの応用	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	468万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
スポーツサポートセンター委員会	委員	地域スポーツ振興・事業開拓部門および競技力向上支援部門の業務を行った。
教職課程委員会	委員	教育実習の視察や教職関連科目の見直し等を行った。
国際観光学科事務局	委員	学科会議の書記やゼミ決めの運営、出勤簿の収集等を行った。
スポーツツーリズムコース委員会	委員	スポーツフェスタやキッズキャンパスのブース運営、コース関連科目や予算の見直しなどを行った。
共同研究予算委員会	委員	学科内共同研究予算の会計作業や資料作成等を行った。
観光研究所運営委員会	委員	川棚町の観光コンテンツ事業を行った。
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	投稿論文の編集作業や投稿者と印刷会社の仲介等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本ウォーキング学会将来構想ワーキング	委員	日本ウォーキング学会の今後の活動（学会大会、学会名称、社会的活動）についての議論

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①出張講義　鎮西学院高校/11月6日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第28回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日本スポーツ協会シニアリーダースクール	8月	静岡県御殿場市	日本スポーツ協会

ノルディックウォーキング指導員養成講座	11月	長崎県東彼杵郡川棚町	川棚町地域協力団体 瑠璃の水辺
川棚町観光コンテンツ連携事業内シンポジウム 自然体験から学ぶ ひと×地域の豊かさ パネラー	1月	長崎県東彼杵郡川棚町	国際観光研究所

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光事業川棚町観光コンテンツ開発協議会	アドバイザー	令和6年10月～現在に至る	川棚町観光協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・日本ウォーキング学会諮問委員（通年）
・赤十字ベーシックライフサポーター取得（6月）
・赤十字救急法救急員取得（7月）
・川棚市ノルディックウォーキング体験会　講師（5月）
・みかわちコスモス祭り　ノルディックウォーキング体験会　講師（10月）
・長崎県婚活サポートセンター主催イベント　ウォーキング講師（11月）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

①長崎国際大学ベストティーチャー賞
②九州体育スポーツ学会第74回大会　若手優秀発表賞

８．活動全般についての自己点検・評価

教育の面では、2年目を迎え、年間の流れや授業運営の要領を十分把握することができた。実技科目から教養科目、専門演習まで継続して担当する中で、学生との適切な距離感を保ちながら指導にあたることができており、概ね良好な教育環境を構築できていると考える。今後は、専門性のさらなる深化とともに、学生の主体的な学びを一層促進できる授業改善に取り組んでいきたい。また、STコースおよび観光学科内にとどまらず、他学科教員や事務職員との連携も徐々に強まり、教育・運営の両面において円滑な協働体制が構築されつつある。

地域連携の面では、川棚町大崎半島をフィールドとした活動が昨年度よりも深化し、シンポジウムの開催や各種企画の実施、さらにはウォーキング団体の設立に至るなど、具体的な成果を上げることができた。また、ハウステンボスと連携した検証も実施するなど、観光と結び付けた活動を行うことができた。

研究面では、論文としての公表には至っていないものの、研究データは十分に蓄積されており、現在複数の論文を執筆中である。また、学会発表において学会賞を受賞するなど、一定の成果も得られている。来年度は、これらの研究成果を論文として公表することに注力し、研究業績を挙げたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 吹上　新悟

１．教育理念

私の教育理念は、学生の成長を支える教育において、表面的に評価可能な技能や知識の習得のみにとどまらず、言語的表現能力とそれに伴う思考力を育成することを重視する点にある。学生が自らの経験や学習内容を言語化し、他者との対話を通して再構成していく過程は、学びを内面化し、より深い理解へと導く重要な契機となる。そのため、授業においては知識の伝達に終始するのではなく、学生が自らの考えを整理し表現する機会を積極的に設け、思考の過程を可視化しながら学習を進めることを重視している。

現代社会は情報通信技術の進展に伴い急速に変化しており、社会において求められる能力もまた絶えず更新されている。しかしながら、そのような状況であるからこそ、教育においては短期的な技能や一時的な社会的要請に依拠するのではなく、長期的に学生の成長を支える普遍的な資質・能力を育成することが重要であると考える。主体的に課題を見出し、他者と協働しながら問題解決を図る力、さらに自らの思考を言語化し共有する力は、社会の変化に左右されない基盤的能力であり、大学教育において継続的に育成すべき資質である。

学生が体育・スポーツ科学分野の専門性を高めるためには、基礎的知識を得た上で、実践的な体験を通して理解を深め、アウトプットすることが必要である。専門性を高める過程で、自身の運動技能の習得と、運動学習の過程を理解すること、指導実践による経験的知識を充実する。学習者の技能習得や認知的理解を促進するのか理解を深めることは重要である。そのため、授業や実習においては、最低限の知識習得のため、基本的な読み書き能力を高める機会は重要である。運動実践と、自他の運動を認識し理解する、運動学習の過程を多角的に捉える指導実践を重視している。具体的には、運動の体験と振り返りを往還させる学習活動を通して、学生が自らの身体感覚や学習過程を言語化し、他者に伝達する過程で理解を深めることを目指している。

また、保健体育科教員養成においては、学生自身が学習者としての経験を深めるとともに、将来的に指導者として教育実践を構想できる力を育成することが重要である。そのため、模擬授業や実践的な指導場面を通して、授業づくりの視点や学習者理解の重要性について考察する機会を設け、理論と実践を往還しながら教育実践力を高める指導を行っている。教育現場において求められるのは、単なる技能指導にとどまらず、学習者の思考や理解の過程に寄り添いながら指導を構築する力であり、その基盤となる教育観や指導観の形成を支援する、人格的の成熟に寄与したい。

さらに、野外教育の領域においては、体験的な学びが学生の主体性や協働性を育む重要な教育的契機となると考えている。学びにおいては、短期間で身につく知識や技能だけでは十分とは言えない。すぐに身についたものは忘却されやすく、真に定着した学びとはなりにくい。知識や技能を自らのものとして獲得するためには、実践的な体験を通して理解を深めるとともに、それらを時間をかけて積み重ねていく過程が不可欠である。そのため、野外教育や実習科目においては、学生が自然環境の中での体験活動を通して課題に向き合い、他者と協働しながら学びを深める機会を重視している。

このような体験を通して得られた学びは、単なる知識としてではなく、実感を伴った理解として学生の中に蓄積される。そして、その経験を振り返り言語化し、伝達することによって、学びはより確かなものとなる。私はこのような学習過程を重視し、学生が自身の経験を基盤として思考を深め、本質的な学びへと結び付けることのできる教育環境の構築を目指している。

今後も、学生の本質的な学びを支えるため、基礎的な読み書き能力の向上、スポーツ科学分野の専門的知見に基づいた観点を有する保健体育科教員養成、野外教育の実践を通して学生が主体的に学び続ける力を育成する教育に取り組んでいきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｃ（キャンプ実習）	5/15(通年)	1	36	⑦⑩
水泳・水中運動	10/15(通年)	1	31	⑦⑧⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	15	①④⑤⑥⑩⑪⑫
事前・事後指導	2/15(通年)	1	27	⑤⑥⑦⑫
教育実習Ａ	2/15(通年)	4	23	⑦⑩⑪⑫
教育実習Ｂ	2/15(通年)	2	4	⑦⑩⑪⑫
スポーツ運動学	15/15(後期)	2	35	②④⑥⑧⑨⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑪⑫
保健体育科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	20	④⑤⑥⑨⑩⑪
スポーツ科学概論	2/15(前期)	2	123	②⑨⑩

専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	10	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	28	①⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	15	④⑤⑥⑦⑪⑫
学校保健学	9/15(前期)	2	23	⑦⑨⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	11	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	11	④⑤⑥⑦⑫
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	43	⑩⑫
スポーツ原理	15/15(前期)	2	96	②⑤⑨
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑫
器械体操	15/15(後期)	1	28	②⑤⑥⑦⑨⑩⑫
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	20	④⑤⑥⑨⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期授業アンケート3科目では回答率が70％未満があり、大きな反省点であったが、後期授業アンケートでは80％以上の回答率として改善した。次年度以降は90％以上の回答率を目指し、受講生の評価を正しく受けたい。

受講生に学習へ向かう態度を養うため、魅力のある授業内容や、理解を深める授業展開を意識しつつ、学習量に裏付けられた確かな能力の向上を目指している。

受講生による生成AIの利用目的が、「楽をすること」にならないように指導し、受講生自身の学力向上を目指していくことで、一定数の反感を買うことになると予想できるが、受講生の要望に答えることが教育の目的ではないので、受講者自身の本質的な利益のための教育活動となるよう、今後も授業を検討する。

具体的な今後の授業改善案は、模擬授業などが同じ内容の繰り返しにならないよう、新たな刺激や観点を取り入れるため、ゲストスピーカーや反転学習など、授業形態を組み替えながら行い、受講生の気づきを育む場としての機能を充実させること。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
水泳・水中運動の補習	2	4	2025年10月9日
水泳・水中運動の補習	2	4	2025年10月23日
器械体操の補習	2	10	2026年1月29日
専門演習ⅡBの補習	1	9	2026年3月2日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

テニスにおける移動とストローク動作の関係

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際観光学科事務局（学科内）	なし	会議を円滑にするために、会議室予約、定期試験監督補助割り振り、行事予定を総務課へ連絡などの業務を担当し、会議の運営に貢献した。
オープンキャンパス委員会（学科内）	なし	オープンキャンパス運営のために、当日案内プラカード・保護者相談・説明ブースの準備・機材調整・模擬授業参加票の準備などを担当し、運営に貢献した。
コース委員会（学科内）	なし	学生の資格取得のために、主にJSPO関連資格を担当し、円滑に手続き等に貢献した。
研究センター委員（全学）	なし	長崎国際大学論叢第26巻投稿論文の査読者選定において、国際観光学科を担当し、円滑な委員会運営に貢献した。
教職課程委員（全学）	なし	学生の教育現場体験のため、佐世保市立福石中学校へ学生ボランティアを企画し、2名派遣することに貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンスクールにて模擬授業/7月25日/場所：九州文化学園高等学校

②瓊浦高校進学ガイダンスにて模擬授業/12月9日/場所：瓊浦高等学校

③NIUスポーツフェスタ運営補助/12月13日/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第29回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①佐世保市若者活躍プロジェクトに応募した学生グループの内、2件助成金の採択に至った。
②6月20日、佐世保市消防署と連携し、学内で普通救命講習会を実施した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

①STコース代表として、日本スポーツ協会公認コーチデベロッパー資格取得
②上位資格取得条件を満たすため、日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター資格取得
③STコース代表として、日本キャンプ協会公認キャンプディレクター2級資格取得

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】
・STコース代表として約4日間（9月、12月）の講習会に参加完了し、日本スポーツ協会公認コーチデベロッパー資格取得した。今後の学内において日本スポーツ協会公認資格の責任者を担う。
・日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター資格を6月に取得し、キャンプディレクター2級資格取得のため3月に講習会に参加、資格取得した。次年度はキャンプディレクター1級資格取得のため、講習会に参加し、今後の学内においてキャンプインストラクター資格発行を担う。
・保健体育科の教員採用試験対策としての勉強会を1か月に2回ほど実施している。そのうち、本年度は一次試験合格者が1名のみだった。次年度は長崎県教員の採用基準が緩和されるので、現役合格者を増やすためのサポートを実施していく。
【研究】
・論文執筆等を達成できなかった。今後の研究方針を再度見直し、3～6ヵ月の短い期間の目標設定の上、執筆本数を地道に積み重ねていきたい。
・担当科目における研究業績を積み重ねるため、外部資金を調達する申請も含めて、教育と研究の活動を両輪で進めていく。
【社会貢献】
・佐世保市消防署と連携し、6月20日に普通救命講習の普及活動を実施した。次年度も開催し、さらに学生の防災意識を高めるための企画を拡大したい、
・佐世保市若者活躍プロジェクトに採用され、学生主体として地域の魅力発信や清掃活動の取り組みを援助した。採用後のサポートが不十分で活動が小規模になってしまったため、今後はゴールを見据えて計画的に学生を援助し、社会の一員としての活動機会を増やしていく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 諸石　慈

１．教育理念

私は、教育とは学生を評価することにとどまらず、まず学生を支えることを最も大切にすべきであると考える。教育とは、学生が他者との関わりの中で問いを育み、相互理解を深めていく過程にある。そのため教師は、学生が安心して自らの経験や考えを表現できる居場所を保障することが、主体的な学びにつながると捉えている。教師は学生が自ら学ぶのを手伝うことであり、知識を一方的に与えることではない。私は、学生の観察力や好奇心、他者への敬意を大切にしながら、異なる背景を持つ者同士が対話を通して学び合う環境を整え、学生が自らの視点を形成し、それを社会へとつなげていく力を育むことを心がけている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語Ⅱ	30/30(前期)	2	5	①②⑤⑨⑩
日本語Ⅱ	30/30(後期)	2	10	①②⑤⑨⑩
日本語Ⅲ	30/30(前期)	2	9	②⑧⑨⑩
日本語Ⅲ	30/30(後期)	2	9	②⑧⑨⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	52	④⑤⑥⑦⑫
アカデミックジャパニーズⅡＡ	15/15(前期)	2	7	①②⑧⑩
日本語基礎A	15/15(前期)	2	11	①②③⑨
日本語基礎B	15/15(後期)	2	6	①②③⑨
アカデミックジャパニーズⅡＢ	15/15(後期)	2	4	①⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果は、いずれの科目も概ね5.0に近い評価であった。一方で、反省点として担当科目「日本語Ⅱ」および「日本語基礎B」における授業進度が挙げられる。日本語科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」は、専任着任以前より指定教科書が定められており、各科目とも当該教科書を全て修了することが求められている。しかしながら、特に初中級レベルにおいては受講者間の日本語能力にばらつきが見られ、受講生の理解度に応じた進度調整が難しかった。その結果、教科書の全範囲を終えることができなかった。また、進度確保を優先するあまり、学生の理解を深めるための応用練習時間を十分に確保できなかった。このことが、中間試験および期末試験の平均点が70点台にとどまった一因であると考えられる。来年度は当該科目の担当から外れるが、初中級レベルにおける指導方法の改善は今後の課題である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎外国語大学	Japanese3	15/15(前期)	2	14
長崎外国語大学	Japanese4（読解）	15/15(前期)	2	9
長崎外国語大学	日本語読解Ⅰ（非漢字圏）	15/15(前期)	2	3
長崎外国語大学	日本語表現技術Ⅲ	15/15(前期)	2	18

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

初級日本語授業における教師のノンバーバルサインと日本語学習者の理解

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際観光学科事務局	委員	学科会議のために、事前に資料の統合と作成を行なった。
研究倫理委員会	委員	教員研究の倫理申請12件、4年生卒業論文の倫理申請47件を審査確認を行い、審査結果通知書を作成した。
図書館委員会	委員	令和７年度の学科選書のため、学科内教員の希望選書を集約し、図書館へ発注依頼をかけた。
研究費不正使用防止委員会	委員	科研費モニタリングにて1件の監査を行なった。
国際観光学会編集委員会	委員	『第21号観光学論集』のため、3件の査読と1件の編集を行なった。上記以外の役割としては、投稿者とのやりとりと参考文献・注の一括校正である。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席

2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第30回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①10月19日：「みかわちコスモスさんぽ」企画・運営・実行委員として参加。
②10月25日：「三川内山おくんち」留学生を引率し、参加。
③11月14日：「第１回三川内フェスティバル」企画・運営・実行委員として参加。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
令和７年度異文化理解教室	高校生にスリランカと中国の留学生から自国の文化と言語、遊びを学び、異文化理解を深めてもらうため、留学生２名を引率（指導含む）。	12月18日	九州文化学園高等学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

三川内地区における社会貢献では、主体的に取り組めたと思う。「みかわちコスモスさんぽ」では活動主要メンバーとして、企画と運営を行なった。また、チラシの作成や本学の長津先生に対してノルディックウォーキング体験の交渉も行なった。「三川内山おくんち」について、おくんち前には本学に三川内町の会長と、三川内山おくんち実行委員長をお呼びし、留学生に対する講和をしていただいた。おくんち当日には留学生を引率し、神輿担ぎなどに関わった。「第１回三川内フェスティバル」では活動主要メンバーとして、企画と運営を行なった。当日にはMCを務めた。今後も引き続き、積極的に携わってゆきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 余　乾生

1．教育理念

AIの進歩が激しい今、単に正解を求めるだけでは不十分となっている。このような状況を踏まえて、私の教育理念は「①体系的に物事を把握できること」と「②専門的な判断力と問題解決力を身に着けること」である。

よって授業では、①の教育理念に基づき歴史的変遷という時間軸と国際比較などの多様性軸を重視している。こうした軸で物事を把握する練習を繰り返すことで、体系的・全面的に考える習慣を身に着ける。

したがって、講義系の授業においては、歴史的変遷を紹介する部分と他国の情報と比較する部分などを入れている。そして、こうした内容に対して練習問題やリアクションレポートを用意しており、授業中にフィードバックを行っている。ゼミ系の授業においては、学生が主体的に研究テーマを選び、時間軸と多様性軸で自ずから情報を調べて、整理して報告するように授業を進行している。

また、②の教育理念に基づき柔軟で論理的な思考を重視している。講義系の授業においては、一つの知識点の背後にあるロジックと異なる学説を紹介する部分を必ず用意している。そして、確認問題や授業内小レポートなどを通じて、こうした論理的な思考を確認している。ゼミ系の授業においては、グループワークやディスカッションなど異なる意見を交換することを通じて、柔軟で論理的な思考を訓練している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会保障Ⅱ	15/15(後期)	2	60	①②③⑨
社会保障Ⅰ	15/15(前期)	2	50	①②③⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑫
経済学	15/15(前期)	2	128	⑨
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	12	①④⑤⑫
刑事司法と福祉	15/15(前期)	2	43	①④⑨⑩
貧困に対する支援	15/15(後期)	2	62	①②③⑨
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	3	①④⑤⑫
観光倫理	5/15(前期)	2	202	①③
Japanese Economy	15/15(後期)	2	18	⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会保障特講	15/15(後期)	2	1
社会保障特講	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートについては、①全学共通科目の経済学、②国際観光学科のJapanese Economy、観光倫理、ホスピタリティセミナー、教養セミナー、専門演習ⅠAB、専門演習ⅡABと③社会福祉学科の社会保障ⅠⅡ、刑事司法と福祉、貧困に対する支援という三種類がある。

講義系の経済学、社会保障ⅠⅡ、刑事司法と福祉の授業は理論性が高く、難しいと評価された（満足度は4.2前後、去年度より微上昇）が、上記の教育理念「①体系的に物事を把握できること」と「②専門的な判断力と問題解決力を身に着けること」を授業内容と練習問題で実施した。改善策としては授業中に個別の質問などをして授業参加を促していきたい。

これに対して、講義系のJapanese Economy、貧困に対する支援、ゼミ系のホスピタリティセミナー、教養セミナー、専門演習ⅠⅡなどは学生の参加度が高く、理解しやすいと評価された（満足度は4.7前後）。そのうち、貧困に対する支援の満足度は去年度より顕著な上昇がみられた。上記の教育理念を授業内容に入れており、グループワークやディスカッションなどで実施した

し、今後もこうしたやり方を継続したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
東洋大学	ＳＰＡ特論ⅧA	15/15(後期)	2	1
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康Ⅱ（衛生法規）	12/12(後期)	2	37

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験対策	9	22	2025年夏休み3回、後期6回
上海大学社会学院短期研修（日本の介護保険について・座談会）	2	10	2025年7月
長崎県立猶興館高校の高大連携事業（来訪）（国際観光）	1	15	2025年7月
広田小学校異文化交流（訪問）	1	120	2025年10月
九文高校異文化交流（訪問）	1	120	2025年12月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）日中の高齢者をめぐる法制度

（２）中国の介護法制

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	3	1	1	48万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『中国年鑑2025』／共著・編著／2025年5月／明石書店／336-340頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「タキソノミー分類法を適用したオーバーツーリズムの視点」／2025年8月／韓国 コンテンツ学会論文誌25巻8号／394頁－400頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「コロナ時の感染対策を理由とする訪問介護サービスの提供中止」／2025年6月21日／東京社会保障法研究会

「高齢者生活のあり方に関する座談会」／2026年2月13日／公益財団法人　年金シニアプラン総合研究機構

「日中の介護保障の法制度」／2026年3月24日／「ベトナム、中国、日本の高齢者介護制度」国際シンポジウム

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「ベトナムにおける高齢者ケア・レジームに関する総合的地域研究」（分担研究者）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	48万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	アドミッション・オフィサー、パンフレット作製の参加など
募集委員会	委員	出前授業の担当や手配など
学科事務局	幹事	会議資料の作成、印刷、各種連絡調整、ゼミ決めなど

国際観光学会	幹事	会場設営、論文査読、編集委員会の資料作成、各種連絡、出版物の修正など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第31回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
高齢者生活のあり方に関する座談会	2026年2月13日	東京都港区高輪1-3-13　NBF高輪ビル4F	公益財団法人　年金シニアプラン総合研究機構

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市成年後見制度利用促進協議会	副会長	令和6年度～現在に至る	佐世保市保健福祉部長寿社会課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院短期研修	日本の介護保険についての講座・座談会	2026年7月22日	長崎国際大学・社会福祉学科
長崎県立猶興館高校の高大連携事業（来訪）	異文化教室	2026年7月16日	長崎国際大学・国際観光学科
広田小学校異文化交流（訪問）	異文化交流	2026年10月22日	長崎国際大学・国際観光学科

九文高校異文化交流（訪問）	異文化交流	2026年12月18日	長崎国際大学・国際観光学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
「ベトナム、中国、日本の高齢者介護制度」国際シンポジウム	「日中の介護保障の法制度」について報告	2026年3月24日	ベトナム・ハノイ	京都産業大学・ベトナム国立大学

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

全体的には、ベテランの先生方に確認しつつ、新たな役割にも馴染むことができ、大学院、調理師専門学校、そして東洋大学での新授業の担当、研究、大学運営などの業務の両立がスムーズに達成できた。

具体的には、❶教育については、上記の新授業も含めて、専門外の経済学、Japanese Economy、観光倫理（一部）などの授業の資料を作成・修正できた。その際、知識の列挙のみならず、過去問をベースとする国家試験対策を行いつつ、論理的・体系的な授業ができた。❷研究については、日本や中国の状況をめぐって、2つの論文を活字した。そして、研究基盤の構築として、東京で開かれる社会保障法学会に出席し、東京社会保障法判例検討会で報告した。最初の科研の申請に挑戦できなかったが、分担研究者として科研の活動を行てきた。❸大学運営などについては、募集委員会、学科事務局や観光学会の仕事をこなし、他の先生方と協働しつつ、問題なく担当してきた。❹また、今年度は新たに大学院の授業や業務を担当し、九州文化学園調理師専門学校の授業も担当するようになった。他の業務などとバランスを取って、院の仕事を担当できた。

反省点としては、もう少し理論的な授業をわかりやすくする必要があり、今後試行錯誤をしていきたい。また、さらに教育と研究に精進し、研究分担者のみならず、自分自身主導の科研をこれから挑戦して行きたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 Lohr Michael Cory Daniel

１．教育理念

私の教育理念の根本は、教員は何よりも学生を大切にすべきだという信念です。それを原動力として、いつも学生にとって最も良くて効果的な教え方を考えています。その為に、授業ではアクティブラーニングを取り入れ、授業の外でも学生が自分で勉強を続けられるようサポートしています。英語の学習は複雑で時間がかかる為、効果的な学習方法を使って時間を上手に活用することがとても大切と思っています。

特に重要なのは、学生のモチベーションです。学んでいることがどのような価値を持ち、実生活でどのように使えるかを、学生に理解してもらえるよう心がけています。その為に、学生が授業に集中して積極的に参加できるような、楽しくて挑戦的な授業や課題を用意しています。また、学生一人ひとりの学習ニーズにも耳を傾け、できる限り対応するようにしています。その努力が、学業面だけでなく、人としての成長にもつながります。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
English Reading Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	18	①④⑪
英会話	30/30(後期)	2	7	①②③④
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	18	④⑩
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	15	②③④
Practical English ⅠA	30/30(前期)	2	18	②③④
English Writing Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	14	④⑧
English Reading Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	14	①④⑪
English Writing Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	13	④⑧

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期、「English Writing Skills Ⅲ」と「English Reading SkillsⅠ」の授業で、授業アンケートを実施しました。
「English Writing Skills Ⅲ」の授業では、学生満足度は4.2点でした。学生からのコメントを読んだところ、「エンゲージメント」スコアの評価方法について混乱があったようです。今後は、この基準の要件をどのように満たすかをより明確にします。それ以外のコメントは肯定的でしたので、引き続きライティングプロセスの指導に焦点を当てていきます。
「English Reading SkillsⅠ」の授業では、学生の満足度は4.8でした。アンケートとコメントを読んだ後、生徒に授業が肯定的に受け入れられたと感じています。多読の重要性をうまく伝え、目標を達成するのを助けることができたと思います。

後期に「English Writing Skills II」と「English Reading Skills II」の授業で、授業アンケートを実施しました。
「English Writing Skills II」の授業では、学生満足度は4.4点でした。アンケート全体を通じた印象として、学生たちは授業に対して概ね非常に好意的な評価をしていました。コメントはとても参考になり、一つ一つ丁寧に検討した上で、文法指導の強化など、今後に向けた改善策を講じています。
「English Reading Skills II」の授業では、学生の満足度は4.5でした。アンケートとコメントを読んで、学生たちに授業が好意的に受け入れられたと感じています。ビブリオバトルに関するコメントは参考になりました。今後のプロジェクトの改善にどのように取り組むか、引き続き検討していきたいと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマには、第二言語習得、エクステンシブ・ライティング、多読、そして教授法としての文法、特に明示的文法指導と暗示的文法指導の比較が含まれます。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations Regarding Blog Writing Tasks for EFL Extensive Writing／2026年03月／長崎国際大学論叢／25頁～32頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャリア委員会	委員	会議やオリエンテーションに出席し、インターンシップの面接を実施・評価しました。
グローバルツーリズム 委員会	委員	GT活動や学生の育成について話し合い、計画しました。
オープンキャンパス委員会	委員	国際観光学科オープンキャンパスの企画・準備に携わり、資料の作成・印刷などしました。
ボランティアセンター委員	委員	会議に出席し、サポートをしました。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

クラブやサークルの担当ではありません。グローバルツーリズムコースの学生のために、イベントや活動の企画を手伝いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保海軍基地での「ひな祭り茶会」の準備を手伝いました。参加もします。
年次グローバル・リーダーシップ・フォーラムの準備を手伝いました。
異文化交流事業（長崎県立猶興館高等学校）の運営補助および発表を行いました。
九州文化学園小・中学校スピーチコンテストの審査員を務めました。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第32回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

８月　伊万里・有田焼伝統産業会館　パネルの翻訳
９月～２月　伊万里市観光パンフレット英語版の翻訳
９月～２月　【観光庁多言語整備支援事業】 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館の内容監修

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

NIUのハラスメント情報パンフレットを翻訳しました。
昼休みのNIU国際文化交流イベントのサポートを行いました。
英語入学試験問題のチェックを補助しました。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度初めに掲げた「GT生の英語力向上」と「大学院進学および論文執筆を通じた自己研鑽」という2つの大きな目標を、無事に達成することができたと考えています。
学生の留学準備のために、将来、英語を流暢に使えるように実用的な学習課題を数多く提供し、TOEICなどの資格試験対策にも最善を尽くしました。その結果、学生のスコアを約50点以上伸ばすことができ、アンケートなどのフィードバックを基にした授業改善も実施しました。

研究については、多書をテーマとした論文を共同執筆しました。また、2月よりバーミンガム大学のTESOL修士課程（パートタイム・遠隔学習）に入学いたしました。ここで得る知識を日々の授業に活かし、来年度はさらに多くの研究論文を執筆したいと考えています。

さらに、今年度はオープンキャンパスの企画や準備に深く関わり、全てのオープンキャンパスに参加しました。模擬授業を通じて本学の魅力を学外へ伝えることができたと思います。今後もこれらの活動を通じて、大学の発展に積極的に貢献していく所存です。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 木村　勝彦

1．教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマニズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざま知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマニズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理学的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道徳教育論」においては、教員を目指す学生たちに道徳教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。また隔年で実施している「人権と平和」においては、具体的な人権課題に関する啓発と教育の重要性を教授すると同時に、原子爆弾被災県である長崎県に立地する大学で学ぶ者として平和探究の精神をもって教育活動に従事することの重要性を自覚させることを目指している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
宗教学	15/15(前期)	2	122	①②③⑨
倫理学	15/15(後期)	2	192	①②③⑨
社会科公民科教育法	15/15(前期)	2	6	①②③④⑤⑥⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理思想特別演習	15/15(前期)	2	2
特別研究指導Ⅲ	15/15(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「宗教学」の授業アンケートにおいて、理解度に関する質問項目12の平均評価値は4.5、総合満足度に関する質問項目13の平均評価値は4.6であった。また3～11のの項目ではずべて4.6以上、最高で4.8の評価を得ており、予習・復習や学生自身の授業態度に関する項目1と2も4以上の評価を得た。自由記述の内容からも高い評価を得ていたと考えられる。

「倫理学」の授業アンケートにおいて、理解度に関する質問項目12の平均評価値は4.5、総合満足度に関する質問項目13の平均評価値は4.6であった。また3～11の項目ではすべて4.5以上、最高で4.7の評価を得ており、学生自身の授業態度に関する項目2も4.3と比較的高い評価を得ることができた。他方、予習復習に関する項目1では3.9という評価にとどまっており、学生をどのようにして事前・事後の学修に導くかが課題である。ただし、自由記述の内容は「宗教学」よりも多くの高い評価を得ており、学生が意欲的にこの授業を聴講し、得るものがあったと実感していることがうかがわれた。

「公民科教育法」は教職課程履修者を対象とするもので、高評価は妥当というべきであるため。特に記述すべきことはない。大学院の授業についても同様に、高い意識を有する学生の履修であり、問題はない。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 宗教の哲学的意味に関する研究―特にカントの宗教哲学を中心に―
② 宗教ツーリズムの研究
③ 長崎のキリスト教関連資産に関する研究
④ ダークツーリズムに関する研究―特に広島・長崎の原爆遺構を中心に―
⑤ 道徳教育の復権と子ども危機に関する研究
⑥ 観光倫理の構築と検証に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
生と死をつなぐ宗教―さまざまな人生儀礼の意味―／2025年７月／絆　50号／10頁～11頁／単著／総説
悲嘆を癒やす宗教―死別のグリーフワーク―／2025年12月／絆　51号／12頁～13頁／単著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	医院長である学長を補佐して、年度ごとの大学の自己点検・評価を統括した。なお今年度は、高等教育評価機構による認証評価受審の年に当たっていたため、自己点検評価書の取りまとめ及び実地調査受け入れ等の準備を所管した。
IRセンター運営会議	センター長、委員長	各種アンケートの企画、実施、分析など、全学のIRに関する業務全般を統括した。
全学共通教育委員会	委員長	全学共通教育科目の編成や担当者、カリキュラム改革などに関する審議を統括した。
学務協議会	委員長	全学教授会の審議事項・報告事項など議案に関する協議を取りまとめた。
人事委員会	委員長	各学部・学科からの新規教員採用人事及び承認人事に関する要望尾を取りまとめ、その可否とともに公募等の手続きについての審議を取りまとめた。
産学連携・研究支援センター	センター長	産学連携及び研究支援の内容をとりまとめ、その実施について統括した。
輸出管理委員会	委員長	本学教職員の研究活動に関わる知的財産及び物品の海外持ち出し、あるいは海外渡航について、通産省の輸出管理に関する禁止項目に違反していないかどうかの審議を統括した。
情報セキュリティ委員会	委員長	各種情報の安全性に関する審議を統括した。

研究インテグリティ委員会	委員長	教職員の研究に関わる倫理的問題あるいは法的問題の存否について検討し、大学として各種研究活動を十全に管理し得ているかどうかの審議を統括した。
全学教授会	議長	全学教授会招集者である学長の代行として、議事進行の任を担った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州文化学園創立80周年記念誌編集委員会	委員長	九州文化学園創立80周年記念誌を刊行するに当たり、そのグランドデザインを策定すると共に、学園内各部門の記事内容・写真・図表等の決定と構成に関する審議を統括した。
新学部設置申請検討委員会	委員	新しく情報学部情報デザイン学科を設置するに当たり、教員の募集や選考に関わると共に、文部科学省に提出する申請書類の内容について審議した。
ハイスクール茶会実行委員会	委員	ハイスクール茶会の内容と実施に関する審議を行った。
メニュー2申請計画策定ワーキンググループ	グループ長	「令和７年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改善支援のメニュー２：複数等大学連携」に申請することを期し、西九州大学及び鎮西学院大学と連携を取りながら申請計画書を取りまとめて提出した。その結果、採択された。

(3) 課外活動の指導等

① アーチェリー部　顧問

② 硬式野球部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 佐世保北中学校訪問団挨拶／2025年7月4日／場所：1101教室

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第33回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
生と死をつなぐ宗教	2025年7月18日	法倫会館マルシェ（長崎市）	長崎新生活センター
生と死をつなぐ宗教	2025年7月25日	法倫会館諫早（諫早市）	長崎新生活センター
近代日本の宗教ブーム	2025年11月11日	佐世保セントラルホテル	佐世保西ロータリークラブ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術会議 哲学委員会	連携会員	2020年～現在	日本学術会議
評価システム改善検討委員会	副委員長	2017年～現在	公益財団法人 日本高等教育評価機構
日本宗教学会 理事会	理事	2013年～現在	日本宗教学会
佐世保徳育推進会議	会長	2012年～現在	佐世保市
評価員会議	団長・評価員	2012年～現在	公益財団法人 日本高等教育評価機構
長崎県日中親善協会佐世保支部	理事	2018年～現在	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 2025年12月13日 「徳育推進フォーラム」主催・統括者として開会挨拶及びシンポジウム総評／場所：総合教育センター／主催：佐世保徳育推進会議・佐世保市・佐世保市PTA連合会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
中国・青島旅游職業学院との交流	交流協定書の締結	2025年1月9日	長崎国際大学・青島旅游職業学院
中国・福建技術師範学院との交流	日本文化研究センター顧問として協議	2025年4月7日	長崎国際大学・福建技術師範学院
中国・上海大学社会学院研修団との交流	「日本文化論」の講義2コマ	025年7月28日	長崎国際大学・上海大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本学術会議連携会員として3つの分科会に所属し活動中

① 現代に活きる・活かす古典分科会（哲学委員会）

② 現代における「いのち」を考える分科会（哲学委員会）

③ 日本文学の伝統と現代社会分科会（言語文化委員会）

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も役職に伴う学内の業務に多くの時間を割かれ、研究活動を十分に展開する余裕をもつことができなかった。ただし、日本学術会議連携会員として、哲学委員会及び言語文化委員会の3つの分科会に所属し、オンライン会議や対面でのシンポジウム・会議に精力的に参加したことは、自身の研究内容の深化・充実に資するものとなっている。また、講演やそれにもとづく論文の執筆・雑誌掲載も行うことができた。

教育に関して、担当している全学共通科目の準備は念入りに行ったが、学生からの反応に対するフィードバックを十分に行うことができなかったのは遺憾である。また、大学院の主指導教員として2人の博士後期課程院生を始動しているが、博士論文の指導ということもあり、業務との兼ね合いや定年過ぎという自身の条件のゆえに、これ以上の負担をすることはできなかった。したがって、新たに指導を希望する他大学の学生を受け入れることは断念し、他の教員に委ねざるを得なかったのも痛恨の極みである。

今年度は、日本高等教育評価機構による認証評価の受審年にあたっており、自己点検評価書の作成・提出については学長を補佐しつつ、中心的な役割を担った。評価員として他大学の認証評価に関わる評価団の団長も引き続き務めたため、受審と調査の両方で忙殺されることもあった。さらに日本高等教育評価機構の評価システム改善検討委員会副委員長としての活動もあり、認証評価は今年度も業務のなかで大きな比重を占めるものであった。

また今年度は、九州文化学園創立80周年記念誌の編集委員会委員長として、編集方針の決定や掲載内容の構成などを統括する任に当たり、この3月末に刊行の見通しとなった。80周年記念行事としては、「絆の茶会」で数寄屋の席主を務める等、一連の祝賀行事でそれなりの貢献を果たすことができた。

さらに徳育推進会議会長をはじめとする学外委員も継続して担っており、地域貢献・社会貢献についても一定の貢献を果たすこ

とができたと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 柳　智盛

１．教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学（臨床心理・障がい児者心理、教育心理）の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	10	⑦⑫
事前・事後指導	5/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	23	④
教育実習Ｂ	30/30(通年)	2	4	④
共通福祉演習	15/15(後期)	1	35	①②⑤⑥⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	7	⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	7	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
国家試験演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	27	⑧⑨
障害の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	20	③⑤⑨⑩
国家試験演習（共通）Ⅱ	15/15(後期)	1	27	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅰ	15/15(前期)	1	29	⑧⑨
国家試験演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	26	⑧⑨
障害の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	36	③⑤⑨⑩
加齢と障害に関する理解	8/15(後期)	2	15	③⑤⑨⑩
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	①④⑤
教職実践演習(中・高)	5/15(後期)	2	28	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
教育心理学	15/15(前期)	2	42	③⑤⑩
心理学	15/15(前期)	2	38	③⑤⑦
福祉特論B	8/15(前期)	2	30	③⑤⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
障がい者心理特講	15/15(後期)	2	1
障がい者心理特講	15/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、「心理学」「教育心理学」「専門演習B」「卒業研究（通年）」「加齢と障害に関する理解」の授業科目についてアンケートを実施した。満足度の平均が3.9～4.7の結果であった。全学共通科目でありながら社会福祉士国家試験の指定科目の「心理学」は、大学の導入期でもあり、大学での学修と大学生活に慣れていくことも意識して指導を行った。また、シャルワークに関するより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士といて専門職を目指す学生に必要とする支援の基本的な技法についても自ら気づき自己覚知ができるようなワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学園	心理学	15/15(後期)	2	23
九州文化学園調理師専門学校	高齢者心理	3/15(後期)	2	16
九州文化学園高等学校看護専攻科	心理学	15/15(後期)	2	48
九州文化学園高等学校看護専攻科	対人関係論	2/15(後期)	2	48

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉学科国家試験支援追加学修	8	26	前・後期の期間中
社会福祉学科国家試験支援夏季集中講座	2	26	9月2日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

２．発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的変化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

３．高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	2	2	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

長崎県心理劇研究会における心理劇研修実践と課題／2025年2月／日本臨床心理劇学会第50回福岡大会

中小規模私立大学の障がい学生支援におけるピア・サポートシステムのあり方／2025年9月／AHEAD JAPAN CONFERENCE 2025（第11回全国大会）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
障がい学生の学びの質保証のためのピア・サポート活動の最適化	令和7年度長崎国際大学学長裁量経費	2025.6～2026.3	30万円
災害支援におけるソーシャルワークの意義の再考と推進	令和7年度長崎国際大学学長裁量経費	2025.6～2026.3	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	センター長兼委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
自己点検委員会	委員	本学の自己点検に関する検討・改善を図った。
発明等審査委員会	委員	本学の発明等審査及び運営に関する検討・改善を図った。
産学連携・研究支援センター	委員	本学の産学連携・研究支援センターの運営に関する検討・改善を図った。
全学教育会議	委員	本学の全学教育会議の運営に関する検討・改善を図った。
学科運営委員会（社会福祉学科）	学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討に携わった。
ソーシャルワークコース運営委員会（社会福祉学科）	委員	ソーシャルワークコースの運営や主に障害福祉分野の実習に関する検討・改善を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障害学生就職支援ワーキングチーム	ワーキングチーム代表	「南高愛隣会」と「長崎国際大学」が協働で障がい学生の就職支援に関する支援及び体制に関する検討を行った。

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学のピア・サポート執行部（NPS執行部）の運営やピア・サポーター学生の研修などを行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

「夢ナビライブ2025福岡」のウェブ開催にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第34回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席

2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
2025年度長崎市学童保育連絡協議会研修会「発達障がいのある児童への関わりについて」	2025/9/18・26	長崎県勤労福祉会館	長崎市学童保育連絡協議会
東彼杵郡教育委員会特別支援教育部会研修会「自閉症・情緒障害のある児童生徒への関わりについて」	2025/8/22	東彼杵郡教育委員会	東彼杵郡教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2013年4月～現在に至る	総合臨床心理センター長
長崎県国土利用計画審議会	委員	2024年4月～現在に至る	長崎県知事
平戸市成年後見制度利用促進審議会	委員	2024年4月～現在に至る	平戸市長
佐世保市成年後見制度促進事業	委員長	2024年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会会長
LOCAL STATION PLUS「運営推進会義」	委員	2024年4月～現在に至る	社会福祉法人南高愛隣会理事長
佐世保市都市計画審議会	副委員長	2025年1月～現在に至る	佐世保市長
平戸市障害者計画及び障害者福祉計画策定委員会	委員	2025年3月～現在に至る	平戸市長
平戸市障害者自立支援協議会	委員	2025年3月～現在に至る	平戸市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2015年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会

②2015年4月～現在に至る／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員

③2015年4月～現在に至る／自閉症児の余暇活動／活動企画者及び相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
2025年度上海大学社会学院短期研修	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科による短期研修プログラム	7月22日～7月31日	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年6名、3年7名の指導を行った。卒業論文では、各学生の興味がある専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。その内2名は、配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に4名が社会福祉士国家試験に挑戦し、全員が合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かせ

て、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。
社会活動としては、県庁及び県内の市町村の各委員会での委員として、各種の事案について検討を行った。なお、県内の特別支援学校での研修や事例検討の講師として児童生徒の支援や教員の研修会を担当した。
個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上の向けたＦＤ・ＳＤを企画実施し、障がい学生支援として取り組んでいる活動を通して、「障がい学生の学びの質保証のためのピア・サポート活動の最適化」に関して取り組んだ。さらに、社会福祉学科の研究として「災害支援におけるソーシャルワークの意義の再考と推進」に関する取り組んを行った
社会福祉学科においては、学科長として学科の運営に携わることができたことは貴重な経験ではあったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 大畠　啓

1．教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境（経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体）から捉える視点を獲得することである。

複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
パラスポーツ	1/15(前期)	2	24	⑪
共通福祉演習	2/15(後期)	1	35	①②⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	5	⑥
卒業研究	15/15(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	18	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
社会の理解	15/15(後期)	2	19	②
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	9/15(前期)	1	10	①④⑥
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦
社会学概論	15/15(前期)	2	197	②⑤
社会福祉の原理と政策Ⅱ	15/15(後期)	2	47	②
コミュニティづくり総論	5/15(前期)	2	20	①②③④⑥⑧⑩⑪
社会福祉の原理と政策Ⅰ	15/15(前期)	2	53	②
専門演習A	15/15(前期)	1	5	⑥
社会学	15/15(後期)	2	92	②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	1
まちづくりマネジメント特講	8/15(前期)	2	6
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	3
社会福祉思想特別演習	15/15(後期)	2	1
人権思想・社会福祉史特講	15/15(前期)	2	1
人権思想・社会福祉史特講	15/15(前期)	2	3
事例研究(人権思想・社会福祉史)	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業評価の満足度は、どの科目もほぼ平均並みであった。自由記述は肯定的意見（話が楽しい、おもしろい、分かりやすい）が大半である。教科書を離れてレジュメを洗練させているため、レジュメにイラストがあり想像しやすい、理解しやすいなどの感想があった。引き続きレジュメのブラッシュアップに努めたい。多くの講義が、福祉の社会的背景や歴史、制度の概略や倫理を示す教養的な内容の科目である。この教養型の授業スタイルに対しては、「ややくどい」という内容の感想が寄せられることもあるので、毎回すっきりとした授業内容とスタイルを心掛けている。授業評価の満足度はおおむね納得のいくものではあり、自

分としては授業スタイルの一つの型を形成できていると実感している。ただいくらか改善の余地(早口など)は残されているので、引き続き努力していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会学	15/15(後期)	1	53

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・フランクフルト学派の社会理論研究
・福祉専門職の社会的承認に関する研究
・福祉の現場における多職種連携の研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	委員会の議案や課題の解決のために、所属する学科と円滑な連携を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第35回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員長	令和6年度～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、社会福祉士養成課程のカリキュラム改正を受けての授業準備も順調に進み、授業の運営ともにスムーズに行えた。運営委員長として担務している「コミュニティーコース」の運営は、道に乗っている。今年度労力を最も要したのは、大学院の専攻長業務である。専攻長業務には長年の懸案やイレギュラーな問題・課題の発生等が多くあり、それらへの対応をめぐって時間とエネルギーを多く費やした。緊縮財政の中、教員や新入生の数も減少し厳しい学科運営が続く。社会福祉士の合格率を大いに

高めることに今年度は成功した。来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標（定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など）の達成を目指したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 大町　いづみ

1．教育理念

きめ細かな指導により、理解度に応じた学習支援を実施。
学生の学習意欲の向上を第一に自ら学び、自律して考え、行動、実践できる人を育てる。
楽しい大学生活を送る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国家試験演習（介護）	8/15(通年)	1	4	①④⑪
パラスポーツ	1/15(前期)	2	24	⑪
国家試験基礎演習	6/15(後期)	1	40	⑧⑨
生活支援技術ⅡB	15/15(後期)	1	9	①②③⑦⑨
福祉特論A	8/15(前期)	2	23	②⑦
在宅医療概論	2/15(前期)	2	213	①②⑤⑩⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護基礎学Ⅱ	15/15(後期)	2	9	①③⑦⑨
認知症の理解Ⅰ	7/15(前期)	2	16	①⑥⑨⑩
介護における医療的ケアⅡ	15/15(後期)	2	7	②③⑦⑧
介護基礎学Ⅰ	15/15(前期)	2	20	①③⑦⑨
コミュニティづくり総論	1/15(前期)	2	20	①②③④⑥⑧⑩⑪
介護における医療的ケアⅠ	30/30(前期)	4	7	②③⑦⑧⑨⑩
医学概論	3/15(前期)	2	34	①②③⑨
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	29	②⑦
認知症の理解Ⅱ	12/15(後期)	2	14	①⑥⑨⑩
発達と老化の理解Ⅱ	10/15(後期)	2	12	①②③⑥⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	2
地域医療・保健特講	15/15(後期)	2	2
介護福祉特講	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ｖ学生の学ぶ意欲をできるだけ引き出せるように、演習、授業に取り組んだ。また、インプットのみならず、アウトプットで、知識の定着ができるだけタイムリーに実施できるように授業計画をくみ取り組んだ。
結果、よい授業評価、学習内容の定着化につなげることができた。留学生への個別指導については、課題が残るため、今後検討が必要である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
放送大学	認知症の予防とケア	8/8(集中)	1	30
放送大学	卒業研究	15/15(集中)	2	1
九州文化学園高等学校	公衆衛生学	8/8(集中)	1	38

長崎大学薬学部	地域医療実践学	1/15(前期)	2	67
ナイスキャンパス長崎	在宅ケア概論	1/15(後期)	2	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験演習（介護）追加学修	15	4	後期集中
国家試験演習（社会）追加学修	15	27	後期集中

３．研究活動

(1) 研究テーマ

介護福祉の人材養成にかかわる研究

地域看護学にかかわる研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

新型コロナウイルス感染症流行時における看護職の精神的健康の実態と関連する要因／2026年9月／医学と生物学／166巻2号 inpress／共著／原著

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

高校生における介護職への認識に関連する要因／2025年9月7日／第33回日本介護福祉学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学倫理委員会	委員	全学における研究倫理に関する内規の整理、取りまとめを実施した。
福祉学科倫理審査委員会	委員	福祉学科内で提出される研究にたいし、倫理審査を実施した。
栄養学部倫理審査委員会	委員	栄養学部で提出される研究にたいし、倫理審査を実施した。
地域連携委員会	委員	地域連携に関する企画への参画、内容討議、学科内への連絡、調整を実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

全学手話サークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第36回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護が必要な生活にならないために	8月17日	放送大学長崎学習センター	放送大学長崎学習センター
認知症サポーター養成講座	1月22日	長崎国際大学	佐世保市長寿社会課
EFILD研修会	2月　1日	長崎大学NORH	長崎大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市国民健康保険運営協議会委員	委員	令和6年4月～現在	佐世保市
介護福祉士養成大学連絡協議会理事	委員	令和4年4月～現在	介護福祉士養成大学連絡協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①11月1日「長崎国際大学キッズキャンパス」親子で学ぶ手話講座　企画・運営　主催：長崎国際大学手話サークル、佐世保市障がい福祉課共催
②1月17日「子ども食堂　イベント講座」手話講座　企画・運営　　主催：東彼杵町教育委員会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全学手話サークルにおいて、学生メンバーの積極的な活動があり、地域組織からの依頼も増し、さらに、メンバーのモチベーションも高まってきている。今後も、自主的な活動を支援していくことが望まれる。

学内倫理審査委員会においては、各学科での取り組みの統一や取り決め、周知などが今後も必要である。次年度の課題としたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 梅野　潤子

1．教育理念

授業や研究指導等の知的活動を通して、社会福祉専門職として必要とされる能力を学生が自律的に開発することができるように促し、その環境を整えることを教育理念としている。より具体的には、以下の点を重視して教育に取り組んでいる。

・社会福祉専門職として必要とされる能力を、学生自身が身に付けるプロセスを重視する。
・一つひとつの学修の意味を学生自身が理解し、実践できるようにする。
・具体的な学修活動を通して、価値・知識・技術を体得する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	7	④⑦⑪⑫
スクールソーシャルワーク実習	40/40(通年)	2	3	④⑦⑪⑫
共通福祉演習	4/15(後期)	1	35	③④⑦
ソーシャルワークの理論と方法（社会）Ⅱ	15/15(後期)	2	53	④⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	7	④⑦⑪⑫
スクールソーシャルワーク演習	15/15(後期)	1	3	④⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	5	⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	7	④⑦⑪⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	④⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑦
学際連携と地域の理解	1/15(前期)	2	250	④⑦
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅲ	15/15(前期)	1	12	④⑦⑪⑫
スクールソーシャルワーク実習指導	15/15(前期)	1	3	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	12	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	15	④⑦⑪⑫
福祉特論F	8/15(後期)	2	17	⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	13	④⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ	15/15(後期)	1	10	④⑦⑪⑫
児童・家庭福祉	15/15(前期)	2	31	④⑨
スクールソーシャルワーク論	15/15(前期)	2	27	④⑦
ソーシャルワークの理論と方法（社会）Ⅰ	15/15(前期)	2	60	④⑦⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
家族・児童福祉特講	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2025年度中に実施した授業アンケート5科目の受講者満足度の平均点は4.7点と高評価を得た。学生の能動的な学修を促すため、グループワークやディスカッション、発表などを授業内に取り入れた。また、定期的な小テストや課題に取り組むことにより、継続的な学修習慣を身に付け、授業外での学修を促した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士追加学修	5	37	2025年4月8日、5月19日、6月2日、10月23日、11月6日
社会福祉士夏季集中講座	5	20	9月5日、9月12日
社会福祉士ピンポイント勉強会	1	10	2026年1月13日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・ソーシャルワークプロセスにおける子どもの参加促進に関する研究

・ソーシャルワークにおけるICT活用及び記録に関する研究

・てんかんを持つ人を対象とした医療ソーシャルワークに関する実践研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	2	2	492万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

タイムスタディによる児童福祉司の業務分析ー九州地方X県の児童相談所職員を対象としてー／2025年3月／九州社会福祉学／1-12頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

社会福祉士養成科目「児童・家庭福祉」テキストに見る子どもの意見表明権／2025年11月15日／日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会

ディープフェイク・ポルノ問題の課題解決に向けた視点：教育的アプローチから／2025年11月16日／日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
医業経営データ分析環境構築のためのデータモデリングに関する研究	日本学術振興会科学研究費助成事業　基盤研究(C)	2023年4月ー2027年3月	455万円
子どもの意見表明権を保障するアセスメントシステムに関する研究	長崎国際大学令和7年度学長裁量経費（科研費チャレンジ）	2025年4月ー2026年3月	37万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	副委員長	1
IRセンター委員会	委員	2
研究センター運営委員会	委員	3
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)こども育成専門委員会	委員	放課後等デイサービス事業所職員を対象とした共同調査研究に本学代表として参画した。
ソーシャルワークコース運営委員会	コース長	4

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・Instagram入試・募集センター公式アカウントにおける動画取材に協力し、研究内容を紹介した。

・実習報告会等の学科行事について、大学ホームページ掲載記事を作成し、教育内容を紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第37回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	公務出張

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	7

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
社会的養護のもとで育つ子どもの権利擁護ー子どもの参加を促す支援ー	2025年8月5日	児童養護施設清風園	社会福祉法人 清風園
子どもの育ちのニーズを満たすソーシャルワーク～アセスメントから支援計画へ～	2025年8月29日	佐世保こども・女性・障害者支援センター	長崎県こども家庭課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県子どもの意見表明支援事業	スーパーバイザー	2023年11月 － 現在	長崎県
長崎県児童相談体制強化のためのスーパーバイザー・アドバイザー派遣事業	登録スーパーバイザー	2021年5月 － 現在	長崎県
ふくし教育推進委員会	委員長	2020年4月 － 現在	佐世保市社会福祉協議会
佐世保市子ども・子育て会議	委員	2020年4月 － 2025年9月	佐世保市
全国てんかんセンター協議会教育推進委員会 てんかんソーシャルワーカー育成部会	部会員	2022年12月 － 現在	全国てんかんセンター協議会
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)こども育成専門委員会	委員	2020年7月 － 現在	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)
社会福祉法人清風園スーパーバイザー	スーパーバイザー	2024年4月 － 現在	社会福祉法人清風園

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・2025年5月30日に佐世保市青少年教育センター職員を招聘し、メンタルフレンド勉強会を実施し、23名の学生が受講した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も、研究・教育・大学運営・地域貢献それぞれバランスよく活動することができた。特に研究においては、研究業績に対する問い合わせから研究交流が始まり、国立研究機関における児童福祉研究班への参画を招聘された。次年度以降も、より一層の研究を推進し、長崎県内の児童福祉専門職と協働しながら実践の実情や課題を明らかにするとともに、全国に向けて情報発信を行いたい。また、全国的な調査研究にも参画し、児童福祉研究者として貢献していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 野田　健

1．教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さをを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に応えていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	11	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	5	⑦⑫
ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	15/15(前期)	2	43	①⑥⑨
ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）	15/15(後期)	2	34	①⑥⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
国家試験演習（社会）Ⅰ	2/15(前期)	1	27	⑧⑨
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	18	①②④⑥⑩⑪
国家試験演習（共通）Ⅱ	3/15(後期)	1	27	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅰ	2/15(前期)	1	29	⑧⑨
国家試験演習（社会）Ⅱ	3/15(後期)	1	26	⑧⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	11	①⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	5	①④⑤
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	11	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	⑤⑥⑩
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	⑤⑥⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅲ	15/15(前期)	1	12	⑤⑥⑦
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	20	②④⑩
福祉サービスの組織と経営	15/15(前期)	2	41	②⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	8	⑥⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	8	⑥⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ソーシャルワーク特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（ソーシャルワーク）	15/15(後期)	2	2

ソーシャルワーク特講	15/15(前期)	2	1
福祉政策経営特講	15/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの満足度（Q13）の結果を見ると、「ソーシャルワーク実習の理解」は4.9点、「福祉サービスの組織と経営」は4.6点、「ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）」4.9点、「ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ」は4.9点であった。この結果から、総じて大きな問題点はないと判断する。

新カリキュラムがはじまって5年が経過するが、旧から新への移行をどうにか乗り越えた印象を受ける。しかし、今後は更に授業内容・方法について探求し、発展させていく必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学修時間、夏季・冬季集中講座）	19	25	5/21,22,6/4,5,9/4,9/9,10/7,11/10,11,13,27,12/8,14,23

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①社会福祉士養成における実習指導のあり方に関する研究

②ボランティア体験による学生の成長に関する研究

③離島在住の要支援（介護）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

離島における要介護（支援）高齢者の暮らしの現状と課題（その1）ー長崎県北松浦郡小値賀町の場合ー／2025年10月5日／第73回日本社会福祉学会秋季大会

離島における要介護（支援）高齢者の暮らしの現状と課題（その2）ー長崎県平戸市大島村（的山大島）の場合ー／2025年10月5日／第73回日本社会福祉学会秋季大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務に関する全学的事項の運営・管理に関して理解し、それを踏まえて学科業務を担った。
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価に関する全学的事項の運営・管理に関して理解し、それを踏まえて学科業務を担った。

スポーツサポートセンター	委員	主に強化指定部の競技力向上、地域スポーツ振興、スポーツ系学生支援を図るため、安全・安心部門の担当として、会議等に参加した。
学科運営委員会（学科内）	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まり議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
ソーシャルワークコース運営委員会（学科内）	委員	社会福祉士養成の適切な運営のために、常務の実施、会議への参加等を行い、学生が学修を無事に終えることに貢献した。
コミュニティコース運営委員会（学科内）	委員	コミュニティコースの科目の担当の他、運営・管理に携わった。
催事運営委員会（学科内）	委員	広報や開学25周年記念式典の実施等に努めた。
ボランティア研究センター（学科内）	委員	地域から届くボランティア要請や研修案内を学生に伝達する他、学生の活動のサポートを行い、地域貢献を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
災害ソーシャルワークLABO	担当教員	災害ソーシャルワークの意義の再考と推進を進めるため、地域と連携を図り、主体的に活動する組織体として、社会福祉学科の学生と教員の有志でLABOを結成し、活動した。

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部　部長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①アースデイ川棚／4月19・20日／川棚大崎海水浴場／ボッチャ体験
②SDGsフェス／5月24日／佐世保中央公園／ボッチャ体験
③佐世保北中学校研究所訪問／7月４日／長崎国際大学／HUG体験
④九文高校課外学習／７月１４日／長崎国際大学／HUG体験
⑤わくわく夏休み体験教室／8月22日／長崎国際大学／ボッチャ・ディスクゴルフ体験
⑥広田中学校学習／10月23日／広田中学校／防災イベント
⑦こなフェス／10月26日／小長井グラウンド／ボッチャ・ディスクゴルフ体験
⑧社会福祉学科25周年記念式典／11月9日／長崎国際大学
⑨大塔小学校秋まつり／11月15日／大塔小学校／災害グッズ・ボッチャ体験
⑩早岐地区わっしょい健康ランド／11月16日／佐世保市早岐支所／ボッチャ体験
⑪わくわくボッチャ大会／12月7日／長崎国際大学／ボッチャ大会
⑫ごちゃまぜ防災／2月8日／長崎県立大学／防災研修
⑬九州文化学園高校内部進学説明会／3月9日／九州文化学園高等学校
⑭第1～4回オープンキャンパス／7月20日・8月3日・8月24日・3月15日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第38回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	12

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
自治体職員のための改正介護保険法への対応と介護保険事業計画策定の基礎	10月20日	西鉄祇園ビル11階会議室	一般社団法人日本経営協会
長崎県社会福祉士会県南ブロック研修会	3月14日	長崎県総合福祉センター	一般社団法人長崎県社会福祉士会
長崎県社会福祉士会基礎研修	6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日	Zoom、長崎国際大学	一般社団法人長崎県社会福祉士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市介護保険事業計画等策定委員会	委員	令和5年4月～令和8年3月	平戸市
社会福祉法人大空の会	監事	令和6年4月～令和8年6月	社会福祉法人大空の会
長崎県介護保険審査会	委員	令和6年4月～令和10年3月	長崎県
社会福祉法人慈愛会評議員会	評議員	令和7年6月～令和11年6月	社会福祉法人慈愛会
社会福祉法人平戸市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会	委員	令和7年6月～令和11年6月	社会福祉法人平戸市社会福祉協議会
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会理事会	理事	令和7年6月～令和9年6月	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
長崎県社会福祉士会理事会	会長	令和7年6月～令和9年6月	一般社団法人長崎県社会福祉士会
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会地域福祉推進委員会	委員	令和7年7月～令和9年6月	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会ふくし教育推進委員会	委員	令和7年7月～令和8年3月	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
長崎県福祉保健審議会	委員	令和7年7月～令和9年6月	長崎県
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員	令和7年10月～令和11年3月	佐世保市
日本介護福祉学会	評議員	令和7年9月～令和10年6月	日本介護福祉学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

(4)広報活動等の内容に加え、下記の2つを実施。

①8月23日／山祇神社夏祭り／ボランティア活動として参加

②10月17日／九州文化学園幼稚園させぼYOSAKOI祭り／ボランティアとして参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院短期海外研修 IN 長崎国際大学	両大学間の交流活動、観光付添等	7月21日～8月1日	上海大学社会学院、長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（1）学科教育　70%

来年度の「履修の手引き」等の一部変更を行うに至った。一定の評価ができる。

（2）大学運営　70%

行事や委員会等の業務に関して、役割を全うすることはできたが、後述する（3）社会貢献の業務が過多になったこともあり、ミス等も目立った。ついては、業務コントロールを十分に図ることにより、ミスを最小限にする必要がある。

（3）社会貢献　70%

「地域・関係団体からの要請への対応」に関しては、ボッチャ・災害・ボランティアの3テーマで活動を活発化させるとともに、外部委員・理事となり、また社会福祉士会会長にもなったことから業務に支障が出る状況になった。要請数増による貢献度のUPはあったものの、業務過多に陥った点はマイナスの評価でもある。「研究活動」に関しては、発表1本、シンポジスト1回であり、最低限の務めは果たしたと判断する。

私個人については、大学の業務と外部からの業務（要請）が限界を超える分量となり、業務をゆだねる相手も少ないため、業務の質が低下しており、研究活動も十分に行えていない。来年度以降も、この状況は変わらないため、上記したとおり、自分自身でどうにかやりくりしていく予定である。

学科については、本学科の定員割れが著しく、来年度以降もこの状況は変わらないことが懸念される。本件を解決するには、「学科の教育プログラムを再構築し、社会とつながり、社会から選ばれる学科となり、それを社会に発信していく」必要があると考える。その設計を2026年度中に行い、2027年度から新しい学科として再スタートしていく予定である。

以上、絵に描いた餅にならないようできる限り努めていく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 韓　榮芝

１．教育理念

教育の理念は、以下のような３点を主にとしている。

１．学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。

２．コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。

３．学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。教育の理念は、以下のような3点を主にとしている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	8/8(通年)	2	11	⑦⑫
ボランティア論	16/16(通年)	2	45	②⑦⑩
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	15/15(後期)	2	48	①②③⑧⑨⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	8	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	11	①⑤⑥⑦
保健医療と福祉	15/15(後期)	2	52	①②⑥⑨
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	13	①②④⑥⑦⑪
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑪⑫
コミュニティづくり総論	15/8(前期)	2	20	①②③④⑥⑧⑩⑪
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	15/15(後期)	2	53	①②③⑨⑩⑪
専門演習A	15/15(前期)	1	5	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30/30(通年)	8	1
地域福祉計画特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（地域福祉計画）	15/15(後期)	2	2
地域福祉計画特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（地域福祉計画）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

後期のアンケート（4科目）について、まず①「専門基礎演習」では、本授業の受講者は10名で回答者数が６名（うち留学生２名）、回答率60.0%。満足度の平均評価は4.0であった。向上策として、学内（グループワーク学修）と学外（実践現場の見学、レクリエーション活動の企画等）両方の授業を取り入れてゼミ運営を行った。また、学生の要望や進み具合を把握し、実情に応じメリハリのある授業を取り組めた。少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近く、マンツーマンで学生の実情や要望を聞くことができたし、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思われる。

②「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」について、履修者56名、回答者41名（内留学生7名）回答率85.7%、授業満足度は4.1（去年4.1）留学生は4.9（去年4.8）。本科目は1年生を対象に学科専門（必修）科目で、内16名2年生以上の学生、他学科や留学生も含め、国家試験の必須科目でもある。講義を主に、個人ワーク、グループワーク、動画視聴などを併せ進めている。章ごとに小テストや課題レポートを行い、予習と復習を強化している。 改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉

士の験科目であり、卒業必修科目でもあるので、丁寧に留学生も含め分かりやすく事例やリアルな動画視聴を取り入れていたこと。また、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めること。授業の目的や流れ、学習のポイントが明確で理解しやすかったとの評価を得た。特に、授業の冒頭で目標やキーワードを提示した点、レジュメが整理されていた点、具体例を用いた説明が理解を助けた点が評価されている。また、重要事項の強調や段階的な説明により、授業の全体像を把握しやすかったという意見もあった。「改善が望まれる点」として、より具体的な説明が必要であるとの指摘があり、専門用語の理解に個人差が見られたことから、基礎的概念の補足説明や確認の機会を増やす必要性がある。また、配布資料と説明内容の対応関係が分かりにくいとの意見もあり、資料構成の整理と説明方法の改善が課題として挙げられる。そのため、今後の改善として、第一に、学習キーワードの具体化と基礎概念の補足説明の充実。第二に、資料構成の整理と視覚的提示の改善。第三に、グループワークと振り返り活動を組み合わせた参加型授業の強化と考えている。
③「保健医療と福祉」では、履修者56名、回答者41名（内留学生４名）回答率73.2％で、授業満足度は4.2（去年4.0）、留学生は5.0。本科目の担当は2年目であり、社会福祉士や精神保健福祉の受験科目である。授業の形態は講義を中心に、個人ワーク、グループワーク、少人数の発表を用いて、互いに
学び合うことができた。受講生は二年生や上級生、留学生もいるので専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れ事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎に内容に合わせて設問とその解答を作り、授業レジュメ資料を事前に配布し、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解しやすいとのコメントもあった。しか
し、前年度より+0.2ポイントであるが、全体の平均満足度よりまた低く、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。授業アンケート評価を受けて、また、公開授業では授業の工夫点と教育的効果について、「国家試験の事例を活用した点」、「事前グループ編成による円滑な討議限られた情報から多面的に検討する学習過程」、「法制度理解とソーシャルワーカー支援を関連付けた点」「教員による個別助言」などを評価して頂き、主体的学習と実践的思考の促進が確認できた。また、グループワークの進め方や指示の具体性についても肯定的意見が多く、「自身の授業設計の参考になる」との記述も見られた一方、「ワールドカフェ形式などの討議方法の工夫」「グループディスカッションが活発に行われ」、「発表内容が具体的で理解しやすかった」という評価が多く、教員からの助言により意見が出しやすい環境が形成されていたことが示された。以上の結果から、本授業は①目標提示と構造化された進行②事例を用いた実践的学習③討議を中心とした主体的参加という点で教育効果が確認されたので良かったと思う。④「卒業研究」について、本授業の受講者は９名で回答者数が８名（うち留学生７名）、回答率88.9％。満足度の平均評価は4.8（去年5.0）であった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学　佐世保校	中国語ⅠA/B（文法と読解）	30/30(通年)	2	14
長崎県立大学　佐世保校	中国語ⅡA/B　（購読）	30/30(通年)	2	2
長崎県立大学　シーボルト校	社会福祉論	15/15(夏季集中)	2	43

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
日本語能力試験Ｎ２，Ｎ３　学修支援	20	7	前期毎週（金）2コマ
社会福祉士国家試験　夏季追加学修、寺子屋学修 （地域福祉と包括的支援体制、保健医療と福祉）	10	25	夏季、冬季

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①居宅介護における医療と福祉の連携ー日本の長寿と健康作りの新たな動向

②空き家活用による健康生成型居場所モデルの構築ー地域セルフヘルスを促進する予防的実践研究ー

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
人現社会学専攻科教務委員会	委員	大学院の業務補助、学生の募集（特に海外留学生の募集活動）
国際交流委員会	委員	提携大学との連携、海外短期研修などの企画、連絡・調整、通訳
災害ボランティアセンター	委員	学生の募集、外部の研修活動、社会福祉学科の学生らと一緒に熊本城の地震現場の見学や、募金活動の呼びかけ等
ハラスメント委員会	相談員	学生の相談に応じながら専門部署とを連携を図る

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本語学習、能力レベル試験	監督	留学生の日本語学習効果を把握するために、不定期的に日本語レベルチェック（試験）を担当し、学修の実施など
ソーシャルワーク（委員会）	委員	ソーシャルワークの演習や実習、施設ボランティア参加など業務学生への指導等
入学前学修支援	担当	入学予定学生に対し、大学とりわけ社会福祉学科の学修プログラムや特徴、目指せる資格等の紹介など

(3) 課外活動の指導等
書道サークル、監督・顧問、書道展の開催、指導など

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
オープンキャンパス　学科プログラムの紹介、参加しに来る学生への対応等。
中国鞍山師範大学　日本語学科の学生らを対象に本大学人間社会学部（社会福祉学科）の紹介、留学生の募集活動の実施

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	公務出張
2025/7/10	206	－	第39回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	後日出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席

2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日中養老政策と介護サービスの比較研究	2025年12月6日	上海交通大学など	上海交通大学健康長三角研究院より（12月3日～6日）が開催される「日中健康養老研修会」大会にゲストスピーカーとして参加

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	会長	2024年10月～	佐世保市長
佐世保市民生委員審査会	委員	2023年12月～	佐世保市長
長崎県中国語コンクール	審査員、評議員	2015年～	長崎県国際交流課長
大村市地域計画策定協議会	会長	2024年度～	大村市長
西海市社会福祉協議会	評議員	2018年度～	西海市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

上海大学社会学院海外研修　プログラム作成・通訳・引率など（2018年度～現在に至る）、瀋陽医学院海外短期研修、通訳・講座こうしとして（2019年）、川棚町手話サークル活動（2017年～現在に至る）、日中介護学会老年健康大学堂　特別講師として（2020年～現在に至る）、広田コミュニティセンターふるさとまつり書道展・監督（2016年度～現在に至る）

長崎新華僑華人協会婦人会主催「日本の介護保険制度と在留外国人のサービス利用について」講師（2025年2月）、上海交通大学健康長三角研究院　保健医療、福祉教育人材育成講座　講師（2025年12月）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院海外短期研修	プログラム（企画案）の作成、引率、通訳等	2025年7月～8月	人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
居家养老与医养结合：支持健康长寿的日本最新动态	シンポジスト（基調演者）	2025年12月6日	瀋陽医学院	瀋陽医学院学長

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

ベストティーチャー賞

８．活動全般についての自己点検・評価

（教育）ゼミ生は4年生7名（内留学生2名）、3年生9名（内留学生7名）、2年生10名（留学生1名）計26名、大学院生修士課程（3名、うち留学生2）の指導をしており、学習状況や先行文献研究（日本語や論文の書き方など）を細目に指導及び確認する。欠席や遅刻にならないように面談を随時に実施し、学修を含め自律のある生活ができるように徹底した指導を行い離脱させないように努める。授業は前・後期11コマ、大学院は前・後期各3コマを担当し、授業の満足度は前年度より高くゼミ生の国試合格率をアップさせることや受験の引率者として勤めた。学内外の学生に大学院への進学を促し、入学前の指導など進学率の増加に繋げる。課外教育として、週に2コマ（5名）日本語補習をし、留学生の語学力向上に努める。国試合格支援委員会のメンバーとして、高い合格率を達成するため、編入生や転学科生への個別指導も含め補習を行う。（研究）海外の提携大学と合同研究などをし、長崎国際大学論叢や学内学会紀要への投稿を目指す。4年生部会長として、学内学会委員として努め、（社会貢献）早岐警察署との連携を通じて在宅高齢者の地域生活支援を強化する。佐世保市都市計画審議会副会長、保健医療福祉審議会会長などに努

め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加。長崎県中国語コンクールの審査員として務める。西海市社協の評議員に努める。ボランティアセンターの担当として外部の要請や連携を図り学生の活動参加がスムーズにできるように取り組む。（大学運営）全学国際交流委員として、上海大学との共同研究・海外短期研修の企画案や運営などに努める。大学院研究科教務委員として努める。学科委員会では、実習委員会、学生支援委員会、学内学会、ボランティアセンター、などに努める。書道サークルの顧問に努め、開国祭や佐世保市内の施設で書道展を出展し、地域との繋がりを図る。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 足立　孝子

1．教育理念

学生には、精神保健福祉士としてのアイデンティティをつかんでもらいたい。つまり、ソーシャルワーカーとして、主に精神障害やメンタルヘルス課題を抱える人々の権利擁護や生活支援を担い、心の健康の保持増進や症状・障害の軽減により、誰もが自分の意志で主体的に暮らすことができるよう、本人および周囲の環境や社会に働きかけができるということである。そのためには、本学科のディプロマポリシーにもあるように、深い専門知識と高い技術を習得し、様々な課題に適用して解決をはかることができるように指導をしていく。

そもそも精神医学ソーシャルワークは、精神障害者への差別や抑圧の歴史のうえに立脚しており、生活課題を有する人々が、つながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現を目指すものである。そのためにも、社会の課題を情報収集し、分析する専門的能力を涵養していく。

さらに具体的には、患者・利用者を中心に事態を把握し、それぞれのニーズに注目した生活モデルによる理解、そして何よりも、本人の生活上の目標、人生における希望が決定的に重要になる。そのためには、グローバルな視点で、意見を傾聴するとともに、相互理解を図る必要がある。つまり、当事者とのかかわりの中で関係性を深めてもらい、当事者の生きる力に寄り添うためにはどうしたらいいのか、体感できる教育にしていきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国家試験基礎演習	5/15(後期)	1	40	①②③④⑥⑦⑨⑫
国家試験演習（精神）Ⅰ	7/15(前期)	1	7	①②③④⑥⑦⑨⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	8	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
精神保健福祉の原理Ⅱ	15/15(後期)	2	12	②③④⑤⑥⑦⑩⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	6	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ	15/15(後期)	1	9	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅲ	15/15(後期)	1	9	②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	15/15(前期)	2	29	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	15/15(後期)	2	36	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	8	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
国家試験演習（精神）Ⅱ	15/15(後期)	1	7	①②③④⑥⑦⑧⑨⑫
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅱ	15/15(後期)	2	14	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	7/15(後期)	1	10	②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
精神保健福祉制度論	15/15(前期)	2	29	①②③④⑥⑧⑨⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
精神保健特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（精神保健）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・演習科目（ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ・Ⅱ）

演習Ⅱでは、教員が実際に体験した事例を基に事例検討を行った。「問い」と「答え」をくり返すなかで、事例の背景を知り、どのような支援が考えられるのか、グループで学修をすすめた。演習Ⅲでは、夏休みの実習中の学生の経験を基に、学生自

身が事例提供者となって事例検討をすすめた。最終的には、ファシリテートも学生が担い、主体的に事例検討をする力を身に着けた。実習を通して、学生の大きな成長がみられ、とても意義のある授業であると捉えている。しかし、学生のモチベーションには差が生じ、発言の多い学生とほとんどみられない学生の差が際立つようになった。モチベーションの低い、あるいは発言の少ない学生をどのようにひっぱっていくのか、今後の課題である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本福祉大学	精神保健学	30/30(4月～2月)	4	200
日本福祉大学中央福祉専門学校	現代の精神保健の課題と支援	30/30(9月～3月)	4	200

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験演習（精神）追加学修	15	7	9月～12月
国家試験演習（共通）	4	26	9月～12月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．「狐憑き」について

明治以降、迷信的なものには禁止令が発せられた一方で、精神医学が国家的に制度化され、医療として優位な立場になる。このようにして、狐憑きなどの憑依は、「迷信」として排除され、精神医学の疾病分類・病因論・治療法へと変わっていった。狐憑きはいったい何だったのかー。精神医学の立場、民俗学、文化人類学の視点から、狐憑きを中心に憑依について研究している。

２．多職種連携教育

統合失調症をはじめとした精神病は、発症前後のかかわりによって、その予後が大きく変わってくる。チーム医療の要となって患者や家族を支えるためのケースマネジメントについて検討し、多職種連携の実践のために、多職種連携教育（IPE）実習を通して検討する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

高齢者のメンタルヘルスリテラシーの現状と課題／2026年2月／精神科治療学／159頁～163頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

慢性期統合失調症に対するオープンダイヤローグに基づいた対話実践の有効性　−尊厳の尊重とリカバリーの視点からー／2025年10月／第32回　精神障害者リハビリテーション学会

「憑きもの筋」の迷信について／2025年11月／第28回　日本精神医学史学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	図書館委員として、図書館の円滑な運営のために、選書等を行った。

入試・募集委員委員会	委員	入試・募集委員として、「大学案内」の作成、入試業務、オープンキャンパス等の広報活動に携わった。
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	地域マネジメント専攻担当として、倫理審査を行った。
国家試験合格支援委員会	委員	３福祉士の国家試験合格率を上昇させるための取り込みを行った。
メンタルヘルスコース運営委員会	委員	精神保健福祉士の円滑な実習や国家試験合格率上昇のための取組を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
実習支援システムWG	メンバー	実習支援システムのスムーズな導入のための取組をおこなった。

(3) 課外活動の指導等

吹奏楽部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・7/18　宇久高校　学科説明会

・3/17　長崎女子商業高校　模擬授業（１・２年生対象）　50分×２回

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第40回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「キツネツキ」はオカルトか	2025年7月22日	熊本大学	公益財団法人国際高等研究所
これからの司法と福祉の連携	2025年7月22日	長崎国際大学	上海大学研修
統合失調症を発症したミュージシャンのリカバリー	2025年10月19日	アルカスSASEBO	長崎県精神障害者家族会
精神保健福祉制度・政策論	2026年1月24日	渡辺病院	日本精神保健福祉士協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員	2023年後～現在に至る	佐世保市
長崎県ひきこもり支援連絡協議会	委員	2023年度～現在に至る	長崎県
長崎保護司選考委員会	委員	2023年度～現在に至る	長崎保護観察所

国家試験合格支援委員会	委員	2017年度～現在に至る	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
全国精神保健福祉家族大会みんなネットin長崎実行委員会	委員	2025年度～現在に至る	公益社団法人全国精神保健福祉連合会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

ベストティーチャー賞

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、毎回、レジュメを作成し、図表を駆使した板書などの工夫から分かりやすい授業を心がけた。法改正や事件事故などの話題性のあるトピックを取り上げ、学生が興味をもてるように解説した。精神科病院で勤務していた際、現場で体験した事例について積極的に紹介した。それらが功を奏したのか、本年度、ベストティーチャー賞をいただくことができた。

研究面では、「狐憑き」について論文を発表することができた。また、「狐もち筋」についても研究を拡げ、学会発表をすることができた。次年度は、日本精神医学史学会に論文を投稿したいと考えている。

地域貢献として、長崎県精神障害者家族会から講演会に招聘され、講師としての役割を果たすことができた。これらの繋がりから、次年度の全国大会実行委員に選出されている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 浦　秀美

１．教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができ、常に自己研鑽を続けることのできる学生を育てることです。そのために、理論と実践を統合する学びを大切にしています。社会に必要とされ、福祉の質の向上に寄与できる人材の育成を目指しています。

また、一人ひとりが自らの福祉観（介護観）を培い、自分で考え、相談し、判断できる専門職へと成長することを重視しています。福祉実践は、認知（どう見えたか）―思考（どう理解したか）―判断を経て行動に至る営みです。人は行動の前に必ず思考しており、その思考の質が判断を左右します。こうした過程を意識的に捉えられる人材を育てたいと考えています。

授業では原理・原則の理解を基盤としつつ、最新の福祉現場の動向を取り入れ、理論と実践を往還させる学びを展開しています。国家試験対策にとどまらず、専門職として実践に活かせる知識・技術を修得できる教育を行っています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅰ	90/90(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	7	①④⑤
介護実習Ⅱ	45/45(通年)	2	7	①⑫
国家試験演習（介護）	6/15(通年)	1	4	①④⑪
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	4	④⑥⑩⑪
介護実習Ⅲ	90/90(通年)	4	4	④⑤⑦⑪⑫
介護過程ⅢB	15/15(通年)	1	4	④⑤⑦
生活支援技術ⅣA	15/15(前期)	1	9	①④⑧⑨
介護概論ⅢB	15/15(後期)	2	4	④⑤⑦
生活支援技術ⅢA	15/15(前期)	1	9	②⑤⑥⑨⑩⑪
共通福祉演習	3/15(後期)	1	35	①②⑤⑥⑩
介護総合演習Ⅰ	30/30(通年)	2	9	①②④⑤⑥⑦⑫
生活支援技術ⅣB	15/15(後期)	1	9	①④⑧
卒業研究	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護援助技術	15/15(前期)	1	8	②⑥⑦⑩
介護福祉論	15/15(前期)	2	23	②⑤⑦⑨⑩
福祉特論E	8/15(後期)	2	20	①②④⑤⑨
介護概論ⅡB	15/15(前期)	2	7	④⑤⑦
生活支援技術ⅢB	15/15(後期)	1	9	②⑤⑦⑨⑩⑪
介護過程ⅡA	15/15(前期)	1	7	④⑤⑥⑦⑨
生活支援技術ⅡA	15/15(前期)	1	9	②⑨⑪
介護概論ⅠB	15/15(後期)	2	17	①④⑤⑧⑨⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
介護過程ⅢA	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は前期に３科目、後期に２科目の授業アンケートを実施した。ホスピタリティセミナー以外の科目は最近実施をしてい

なかった科目の実施を行った。大きく数値が改善できていた科目もあったことから、日々の教材研究や授業研究を行い取り組めてよかった。

配付資料の見やすさや分かりやすさに留意し、文章の読解力が低い受講学生もいる科目については文章を箇条書きにしたり図表を作成し理解度を高める工夫を行った。

履修している科目が何につながるか、役に立つのかを常に伝えて授業を行っていたため、今後も継続していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食介護論	1/15(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護
介護福祉
介護福祉教育
介護福祉士養成教育
福祉分野における現場実習と教育
福祉分野における人材養成（育成）
認知症ケアモデル
介護人材育成
介護福祉士に対するオンライン研修システム
介護人材における実習事前と養成校との連携
介護過程の現任者支援
介護過程を通した思考・判断プロセスの可視化の重要性

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	・長崎国際大学論叢査読者を選出した ・長崎国際大学論叢査読者からのコメントへ対応した ・長崎国際大学学術研究報告会の当日運営を担った
ハラスメント委員会	委員	・各学年のオリエンテーション時にハラスメント防止の説明を行った ・2026年度のハラスメント防止のための対策とした、動画の選出（教職員用、学生用）を行った ・ハラスメント案件に関する相談、委員長らへの報告等、対応を行った
教育基盤センター委員会	委員	離学防止対策部門として、以下の事柄を行った ・教養セミナー、ボランティア活動、専門基礎演習、国家試験対策、留学生対策を軸とした学修支援分野がそれぞれ立案した実施計画を学科教員へ周知・確認し、都度実施計画に基づいた活動ができているかどうかを確認した
教養セミナー部会	部員	・教養セミナー部会に出席し、審議事項や報告事項に対して適宜意見を述べた ・自身が担当している科目での学生の様子やセミナー学生の学修状況を適宜確認し、周知の必要性がある情報は個人情報保護に留意し随時配信した
ケアワークコース運営委員会	委員長	・毎月実施されるケアワークコース会議の議題の整理、議題の配信を行った ・コース会議の議事進行に務めた
保育士講座委員会	委員長	・講座実施の案の作成を行った ・講座実施に関する検討を学科長と行い、学科会議で適宜報告した ・講座希望学生の集約、講座実施に関連する情報を学生に配信した ・講座を担当し、受験概要・各科目の重要ポイントの講義を実施した
社会福祉学科運営委員会	委員	・社会福祉学科会議前の打ち合わせに出席し、適宜意見を述べた

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①長崎県主催　介護人材確保オンラインセミナー（6月25日）

②全国福祉高等学校校長会令和7年度長崎県高校生介護技術コンテスト長崎県大会（7月9日／場所：長崎県立佐世保東翔高等学校）

③福祉の職業体験！キッザケアナガサキ（2月1日／場所：シーハット大村）

④長崎県介護福祉士養成施設等入学者確保支援事業出張講義（1月22日／場所：長崎県立平戸高等学校）

⑤長崎県介護福祉士養成施設等入学者確保支援事業出張講義（3月6日／場所：長崎県立平戸高等学校）

⑥長崎県介護福祉士養成施設等入学者確保支援事業出張講義（3月12日／場所：長崎県立口加高等学校）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第41回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席

2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
12	11

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護人材確保オンラインセミナー	6月25日	オンライン	長崎県長寿社会課
職場内研修（利用者支援におけるアサーション）	7月18日	社会福祉法人蓮華園	社会福祉法人桜が丘学園
令和7年度長崎県高齢者権利擁護推進員養成研修	8月28日、8月29日	佐世保市労働福祉センター	長崎県長寿社会課
令和7年度介護福祉士実習指導者講習会	9月20日、9月21日、10月11日、10月12日	諫早市福祉会館	長崎県介護福祉士会
令和7年度介護労働安定センターケアサポート講習会（介護職員としての接遇マナー）	11月7日	大村市中地区公民館	介護労働安定センター
職場内研修（利用者支援におけるメンタルヘルス）	11月14日	社会福祉法人蓮華園	社会福祉法人桜が丘学園
高齢者虐待防止研修（気づく・支え合う・変えていく介護へ）	12月18日	オンライン	長崎県認知症グループホーム連絡協議会
令和7年度長崎県高齢者権利擁護推進員養成研修報告会	12月19日	佐世保市労働福祉センター	長崎県長寿社会課
令和7年度高齢者虐待防止ネットワーク検討会在宅介護事業所従事者研修（あなたの「気づき」が高齢者を守る～気づきから行動へ、行動から安心へ～）	１月16日	させぼすこやかプラザ	佐世保市長寿社会課
虐待防止セミナー	1月29日	オンライン	長崎県社会福祉協議会
職場内研修（不適切な支援の改善と身体拘束ゼロへの挑戦）	2月20日	社会福祉法人長崎慈光園	社会福祉法人長崎慈光園
職場内研修（不適切な支援の改善と身体拘束ゼロへの挑戦）	3月10日	社会福祉法人長崎慈光園	社会福祉法人長崎慈光園

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
社会福祉法人宮共生会	監事	2025年5月～	社会福祉法人宮共生会
社会福祉法人ふるさと	監事	2024年6月～	社会福祉法人ふるさと
社会福祉法人あい里	理事	2020年4月～	社会福祉法人あい里
長崎県福祉保健審議会民生委員審査専門分科会	委員	2024年8月～	長崎県
長崎県福祉保健審議会高齢者専門分科会	委員	2024年8月～	長崎県
長崎県介護人材確保対策連絡協議会	委員	2025年10月～	長崎県
長崎県介護現場デジタル改革推進事業補助金審査会	審査員	2025年8月～8月	長崎県
全国福祉高等学校校長会令和７年度長崎県高校生介護技術コンテスト	審査委員長	2025年7月～7月	全国福祉高等学校校長会
長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ推進会議	委員	2021年7月～	長崎県
佐世保市高齢者虐待防止ネットワーク委員会	委員	2021年7月～	佐世保市
長崎県佐世保県北圏域介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	2018年4月～	長崎県介護福祉士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

＜教育面

①学生に理解度や要望をポートフォリオを用いて確認し、受講しやすい授業を実践できた。②授業アンケートの結果も良好な結果を残すことができた。教材研究を常に行ったことが良い結果を生んだと考えている。

＜研究面＞

①大学院にて指導を受け、研究課題を明らかにした研究計画書の完成に向けて日々取り組んでいたが、現在休学中である。②休学することになり、論文の投稿に至ることができなかった。

＜社会貢献面＞

①～⑩（①長崎県の各種委員、②佐世保市の各種委員、③長崎県介護福祉士会主催の介護実習指導者講習会の講師、④長崎県権利擁護推進員講座セミナーの講師、⑤長崎県社会福祉協議会出張セミナーの講師、⑥介護労働安定センターからの依頼による講習会の講師、⑦各種自治体個別依頼によるセミナー講師、⑧高齢者施設・障がい者事業所の理事や評議員、アドバイザーや第三者委員、⑨専門学校の非常勤講師・講習会の講師、⑩長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会福祉部会主催の高校生介護技術コンテストの審査委員長）までの委員や講師を昨年度以上に担当し、職務を全うできた。また、目標として設定していなかったが、長崎県介護福祉士養成施設協会（介養協力）の長崎県代表校責任者の立場として、長崎県介護人材確保対策連絡協議会の委員としての活動も行うことができた。

＜大学運営面＞

②～⑥までの委員、部会長、委員長の活動に取り組むことができた。①は途中で辞することとなった（①ケアワークコース長、②社会福祉学科運営委員、③研究センター委員、④ハラスメント委員、⑤教養セミナー部会員、⑥保育士講座委員長）。

＜社会貢献面＞

昨年度同様の役員や、各団体からの研修の依頼による講師、介護実習指導者になる介護職員に向けた研修の講師等、介護人材確保に向けた活動ができた。また、社会福祉法人とも監事や理事等で貢献するだけでなく、職場内研修やアドバイザーとしても活躍することができた。教育面・研究面について、今年度はケアワークコース長としての役割を担い尽力していたが、業務全体の安定的な遂行を優先する必要が生じ、年度途中で役割を調整する判断を行うに至った。その影響もあり、業務と研究活動の両立について見直しが必要となり、大学院については休学という判断をした。その結果、当初計画していた研究成果の取りまとめには至らなかった。

現在は担当業務に専念しながら業務のリズムを整えている。今後は状況を見極めつつ研究活動の再開と成果を出す準備をすすめていきたい。もっと研究活動が行えるような時間の捻出を優先事項に据え、努力していきたいと考えている。また、研究について、2026年度は最低でも1本の単著を投稿するよう執筆中であることから、然るべき時期に投稿していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 中村　尚生

1．教育理念

高等教育における教育理念および目標、ならびにそれらを達成するための方法論について述べる。

第一に、大学生が修学生活において自主性や創造性を涵養できるような教育実践をおこないたいと考える。特に、私の専門である障がい児・者の心の有り様や、その奥深さについて履修生や指導学生に教授したいと考える。それにあたっては、旧来の受動型の授業ではなく、アクティブラーニングによる教育形態を積極的に実践する。そのなかで、教員としてさまざまな問題提起をおこない、履修生などには主体的・能動的に学びの場に参加することを奨励したい。

次に大学生の立場に立った教育を心掛けることである。具体的には、きめ細やかにコミュニケーションを図り、修学意欲を高めたいと考える。大学という高等教育機関における目標の最たるものが、学生の知的好奇心を刺激し、引き出すことであると考える。そのために、学生たちが“知的好奇心を持って学問を楽しく修める”きっかけを与えることは、大学教員の大きな役目だと認識している。また、よりよい修学環境を保障するために、障がい学生への合理的配慮を怠らぬように留意する。

次は、多様な価値観に開かれた人材育成をおこうことである。それにあたっては、障がいの有無や、国籍、世代の違いによらない幅広い交流の中で、多様な価値観に触れ、既存の価値体系を再構築する機会を提供できるように、教員としても障がいに対する理解啓発を積極的におこなうことや、留学生との国際交流、世代の異なる地域の人々との交流を学生たちに奨励したい。

ここからは、教員として大学生をどのように支援するか、について述べる。

まず何より、学生の心に寄り添った支援を心掛けたいと考える。具体的には、臨床心理学を専門とする教員として、専門性を活かした知識、技法を用いながら、心理的な危機状態にある学生や障がいのある学生に対して支援をきめ細やかにおこなっていきたいと考える。さらに、共生社会の実現やそれに伴う法整備が加速度的に推進される社会的状況と照らしながら、これまでの臨床実践の経験を活かし、合理的配慮の提供に伴う関係調整やコーディネートとしての機能・役割を果たしたい。また、セーフティーネットとしての居場所作り活動を実践し、心理的な危機を抱える学生のゲートキーパーとしての役割を果たしたいと考える。さらには、ネットワークや相談資源を活用し、教員間で日頃より情報交換をおこなったり、キャンパスライフヘルスサポートセンターなどの技術職員と多職種連携を図ったり、緊密な連携や協力体制を構築し、より効果的な支援を提供できるように尽力したい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	8	①⑤⑦⑪⑫
パラスポーツ	2/15(前期)	2	24	①⑥⑨⑩
心理学	15/15(後期)	2	70	①②⑤⑦⑧⑨⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
児童心理学	15/15(後期)	2	27	①②⑤⑦⑨⑩⑪
健康・生きがいづくり総論	8/8(前期)	1	8	①②⑤⑦⑨⑩⑪
特別支援教育	8/8(後期)	1	21	①②⑤⑦⑨⑩⑪
コミュニティづくりフィールドワーク	10/30(後期)	4	18	②④⑤⑦⑩⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	9	①⑥⑩⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	8	①⑥⑩⑪⑫
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	11	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	8	①⑥⑩⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	2	①⑩
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	28	①⑥⑦⑩
臨床心理学	15/15(後期)	2	7	①②⑤⑦⑨⑩⑪
福祉特論B	8/15(前期)	2	30	①②⑤⑦⑨⑩⑪
キャリア開発Ⅰ	6/15(後期)	2	261	①②⑥⑦⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①②④⑤⑥⑩⑪
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②④⑤⑥⑩⑪
専門演習B	15/15(後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは、前期に臨床心理学（薬）、後期に臨床心理学（栄）の科目にて実施した。臨床心理学の科目は、薬剤師や管理栄養士などを志す学生に対してカウンセリングマインドをはじめとする臨床心理学的知識および技術を教授することであった。

前期のアンケート結果より、授業満足度に対して理解度が相対的に低かったことから、当該領域の関心や知的好奇心を高めたと捉えられるが、専門知識の定着は不十分だった可能性がある。特に、臨床心理学の理論は抽象的な内容が多いため、日常生活から具体例を引用し体験的理解を促す必要があると考えられた。また、復習テストなどを実施することにより学修内容の反復をおこない理解の促進を図るべきである。

後期のアンケート結果より、授業満足度および理解度ともに高かったことが分かった。受講者数が少人数であったため、ロールプレイやディスカッションなどを通じた体験的・双方向的授業の展開が比較的しやすく、高い満足度・理解度につながったと考えられる。年度によって受講者数の増減が想定されるため、今後受講者数が増えた場合の授業展開のあり方も検討すべきである。ロールプレイやディスカッションという手法は、教員の目の行き届く範囲の中で安全に用いることが肝要である。受講者数が多い場合、学習支援システムなどを活用しながら個人ワークを中心に授業を展開し、安全かつ質の高い学びの場が提供できるように努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策（社会）追加学修時間（前期）	6	25	2025年6～7月
国家試験対策（社会）追加学修時間（後期）	3	25	2025年11月21日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

発達障害のある子どもをもつ親のセルフヘルプ・グループ（親の会）における相互支援プロセスを検討した。相互支援プロセスは、セルフヘルプ・グループの機能から検討され、その機能の一つであり、最も大きな特徴ともいわれる「体験的知識」の共有条件を明らかにすることを目的とした。親の会に継続参加する親12名を対象に実施したインタビュー調査の結果を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。その結果、親の相互支援プロセスの中核には、体験の還元があり、子育てや親の会の経験に基づく養育観（体験的知識）を共有しながら、一様ではない発達障害児の子育てを支えたと示唆される。また、体験的知識の伝達条件として、類似性および差異性を基盤とする二つの相互支援の流れが必要だと示唆された。現在、特殊教育学会への投稿を済ませ、査読中である。

また今年度は、曖昧刺激に対する情報処理特性の観点から、内受容感覚の身体解釈プロセスを検討した。20～69歳成人1104名（男性553名／女性551名）を対象にアンケート調査を実施した。分析の結果、性別を問わず、曖昧さに敏感に反応する型は身体感覚を不快に認知する傾向が高かった。男性は曖昧さを享受する型、女性は曖昧さに敏感に反応する型が多様な身体感覚への気づきを経験していた。曖昧さへの不安が高い場合、男性は不快な身体感覚に注目するが、女性は無視する可能性が示唆された。本結果は、今年度の日本発達心理学会（3/3）において発表予定である。その後、学術雑誌への論文投稿を行うことを計画している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	2	2	493万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

長崎国際大学におけるピア・サポートシステムの効果と課題／2025年9月4日／AHEAD JAPAN CONFERENCE 2026（第12回全国大会）

発達障害のある子どもをもつ親のセルフヘルプ・グループにおける相互作用の検討／2026年2月26日／第26回長崎国際大学学術研究報告会

曖昧さへの態度と内受容感覚の気づきの関連性／2025年3月3日／日本発達心理学会第37回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)（課題番号23K02302）研究代表者	文部科学省	2023年4月～2027年3月	468万円
長崎国際大学学長裁量経費「障がい学生の学びの質保証のためのピア・サポート活動の最適化」代表	長崎国際大学	2025年6月～2026年3月	25万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	キャンパスライフ・ヘルスセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら合理的配慮を申請する学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特にピア・サポートのシステムが円滑に運用できるよう尽力し、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこなった。
教育基盤センター運営委員会	委員	人間社会学部における初年次部門の担当者を務めた。2026年度入学予定者の離学防止対策の観点から、入学前教育課題や入学前講座（入学前オリエンテーション）を中心となって策定した。また2025年度入学者に対して事後アンケートを実施し、離学防止対策の実施効果および課題を整理した。アンケートの結果、5段階評定中、平均4点以上の評価を得た。
ソーシャルワークコース運営委員会	委員	ソーシャルワーク実習Ⅱを担当した。また実習支援システム導入のワーキンググループのメンバーを務めた。
コミュニティコース運営委員会	委員	コミュニティづくりフィールドワークにおいて、受講生は視覚障害をテーマにコミュニティワークに必要な連携・協働・協調性を身につけることができた。
学生支援委員会	委員長	離学防止対策の一環として、国家試験基礎演習においてSA制度を活用し、受講生の学修効果を高めることができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム担当	委員	本学を代表して子ども育成専門委員会の委員を務めた。
学部教授会担当	委員	学部教授会開催に際し、議題および関連資料をとりまとめ、円滑な会議の運営に尽力した。
ホスピタリティ・教養セミナー部会	主任	各種オリエンテーションの運営やクラス編成などにかかわる全般的な業務を中心となっておこなった。また、全学共通科目の統廃合にあたり、本科目のシラバスの改訂もおこなった。
オープンキャンパス・ワーキンググループ	委員	第2回オープンキャンパス（8月実施）において、各コースのカリキュラムや取組を紹介し、本学科の特色や魅力を高校生及び保護者に発信することができた。アンケートの結果、5段階評定中、平均4.4の評価を得た。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにて学科の活動や特色、魅力などを参加学生および保護者と交流するなかで積極的に発信し、本学の広報活

動へ貢献した。／2025年7月～8月／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第42回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
児童福祉司任用研修	8月29日	佐世保こども・女性・障害者支援センター	長崎県福祉保健部こども家庭課
平戸市母子保健従事者連絡協議会	9月3日	平戸市役所	平戸市子ども家庭センター
平戸市子育て講演会	11月28日	田平活性化施設	平戸市子ども家庭センター
波佐見町話し相手ボランティア講座	2月14日	波佐見町農村環境改善センター	波佐見町社会福祉協議会
佐世保市教育長座談会（コーディネーター）	11月21日	佐世保市発達支援センター	発達凸凹応援隊にじいろサロン

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院附属総合臨床心理センター	研究員および面接指導員	2025年4月～2026年3月	九州大学大学院人間環境学府
佐世保市いじめ防止対策推進員会	会長	2025年4月～2026年3月	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2025年4月～2026年3月「発達凸凹応援隊にじいろサロン」アドバイザーとして勉強会に参加したり、定期的に相談会を実施したりした。主催：発達凸凹応援隊にじいろサロン

②2025年4月～2026年2月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加した。主催：長崎県肢体不自由児者父母の会連合会

③2025年4月～2026年3月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加した。主催：佐賀県有田市

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

①「NICEキャンパス長崎」における児童心理学の授業科目を担当した。

②長崎国際大学ピア・サポート学生組織（NPS）執行部の活動に関与し、学生主体となるピア・サポート活動の学内外に向けた浸透・活性化をサポートした。

③長崎国際大学学術研究報告会において社会福祉学科からの報告者を務めた／2026年2月26日／場所：長崎国際大学

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、十分な教材研究をおこなった上で授業内容及び方法の改善を図ることができた。前期の授業アンケートでは、平均4.5以上の満足度を得ることができた。担当学生の出席状況などを把握し、離学・怠学を予防するよう努めた。

研究活動においては、関連学会で本学のピア・サポートシステムの運用効果を報告し、大学外に本学の取組を発信することができた。また、科研費を活用した調査研究の結果を分析し、今年3月の関連学会での発表に申込むことができた。

大学運営活動においては、CH運営委員として配慮学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。教育基盤センター運営委員として、初年次教育の改革と充実を図り、入学前講座などを取り仕切った。OCの責任者を務め、学科の特色・魅力を発信することができた。

社会貢献活動においては、外部専門家としてグループ相談会に参加する発達障害児の親に助言をおこなった。また、長崎県児童福祉司任用研修や平戸市子ども子育て講座など、長崎県の各地にて研修講師を引き受けることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 久田　貴幸

１．教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることにも力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
介護実習Ⅰ	30/30(通年)	4	9	④⑥⑩⑫
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	7	①④⑤
介護実習Ⅱ	30/30(通年)	2	7	①⑫
国家試験演習（介護）	3/15(通年)	1	4	①④⑪
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	4	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅲ	60/60(通年)	4	4	④⑤⑦⑪⑫
介護過程ⅢB	15/15(通年)	1	4	④⑤⑦
パラスポーツ	3/15(前期)	2	24	⑪
介護総合演習Ⅰ	15/15(通年)	2	9	①②④⑤⑥⑦⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦
卒業研究	15/15(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
福祉特論E	7/15(後期)	2	20	①②④⑤⑨
介護概論ⅠA	15/15(後期)	2	43	④⑤⑨⑩
学際連携と地域の理解	2/15(前期)	2	250	②④
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	20	①②③④⑥⑧⑩⑪
生活支援技術ⅠB	12/15(後期)	1	9	④⑤⑦
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑦⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
生活支援技術ⅠA	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥
介護過程ⅡB	15/15(後期)	1	7	④⑤⑥
介護過程Ⅰ	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑨
介護概論ⅢA	15/15(前期)	2	5	①②③⑤⑥⑦⑧
介護概論ⅡA	15/15(後期)	2	9	④⑤⑦
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	29	②⑦
コミュニケーション技術	15/15(前期)	1	9	④⑤⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【介護概論ⅠA】授業において学生の介護対するイメージを把握した上で、授業冒頭で回答する形で双方向性を意識した。その上で、一般的に知られていない新たな介護の魅力を伝達できたと考える。

【介護概論ⅢB】受講学生は、自身の進路や国家試験に向けて必要な確認が行えたと考える。

【介護過程ⅡB】本科目の受講者は7名であった。学生たちのほとんどは、介護または福祉専門職を目指している学生であり、そのモチベーションを維持・向上させることを念頭に授業を実施した。また、卒業後の進路についても明確に考えることができるように授業を行った。

【介護過程Ⅰ】本科目の受講者は9名であった。学生たちのほとんどは、介護または福祉専門職を目指している学生であり、そのモチベーションを維持・向上させることを念頭に授業を実施した。この点において概ね目標達成できたと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学　シーボルト校	社会福祉論	15/15(後期)	2	63

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者の身体・口腔機能・栄養状態・服薬状況と自立度の関連について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	1	1	24万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The Relationship between Near-Fall Experiences and Lower Limb Function and Balance Function／2025年11月／Open Journal of Therapy and Rehabilitation／10.4236/ojtr.2025.134017／共著／論文

高齢者における歩行機能関連指標の比較と有用性の検討／2026年3月（掲載予定）／ウォーキング研究／p. 53-59／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

高齢者における歩行関連指標の比較と有効性の検討／2025年9月／日本体質医学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学術アドバイザリー契約	社会福祉法人　長崎博愛会	2025年6月～2026年5月	24万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特にない

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 1月22日（木） 長崎県立平戸高等学校(2年生) （出張授業） 6名

② 3月5日（木） 長崎県立大村城南高等学校 （出張授業） 9名

③ 3月6日（木） 長崎県立平戸高等学校(1年生) （出張授業） 19名

④ 3月12日（木） 長崎県立口加高等学校 （出張授業） 24名

⑤ 3月15日（日） 長崎国際大学OC （配布のみ） 14名

合計72名

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第43回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護実習指導者講習会	2025年9月	長崎国際大学	長崎県介護福祉士会
介護職員新人向け研修	2026年1月	オンライン	長崎県介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員	2019年から現在	佐世保市長
佐世保市地域包括支援センター運営協議会	委員	2019年から現在	佐世保市長
長崎県介護事業所認証評価検討委員会	副委員長	2022年から現在	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も教育・研究・社会貢献の各分野において、バランスの良い活動を目指して活動を行った。概ねバランスよく取り組めたと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 裵　孝承

1．教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力（連携）できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。
この理念を実現するために、①多様性を知る＆理解すること、②お互いが分かり合うこと（コミュニケーション力を高める）、③社会現状（課題など）を、的確に分析し、社会福祉を探求すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
国家試験基礎演習	15/15(後期)	1	40	⑧⑨
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	286	①②⑩
福祉特論A	8/8(前期)	2	23	①②③⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	7	⑥⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	7	⑥⑫
国家試験演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	27	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅱ	15/15(後期)	1	27	⑧⑨
国家試験演習（共通）Ⅰ	15/15(前期)	1	29	⑧⑨
国家試験演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	26	⑧⑨
高齢者福祉	15/15(後期)	2	49	①②④⑤⑨
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	12	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩
社会福祉調査の基礎	15/15(後期)	2	48	①④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
高齢者福祉特講	15/15(後期)	2	1
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

去年の授業アンケートの結果を参考に授業の方法などを修正した。学生が主体的に学ぶようにアクティブラーニング式の授業を行っている。特に、予習復習や国家試験の対策のために、毎回資料を準備している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験追加学修(前期)	30	30	2025/8
国家試験追加学修(後期)	30	27	2025/12

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・介護支援専門員に対するサポートと実践共同体に関する研究
・実習指導者の実習指導を通した自己成長に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	455万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
ソーシャルワーク実習指導者の実践共同体の確立に向けた実証的研究	日本学術振興会　科学研究費助成事業　若手研究	2024年4月～2028年3月	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全衛生委員会	委員	学科の安全衛生委員会の委員として、会議に出席し、必要な情報などを 学科に共有した。
就職委員会	委員	就職委員として、合同就職説明会、就職ガイダンスを企画・開催し、学生の就職に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第4回オープンキャンパス	主担当	入学を考えている学生が、オープンキャンパスを通して本大学、本学科のことを知って、魅力を感じるために全力を尽くして企画し、準備した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席

2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第44回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
日本ケアマネジメント学会　日韓シンポジウム	通訳および翻訳	2025/6/28	日本ケアマネジメント学会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日本ケアマネジメント学会　日韓シンポジウム	通訳および翻訳	2025/6/28	東京幕張メッセ	日本ケアマネジメント学会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

学長特別賞（科研費採択）

８．活動全般についての自己点検・評価

「学生ファースト」「面倒見のよい大学」を意識し、教育・研究活動に取り組みました。特に、「学校が大好き」と感じる学生を一人でも多く育てることを目標に、学生指導に力を入れてきました。ゼミ指導においては、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を行っており、スポーツ系学生からも「ゼミに参加したい」という声が聞かれるなど、学修意欲の向上につながっていると感じています。このような個別性を重視した指導は、学生自身の向上心を高め、品格ある社会人として成長していく基盤になるものと自負しております。国家試験合格支援委員会長としては、国家試験に向けた学科全体の雰囲気づくりや支援体制の構築に全力で取り組みました。これらの国家試験合格支援の取り組みが、結果として入学定員の確保にもつながり、学科の好循環を生み出すことを期待して活動してまいりました。また、学科の就職委員長としても誠実に職務に取り組み、キャリア開発Ⅱの授業については、学生のニーズに即した内容となるよう工夫を重ねました。担当授業についても、準備を徹底し、アクティブラーニングの導入や国家試験対策を意識した授業運営を行っています。研究面においては、新たな研究費が採択されましたが、業務多忙により十分に取り組むことができなかった点は反省しております。来年度は、時間配分を見直し、研究活動にもより一層注力していきたいと考えております。若手・女性研究者としての立場を自覚し、教育・研究の両面において良い手本を示せるよう、今後も一層努力してまいります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 丸山　貴志

1．教育理念

本学の理念でもあるホスピタリティの探求・実現は社会福祉の人材育成において重要な内容である。
この教育理念のもと、ソーシャルワーカーには欠かせない多職種連携を積極的に進め、その中心的な立場でリーダーシップが取れ、そのうえで協調性があり協働できる人材育成を行う。
またいかなることにも積極的に自ら学び、解決策を導き出す力を身につけることができる人材の育成に取り組んでいく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（精神）Ⅰ	30/30(通年)	2	4	⑫
ソーシャルワーク実習（精神）Ⅱ	75/75(通年)	4	9	⑫
パラスポーツ	1/15(前期)	2	24	⑪
国家試験演習（精神）Ⅰ	15/15(前期)	1	7	①⑥
共通福祉演習	2/15(後期)	1	35	①②⑤⑥⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	7	④⑤⑥⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	7	④⑤⑥⑪⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑥⑪⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ	15/15(前期)	1	10	④⑥⑦⑩⑫
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅲ	15/15(後期)	1	9	⑫
ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰ	15/15(前期)	2	12	①⑤⑥⑩
精神医学と精神医療Ⅱ	15/15(後期)	2	21	①④⑤⑥⑨
福祉特論F	8/15(後期)	2	17	①④⑤⑫
精神保健福祉の原理Ⅰ	15/15(前期)	2	24	①④⑤⑥⑨⑩
精神医学と精神医療Ⅰ	15/15(前期)	2	16	①④⑤⑥⑨
国家試験演習（精神）Ⅱ	15/15(後期)	1	7	①⑥
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ	15/15(後期)	1	10	①④⑥⑦
精神障害リハビリテーション論	15/15(前期)	2	31	①⑤⑥⑩
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	8/15(後期)	1	10	①⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今回アンケートを実施した科目は、履修登録者数が少なかったため個々に対する指導がより丁寧にできていた。そのためアンケート結果も良い評価を得ることができたと思われる。質問1-1の「なんらかの準備学習をしましたか」で「しない」と回答した学生が半数近くいたことに関しては、改善すべき点である。今後は、授業開始時や授業の終了前に準備学習を促すような取り組みを実施したい。
その他、全体的には一定の評価を得ることができていたので、今後も引き続き満足度の高い授業になるよう心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会福祉Ⅰ	7/7(前期)	1	75

佐世保市立看護専門学校	社会福祉Ⅱ	7/7(後期)	1	75
嬉野医療センター附属看護専門学校	社会福祉	15/15(後期)	1	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 若年性認知症の人々の福祉的就労のための医療と福祉の連携による支援体制の構築
2. 入院患者の認知症の有無により影響する看護学生と看護師の抵抗感の比較検証

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

看護学生との比較から見えてきた一般病棟看護師の認知症有病入院患者に対する困難感／2025年9月12日／第14回日本認知症予防学会学術集会

長崎国際大学における精神保健福祉士養成課程のソーシャルワーク実習教育について／2026年2月21日／2025年度日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック研究大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	副委員長として委員会運営のため委員長をサポートし、また人間社会学部において学生委員会全体の実績の審議、報告等を行い委員会活動の運用に貢献した。学生に対する処分等の対応や卒業パーティーの準備運用など、特に学部学科に関連する内容については中心的に活動し貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

長崎県精神医療センターの見学実習へ学生を引率

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第45回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市自立支援協議会	委員	令和2年度～現在に至る	佐世保市障がい福祉課
波佐見町自立支援型地域ケア会議	アドバイザー	令和4年度～現在に至る	波佐見町役場

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2025年7月29日、させぼ地域基幹相談支援センター運営業務委託プロポーザル審査に審査委員として参加した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・2026年2月20日、精神保健福祉士実習受け入れ施設へあいさつのため、あきやま病院へ訪問
・2026年3月2日～3日、日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック精神保健福祉士養成教育研究部会に参加

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学科内ではメンタルヘルスコースのコース長としてコース運用に尽力した。精神保健福祉士を受験する予定の学生がメンタルヘルスコース所属とソーシャルワークコース所属の両方にいるため、特に国家試験対策については苦慮することもあったが、しっ

かりまとめることができた。国家試験は7名中7人合格させることができ、目標であった合格率100%を達成することができた。来年度も引き続き100%合格を目標に取り組んでいきたい。また講義では、新カリキュラムの内容を踏まえ、昨年より充実した講義をすることができた。委員会活動は昨年度から引き続き学生副委員長として学生委員会を円滑に運用するなど学内での活動は積極的に行い、学科や大学全体の運営に貢献することができた。学外の活動としては、昨年に引き続き佐世保市自立支援委員会の委員や波佐見町自立支援型ケア会議のアドバイザーなど積極的な活動をすることができた。非常勤として佐世保市立看護専門学校と嬉野医療センター附属看護学校の講師を務め、求められている活動をしっかり行うことができた。研究活動に関しては現在、論文投稿中であるが、年度内にアクセプトまで至らなかったので来年度はさらにもう1本、論文執筆に取り組みたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 針塚　緑樹

1．教育理念

私は、授業をはじめとした大学生活を通して学生が以下に述べるような力を獲得できるような教育実践を行っている。

まず、教育を通して学生が獲得することを目指す力とは、各分野に特化した知識や技術などを身につけた専門性の高い人材を育成することに加えて、自分とは異なる背景を有する他者を理解し尊重する力、そして周囲の人々と関係性を構築し社会に貢献していく力、さらに自ら納得して選択・決定をする力と考える。そのため、学生一人ひとりが自ら納得のできる選択や決定ができ、周囲の人々との間に共同的な関係性を構築するためには、学生自らが主体的に学び他者と関わる機会が重要と考え、授業では学びの意欲を引き出すような学生の興味関心に即したテーマや話題を取り上げながら、学ぶ喜びや楽しさに気づけるような教育実践を行っている。

担当している講義科目の「心理学」とは、現代の多様かつ複雑な社会を生きて行く上で重要な知識となるだけでなく、自身や他者とが相互によりよく共生していくうえで重要な心身の健康に密接した学問と考える。特に、コロナ禍以降においてはメンタルヘルスの問題は非常に深刻な社会問題として認識されるようになり、病気の回復だけでなく予防も含めたメンタルヘルスケアやストレスマネジメントは誰にとっても重要な課題である。とりわけ、対人援助職を中心とした専門職や社会貢献として人々と密接にかかわる領域では喫緊の課題であり，そういった職種を志す大学生が大学生活を送る上で現実的な課題解決ができるよう支援したいと考えています。そのために，授業では大学生にとって身近な問題やストレスを中心に，心理教育だけでなくグループワークやボディワーク，ディスカッションといった実感の伴いやすい体験的な学びを提供するような授業を進めている。

また、教員として学生の学修面の成長に尽力するだけでなく、大学生活を通して社会に生きる人としての成長を支援する視点が重要と考えている。臨床心理学を専門とする教員であるだけでなく、学生相談室の常勤カウンセラーという立場からも、特にさまざまな心理的危機にある学生や障がい学生に対して学生の心理社会的背景を理解しながら、細やかな支援を心掛けている。そのためには、学生本人に対する支援

だけでなく学生に必要な支援を提供する部署や他機関、また関係者とも連携・協働をすることで、学生が包括的なサポートを受けながら、学生自らが本来持っている力を発揮し大学生活に適応し経験や学びを得ていけるような体制の構築に尽力したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
心理学	15/15(前期)	2	78	①②③④⑤⑫
心理学	15/15(後期)	2	21	①②③④⑤⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートは、心理学の科目にて実施した。本科目は、薬学科・健康栄養学科の主に1年生を対　象として、対人援助職として人の心理について学ぶことが主な目的であった。授業では、心理学のなかで発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学の分野について取り上げた。アンケート結果では、本授業全体の満足度は、概ねどの学生においても理解度とともに高い結果が得られた。これは、学生にとって身近なテーマや興味関心、トレンドに即したテーマを取り上げたことや、動画や体験的なワークを取り入れたことが影響していたと考えられる。しかしながら、一方で授業自体の学修時間が大幅に少なかったことから、学生が主体的に授業外で学修を行うような確認テストなどを授業内にて取り入れる必要があったと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

これまで大学生を中心に不安やうつの惹起・持続に関与する非機能的思考や心配に関する実証的研究を行ってきた。今年度は、コロナ禍とアフターコロナ2023年にオンラインにて、心配、本来感、セルフ・コンパッションという心理的特性に着目し、調査を実践したデータをもとに分析を進め、心理臨床学会に投稿を行った。現在、査読中である。今後は、研究結果をもとに具体的な心理臨床の支援について、支援を必要とする学生への支援や介入だけでなく、早期発見、またメンタルヘルス問題の予防についても寄与する研究実践を引き続き行っていく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大学生のストレスコーピングの列記と共有の体験の効果／2023年3月／九州大学総合臨床心理研14／31頁-37頁（査）／共著／論文

長崎国際大学における全学生を対象としたスクリーニング調査の意義と今後の展望ーCCAPS-iQASの導入をふまえてー／2024年3月／長崎国際大学論叢第24巻／59頁～71頁（査）／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員/専任カウンセラー/学生相談室室長	委員、専任カウンセラー、学生相談室室長として、合理的配慮等の検討会議に参加し、年に２回の総括会議では学生相談室の統計データの資料作成・報告を行った。また、こころの健康調査を実施し要支援学生の早期スクリーニングを行った。毎週火曜日には、学生の居場所と交流の場を提供する活動としてランチアワーを主催した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障がい学生支援プラットフォーム事業	委員	障がい学生のための就職支援に関して、事業所・南高愛隣会と学内とで連携して事業運用について検討し協議した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにて、障がい学生のための合理的配慮に関する案内や相談窓口を設け、保健室室長と共に保護者や学生本人からの入学後のキャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの取り組みや対応について発信し、本学の広報活動へ貢献した。

時期：2025年7月～8月、2026年3月/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第46回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和7年度佐世保市初任者教員研修・中堅教員研修「メンタルヘルスについて」	令和7年8月1日	佐世保市教育センター	佐世保市教育センター

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院附属総合臨床心理センター	研究員	2025年4月～2026年3月	九州大学大学院人間環境学府

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2025年4月～2026年2月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」にスーパーヴァイザー、もしくはトレーナーとして毎月参加した。主催：長崎県肢体不自由児者父母の会連合会

②2025年4月～2026年1月：「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」
にスーパーヴァイザー、もしくはトレーナーとして毎月参加した。主催：佐賀県有田市

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、教材研究を行った上で授業内容の構成やテーマを決めて行った。また、授業内で受講学生から寄せられたフィードバックを基に、授業内容や方法についても改善に努めることができた。さらに、昨年公開授業を担当したことで、学生だけでなく他教員からの指摘や意見を受けて授業方法等を工夫することができた。結果として、今年度の授業アンケートでは、授業の理解度・満足度ともに4．5以上の結果を得ることができた。研究活動においては、これまでの研究データの分析等をすすめ、学会誌へ投稿することができた。また、今年度は心理学関連学会へ投稿し、現在査読が進んでいる。さらなる研究計画をすすめ、調査研究だけでなく事例論文の執筆、および心理学関連諸学会への論文投稿を目標とする。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員としてはもちろんのこと、学生相談室常勤カウンセラー、及び相談室室長として多くの学生の面接を行い学生の大学生活への適応を支援した。学生本人だけでなく、教職員や外部機関との連携・協議も積極的に行い、相談室だけでの支援にとどまらず学生が必要な支援を他部署や他機関とも協力して行えたと考える。学外では、九州文化学園グループとして、九文小・中学校、及び調理師専門学校、歯科衛生士学院において、毎週スクールカウンセラーとして従事した。小中学校では、生徒のカウンセリングだけでなく、保護者面接を実施し必要に応じて、子どもの心理検査の実施を行った。専門学校、学院においても、学生の心理面接だけでなく、専門家として教員との情報共有や対応に関して協議を行うことで、学生の離学防止に繋がったと考えられる。

社会貢献活動においては、佐世保市特別支援学校や有田市の心理リハビリテイション活動に専門家として定期的に参加し、肢体不自由児・者を中心に支援を行った。また、佐世保市教育委員会からの依頼に応じて、新任および中堅教員のための研修会に講師として参加した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 山下　彦

1．教育理念

教育者としての役割は、社会福祉実践者として公共性に寄与する人材を育成することである。具体的に私は次の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。学生が主体的に学び、考え続ける習慣を身につけることができるよう、授業を通し問いかけながら、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、予習と復習を行うよう働きかけている。予習は、授業前日までに次コマの授業資料を教育支援システムにて配信している。そこでの疑問点等を授業中にフィードバックしている。復習は、授業内もしくは次コマ冒頭で確認テストを実施し、答えを導き出した理由を問い、学び続けるための習慣化に努めている。

各ゼミ、演習系の科目も同様に、しっかり予習・課題の提出をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、自己と他者の考えを整理したうえで、理論を基に自らの考えを導き出せるように働きかけている。学び続ける習慣が身に付くよう、授業後のレポート提出を行い、その提出を徹底する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	9	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ	90/90(通年)	4	4	⑦⑫
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ）Ⅱ	15/15(後期)	2	43	①④⑩
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	9	①⑤⑥⑦
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	15/15(前期)	1	4	①④⑥
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	9	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	9	①②④⑤⑧
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	9	⑥
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	2	④⑤⑥⑦⑫
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅲ	15/15(前期)	1	12	⑤⑥⑦
コミュニティづくり総論	2/15(前期)	2	20	①②③④⑥⑧⑩⑪
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	17	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
障害者福祉	15/15(前期)	2	46	④⑩
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ）Ⅰ	15/15(前期)	2	47	①④⑤⑦⑨⑩
権利擁護を支える法制度	15/15(前期)	2	41	①④⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ、ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ等を実施した。満足度の平均が4.4前後の結果であった。実習につながる科目であるため、目的意識を持ち意欲的に取り組む様子が伺えた。今年度改善した点は、実践場面を想定した働きかけである。今後は、実践場面の教材を取り上げ俯瞰的な捉え方を促すようにしたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	健康支援と社会保障制度	15/15(後期)	53	51

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験演習（社会）Ⅰ	3	26	5月13日、6月10日、6月17日
国家試験演習（社会）Ⅱ	7	26	10月28日、11月4日、11月18日、12月2日、12月16日、12月22日、12月26日
社会福祉士受験対策　追加学習（夏季）	6	26	9月1日（2コマ）、9月8日（4コマ）
社会福祉士受験対策　追加学習（冬季）	3	26	12月19日
社会福祉士模擬試験	2	26	11月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

主体的なボランティア活動の継続に向けた個人・集団・地域社会における要因の解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	委員会議案等について学科内で審議・報告事項のとりまとめを担った。
広報委員会	委員	委員会議案等について学科内で審議・報告事項のとりまとめを担う。さらに学科内記事をとりまとめホームページ掲載の依頼を担った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科内就職委員会	委員	合同企業説明会の企画を中心的に担う。加えて就職ガイダンスにおいて企画分担を担った。
学部教授会担当	委員	学部教授会開催にあたり、議題および関連資料をとりまとめ、円滑な会議運営を担務した。
専門基礎演習部会	部会長	各種オリエンテーションの運営や専門基礎演習、専門演習のクラス編成など全般的な業務を担った。

学生生活サポート室	室員	学生生活サポート室室員として、他学部を含めた学生相談を受け、CHサポートセンターと連携し協力した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①令和7年度オープンキャンパス（全3回に参加。うち1回、準備・運営として担務）

②学科合同企業説明会、学科就職ガイダンス（企画主担当）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第47回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市生活困窮者自立相談支援調整会	委員	令和6年4月～令和8年3月	社会福祉法人佐世保市社会福祉協議会
佐世保市小値賀町介護認定審査会	委員	令和7年4月～令和9年3月	佐世保市長寿社会課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①九州文化学園創立80周年記念事業　名切SDGｓフェスティバル実行委員（学園の魅力を発信する企画担当）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

⑶ その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当科目の教材研究を行うと同時に、受講生からのフィードバック及び小テストの結果等をもとに授業内容の改善を図った。その結果、今年度の授業アンケートでは、4.0以上の満足度を結果として得ることができた。また1、2年ゼミ生の学修・生活状況等を気がけ、必要に応じて個別面談を早期に実施した。離学者等は0人であった。学修習慣の定着を促すよう定期的にゼミ生を指導した。

研究は学科内における国家試験受験支援の取り組みに時間を要しできなかった。しかし学生に対する学習支援を充実させることで研究に対する方向性も見いだせる機会となった。

大学運営では、全学委員会及び学科委員会において、概ね委員としての役割を務めた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　社会福祉　　職名 助手　　氏名 金子　麻美

１．教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために自己理解と相手の多様な価値感を”ソーシャルワークの価値観”として理解できるような支援を行いたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

該当なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰオリエンテーション（補助）	1	31	4月15日（火）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱオリエンテーション（補助）	1	34	4月15日（火）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ三者協議会（補助）	1	31	6月17日（火）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ三者協議会（補助）	1	34	6月17日（火）
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅱ三者協議会（補助）	1	10	6月17日（火）
介護総合演習Ⅰ　三者協議会（補助）	1	9	6月23日（月）
介護総合演習Ⅲ　三者協議会（補助）	1	5	6月27日（金）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ三者協議会（補助・面談）	1	31	10月14日（火）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ三者協議会（補助・面談）	1	31	10月21日（火）
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ三者協議会（補助・面談）	1	31	10月28日（火）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	10月16日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	10月23日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	10月30日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	11月13日（木）

国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	11月20日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	12月4日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	12月11日（木）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	12月18日（木）
介護総合演習Ⅰ　三者協議会（補助）	1	9	12月19日（金）
介護総合演習Ⅱ　三者協議会（補助）	1	7	12月19日（金）
国家試験合格支援（レベルチェックテスト）	1	26	1月8日（木）

３．研究活動

(1) 研究テーマ

障がい者福祉・地域福祉・バリアフリー・SSW等

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
社会性と共感性の涵養を視座とする親子関係発達支援プログラムの開発	※科研費　中村尚生先生と共同	2023年4月～2027年3月	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
社会福祉学科運営委員会	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、議事録管理、連絡調整等。
SW・COコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
CWコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
MHコース会議	委員	実習関連における連絡調整及び書類発送業務他実習関連事務業務。学内の催事の際の準備・運営。各種検査対応。
国家試験合格支援委員会	委員	国家試験に取り組む3年生・4年生に向けた模擬試験の資料準備等。書籍や物品購入他、学生相談対応。 問題の印刷業務及びその他事務業務。試験監督・レベルチェックテスト及び追加学修時間補助監督等。
社会福祉学科25周年記念式典運営委員会	委員	25周年記念式典開催に向けた全般的な事務業務。当日運営等。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・九州文化学園高等学校/7月14日/場所：長崎国際大学　運営補助

・諫早市多良見地区社会福祉協議会大学訪問/12月5日/場所：長崎国際大学　大学案内運営補助

・インスタグラム開設及び運営補助

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第48回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	令和4年11月～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

⑶ その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学科運営業務や全資格における実習関連において、教員及び実習先と連携しながら、無事に業務を遂行することができた。実習支援システムの活用については、まだ引き続き課題はあるものの円滑な運用を目指して努力したい。事務業務が複雑化してしているため、より効率的なシステムに移行できるよう取り組んでいきたい。

学科内は各コース会議に所属し、全体を把握することを努め、すべての実習関連が円滑にすすむように取り組み、サポートに努めることができたと感じている。

国家試験関連では今年度はとくに学生と一丸となって合格支援をサポートし、配慮学生の会場への引率を行うなど、先生方の裏側で最後まで一緒に取り組むことができた。各資格の合格率も向上し今後も自身の役割をしっかりと理解し、本学科の実習及び教育活動が常に発展するよう行動していきたい。

学生募集（オープンキャンパス）については、高校生と保護者との交流を図ることができた。インスタグラムや高校生が興味がある電子媒介を活用し、福祉の魅力を発信できるよう努めていきたい。来年度は掲載回数を増やすことや魅せ方も工夫していきたいと考えている。

研究面については、目標としていた紀要への提出についてはなかなか思うように進んでいない現状であり、より計画的な遂行を心掛けていきたい。確実な時間の確保をコントロールし、1歩でも前に進んでいくことができるよう取り組んでいきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 熊井　まどか

１．教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。

・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。

・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。

・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。

・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/15(通年)	2	33	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	4/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	30	①⑩⑪
解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	29	①②⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑪⑫
解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	54	①②⑨
解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	27	①②⑨
生活支援技術ⅠB	1/15(後期)	1	9	④⑤⑦
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	25	①⑩⑪
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	29	①⑩⑪
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	25	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	4/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15/15(前期)	2	3
健康科学演習	30/30(通年)	4	1
代謝栄養学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

〔前期〕

解剖生理学Ⅰの評価は、受講態度4.5、授業内容4.7、授業方法4.8、理解度4.6，満足度4.8であった。

〔後期〕

栄養生理学実習の評価（2クラス平均）は、授業態度4.2、授業内容4.9、授業方法4.8、理解度4.7、満足度4.7であった。

・授業改善と授業効果

「解剖生理学Ⅰ」では、manabaを活用した復習ドリルや授業動画の配信に関して高い評価が得られていることから、今後も継続して行う予定である。また、次年度は、一方向の講義にならないよう、学生への問いかけを増やすよう努めたい。

「栄養生理学実習」においては、実習前に関連する分野の講義やレポート返却後の実習のまとめを丁寧に行い、理解度の向上を図る。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	28
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	29

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・妊娠期の栄養が胎児・子に及ぼす影響

・低糖質高たんぱく質に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Maternal iron deficiency alters the expression of glucose transporters in offspring／2025年10月／Journal of Developmental Origins of Health and Disease／10.1017/S2040174425100238／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	全学共通教育に係る事項の審議等
教員資格審査委員会	委員	教員の新規採用、昇任に係る事項の審議等
防火・防災委員会	委員	防火・防災管理、対策に係る事項の審議等

危機管理委員会	委員	危機管理に係る事項の審議等
人事委員会	委員	教員の新規採用、昇任に係る事項の審議等
輸出管理委員会	委員	輸出管理に係る事項の審議等
グローバル推進協議会	構成員	「国際化ビジョン」の確認等
全学教育会議	構成員	大学・大学院の教育活動の総合的実施に係る事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第49回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
（NPO）日本栄養改善学会	評議委員	2024年11月～2026年10月	（NPO）日本栄養改善学会
（NPO）日本栄養改善学会　九州・沖縄支部	幹事	2025年8月～2027年7月	（NPO）日本栄養改善学会九州・沖縄支部
第73回日本栄養改善学会学術総会	実行委員（学術委員会委員）	2025年9月～2026年9月	第73回日本栄養改善学会学術総会
健康ながさき21推進会議	栄養・食生活部会長	2025年5月～2028年6月	長崎県国保・健康増進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1年前期より単位を取得できない学生が増えており、成績不良による離学を防止するためにも引き続き丁寧な指導を心掛けたい。

国家試験対策においては、正課外の講義への参加を希望しない学生が多く、成績も十分な伸びがなかったため、次年度の実施方法については検討する必要がある。

今年度は、ゼミ生6名、大学院生1名を輩出することができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 古賀　貴子

１．教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものであ る。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	45	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	27	①③⑩
調理科学（食品加工学を含む）	15/15(前期)	2	57	⑨⑩
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	27	①③⑩
調理学	15/15(前期)	2	41	⑨⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	29	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	29	②⑩⑪⑫
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	30	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	28	②⑩⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養科学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目については、パワポの資料をさらに見直して、特に最新のデータ（法改正に伴う部分など）を入れるなどより良いものとするように努めた。学生からのコメントでも、最新の数値などをしっかりと訂正していたので、今後の勉強で訂正していないものを覚えるよりも効率が良いと思った。プリントは教科書の重要なところがきちんとまとめられていて分かりやすかったとの意見があった。国家試験の「食べ物と健康」の箇所に関わる科目であり、覚えることも多い科目であると思うが、重要な所をしっかりと伝えながら授業を進めていきたいと思う。これまで通り、学生には多く質問をしながら質疑応答形式を取り入れた授業進行にし、一方通行の授業にならないように努めたい。

実習科目については、実践に対応する論理的知識を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 （開講時期等）	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策講座（前期）	3	58	2025年5月から7月までの間
国家試験対策講座（後期）	12	58	2025年9月から2026年2月までの間

３．研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

大量調理における食品の調理特性（調理科学的変化）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

食品開発における「匠の技」再現技術と工業化／共著・編著／2025年6月／株式会社エヌ・ティー・エス／43頁～53頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大量炊飯に用いた調理機器の違いが米飯の品質に与える影響／2025年3月／長崎国際大学論叢　第25巻／85頁～94頁（査）／共著／原著論文

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年4月／日本調理科学会誌／1頁～7頁／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

嚥下調整食における保存および再加熱がテクスチャー・栄養価に及ぼす影響～第3報～／2025年10月12日／第20回日本給食経営管理学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特になし
自己点検・評価委員会	委員	特になし
発明等審査委員会	委員	特になし
利益相反マネジメント委員会	委員	特になし
産学連携・研究支援センター委員会	委員	特になし
全学教育会議	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康栄養学科研究倫理委員会	委員長	研究倫理審査

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第50回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
21	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和7年度佐世保市「乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座」	2025年5月8日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年5月26日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年8月25日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年11月17日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2026年2月16日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年6月16日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年9月1日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2025年12月8日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	2026年3月9日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子ども未来部　保育幼稚園課
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年5月29日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター

令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年6月5日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年7月17日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年7月24日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年10月2日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年10月9日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年12月4日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2025年12月11日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2026年2月12日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和7年度佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」	2026年2月19日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園園内研修	2025年11月13日	サンアビリティーズ佐世保	佐世保市子ども発達センター
嚥下機能が低下した人の食事形態～嚥下調整食（学会分類）～	2026年1月29日	サンアビリティーズ佐世保	佐世保市「ユニバーサルライフ研究会」

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本調理科学会九州支部	幹事	平成30年7月～現在	日本調理科学会九州支部
一般社団法人日本調理科学会	代議員	2026年1月1日～2027年12月31日（任期2年間）	一般社団法人日本調理科学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園の非常勤管理栄養士／すぎのこ園園児の摂食や栄養面などについて、令和7年4月14日は実際の給食場面における食事提供状況についてのアドバイス、その後は毎月1回のメールでの書類での確認等

「女子中高生のための！リケフェスinSASEBO」において「食べ物DEサイエンス」のブースを担当した。／令和7年6月14日／長崎国際大学

長崎県立佐世保南高等学校の「総合的な探究の時間」に関し、探究発表会の参観、講評、助言、審査等／年間3回行った（令和7年7月4日、9月11日、令和8年3月12日）。／長崎県立佐世保南高等学校

佐世保市江上地区公民館祭りに参加される地域の高齢者を対象に、各領域（身体機能・栄養状態・服薬状況・健康状態）に関する提案について、栄養状態を担当した。／11月23日／旧ポリテクセンター体育館

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2025年度健康栄養学科長を務めた。当初は不安であったが、学部長に指示を仰ぎながら、また学科教員にご協力いただきながら何とか一年間を終えようとしている。少子社会の中、管理栄養士になりたい生徒数も増えない状況は、本学健康栄養学科の入試受験者数にも大きく響いている。この状況を少しでも改善すべく、佐世保市民の方に大学を身近なものに感じていただけるよ

う、次年度は健康栄養学科の公開講座の開催に向けて、学科内ワーキンググループを立ち上げて計画を進めている。また、学外の講師依頼も、佐世保市関連の分（佐世保市幼児教育センター、佐世保市北部子育て支援センター、佐世保市東部子育て支援センターおよび児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園の非常勤管理栄養士）は令和8年度分についてもすでにいただいており、社会貢献の一つになると考えるため、精一杯務める。なお、仙台市役所より、仙台市主催の栄養士研修会の依頼をいただいており、仙台市の公立、私立保育所、認定こども園の栄養士向け（令和8年6月開催予定）と仙台市の小規模保育施設栄養士向け（令和8年9月開催予定）の講師を務めることとなっている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 林　俊介

1．教育理念

私の教育理念は、将来、様々な現場において活躍することのできる管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一歩を踏み出す活力を授業展開だけでなく、初年次教育から卒業研究、臨地実習などの活動を通して育むことである。

学生には、管理栄養士として将来活動するために求められる知識と技能を十分に修得し、確実に国家試験合格を目指すという目的意識を高めることを期待している。よって、学生指導や授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行くことを目指している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	3/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	3/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	3/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	3/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	3/15(通年)	2	33	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
在宅医療概論	1/15(前期)	2	213	①②⑤⑩⑪
治療食実習	15/15(前期)	1	40	①②③④⑧⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	44	①②③④⑤⑦⑩⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
生活支援技術ＩＢ	1/15(後期)	1	9	④⑤⑦
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	52	②③⑦⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	45	②③⑦⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/17(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養管理学特論	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度も講義科目は全て1クラス実施となった。本年度の同科目の授業アンケートでも評価は、1回の授業に参加する学生数が増えても授業の満足度は担当するいずれの科目でも高いレベルで維持されている。

学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問と考察と学生同士での短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品、低たんぱく食品、アレルギー対応食品などの様々な製品を

手に取らせ、実物を体感できるようにしている。出席カードに記載された質問等には、マナバを利用して、回答、解説を丁寧に行っている。

学生数減少のため、本年度は、2年生、3年生ともに講義は、1クラスでの実施となった。1クラス40～50名程度と1回の授業の受講者数となっているが、履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。自分の知っている有名人、実際の患者の様子、コメントなどを見ることで、より身近な問題として認識され、興味が高まったと授業アンケートでは多数コメントをもらっている。

本年度も定期試験(筆記試験)を実施し、課題レポートも「調べ学修」に繋がるように、授業で学修した疾患について、身近な対象者にインタビューをしてみることや自身の出身地での疾病状況や生活習慣や食習慣などを調べることが必要な内容を設定し、より学生の学修が深まり、興味関心が高まるようにした。授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋がったと考えている。授業アンケートや課題レポートの中でも、実際に管理栄養士が社会や患者から求められていることが具体的に分かったなどのコメントも多数あった。

来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	1	26

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育と食事療養の実践に関する研究
2. 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長として各学科の委員及び事務局と取り組み、各学部、その他の委員会等との調整を行った。 教務委員会の運営、全学教授会での審議・報告を行っている。 新任教員に対する研修の実施 TAに対する研修の実施 教員資格審査委員会にて、全学共通科目担当者の申請 本年度は、認証評価に対応するため、様々な資料作成や実施調査での面談対応を行った。
全学共通教育委員会	副委員長	教務委員長として、全学共通教育の改善に取り組んだ。
健康栄養学科教務委員会	委員長	学科における教務に関わる種々の業務。学科教員への連絡、調整等。
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎	運営委員	「在宅医療概論」の科目担当。※NICEキャンパス長崎の登録科目

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	委員(QSP科目群創出WG)	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、QSP科目群創出WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。 ・QSP参画校での共通授業の創設に関する取組 ※本年度、QSP参画校8校でQSP科目群の創設に取り組み、教務的な手続きを進めた。次年度、最初の科目として、西九州探求(長崎学・佐賀学)Ⅰ・Ⅱの開講に向け、段取りを付けた。 ・QSP参画校での教学(IR)に関する共同IRデータ収集と公開 ・共同FD・SDの企画と実施 ・QSP人材バンクの構築と運用 ・事業推進会議、事務責任者会議にて、担当するWGの活動について報告等を行う。 ・WGの合同会議の開催 ・申請書類の作成
私立大学等改革総合支援事業タイプ1(特色ある教育の展開)	副WG長	教務委員長としてタイプ1の内容に関する情報の取りまとめの作業に従事。
大学コンソーシアム長崎	ワーキンググループメンバー	NICEキャンパス長崎の活性化のために本年度新設された県内大学・短期大学での共同実施科目「長崎学Ⅰ・Ⅱ」について、学内外の担当者と連携して授業プログラム構築と実施。
全学共通科目カリキュラム改革WG	ワーキンググループメンバー	全学共通科目におけるカリキュラム改革のための検討。教務委員会委員長として参加。

(3) 課外活動の指導等

令和2年度(2020)より、ボランティアサークル「絆」の顧問を務めているが、本年度、部員不足のため、活動停止、サークル解散となった。

担当者ではないが、きのこ倶楽部で活動している学生が本学科にもいる関係で、きのこ栽培の会社への訪問の引率や開国祭での模擬店出店の指導等、サークル活動の支援を行っている。その活動等は、本学科のInstagramで話題を投稿し広報に繋げている。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第51回新着人教員研修会	出席

2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県栄養士会で県内、栄養士養成校5校の有資格者の教員(約60名)からなる研究教育協議会の運営委員(代表者)を令和4年度、5年度と務め、6年度と本年度は監事として活動をしている。

監事として研究教育協議会のスキルアップ研修会・事業総会の実施など運営面でのサポートをしている。

栄養士会の活動などを通して、また大学としての社会貢献、地域貢献に大きく寄与している。これらについて、大学の公式サイト、SNS等を通じて情報発信を行い、大学広報、認知度アップにも尽力している。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

地域の栄養士の先生方や卒業生からの求人依頼に対し、キャリアセンターや学生、卒業生などへの紹介を行い、就職に繋がるよう支援を行った。

学生の就職活動のための模擬面接を行い、就職活動の支援を行い、それらについてInstagram等で情報発信に取り組んだ。

地域の栄養士の先生方や卒業生へ臨地実習受け入れについて依頼を行い、実習施設の確保に努めた。

教養セミナーや卒業研究の研究活動、普段の授業の様子、本学科の学生が関わるサークル活動、卒業生の紹介に関して学科の話題として、大学公式サイトやInstagramなどへトピックスの投稿を積極的に行い、情報発信に努めている。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度、教養セミナーは1年生5名を担当。5名とも1年間学修を継続させることができた。充実した指導を行い、後期のプレゼンテーションでは、長崎和牛について取り組み、レシピ動画をコンテストにチャレンジするまでの活動を紹介した。

2年生は、6名担当している。1名は、原級留置きが決定したため、今後、離学しないようフォローしていく。休学中の1名は、後期にイギリス留学を希望したため、スムーズに留学できるよう支援した。

3年生は、6名のゼミ生を担当し、卒業研究の活動を行っている。他のメンバーは、卒業研究の活動として腎移植患者の訪問調査やフェニルケトン尿症のレシピ集製作に取り組んでいる。充実したゼミ活動に取り組むことができている。

4年生7名は、フェニルケトン尿症、腎移植のテーマで卒業研究の活動に取り組んだ。卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表及び論文の提出をする事が出来た。卒業試験には不合格となり3名が、卒業延期となった。次年度は、卒業できるよう引き続きサポートを行っていく。1名は、体調不良により本年度1年間休学となり、4月より休学延長となった。継続してサポートを行っていく。

教務委員会

昨年度より全学の教務委員会の委員長を務めている。授業や定期試験の実施など教務に関わる様々な事項の全学的な検討、取りまとめを各学部・学科及び事務局と取り組んだ。本年度、認証評価に対応するため資料作りや実地調査などに従事した。

また、学科の教務委員長として、学科での教務に関わる種々の業務を適切に遂行した。

私立大学等改革総合支援事業　タイプ3

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、QSP科目群創出WGの事業推進の実務を担っている。本WGは、本学が責任校である。

このプラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の参画校8校の連絡調整の窓口となり、事業推進協議会、事務責任者会議等の全体会議の資料作成や会議での報告を行っている。タイプ5の応募案作成時から担当し10年目である。事業推進に取り組み、タイプ3は文部科学省から継続して選定をされている。

本年度は、QSP科目群創出WGの責任校担当者として、これまで取り組んできた大学間連携での単位認定互換制度の構築のための協議を進め、「西九州探求」について科目の創設を行うことで、参画校間での合意形成を図り、事業推進の道筋を整えた。次年度、西九州探求(長崎学・佐賀学)Ⅰ・Ⅱとして、開講することができるよう段取りを付けた。

また、人材バンク(人材派遣事業・データベースの構築)、その他に連携校との共同SD・FD(オンライン形式)を実施した。さらに大学の質保証の取組として、教学(IR)に関する連携校の情報収集を行い、情報公開を行った。運営会議を開催し、今後のWGの取組の方向性について、検討を行った。様々な取組はQSP公式サイトでも情報発信を積極的に行った。教務委員長としての仕事と合わせて、かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

研究活動

現在は、フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動をメインの研究テーマとして取り組んでいる。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生の学びとなるものと考えている。

また腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。本年度も訪問調査をゼミ学生と実施させて頂いた。

これまでPKUの食事療法のためのレシピ集製作に取り組んでおり、関係者へのレシピ集の配付を行い、この分野の研究者や医療従事者、他の疾患の患者団体との交流を深めた。本年度は、レシピ集を冊子版からオンラインで利用ができるデジタルブックで製作し、この分野での活動の幅を着実に広げている。

次年度、改訂版のレシピ集を全国のご家族へ配布すること、合わせてアンケート調査を実施することを予定している。次の3年生には、これを発展させた内容で研究活動に取り組んでいく。これらのテーマで論文作成、学会発表へとつなげ、今後、研究の質を高めていきたい。我々の研究活動及びアンケート結果について、PKU親の会連絡協議会の機関紙に寄稿し、全国の患者・家族への情報提供を行った。この分野で、本学の知名度は高まったと考えている。Instagramを用いた情報発信も積極的に行い、PKU家族からのフォローも多くある。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。多くの卒業生が病院や施設など現場に就職し、様々な業務に従事している。

今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 廣田　昌彦

１．教育理念

毎回の授業の中で、「ひとつでも二つでも、頭か心に残る内容があればよいな」ということを心がけて授業の準備をしています。また、わかりやすい、かみくだいた表現を心がけています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	0/15(通年)	1	45	なし
管理栄養士演習	0/15(前期)	2	25	なし
総合演習Ⅱ	0/15(後期)	1	49	なし
管理栄養士演習	0/15(後期)	2	32	なし
栄養と薬	15/15(後期)	2	40	①②③⑨
解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	29	①②⑨
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	58	①②③⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	2	①②④⑥⑨⑩⑫
解剖生理学Ⅰ	2/15(前期)	2	54	①②⑨
解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	27	①②⑨
スポーツ医学	7/15(前期)	2	40	②⑩⑪⑫
栄養学応用演習Ⅱ	15/15(後期)	1	14	①②③⑨
栄養学専門演習	0/15(後期)	2	42	なし
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	65	①②③⑨
医学概論	12/15(前期)	2	34	①②③⑨
総合演習Ⅱ	0/15(前期)	1	7	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

毎年、授業内容については、見直しの上、改訂している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	2/15(前期)	不明	不明
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	不明	不明
九州文化学園高等学校看護専攻科	病理学	7/7(後期)	不明	不明

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

学部名・学科名でもある「健康管理」「健康栄養」に関して、医学の視点から分析し、一般の方々や学生達にわかりやすく説明する活動を行っている。健康管理学部の学生の卒業研究では、チョコレートやコーヒーが、音楽・映画など、文化的な活動にどう取り扱われているかを解析してもらっている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

「人体」の中では何が起こっているのか／単著／2025年10月／ベレ出版／１頁～408頁

救急・集中治療最新ガイドライン2026-’27／共著・編著／2026年3月／克誠堂出版／326頁～328頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHセンター運営委員会	委員	会議では、産業医としての意見を述べた。大学入学共通テストでは、医師として保健室業務を行った。
研究センター運営委員会	委員	長崎国際大学論叢の編集、および投稿論文の査読を行った。学術研究報告会で発表を行った。
安全衛生委員会	委員	会議では、産業医としての意見を述べた。高ストレス者の面談を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

サッカー部の副顧問を務めた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席

2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第52回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
第296回熊本滅菌業務研究会特別講演	2025年3月16日	国立病院機構熊本医療センター	熊本滅菌業務研究会
長崎短期大学健康講話	2025年9月16日	長崎短期大学	長崎短期大学
長崎国際大学第26回学術研究報告会	2026年2月26日	長崎国際大学	長崎国際大学研究センター運営委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立急病診療所運営委員会	委員長	令和4年～現在に至る	佐世保市長
佐世保市立急病診療所安定運営検討専門部会	委員長	令和6年～令和7年	佐世保市長
佐世保市立総合医療センター地域医療支援病院運営会議	委員	令和5年～現在に至る	佐世保市立総合医療センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

次年度は、長崎国際大学での最終年度になるので、区切りがつくよう、また、引継ぎが必要な活動についてはスムーズな引継ぎができるよう、努めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 山口　留美

1．教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。

臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけではなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に着けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/15(通年)	2	33	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
給食栄養管理実習（学内）	15/15(後期)	1	35	④⑥⑦⑧⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	54	②③⑩
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	3	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	3	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	44	②③⑤⑩
臨床栄養管理実習	15/15(後期)	1	46	②③④⑥⑦
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する評価は概ね良好であったが、学生の自己学習評価点数が低い傾向である。復習に関しては、授業の最初に前回の内容および学生からの質問を解説を行っているが、予習は学生の知識を深めるためにも大変重要な項目であるため、さらなる工夫が必要であると感じ

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
佐世保市立看護専門学校	8	56	2025/5/8、5/15、5/22、5/29、6/5、6/12、6/19、6/25

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者における栄養管理に関する研究
妊娠糖尿病患者の食生活に関する研究
緩和ケアチームにおける管理栄養士の関りに関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント　第5版／共著・編著／2023年3月／医歯薬出版株式会社／P405～418
新版　臨床栄養学／共著・編著／2022年4月／同文書院／P197～P209

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特待生や奨学金対象学生関係の検討やクリーンキャンパス実施等に関わった。また、フレッシュマンセミナーでは新入生や教員の交流ができる内容を検討、立案を行った
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター	委員	配慮を必要とする学生との面談やフォローなどを行い、安心して学生生活が送れるよう活動した
臨地実習委員会（学科）	委員	学生が有意義な臨地実習が行えるよう、検討及び指導を行った
国家試験対策委員会（学科）	委員	国家試験に向けた学生フォローを話し合い、実行した。また、3年生向けに栄養士実力認定試験の手続きや実施を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第53回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士スキルアップ研修	6/29	オンライン	日本栄養士会
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士「経腸栄養管理の基礎」研修	7/5、7/6	オンライン	日本栄養士会
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士「静脈栄養管理の基礎」	10/19	オンライン	日本栄養士会
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士「静脈経腸栄養管理の応用」	12/13	オンライン	日本栄養士会
令和7年度　食事サービスボランティアグループ研修会	2/13	早岐地区コミュニティーセンター	佐世保市社会福祉協議会
特定給食施設栄養管理研修会	9/11	武雄総合庁舎　杵藤保健福祉事務所	杵藤保健福祉事務所
福岡県栄養士会夕遊講座	10/28	オンライン	福岡県栄養士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

11/23　長崎国際大学社会福祉学科久田貴幸先生の研究「高齢者の身体・口腔機能・栄養状態・服薬状況と自立度との関連について―地域住民を対象とした横断的調査―」の共同研究者として、地域高齢者の栄養評価を行った

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

授業アンケートにおいては概ね良好な結果ではあったが、学生への修学意欲をもっと引き出す方法はなかったかと反省し、今後の課題とした。

他大学の先生方や管理栄養士の先生方との交流を含め情報交換などを行い、学生に還元できる様活動を行った。

今後も研究活動を行いながらも、より学生に寄り添った活動を行っていきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 川内　美樹

１．教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、４年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。
私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、４年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	27	①⑪
栄養代謝学	15/15(前期)	2	28	①③⑨
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
生化学	15/15(後期)	2	25	①③⑨
栄養代謝学	15/15(前期)	2	28	①③⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	28	①⑪
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	36	①⑧⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	21	⑨⑪
生化学	15/15(後期)	2	29	①③⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床生化学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は昨年同様2クラス編成の少人数で授業をすることができた。今まで学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を 引き続き導入した方法で実施した。質問1の予習の項目が徐々に上がってきているので、引き続き予習の大切さは伝えていきたいと思う。今年度の学生は、あまり理解できなかったというコメントは少なかったが、試験結果を見ると全くわかっていない学生は一定数いる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討して確実に勉強できるように指導していきたい。小テストを実施しても学力差が大きく、下位の学生をどのように指導していくべきなのか学科全体で検討が必要である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	栄養学	14/14(前期)	2	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

酒粕が糖尿病モデルマウスに及ぼす影響
酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響
佐世保産オリーブの有効活用への挑戦～有効なオリーブ葉エキスの抽出法の確立とエキス活用方法の検討～
がんの進行及びカヘキシアの発症に対するグレリンの効果

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	副委員長	学内におけるハラスメント事案に対する対応 ハラスメントFDの実施 ハラスメント防止パンフレット作成等
自己点検・評価委員会	委員	授業アンケート結果による学部長面談 授業改善のための公開授業 SD・FDの計画的実施及び調整
教育基盤センター運営委員会	評価IR・研修部門長	学修成果の可視化 授業評価の企画・運営 職員の質向上のためのSDの企画・運営 教員の質向上のためのFDの企画・運営
教育基盤センター紀要編集委員	委員	教育基盤センター紀要編集
IRセンター委員会	委員	IRコンソーシアム学生アンケートの集計結果の考察 卒業生アンケート集計結果の考察
学科国家試験対策委員会	委員長	模擬試験の実施、成績のまとめ 国試対策演習の実施計画 朝テストの実施 実力認定試験の実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー担当	メンバー	教養セミナー実施内容の検討
入試問題作問（化学基礎）	責任者	入試問題の作問

入試問題作問（総合問題、化学基礎分野）	メンバー	入試問題の作問

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① オープンキャンパス／7月20日、8月3日、8月24日、3月15日／長崎国際大学
② 長崎国際大学presents 女子中高生のためのリケフェス in SASEBO／6月14日／長崎国際大学
③ 佐世保北中学校研究所訪問／7月4日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第54回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎国際大学presents 女子中高生のためのリケフェス in SASEBO	6月14日	長崎国際大学	長崎国際大学
佐世保北中学校研究所訪問	7月4日	長崎国際大学	佐世保北中学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本栄養・食糧学会九州沖縄支部参与	会員	平成23年～現在に至る	日本栄養・食糧学会九州沖縄支部会
日本栄養改善学会評議委員	委員	令和6年～現在に至る	特定非営利活動法人日本栄養改善学会
第73回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	学術委員	令和6年	特定非営利活動法人日本栄養改善学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、担当の講義実習を滞りなく実施することができた。前期および後期の授業評価は高い評価であり安心した。今年度の卒業研究は人数も多く、取りまとめることが大変な学生だったが井上先生に協力してもらい、卒論提出まで指導することができた。国試対策では、国家試験対策委員として、委員間で担当の分担を行い、模擬試験の成績管理をはじめ、保護者への成績送付、朝テストの実施など滞りなく進めることが出来た。研究面では、次の論文投稿に向けて、成果が出せるよう研究を続けていきたい。来年度は学会発表等にも積極的に参加していきたい。大学運営に関しては、所属する委員会（ハラスメント委員、自己点検・評価委員会、IRセンター委員会、教育基盤センター運営委員会）の仕事において与えられた任務を精一杯頑張ることができた。特にハラスメント委員会においては、案件がとても多く、対応にとても時間がかかりとても大変な１年間であった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 藤井　俊輔

1．教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持てば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ？」、「どのように？」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ？」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないよう、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか？」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	51	①⑨
食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	31	①⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	27	①⑩
基礎化学実習	30/30(後期)	1	24	⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	26	①⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	①④⑤⑥⑧⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	①④⑤⑥⑧⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	2	①②③⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	17	①⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	27	①⑩

総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食品機能科学特論	15/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおける講義・実習の満足度は、概ね例年通りで比較的高い水準を維持することができた。一方で、アンケートの中で最も低い結果であった「学生の参加を促したか？」という項目については、次年度の改善点であると捉えている。例えば、学生同士でディスカッションをするような時間を設けるなどの時間を講義の中に取り入れるなど、講義構成の変革を進めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	30
長崎短期大学	食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	30
長崎短期大学	食品学実習	30/30(後期)	1	36
唐津看護専門学校	代謝栄養学	10/10(前期)	2	31
唐津看護専門学校	地域・在宅多職種連携	4/30(前期)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製および抗体を研究ツールとした免疫k学的分析手法の確立
2. 未病ケアを志向した薬膳素材のオートファジー制御機能の解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	2	2	420万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年4月／日本調理科学会誌／https://doi.org/10.11402/cookeryscience.58.77／共著／論文

Maternal iron deficiency alters the expression of glucose transporters in offspring／2025年10月／Journal of Developmental Origins of Health and Disease／10.1017/s20401744251002／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

p62およびKeap1/Nrf2経路を介したシンナムアルデヒドの抗炎症・細胞保護作用機序の解析／2025年9月／日本生薬学会第71回年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金（基盤C）	日本学術振興会	2022-2025年度	320万円
エリザベス・アーノルド富士財団研究助成	エリザベス・アーノルド富士財団	2025-2026年度	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	委員として全学および学科内の教務関連業務の遂行と調整を行った。
キャンパスライフヘルスサポートセンター運営委員会	委員	委員として、CHサポートセンターの運営に携わった。また、学生サポート室室員、学科ピアサポーターの担当を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康管理学部公開講座ワーキンググループ	ワーキンググループ長	本学科の公開講座開催に向けたワーキンググループ長として、会議の進行や学外関係者との連絡・調整、運営のとりまとめ等を務めた。

(3) 課外活動の指導等

①バレーボールサークル　顧問

②卓球同好会　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学科広報催事/食べ物の科学にふれてみよう!!/8月2日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第55回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町子ども・子育て会議	委員	令和8年3月1日～	波佐見町

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学術論文の査読：学術誌（欧文）の査読3件を務めた。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、自分自身のアウトプット活動が思うようにいかなかったことが一番の反省点である。研究活動に割く時間を確保し、次年度は積極的なアウトプット活動ができるよう努めたい。

その一方で、学部の公開講座のWG長や、その他の活動に関する活動については例年よりも多く担務することができた。

教育面に関しては、例年とほぼ同水準で高いレベルの評価を維持することができた。学生の修学状況を見ながら、適切に授業の方法や中身を精査し、改善を続けていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 松尾　嘉代子

1．教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。
人が「食べること」を楽むことは、QOLを高めるために重要な要素です。食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるよう工夫し、実習では積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、事例などを検討し適切に評価する方法や、ライフステージに応じた調理実習などの知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	8/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	15/15(通年)	2	33	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	60	①②③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	50	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅲ	15/15(前期)	2	40	①②③⑨⑩
健康栄養入門	7/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	1	⑤⑥⑩⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
応用栄養学実習	15/15(後期)	1	39	①④⑥⑦⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養教育学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年、授業アンケートでは高評価を得ているが、今回も平均点を超える満足度を得ることができた。また、定期試験の結果で

も座学、実習共にGPAがS判定となる学生も数名いることから、学生の理解も得ることができていると考えられるため、学生にとってはおおむね満足の得られる授業運営ができていると考える。
　来年度以降も、全体の平均点よりも高い結果を得られるよう、学生から評価の高い授業運営を心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
臨地実習ⅢⅣⅤの自己課題・施設課題指導（前期毎週水曜日2限）	15	57	4月8日～7月23日
国家試験対策（後期週1コマ）	16	57	9月～2月不定期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究
食物アレルギー児の支援に関する研究
スポーツ栄養に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

これからの応用栄養学演習・実習（第2版）／共著・編著／2025年3月／朝倉書店／48～55頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

管理栄養士養成課程学生の災害時食料備蓄の実態 ―2022年度および2024年度調査の報告―／2026年3月／長崎国際大学論叢第26号／95～104頁／共著／研究ノート

保育施設における食物アレルギーの食事提供に影響を及ぼす要因／2026年3月／長崎国際大学論叢第26号／105～112頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

幼児への栄養教育が尿中Na/K比と栄養素および食品等摂取状況に与える影響／2025年9月／第72回日本栄養改善学会学術総会

管理栄養士養成課程の学生における災害時の食料備蓄の現状 ―2022年度および2024年度の比較―／2025年10月／第71回日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	副委員長	本学の研究倫理に関する業務について、委員長をサポートしながら副委員長の職務を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程の業務に関する事や教育実習の実習先の確保、学生の諸問題について解決に向けた検討を行った。

学科内臨地実習委員会	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討し、実習先との調整などを行い、学生の臨地実習が円滑に進むよう、尽力した。また、個別対応が必要な学生については、学生の能力に合わせた実習ができるよう、実習先へ協力を依頼し、調整を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①学科広報催事（公開講座）実施／令和7年9月20日／場所：本学科調理実習室／「家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～」／参加者：親子8組20名

②校内進路ガイダンス／令和8年3月3日／場所：瓊浦高等学校／ティーンエイジの栄養学～その食事が未来のあなたを作る～／参加者：21名

③大学見学会（長崎県立清峰高等学校）／令和7年6月12日／場所：長崎国際大学3201教室／学科紹介／参加者：22名

④大学見学会（長崎県立東翔高等学校）／令和7年6月20日／場所：長崎国際大学1101教室／学科紹介／参加者：72名

⑤佐世保東翔高校PTA学校見学会／令和7年10月8日／場所：長崎国際大学3301教室／学科紹介／参加者：20名程度

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第56回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和7年度介護支援ボランティア講習会	令和7年5月26日	生月町中央公民館	社会福祉法人平戸市社会福祉協議会
令和7年度長崎市保育会調理員研修会	令和7年9月10日	長崎市立図書館	長崎市保育会
令和7年度唐津地区特定給食施設（児童福祉施設）研修会	令和7年9月30日	唐津市健康サポートセンターさんて　大会議室	唐津保健福祉事務所
令和7年度長崎県栄養士会福祉協議会児童福祉分野研修会	令和7年10月28日	長崎市民会館	(公社)長崎県栄養士会
令和7年度　大島小中学校保健委員会講演会	令和7年12月10日	平戸市大島村公民館	平戸市教育委員会、大島小中学校学校保健委員会
令和7年度　保育所等栄養・給食管理研修会	令和7年12月19日	佐賀県教育会館　小会議室	佐賀中部保健福祉事務所

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
公益財団法人佐世保市学校給食会評議員会	評議員	平成26年6月10日～現在	（公財）佐世保市学校給食会
大村市食育推進市民会議	委員	平成30年4月～現在	大村市長
佐世保市食育推進会議	委員長	令和元年7月～現在	佐世保市長
けんこうシップさせぼ21推進会議	会長	令和2年7月～現在	佐世保市長
特定非営利活動法人日本栄養改善学会評議員会	評議員	令和6年11月～現在	日本栄養改善学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度から本学科教員数の減少により、業務分担量が増加していますが、他教員と連携をして業務の効率化を図りながら運営することで、学生に不利益が出ない教育を実施することができたと考えています。

学生の授業評価では、例年同様に高評価を得ることができたため、授業の質を維持向上できるよう、今後も教育活動の充実を図りたいと考えます。

全学委員会活動では、昨年度から研究倫理委員会の副委員長を拝命し、委員長をサポートしながら研究倫理に関わる業務を遂行できました。

学科内委員会活動では、臨地実習委員会委員長として、実習の円滑な運営や学生の特性に合わせ必要な個別対応などを行うために定期的に会議を開催し、全員が円滑に実施できるよう担当教員と協力して運営できました。しかし、教員数が減る中で、年々個別に配慮の必要な学生が増えており、それらの学生が学外実習に送り出すためには、教員側のサポートも今まで以上に必要になってくるので、今後さらに情報を共有しながら、教員間の連携を推進していく必要があることを実感しています。

自身の研究活動としては、自身の大学院後期課程は来年度が卒業年度となるため、論文作成に必要なデータ収集は出来たので、論文投稿を進めております。

また、外部資金として、長崎県からの受託事業を獲得できたので、今後も外部資金の獲得に尽力したい昨年度、長崎県国保・健康増進課より受託したデータの分析は、結果のまとめをフィードバックしており、今後、さらに必要に応じて解析を進めていきます。学科広報催事は、年1回の開催ではありますが、学生の学習の場になっており参加される方からも大変好評を得ていますので、今後も引き続き実施していきたいと考えております。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 吉村　亮二

１．教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力（専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力）を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

（講義科目）

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

（実習・演習科目）

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から結果考察までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
生物有機化学	15/15(後期)	2	3	①②③⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
基礎栄養学	15/15(後期)	2	27	①⑨
基礎栄養学実習	30/30(前期)	1	30	①⑤⑥⑩⑪
教養セミナー	15/15(後期)	2	3	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
基礎栄養学	15/15(後期)	2	26	①⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	3	①②④⑥⑨⑩⑫
生活支援技術ⅠB	1/15(後期)	1	9	④⑤⑦
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	29	①⑩⑪
基礎栄養学実習	15/15(前期)	1	28	①⑤⑥⑩⑪
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	25	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康免疫科学特論	15/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

不満を感じている学生はおらず、評価は4.6、4.7と昨年の4.4と同程度でした。図解に力を入れた授業展開としているが、自由記述からもそれが分かりやすいと感じる学生が多かったことがこの結果に繋がっていると思います。

近年は安定して高い評価を得られているため、ようやく学生に適した授業を行えるようになったのではないと感じています。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	栄養学	15/15(前期)	2	22

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理作用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	2	2	555万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Oral Ingestion of Bean Sprouts Containing the HASPIN Inhibitor Coumestrol Increased Blood Testosterone Levels in Men／令和7年7月／Biology／Vol. 14 Issue 8 907／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ロイシンとグルタミン同時摂取による相乗的筋タンパク質合成促進作用へのインスリンの寄与に関する研究／令和7年11月／日本アミノ酸学会第19 回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤（C）	日本学術振興会	令和7～9年	455万円
ひと・健康・未来研究財団研究助成	ひと・健康・未来研究財団	令和7年	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
公益社団法人日本農芸化学会 大会実行委員会	委員	大会プログラムの編成

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティセミナーWG	WG長	授業資料の配信等

健康栄養学科リカレント教育講座WG	委員	企画立案、実施方法等の考案

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第57回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育

ホスピタリティセミナーワーキンググループ長を務め、全学的な授業アンケートにおいて昨年の教養セミナーAと同様の結果が得られ、ワーキンググループ長としての役割を果たすことができたと感じています。また基礎栄養学実習の授業アンケートの満足度は、4.5以上と昨年以上であり、高い満足度を安定して得られるようになってきたと感じています。

・研究

国際学術誌において査読付き論文1編が共著者として掲載されました。また、筆頭著者として2つの国際誌に論文を投稿しました。研究費については、民間の研究助成金（100万円）を獲得しました。

・大学運営

研究倫理委員会、研究費不正使用防止委員会、動物実験委員会、教育基盤センター運営委員会、長崎国際大学健康管理学部研究等倫理委員会の委員として各教員の研究、教育が円滑に行われるように委員会の運営に積極的に参画しました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 射場　仁美

１．教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/15(通年)	2	33	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	27	①②⑨
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	29	①⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
微生物学実習	30/30(後期)	1	30	①⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑨⑩
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	26	①⑩
微生物学実習	30/30(後期)	1	34	①⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートでは高い評価が得られた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品衛生学	15/15(前期)	2	33
長崎短期大学	食品衛生学実習	30/30(後期)	1	33
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	15/15(前期)	1	20
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	16/16(後期)	1	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	18	60	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

栄養科学シリーズNEXT[食品衛生学」／共著・編著／２０２５年１０月／講談社／共著41～45、54～56

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ムチン構成成分が腸炎ビブリオの病原性発現に与える影響／2025年9月／第46回日本食品微生物学会学術総会

腸炎ビブリオ病原因子T3SSの発現制御に関わる因子の検討／2025年10月／第57回ビブリオシンポジウム

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	選書ツアーの引率

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第58回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席

2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

講義・実習は今後14回に変更となるため、来年度は内容および1回ごとの配分を見直しながら進めていきたい。
また、「NEXTシリーズ 食品衛生学」の教科書改訂では細菌性食中毒分野の執筆を担当した。来年度の「食品衛生学」講義を担当するにあたり、この経験を活かし、より質の高い授業となるよう努めたい。
今年度は学会発表を2回行ったものの、論文投稿には至っていないため、来年度は投稿につながるよう研究を進めていきたい。併せて、今年度から担当している卒業研究についても、学生にとって実りある取り組みとなるよう指導していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 小田　和人

１．教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	9/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	2/30(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
健康栄養入門	2/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	1	④⑤⑥⑦⑫
学際連携と地域の理解	6/15(前期)	2	250	②④
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
地域栄養論	15/15(後期)	2	1	②④⑤⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	5	①②⑩
スポーツ栄養学実習	15/15(前期)	1	6	⑥⑩⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
運動生理学	15/15(前期)	2	9	①②⑩
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	47	①⑨
総合演習Ⅱ	2/30(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
スポーツ栄養学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・前期　運動生理学

質問12：4.5、質問13：4.6と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。昨年度と同等のポイントであったが、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・前期　スポーツ栄養学実習

学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進捗度を考慮し、授業の進行の調整を行った。また、グループ毎に作業することが多いため、グループによって理解に差が生じないよう、班構成にも考慮した。質問12：5.0、質問13：5.0と昨年度よりもポイントが高かった。今後、学生からの質問や意見に応える時間をさらに増やしていきたい。

・後期　スポーツ栄養学（健康栄養学科）

質問12：4.8、質問13：4.8と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。昨年度よりもポイントが高かった。今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期　スポーツ栄養学（国際観光学科）
昨年度と大きく変わらない評価（質問12：4.3、質問13：4.5）であり、過半数が理解でき、満足できたという結果であった。談話している学生がいた場合は声をかけていたが、余計な話をしたりすることがないように注意していく。

・大学院前期　スポーツ栄養学特論
Ⅲ.総合の質問9（専門的知識の修得）：4.0、質問10（満足度）：4.0と高評価だった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	34
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(集中)	2	11
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習	30/30(集中)	1	7
こころ医療福祉専門学校	スポーツ健康学Ⅲ（栄養学）	15/15(前期)	2	16
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	9

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動
(1) 研究テーマ
競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質、糖代謝、骨代謝マーカーとの関係

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
イラスト スポーツ・運動と栄養-第2版-／共著・編著／2026年4月1日／東京教学社／35頁～47頁、124頁～142頁、149頁～166頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動
(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	高校進路ガイダンスおよび大学見学会における学科説明および模擬授業の実施、担当者の選出を行った。 計4回のOCでは、学科プログラムの立案および実務のメイン担当に従事した。
広報委員会	委員	広報催事として学科から2件が催され、執行に関わった。また学科Instagramの定期的な投稿を行い、大学および学科の広報活動に貢献した。
ボランティアセンター運営委員会	委員	委員会への出席

教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門	委員	共通教育・初年次教育における科目に携わり、入学前教育および入学予定者のための入学前オリエンテーションの企画及び運営に携わった。
安全衛生委員会	委員	委員会への出席、年次休暇の計画的な取得のため学科教員への周知を定期的に行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会 ホスピタリティ概論ワーキンググループ	係	次年度に向けて、授業の運営について協議し、シラバスの修正、授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師の依頼を行っている。

(3) 課外活動の指導等

① 長崎国際大学空手道部　男女空手道部顧問およびコーチ（栄養部門）

顧問として学生指導および大会時の申し込み、引率、会計管理・書類作成等を行った。

令和7年度の成績は、第73回全九州大学空手道選手権大会において、女子団体形 優勝、男子団体組手 第3位、女子団体組手 第3位であった。

② NIUスポーツ栄養サポートチーム：

本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に大学男子バレーボール部、大学空手道部、九文高校空手道部に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。

②本学空手道部の活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。

③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施（2026年度9名が入部予定）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第59回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「ジュニアアスリートの栄養問題と予防のための食事のとり方」	令和7年4月20日	諫早市小野体育館	長崎県空手道連盟　女性活躍委員会主催
「中学野球選手のためのスポーツ栄養学～「アスリートの食事の基本型」から食事のバランスについて考える～」	令和7年8月27日	相浦地区コミュニティセンター	佐世保サンブレイブス
「データに基づいたスポーツ栄養学」	令和7年12月19日	大村高校	大村高校家政科

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ主催『食スポプロジェクト』	委員	2022年4月～現在に至る	佐賀県武雄市スポーツ課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①「探究活動」への指導 令和7年7月 佐世保南高等学校①「身体能力を上げるにはなにが必要なのか 」
②「探究活動」への指導 令和7年8月 佐世保南高等学校②「スポーツをする上での栄養バランス」
③「探究活動」への指導 令和7年7月～11月 福岡教育大学付属中学「部活動別に最適なスポーツゼリーの探究」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

①令和7年6月　長崎国際大学ベストティーチャー賞（ベストアウトリーチ部門）受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

前期授業の「スポーツ栄養学実習」では、グループによって進行状況が異なることもあることから、アクティブラーニングに沿った授業を展開するとともに配布資料の改善、グループ学修の時間の十分な確保を行った。卒業研究担当学生に対して、選手への具体的な栄養サポート方法等を指導し、地域での活動を通して知識や経験を増やすことが出来た。また、学生生活や学修状況、就職活動状況を把握し、定期的に支援を行った。
入試・募集委員として、入学生増加に向けて従事し、『高校進路ガイダンス』や『オープンキャンパス』の主担当として学科での取り纏めを行った。教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営に携わった。また、学科入学前オリエンテーションを開催し、入学予定者同士の交流を行った。今年度の反省を活かした運営に励みたい。
『スポーツ栄養学的サポート』をテーマに研究を行っており、今年度学術誌への掲載には至らなかったが、現在投稿中のため、次年度掲載に向けて研究を進めていく。
社会貢献として競技選手および保護者への講演を3件実施した。次年度以降も外部依頼があれば貢献していきたい。
NIUスポーツ栄養サポートチームとして本学クラブや高校ジュニア選手への栄養サポートを実施し、また空手道部顧問および栄養サポートコーチとして大会引率等を含め、選手の学生生活やコンディションのサポートを行い、高校生への募集活動も行った。全九州大会では女子団体形は優勝することができたが、学業面との両立を図れるよう指導を続けていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 川野　香織

1．教育理念

人々の健康維持・増進に向けた取り組みを「食」の視点からアプローチし、保健、医療、福祉といった多様な現場において、尊厳と責任を持ちながら、科学的根拠に基づく行動と技術を用いて「栄養指導」を実践できる人材を育成する。

そのためには、人間や食に関する基本的な知識を深めるとともに、地域の居住形態や環境、さらには生態系全体を視野に入れて対応できる能力を養い、これにより、専門的なスキルと課題解決能力を併せ持つ人材の育成を目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	45	①②⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	30/30(通年)	2	33	⑪⑫
公衆栄養学実習	15/15(前期)	1	47	②③④⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	33	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	55	①②④⑨⑪
健康栄養入門	3/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
栄養情報処理	14/15(後期)	2	49	④⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	25	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の授業アンケートでは、満足度や授業内容のわかりやすさ、シラバスとの整合性など、多くの項目で前年度より改善がみられた。授業の導入でテーマの意義を示す工夫や、スライドの要点化、段階的な説明、理解度確認の時間を設けたことが、学習の見通しの良さや理解の促進につながったと考える。また、内容に沿った事例や演習を取り入れたことで、知識の活用場面を具体的に捉えやすくなり、学習意欲の向上にも寄与した。一方で、授業参加を促す工夫や遅刻・私語への対応など、学習環境づくりに関する項目には改善の余地がみられた。今後は、小テストや短時間のディスカッションなど、主体的に参加できる場面をさらに充実させ、理解の定着と教育効果の向上につなげていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

集団の健康・栄養状況に関する研究

災害時における食生活支援に関する研究

乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

三訂マスター栄養教育論実習／共著・編著／2026年4月／建帛社／108頁～117頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

保育施設における食物アレルギーの食事提供に影響を及ぼす要因／2026年3月／長崎国際大学論叢第26巻／105頁～112頁／共著／研究ノート

管理栄養士養成課程学生の災害時食料備蓄の実態 ― 2022年度および2024年度調査の報告 ―／2025年3月／長崎国際大学論叢第26巻／95頁～104頁／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

幼児への栄養教育が尿中Na/K比と栄養素および食品等摂取状況に与える影響／2025年9月／第72回日本栄養改善学会学術総会

管理栄養士養成課程の学生における災害時の食料備蓄の現状―2022年度および2024年度の比較―／2026年10月／日本食生活学会 第71回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職に関する事項の協議および学科の就職ガイダンス等の実施を担当した。
地域連携センター会議	委員	地域連携に関する事項の協議を行った。
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメントに関する事項の協議を行った。
臨地実習委員会（学部内）	副委員長	臨地実習に関する事項の協議を行った。
入試募集委員会（学部内）	委員長	入試募集およびオープンキャンパスに関する事項の協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①長崎県食育向上委員会学内推進員（学生4名）の活動のサポート

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①学科広報催事（公開講座）「家族で楽しみ子どもの食事～食物アレルギー編～」／2025年9月

②キッズキャンパス「災害時の食事」／2024年11月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	－	第60回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	公務出張
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
災害時の食事の工夫と日頃の食改活動でできること	10月7日	長崎県庁	長崎県

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育向上委員会	アドバイザー	2021年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・消費生活課
長崎県食育推進県民会議	委員	2022年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・消費生活課
佐世保市食育推進会議	委員	2017年4月1日～現在に至る	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：今年度は公衆栄養学Ⅰ・Ⅱをはじめ複数科目を担当し、授業の進め方や資料の整理方法など、日々の授業運営の見直しを進めた。導入でテーマの位置づけを示すことや、理解度を確認する時間を確保するなど、学生が学びやすい環境づくりに努めた。今後も、学生が主体的に取り組める授業を目指して工夫を続けていきたい。

研究活動：今年度は学会発表に加え、論文を執筆し、2026年3月付で掲載された。研究成果を形としてまとめることができた点は大きな前進であり、継続的な研究活動の基盤づくりにつながったと感じている。引き続き、計画的に研究を進め、成果の発信に取り組んでいきたい。

大学運営活動：委員会活動や広報催事、食育関連の講座・研修会、キッズキャンパスなど、学内外の活動に積極的に関わった。特に地域連携や食育に関する取り組みでは、参加者から好評を得ることができ、地域への貢献を実感する一年となった。次年度も、学科の広報や地域との連携をさらに深めていきたい。

これらの活動を踏まえ、次年度も教育・研究・地域貢献の各面で責任を持って取り組み、より良い成果につなげていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 菊地　優子

１．教育理念

管理栄養士は食と栄養の専門家であり、それらはすべての人に共通する。公衆衛生学では人の健康に影響する環境や社会の制度等を学ぶため、それらの科目通して幅広い視野で社会の健康増進に寄与できる管理栄養士の育成を目指す。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	37	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	27	①②⑨
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	39	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15/15(前期)	2	31	①②⑨
栄養英語	15/15(後期)	2	4	①⑥⑧
健康管理論	15/15(前期)	2	52	①②④⑩
健康科学実習	30/30(後期)	1	34	①④⑥⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②⑤⑥⑨
健康科学実習	30/30(後期)	1	26	①④⑥⑩
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	37	①②⑨
栄養学応用演習Ⅰ	15/15(前期)	1	14	①②⑤⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は「健康管理論」が4.2とやや低かったが、「公衆衛生学Ⅰ」は4.5、4.4、後期の「公衆衛生学Ⅰ」が4.5、4.7、「健康科学実習」は4.7、4.8と概ね良好であった。しかし、これらの科目は担当初年度であり、改善すべきところが多々あると感じるため、来年度以降は授業内容を精査していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園　歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	2	20
九州文化学園　歯科衛生士学院	国家試験対策（生化学）	2/75(後期)	－	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	15	57	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	240万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費（若手研究）	日本学術振興会	2025年4月～2029年3月	240万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	なし
実験動物委員会	委員	なし
健康栄養学科　国家試験対策委員	委員	国家試験対策の時間割作成や模擬試験の成績取りまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康栄養学科リカレント講座ワーキンググループ	構成員	次年度のリカレント講座開講に向けた準備等

(3) 課外活動の指導等
なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
科学体験教室／8月2日／場所：長崎国際大学
進路ガイダンス参加／10月17日／場所：佐賀清和高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第61回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席

2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特定非営利活動法人　日本栄養改善学会	評議員	2022年11月～現在に至る	日本栄養改善学会
長崎県栄養士会研究教育協議会	運営委員	2024年4月～現在に至る	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は職位が変わり、委員会等新たな仕事に取り組む機会が増えた。また、担当科目も変わったため、当該分野の学習や授業の準備に多くの時間を費やしてしまったが、授業評価からも概ね問題なく実施できたと考える。一方で研究に費やす時間が取れずに研究学会発表ができなかったため、次年度は学会発表ができるようデータの蓄積をしていきたい。科研費を採択することはできたため、今後は研究の時間を確保することが課題であると感じた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 髙江洲　有沙

1．教育理念

私の教育理念として、対象者の個性や特性を尊重した行動を実践し、主体的に考えて行動する力ならびに社会で柔軟に生きぬく力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を支援することである。相手を尊重し行動することは社会生活において人間関係をよりよくするための基本的なことで、そのうえに管理栄養士の専門的な知識と技能を生かして人々の健康の維持増進に貢献することができると考えている。

また、管理栄養士は様々な社会的背景を持った対象者の「食」に関わる職業であることを自覚し、「誰ひとり取り残さない世界」の実現に向けて、個々に寄り添った支援をしていくためには、基礎・基幹科目がどのように実践で生きるのか、各科目を関連付けて講義を進め、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を用い、専門力だけでなく、多様性理解力や課題解決力を育成したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	7/8(通年)	1	1	④⑥
食教育論	15/15(前期)	2	5	①②③⑤⑥
管理栄養士演習	4/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	0/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
栄養教育論Ⅰ	15/15(後期)	2	48	①②③⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅱ	30/30(後期)	1	42	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅰ	30/30(前期)	1	39	②③④⑥⑪
健康栄養入門	1/15(前期)	2	57	②③⑤⑥
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教職実践演習(栄養教諭)	6/15(後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	4/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
栄養教育論Ⅱ	15/15(前期)	2	41	①②③⑩
学校栄養教育論	15/15(後期)	2	3	①②③⑤⑥⑦
国際栄養論	15/15(後期)	2	7	②③④⑤⑦⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前年度から継続している前後期の科目に関しては、概ね良好な評価をいただけたと思う。学生の進捗状況に合わせた授業展開を行い、思考力や表現力を高めるためのグループワークを取り入れたことが評価につながったと考えている。

そして、昨年度から担当した栄養教育論Ⅰでは、単語と合わせて活用方法を理解するために教科書内容に加えて教員の経験から実務内容も取り入れたりしていることからスライドは多いが、座席前方で十分に見える状況にしている。スライドには教科書範囲を記載しており、授業後の復習に用いやすいように工夫しつつ口頭説明も随時している。また、小テストは学生の理解力確認もあるが、自ら勉強する習慣を身につける意図あり、改めて授業最初に学生へ説明しつつ、学生の達成感を得られるような内容も対応できればと考えている。今後も積極的な授業参加と予習復習につながるような教材を工夫しながら作成していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策	11	60	2025:10/8, 10/22, 11/20, 11/27, 12/4, 12/18, 2026:1/8, 1/19, 1/27, 2/3, 2/16

３．研究活動

(1) 研究テーマ

教育機関における栄養教育及び栄養教諭に関する研究
諸外国の栄養教育及び学校給食に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流員会	委員	例年実施の学内日本語弁論大会にて審査員を務めた。
教職課程委員会	委員	なし
国家試験対策委員会（学科内）	委員	管理栄養士国家試験対策のため、主に追加演習（朝テスト）に関する業務を委員と協力して実施した。 また、4年生演習科目の定期試験の問題編集・印刷・採点を教務委員と連携して実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

きのこ倶楽部（サークル）の活動にオブザーバーとして参加

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①進路説明会にて「栄養」分野に参加。受講生徒数：11名/2026年3月6日/川棚高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第62回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会　災害支援委員会	委員	令和4年～現在に至る	長崎県栄養士会
長崎県栄養士会　佐世保支部運営委員	委員	令和7年～現在に至る	長崎県栄養士会
佐世保市食育推進会議	副委員長	令和7年～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

9月28日「JDA-DATスタッフ養成講座」の運営、県栄の災害支援対策委員として参加。主催：長崎県栄養士会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の教育活動に関して、学生の主体性を育むことができる授業展開を意識して取り組んだが、授業に理解度が高まっていない学生がいたことから、次年度は学生が興味をもって学び続けることができる教材づくりをしていきたいと考えている。また、

昨年度同様に、国際栄養論にて、多様性を理解した栄養教育ができる人材を育てたいとの思いで、国際協力で活躍している2名をゲストスピーカーに迎えてオンラインで交流することができたのは学生にとってよい経験となったと思う。次年度も継続して異文化理解を促すような授業を行い、学生の積極的な授業参加につながる講義をしていきたい。
大学運営活動においては、学内活動は教職員の方々から助言をいただきながら貢献できたと感じている。次年度も教職員と協力しながら様々な活動に取り組んでいきたい。そして、地域活動では県栄養士会の災害支援委員会にて研修の運営及び災害時の食支援マニュアル作成に携わることができたため、継続して活動していく。今後は、教育と両立しながら研究活動も積極的に実施していきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 吉永　奈津希

1．教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等の支援を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	45	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	39	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	44	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	24	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/30(通年)	2	33	⑪⑫
給食経営管理論Ⅰ	15/15(前期)	2	56	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	61	①③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	25	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	49	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	32	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	27	①③⑩
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	27	①③⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
給食経営管理実習（学内）	15/15(前期)	1	38	①②④⑥
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	42	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	7	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

給食経営管理論については、遅刻や私語への対応および授業参加を促す工夫についての設問で昨年度より評価が低下していたが、理解度は向上し、満足度はほぼ変わらなかった。途中で練習問題を取り入れるなど、学生に問いかける時間を確保できるよう工夫したい。また、3年次の給食経営管理実習、3・4年次の臨地実習、さらに就職後（給食の現場）との関わりも伝えながら授業をしていくことで、興味を持ってもらえるようにしたい。

給食経営管理実習、調理学実習Ⅲについての授業アンケートの評価はおおむね良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	13	58	後期：月～金曜日、2～4限
4年臨地実習事前事後指導	18	52	2025年4月8日、前期水曜2限
3年生臨地実習Ⅰ・Ⅱ事前指導	4	50	2025年8月7・8日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

・大量調理における食品の調理特性(調理科学的変化)に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

食品開発における「匠の技」とその再現技術／共著・編著／2025年6月／株式会社エヌ・ティー・エス／共著：43頁～53頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大量炊飯に用いた調理機器の違いが米飯の品質に与える影響／2025年3月／長崎国際大学論叢第25巻／85頁～94頁（査）／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

嚥下調整食における保存および再加熱がテクスチャー・栄養価に及ぼす影響～第3報～／2025年10月／第20回日本給食経営管理学会学術総会（埼玉）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	年2回の委員会に参加した。
教務委員会（学科内）	委員	学科別オリエンテーションの計画・運営、4年演習科目出席管理および国家試験対策時間割作成を行った。
臨地実習委員会（学科内）	委員	事前指導、臨地実習に関する業務を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康栄養学科リカレント講座ワーキンググループ	委員	令和8年度リカレント講座（公開講座）開催に向けて、企画を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県立大村城南高等学校進路ガイダンス参加／3月5日／場所：大村城南高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第63回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
ユニバーサルライフ研究会　研修会「嚥下機能が低下した人の食事形態～嚥下調整食(学会分類)～」	1月29日	サンアビリティーズ佐世保	ユニバーサルライフ研究会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立学校給食検討委員会	委員	令和6年12月17日～令和8年12月16日	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①女子中高生のためのリケフェスin SASEBO「食品 DE サイエンス」／6月14日／長崎国際大学

②江上公民館まつり「体力測定会」／11月23日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

給食経営管理論Ⅰの理解度の平均が3.9、満足度の平均が4.2、Ⅱの理解度および満足度の平均が4.2であった。自由記述につい

ては、肯定的なコメントが多かったが、レポートの説明がわかりづらいとのコメントが2件あったため、改善する予定である。給食経営管理実習の理解度および満足度の平均はともに4.8であり、自由記述についても肯定的であったが、指示漏れを指摘するコメントがあった。本実習では各班でスケジュールが異なり、指示のタイミングも異なっているため、今後は漏れがないよう教員間で確認したい。

研究活動については、学会発表を行うことはできたが、その内容についての論文執筆ができていないことが反省点である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 井上　朋奈

１．教育理念

学生が自ら楽しみながら学び、管理栄養士として必要な専門的知識・技能だけでなく、ホスピタリティ精神も身につける支援をする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科　化学リメディアル	2	2	2025/11/12, 2025/12/3

３．研究活動

(1) 研究テーマ

熱乾燥酒粕が二型糖尿病モデルマウスに及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス開催補助/7月20日、8月3日、8月24日、3月15日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第64回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・健康栄養学科広報催事「科学体験教室」開催補助/2025年8月2日/長崎国際大学

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1年生の後期に行った化学リメディアルでは、少人数で行ったため対象学生が苦手意識のある内容や学びたい内容を重点的に行った。今年度は時間割や行事等の関係上2回のみの実施ではあったが、リメディアルの時間外でも積極的に質問に来てくれたため、解ける問題も増えて、一定の効果があったのではないかと考える。今後も対象学生が学びたい内容を重点的に行い、分かりやすい配布資料や練習問題の作成に努めていきたい。各実習の補助では、実習が円滑に進むように必要な予習・準備を行い、実習後は復習を行うことを心掛けた。また、学科広報催事の開催補助やオープンキャンパスの準備などを積極的に行った。研究面では、熱乾燥酒粕摂取が二型糖尿病モデルマウス（TSODマウス）に及ぼす影響と骨芽細胞におけるシアニジンの影響の確認を行った。マウスの研究においては、酒粕摂取により脂肪細胞サイズのの縮小、CLS数の減少、血糖コントロールの改善が確認できた。今年度は学会発表等を行うことが出来なかったため、データをまとめて学会発表や研究活動を積極的に行っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 嘉数　圭祐

１．教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当科目無しのため評価無し

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品学)	18/18(後期)	2	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

老化促進マウス(SAMP1)を用いた豆モヤシの作用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Oral Ingestion of Bean Sprouts Containing the HASPIN Inhibitor Coumestrol Increased Blood Testosterone Levels in Men／2025年6月／biology／10.3390/biology14080907／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

老化促進マウス（SAMP1）を用いたクメストロールを多く含むように栽培した豆モヤシの抗老化作用の解析／2025年6月20日／日本アンドロロジー学会・第44回学術大会

老化促進モデルマウス(SAMP1)におけるクメストロールを多く含む豆モヤシの抗老化作用メカニズムについて／2025年8月29日／第40回SAM学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

公開講座（家族で楽しむ子どもの食事）/9月20日/場所：長崎国際大学

キッズキャンパス（災害時の食事を体験してみよう）/11月1日/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第65回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

第40回SAM学会学術大会で若手研究奨励賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度、研究活動に重点を置いて活動してきた中で奨励賞を受賞することができた。

大学の広報活動も何か参加しようと考えていた中で大学のイベントである調理教室も2つ参加することができた。

来年度も同様に積極的に参加していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 野田　智章

１．教育理念

自身で学び、疑問や課題・問題に対して熟慮する学生の育成、及びそのサポートをする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

補助で入っている授業では、概ね満足いくアンケート結果だった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品の栄養と特性	15/15(前期)	1	18
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生	15/15(後期)	1	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体における黒米抽出物の骨代謝

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

植物プロテアーゼ含有食品を用いた牛もも肉の軟化に関する包括的検討／2025年4月／日本調理科学会第58巻／77～83／共著／報文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第66回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育では、実習担当の先生方と連絡や相談、打ち合わせ、授業の準備を行った。また、実習中の質問への応答や課題やレポート作成の助言を通して、学生の学びのサポートができた。非常勤講師では、食品学と食品衛生実習を担当し、配布資料や実験器具類の準備を入念に行い、スムーズに実施することができた。

研究では、新規データの収集はできたが、学会発表まで行うことができなかったため、学会発表を次年度の目標に研鑽する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 古田　美咲

１．教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
佐世保市立看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	51

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	2	2	2025年11月12日、12月3日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が次世代に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Maternal iron deficiency alters the expression of glucose transporters in offspring.／2025年9月／J DOHaD 16: e37／1～11／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金基盤（C）	日本学術振興会	2023年4月～2025年3月	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会（学科）	委員	保護者会、栄養士実力認定試験の事前準備および当日の運営を行った。
国家試験対策委員会（学科）	委員	朝テストの準備等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
リカレント講座ワーキンググループ	委員	R8年度より実施するリカレント講座の準備を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第67回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

8月2日「科学体験教室」企画・運営

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、担当している学生実習については昨年度よりも効率よく実習が進むよう準備段階で改善することができ、円滑に進めることが出来た。1年生対象の化学リメディアルにおいては、授業での理解が乏しい箇所の補習を重点的に行うことで、学生の理解度と授業の進度に差が生じないよう対処することができた。

研究面では、論文投稿、科研費の獲得（継続）があった。今後も教育面・研究面での両立が図れるよう、より一層計画性をもって精進したい。

教育面・研究面以外においても、催事の開催や外部への非常勤講師など、大学運営・社会貢献へ積極的に関与できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 山下　千尋

１．教育理念

学生の学びのサポートだけでなく、学生からの相談に対して真摯に受け止め、より良い学生生活を送ってもらえるように、業務を行うことを理念としている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手であるため、正規の授業は行っていない

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	2	1	11/12，12/3

３．研究活動

(1) 研究テーマ

長崎県の保育所・認定こども園に在園する食物アレルギー児が給食や食育を安心安全に受けることができる環境を作るために、現在は施設状況を把握・分析している

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

保育施設における食物アレルギーの食事提供に影響を及ぼす要因／2026年3月／長崎国際大学論叢第26巻／105頁～112頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国家試験対策委員会	委員	模擬試験の運営 朝テストの製作・採点・結果公開

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

公開講座「家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～」/9月20日/長崎国際大学
NIUキッズキャンパス「災害時の食事を体験してみよう！～もしも、水・電気・ガスが使えなかったら～」/11月1日/長崎国際大学
オープンキャンパス/7月20日、8月3日、8月24日、3月15日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第68回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育では調理実習や治療食実習、栄養教育論実習、応用栄養学実習などの実習補助に努めた。4年生の国家試験対策委員として朝テストの運営、テスト作成、採点など、国家試験に向けた点数アップの支援を行った。来年度も引き続き実習補助に努めていきたい。朝テストも学生のニーズに合った方法を検討していこうと考えている。

また、九州文化学園調理師専門学校に非常勤講師として栄養学の授業を行っている(1年生・通年・15コマ／30コマ)。調理師試験で出題された問題の内容を授業内に取り入れ、国家資格取得できるよう対策を行っている。

研究活動では保育所給食における食物アレルギーに関する結果を長崎国際大学論叢に研究ノートとしてまとめることができた。来年度は今回の内容を基にアンケート内容の見直しと比較を行い、学会発表を行いたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 藤田　英明

1．教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。
そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味が持てるような導入を工夫している。
国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/24(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＢ	0/24(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	1/46(通年)	3	70	①
専門演習Ⅰ	15/15(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	1/24(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	1/24(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	1/31(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	8	④⑤⑥⑪⑫
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	70	①②⑨
機能形態・生化学演習	4/15(後期)	0.5	74	①②⑨⑪
基礎の数学	15/15(前期)	2	15	②③⑨
専門基礎学習Ⅰ	7/7(通年)	0.5	82	②③⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	2/9(後期)	0.5	85	②⑦
薬学入門	8/15(前期)	1.5	83	②③⑩⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	86	①②⑥⑦⑩
生化学実習	4/7(後期)	1	84	①②④⑪⑫
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

できるだけ予習を促す工夫が必要である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
機能形態学Ⅰ　補習	10	37	4/22, 5/13, 5/20, 5/27, 6/17, 6/24, 7/1, 7/8, 7/15, 7/22
基礎の物理学　補習	10	65	4/21, 4/28, 5/12, 5/19, 5/26, 6/2, 6/9, 6/16, 6/23, 7/2, 7/7, 7/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１）細胞内オルガネラへのタンパク質選別輸送に関する研究
２）メラニン合成酵素チロシナーゼに関する研究（美白の科学）
３）膜結合型ユビキチンリガーゼの機能に関する研究
４）海洋生物由来レクチンの細胞外分泌機構に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	1	2	2	488万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Recent Advances in the Targeting and Functional Diversity of LAMP-2 Short Tail Variants／2025年12月／J. Biochem／10.1093/jb/mvaf078／単著／Comentary

Crystal and Cryo-EM structure of PPL, a novel hexameric R-type lectin from the poisonous mushroom Pleurocybella porrigens／2025年12月／Glycobiology／10.1093/glycob/cwaf082／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

海綿Chondrilla australiensis由来のhRTLはシグナルペプチドを有する非定型ガレクチンであり、従来型タンパク質分泌経路をとる／2025年11月／日本生化学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「チロシナーゼの翻訳後修飾と分解を基盤とした色調異常症およびメラノーマの治療薬開発」	基盤研究（C）・文部科学省	2025年4月～2028年3月	468万円
ポーラ化成工業株式会社の研究・開発への細胞生物学的見解に関わる指導	ポーラ化成工業　株式会社	2025年12月～2026年11月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	なし
教員資格審査委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員長	なし
安全衛生委員会	委員	なし
安全管理委員会	学部委員長	なし
危機管理委員会	委員	なし
人事委員会	委員	なし
利益相反 マネジメント委員会	委員長	なし
輸出管理委員会	委員	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし
情報セキュリティ委員会	委員	なし
研究インテグリティ・マネジメント委員会	委員	なし
作問委員会	委員長	規程の改正を行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学バスケットボールサークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第70回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師確保対策検討会	委員	2022年～現在に至る	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

多忙であったが概ね順調に活動した。

薬学教育評価において「適合」となった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 椛島　力

１．教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

薬学は化学・物理・生物・臨床と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切にし、学生の不安を少しでも軽減するためにも、積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	3/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	①④
専門演習Ⅰ	10/45(通年)	3	5	①④
専門演習Ⅱ	4/23(通年)	1.5	105	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	5/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	5/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑫
薬剤学	15/15(後期)	1.5	3	②④⑨
薬剤学	15/15(後期)	1.5	79	②④⑨
基礎の数学	15/15(前期)	2	39	②③⑨
物理・生物薬剤学演習	8/15(前期)	1	4	①②④⑨
学際連携と地域の理解	1/15(前期)	2	250	①②
臨床薬物代謝学	7/15(後期)	1.5	92	①⑧⑨
薬剤学実習	18/18(後期)	1	92	④⑩⑪
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

受講者数30名以上で7コマ以上担当した3科目の理解度は4.4～4.6、授業満足度は4.4～4.6であり、一定の評価を受けたと考える。遠隔対応科目については、授業動画をアップし、いつでも復習できるようにした。また、毎回、小テストを課し、理解度の確認に努めた。次年度も、授業アンケートのコメントなどを参考に授業内容の改善を行い、学生が成績向上できるように努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学の補習	10	30	2025/4/21-2025/7/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規機能性分子の開発
・エピジェネティクスに関する新規解析法の開発
・生体内高分子の新規解析法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

DNA methyltransferase活性測定のためのFRET基質の開発／2025年8月28日／第37回バイオメディカル分析科学シンポジウム

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 基盤研究C	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学部教授会で教務関係の報告や説明を行った。薬剤系の講義の取り纏めを行った。卒業研究に関する取り纏めを行った。
自己点検・評価委員会	委員	大学および薬学部の自己点検を行った。授業アンケートをもとにした個別面談を担当し、改善策等を提案した。
発明等審査委員会	委員	本学の知的財産について、特許申請・特許維持・特許放棄について審議した。

薬学部国試・CBT対策委員会	委員	薬剤師国家試験やCBT試験対策の演習などについて協議した。
薬学部入試募集委員会	委員	入試関連業務、高校訪問、中高生を対象とした体験実験、オープンキャンパスの運営に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	長崎大学および県内の病院・薬局・薬剤師会関係者と実務実習や共用試験に関する情報交換を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

九州文化学園高等学校内部進学説明会/3月9日
長崎県立猶興館高等学校体験学習/9月4日
オープンキャンパスにおける保護者対象の説明会

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第72回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、担当科目の授業アンケートの満足度・理解度はともに4.4以上であり、一定の評価を得られたと考える。今後も、授業アンケート等を参考に、授業内容などを検討し、満足度や理解度を向上できるように努める。

研究に関しては、科研費が継続しているので、引き続き研究を進める。今年度は、発表論文がなかったので、現在の研究成果をまとめて論文投稿する。

大学運営に関しては、学部長をはじめ教職員の協力もあり、学科長として最低限の仕事はできたのではないかと考える。入学定員が確保できなかった点を反省しており、次年度に向けて定員確保の取り組みを強化したい。新カリキュラム編成、入学定員の確保、国試合格率や進級率の向上など、さらに貢献できるように努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 市川　和洋

１．教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。

物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に着け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	5	①④⑧⑩
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＢ	0/23(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	3/45(通年)	3	70	①⑨
専門演習Ⅰ	3/45(通年)	3	5	①⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑫
専門演習ⅢA	1/45(前期)	1.5	95	①
専門演習ⅢB	1/45(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑫
物理学演習	12/12(後期)	0.5	4	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	3	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	2	①⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	77	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	21	①④⑧⑩
基礎の物理学	15/15(前期)	2	14	①④⑧⑩
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	2	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	80	①④⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	95	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	80	①⑧⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本学部での高校時の物理未履修者割合は20～30％程度です。したがって、受講前の学力水準が大きく異なる相に分かれます。担当科目の授業アンケートの評価は、初期の成績分布とほぼ一致し、授業アンケートで、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。

高学力層を満足させつつ、低学力層の底上げも必要で、引き続き改善していきたいと考えています

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学　補習	10	30	前記不定期
予備校ガイダンス智翔館	1	40	12/11

３．研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

（１）生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物（分子プローブ）の開発
（２）生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
（３）抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
（４）がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	1859万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Hyperpolarized [1-13C]pyruvate NMR spectroscopy reveals transition of tumor energy metabolism in microscale multicellular spheroid／2025年6月／Sci Rep.／10.1038/s41598-025-03454-1／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生体適用に向けた低電力OMRI法の開発と最適化／2025年11月／第64回電子スピンサイエンス学会年会

Improved sensitivity in 0.15T OMRI using a novel cavity resonator for in vivo detection／2025年10月／13th EPR Workshop on EPR in Biology and Medicine

Metabolic Shifts in Microscale Tumor Spheroids Detected by Hyperpolarized [1-13C]pyruvate NMR／2025年10月／13th EPR Workshop on EPR in Biology and Medicine

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究（B）	日本学術振興会	2024-2026	1859万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学教育会議	構成員	各種議題検討

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部入試募集活動（随時）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第73回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、物理化学複数科目全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する１、2年次の学生について、フォローアップに努めました。 研究面では、論文掲載、外部資金取得は、ほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢 献に努めました。　薬学部では近隣大学薬学部との競争が激化しており、人口減少とも相まって受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実 施が喫緊の課題です。薬学部入試・募集委員長として高校生へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬 学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました 献に努めました。　薬学部では近隣大学薬学部との競争が激化しており、人口減少とも相まって受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実 施が喫緊の課題です。薬学部入試・募集委員長として高校生へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬 学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 岸原　健二

１．教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。また、常に学ぶ姿勢を持続し、リサーチ・マインドをもつ薬剤師の育成にも尽力したい。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。また、持続可能な社会の実現にSDGsが国際社会共通の目標として国連のサミットで採択されている。この精神を理解し、どのように社会貢献ができるのかを考え、実践できる能力を兼ね備えた薬剤師の育成にも努めていきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/24(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	8	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	1/82(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	1/82(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	1/40(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	1/45(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	1/45(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
薬学英語	2/12(前期)	0.5	87	①⑤⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	94	⑧⑨
感染防御学	4/15(前期)	1.5	94	⑧⑨
免疫学	15/15(後期)	1.5	84	⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	3/11(前期)	1	93	①④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期】

「感染防御学」：3年生の必須科目であり、ほぼ平均的な評価であり、とくに大きな問題はなかった。Q13(満足度)は昨年度より

0.4ポイント上昇していたが、Q12(理解度)は、やや低下した。つまり、本科目は難しいが、担当教員の努力は認められたと感じた。如何に理解度を上げるかが課題はある。来年度は、分からないという学生に対する対策として基本問題を作成し、配布することを予定している。今年度も授業後に動画を公開したことが、学生の復習に役に立ったと推察される。2年次の免疫学の復習だけでなく、他の科目（薬理学や疾病学など）と関連付けて授業を進めている。また、授業内で演習問題を解答させ、解説も実施していることが、学生の学習意欲を向上させた考えられる。また、今後もブラッシュアップした課題を毎回出すことで、学生の復習を促していきたい。

【後期】

「免疫学」：Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度と同様の評価であった。例年通り、復習用の講義動画の配信やmanabaの小テストでの課題出題を毎授業後に実施し。学生のコメントから動画の配信は授業内容の理解に役立ったようだ。再履修者は、全員本試験で合格しており、問題はなかった。定期試験(本試験)の合格率は昨年度よりかなり高かった（80%→88%）。復習問題集のポートフォリオへの掲載などが功を奏したかもしれない。来年度以降も、講義動画の配信や復習問題の出題を継続するほかに、学生のコメントを参考に改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常線維芽細胞TIG-1におけるCAGE法による細胞老化関連遺伝子の探索／2025年12月4日／日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員長	ライブラリーサポーター（ＬＳ）制の継続・発展に尽力した。また、10/11にビブリオバトルin長崎国際大学を、11/8にビブリオバトル種文化学園を本学において開催した。さらに、11/2にビブリオバトル 2025 in SASBOを佐世保市立図書館とアルカスSASEBOにて共催した。

自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価委員として、授業アンケートやその結果に基づく面談を実施し、教育研究の向上に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第74回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

図書館長として、図書館の運営や企画に努めた。また、図書館委員長及び自己点検・評価委員として全学委員会に貢献した。薬学部内の委員会では、教務委員会委員として薬学研究発表会の開催したほか、入試募集委員として留学生の成績管理等にも尽力した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 宇都　拓洋

１．教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。
薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。
地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。
異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
生薬学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	2	①②⑩
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	8	①⑫
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	8	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	2/30(後期)	2	77	①⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑨⑩⑪⑫
生薬学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	2	①②⑩
生薬学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	89	①②⑩
生薬学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	78	①②⑩
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	93	①②⑩
生薬学実習	21/21(後期)	1	84	①②⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨今の国家試験の出題内容に合わせて補助教材を更新するとともに、講義開始時のミニテストを充実させた。その結果、学生による授業アンケートのスコアは、おおむね昨年度より上昇した。また、講義後にはmanabaにて講義スライドを公開し、学習効果を高める工夫を行った。さらに、5・6年次の演習では過去の国家試験を分析し、得点力の向上に直結する講義内容とした。
加えて、講義・実習全体については昨年度の内容を振り返り、配布プリントおよび講義開始時のミニテストを見直すことで改善を図った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学大学院	天然資源学	1/7(夏学期)	1	25

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ（再）	1	8	2025年4月18日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① アトピー性皮膚炎治療薬を志向した皮膚バリア機能を改善する天然物探索と作用機序解明

アトピー性皮膚炎（AD）は、国民の約45万人が罹患している国民病である。治療はステロイド外用薬や抗炎症外用薬と、保湿剤によるスキンケアが中心であるが、治療満足度は十分とは言えず、新たな治療薬開発が期待されている。近年、AD において皮膚バリア機能の低下が重要な要因であることが注目され、皮膚バリア機能の調節機構解明と改善に関する研究が活発に行われている。本研究は、生薬エキスライブラリーのスクリーニングにより皮膚バリア機能を改善する天然物の探索を行い、ヒト表皮三次元モデルを用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解明や標的分子の同定を行うことで、アトピー性皮膚炎の治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

② 天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。2024年8月より、公益財団法人高知県牧野記念財団から高知・四国産植物ライブラリーを提供していただき、大規模なスクリーニングを開始している。

③ オートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

我々は、国内外で用いられている伝統医薬からオートファジー制御能を持つ天然物を同定し、その作用機序解析を目的として研究を行っている。これまで数種の生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序解析を行ってきた。現在、メラノサイトやケラチノサイトなどの皮膚細胞において、生薬エキスライブラリーのスクリーニングからオートファジー制御能を持つ天然物の探索研究を行っている。

④ 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

薬用植物は、漢方薬や医薬品の原料として用いられているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための１つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位（非薬用部位）の有効利用が注目されている。本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化および推進するための科学的エビデンス提供を目指す。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	5	4	4	648万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Induction of Melanin Synthesis by Pueraria lobata Leaves in B16 Murine Melanoma Cells and Three-Dimensional Human Skin Equivalent.／2025年10月／Biological and Pharmaceutical Bulletin／https://doi.org/10.1248/bpb.b25-00261／共著／原著論文

Antioxidant and Anti-glycation Properties of Rehmannia glutinosa Leaves.／2025年10月／Journal of Oleo Science／https://doi.org/10.5650/jos.ess25126／共著／原著論文

The Yeast-Fermented Garlic and a Balance of Spermine/Spermidine Activates Autophagy via EGR1 Transcriptional Factor／2025年2月／Molecular Nutrition and Food Research／https://doi.org/10.1002/mnfr.202400606Digital Object Identifier (DOI)／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

p62およびKeap1/Nrf2経路を介したシンナムアルデヒドの抗炎症・細胞保護作用機序の解析／2025年9月／日本生薬学会第71回年会

ミチヤナギ葉の抗糖化作用と活性成分の解析／2025年9月／日本生薬学会第71回年会

伝統医薬から紐解く創薬シーズ探索と薬用植物未利用部位の資源化への挑戦／2026年2月／第2回日本ヘアケア天然素材シンポジウム

カシエキスおよび含有タンニン類の JAK/STAT 経路活性化阻害による炎症性サイトカイン産生抑制作用／2026年3月／日本薬学会第146年会

抗糖化作用を示す生薬エキスの探索と AGEs による炎症応答への影響解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
アトピー性皮膚炎治療薬を志向した皮膚バリア機能を改善する天然物探索と作用機序解明	科学研究費助成事業・文部科学省	2023年4月1日～2028年3月31日	468万円
薬用植物に関する共同研究	坂本薬草園	2025年4月1日～2026年3月31日	50万円
山崎香辛料振興財団 研究助成	山崎香辛料振興財団	2025年10月～2026年9月	100万円
植物酵素による非天然型化合物群構築とオートファジーをターゲットとした抗がん剤開発	科学研究費助成事業・文部科学省	2025年4月1日～2028年3月31日	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学ハラスメント委員会	委員長	委員長として関係部署と連携して14回の委員会会議および8件の案件対応を行った。
薬学部国試・CBT対策委員会	副委員長	副委員長として国家試験およびCBTの合格率向上のために活動を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	委員長	附属薬用植物園の管理運営を行った。
共同機器管理委員会	委員長	委員長として共同機器および消耗品の維持管理を総括した。
CBT実施委員会	委員	CBTの実施に向けた運営を他の委員と連携して行った。
図書選定委員会	委員	図書の選定を実施した。
入試作問（化学基礎・化学）	委員（科目責任者）	入試問題作問を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ラグビーサークル／顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

「モンゴルの大学と学術協定、長崎国際大 薬用植物で共同研究」長崎新聞（2025年12月3日掲載）

「長崎国際大学 モンゴル薬科学大学とサイエンス交流」スポットインサセボ、テレビ佐世保（2025年12月2日放送）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第75回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席

2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
古くて新しい薬用資源 “青蘘” ―未利用資源に秘められた力―	2026年2月24日	京都市	天然薬用資源開発機構
伝統医薬から紐解く創薬シーズ探索と薬用植物未利用部位の資源化への挑戦	2026年2月28日	オンライン	第2回日本ヘアケア天然素材シンポジウム

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州山口支部	幹事	2022年2月～現在	日本薬学会九州山口支部
日本薬学会	代議員	2021年4月～現在	日本薬学会
日本生薬学会関西支部	委員	2018年4月～現在	日本生薬学会関西支部
日本フードファクター学会（JSoFF）	評議員	2016年12月～現在	日本フードファクター学会（JSoFF）
日本生薬学会	代議員	2016年4月～現在	日本生薬学会
Journal of Natural Medicines（JONM）編集委員会	副編集長	2025年4月～現在	日本生薬学会
生薬学雑誌 編集委員会	副編集長	2025年4月～現在	日本生薬学会
佐世保市少年科学館運営委員会	委員	2025年7月1日～現在	佐世保市少年科学館運営委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

佐世保市少年科学館運営委員会委員として、会議および表彰式等に参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
さくらサイエンスプログラム（科学技術体験コース）	「薬用植物資源を基盤としたモンゴルとの持続的な国際研究交流の構築」をテーマに、研究・教育・文化交流を組み合わせた総合的な科学技術交流を実施	2025年11月30日～12月6日	長崎国際大学、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

Author Service Award 2025 (Journal of Natural Medicines)受賞、Springer Nature 社

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】昨今の国家試験の出題内容に合わせて補助教材を更新するとともに、講義開始時のミニテストを充実させた。その結果、学生による授業アンケートのスコアは、おおむね昨年度より上昇した。また、講義後にはmanabaにて講義スライドを公開し、学習効果を高める工夫を行った。さらに、5・6年次の演習では過去の国家試験を分析し、得点力の向上に直結する講義内容とした。加えて、講義・実習全体については昨年度の内容を振り返り、配布プリントおよび講義開始時のミニテストを見直すことで改善を図った。

【研究】論文発表数は3報にとどまり、非常に厳しい結果であった。特に、目標としていた総説の執筆に至らなかった点は大きな

反省点である。一方で、民間助成金の獲得1件、国際交流プログラムの採択1件、国内学会および市民講演における招待講演2件については、一定の成果であったと考えている。今後は、これらの成果を継続的な研究業績につなげていく必要がある。

【社会貢献】佐世保市少年科学館運営委員会委員として、会議および表彰式等に参加した。

【募集活動】入試募集に関する情報発信の依頼に対し、積極的に対応した。

【委員会活動】全学ハラスメント対策委員会（委員長）では、今年度は案件数が多く、対応に多大な時間と労力を要した。その結果、教育・研究業務への影響も感じられた。今後は、案件増加時における業務負担軽減策の検討や、次期における委員長交代を要望したい。また、薬用植物園の再整備については昨年度より本格的に取り組んでおり、来年度も継続して推進する予定である。

【全体】大学運営に積極的に関与する一方で、研究活動については目標を下回る結果となった。来年度は、運営業務とのバランスを取りつつ、教育・研究に充てる時間を確保し、特に研究活動の充実に努めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大磯　茂

1．教育理念

医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成する。
よって、授業では授業外の予習・復習を重視し、また自らの実務経験に基づいた授業展開を行う。
学生には、自己研鑽する習慣をつけてもらうために、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/27(前期)	1.5	2	⑧⑪
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	8	⑧⑪
専門演習Ⅰ	0/42(通年)	3	70	①②④⑨
専門演習Ⅰ	3/40(通年)	3	5	①②④⑨
専門演習Ⅱ	1/36(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	⑥⑩⑪⑫
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	104	①②⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	2/45(前期)	1.5	95	⑧⑪
専門演習ⅢB	2/45(後期)	2	77	⑧⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	7	⑥⑩⑪⑫
在宅医療概論	1/15(前期)	2	213	②⑪
医薬品情報論	9/15(後期)	1.5	96	①⑥⑧⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	⑪
処方解析	21/33(後期)	2	75	⑪
処方解析	21/33(後期)	2	75	⑪
物理・生物薬剤学演習	7/15(前期)	1	4	①②④⑨
総合実習	18/18(後期)	1	76	①⑪
治験コーディネート論	7/15(前期)	1.5	22	①②⑥⑨⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	⑥⑦⑩
教養セミナー	8/15(後期)	2	4	⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅳ	4/4(前期)	0.5	77	①⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	1/8(後期)	0.5	75	②⑥
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	②④⑥
調剤Ⅰ	37/39(前期)	2	76	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅰ	37/39(前期)	2	76	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	30/33(前期)	2	76	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	30/33(前期)	2	76	①⑤⑥⑨⑪
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	1	①②④
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も前年度と同様のスタイルで授業を展開した。授業内容は昨年度の資料を見直し、必要と思われる個所はブラシュアップした。前期科目の調剤Ⅱの授業評価4.5、医薬品情報論は4.3と昨年度と同程度であった。いずれも特に大きく問題のある評価ではないと考えているが、それぞれで寄せられた改善点に関する意見には改善に向けた対応をしたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。事前学習で学んだ技能等を確認される薬学共用試験OSCEでは受験者全員が最終的に合格できた。卒業研究においては、実験手技から論文の書き方など全般的な指導を行い、研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発

がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究

脳由来神経栄養因子産生促進作用を有する抗うつ薬の探索研究

医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	6	1	1	240万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Preventive Effects of Hochuekkito on Decline in Brain-Derived Neurotrophic Factor Serum Levels in Senescence-Accelerated Mouse Prone 10／2025年4月／Journal of Oleo Science／ doi : 10.5650/jos.ess24328（査）／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンのオートファジー阻害作用の作用機序解析／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

中枢性疾患予防・改善薬シーズの探索に向けたin vitroおよびin vivoにおける赤ビーツのBDNF産生促進効果の検討／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

新規抗うつ薬シーズの発見を目指した地域特産カンキツのin vitroにおけるBDNF産生促進効果の検討／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンの1時間処理による抗がん効果の検証ならびに有用性調査／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

抗ニロチニブ抗体の作製ならびにニロチニブ測定用ELISAの開発／／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

スイートオレンジ類の脳由来神経栄養因子BDNF産生促進効果の検討／2026年3月／日本薬学会第146年会（於大阪市）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）	日本学術振興会	2026年4月～2029年3月	240万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会	委員長	OSCE実施計画の策定や実施全般に関する統括を行った。
実務実習運営委員会	委員長	実務実習の運営や管理体制について検討・協議した。
事前学習運営委員会	委員長	実務実習事前学習の運営について協議した。
長崎薬学コンソーシアム	委員	長崎薬学コンソーシアムにおいて長崎国際大学のOSCEおよび実務実習に関する情報提供を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	対象外
2025/7/10	206	－	第76回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州山口地区調整機構	副支部長・大学委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	九州山口地区調整機構
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	長崎県薬剤師会
九州山口薬学会	委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日	九州山口薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の授業は前年度までに担当した内容と同じであったが、前年度の授業内容を再確認して、必要な箇所はブラシュアップした。授業アンケートで指摘された要望については次年度対応できるように努めたい。特に、予習・復習は学修内容の深化のために重要と考えており、履修生に対して予習・復習をしっかりと行うよう強く推奨したい。研究においては、6演題の学会発表に関わり、原著論文1報を出すことができた。また今年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）に採択され、研究推進のための資金獲得もできた。今後も継続して研究活動進め、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の4の委員会等および大学外の3つの委員会等で活動を行った。今年度も実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に深く関わった。特に今年度は令和4年度版のモデルコアカリキュラムに準じたOSCE課題を検討するためのOSCEトライアルを実施する必要があり、例年より業務負担が大きくなったが、特に大きな問題等なく運営できた。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、引き続き大学運営等に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大庭　義史

１．教育理念

薬学における分析化学分野の専門的知識と技能を教育および研究を通じて教授し、高い倫理観と豊かな人間性を持つ薬剤師を育成する。これにより、医療薬学分野で実践的に活躍できる人材を育てることを目的とする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
構造解析学	5/15(前期)	1.5	1	①②③⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	2/23(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	①②④⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	①②④⑨
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	105	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/30(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	1	①②③④⑨
機器分析学	3/15(後期)	1.5	80	①②③④⑨
日本薬局方概論	6/15(後期)	1.5	75	①②③④⑨
分析化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	88	①②③⑨
分析化学演習	4/12(前期)	0.5	87	①②③④⑨
構造解析学	5/15(前期)	1.5	98	①②③⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	②③⑩⑪
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	69	①②③④⑨
分析化学・放射線化学実習	11/27(前期)	1	87	①②③④⑤⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4
特別研究	45/45(通年)	12	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

分析化学II（2年前期）は、理解度4.7（昨年度4.5）、満足度4.8（昨年度4.7）であった。分析化学I（1年後期）は、理解度4.5（昨年度4.7）、満足度4.7（昨年度4.8）であった。

講義開始時にこの講義内容を学ぶ必要性や該当するSBOを説明し、実例や関連ニュースの紹介、薬剤師国家試験の出題形式を演習、解説し、講義動画を期限を設けず公開して何度も復習できるようにしている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
分析化学I補習	6	22	10/10, 10/17, 10/31, 11/7, 11/28, 12/19
専門演習III	1	11	4/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ASAP-MS法による紫外線吸収剤、防カビ剤の分析
重粒子線照射マウス脳および腸管中のアミノ酸分析
サンゴ由来の蛍光タンパク質の特性調査に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新スタンダード薬学シリーズ　第3巻　基礎薬学　III.機器分析　第2章　蛍光光度法・化学発光分析法／単著／2025/11/27／東京化学同人／18頁～37頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学　ボランティアセンター運営委員会	委員長	（学内） 2025年4月18日　2025年度 第1回ボランティアセンター運営委員会 （学外） 2025年7月4日　令和7年度　第1回佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会（佐世保市社会福祉協議会　本館3階）に出席 2025年8月30日　陸上自衛隊相浦駐屯地（佐世保市大潟町678）にて災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加 2026年3月14日　令和7年度佐世保市災害ボランティアセンター設置運営訓練及び佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会（第2回）に参加・出席（佐世保市広田地区コミュニティセンター）
薬学部　図書選定委員会	委員	関連分野の図書の選定
薬学部　教務委員会	委員	研究室配属を担当　今年度よりマナバのアンケートを利用
薬学部　ハラスメント相談員	委員	今年度は相談無し
薬学部　自己点検・評価委員会	委員	会議出席
薬学部　実習（学内）委員会	委員	学生実習費の使用に関する会議など
薬学部　薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の承認など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

美術部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスへの参加（7/20, 8/3, 8/24, 3/15）

8/3のオープンキャンパスでは体験学習「夏の必須アイテム『日焼け止め』の効果を確認してみよう！」を実施

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第77回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市少年科学館運営委員会	委員長	～2025/6/30（終了）	佐世保市教育委員会
下村脩ジュニア科学賞審査委員	委員長	2012年～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	2025年度～	佐世保市社会福祉協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2025年8月30日　陸上自衛隊相浦駐屯地（佐世保市大潟町678）にて災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加

2026年3月14日　佐世保市広田地区コミュニティセンターにて令和7年度佐世保市災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本分析化学会九州支部　常任幹事

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、授業アンケートの結果において、理解度・満足度ともに良好な評価を得た。また、対外模試における担当領域の正答率も概ね全国平均以上であり、演習の効果が一定程度現れているものと考えている。

研究面においては、全国の薬学教育の基準といっても過言ではないスタンダード薬学シリーズの執筆に関わることができた。一方で、学会発表、論文投稿および研究費の獲得に至らなかった点については、大いに反省すべき課題である。

その他の活動としては、本年度より全学のボランティアセンター運営委員会の委員長を務めており、学内会議に加え、佐世保市社会福祉協議会主催の会議（2回）および災害ボランティアセンター設置・運営訓練（2回）にも参加した。佐世保市少年科学館においては、運営委員会委員長を6月30日付で退任したが、下村賞の審査委員については引き続き務めている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小川　由起子

1．教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療･創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。AI化が進む中、薬剤師として何ができるか、何を求められているかを瞬時に判断し、地域社会の中で求められる薬剤師になるための人材育成をする。

薬剤師国家試験に合格させるためには低学年の基礎科目の理解、それに紐づけられた専門科目を通じて薬剤師国家試験に対する意識づけが常に必要であると考える。そのため、低学年から薬剤師国家試験問題に触れることも重要であると考え、担当科目では小テストや課題で問題を解答させるようにしている。また、受動的な学習ではなく、能動的、自発的な学習ができるように指導を心がけている。5年生の配属学生には、勉強だけではなく研究の面白さを伝え、研究を通して薬をはじめとした医療を見る目を養わせるように指導している。

チーム医療の中で、薬剤師の立場として発言するためには化学に裏打ちされた知識が必要になってくるが、同時にコミュニケーション能力も不可欠である。傾聴、承認をし、自分の意見を簡潔に述べることができるような人材を育てていくように心がけている。

今般、社会の中で不安や悩みをもっている学生が多いので、それぞれにあった指導を心がけ、相談しやすい環境を整えるように心がける。学生生活6年の中で経験することは、社会に出てからも大きな影響力を与えるので、自己研鑽しながら社会に貢献できる人材育成に心がけていく。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/45(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	3/45(前期)	2	8	①②
専門演習Ⅰ	3/82(通年)	3	70	①④⑨⑩⑪
専門演習Ⅰ	3/82(通年)	3	5	①④⑨⑩⑪
専門演習Ⅱ	1/40(通年)	1.5	105	①④⑨⑩⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/45(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	3/45(後期)	2	77	①②
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	3	②③⑩
微生物薬品学	15/15(前期)	1.5	74	②③⑩
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	97	②③⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	94	②③⑩
感染防御学	4/15(前期)	1.5	94	②③
薬物治療学Ⅲ	6/15(後期)	1.5	85	①②③
ホスピタリティ演習Ⅳ	4/15(前期)	0.5	77	①④⑨⑩⑪⑫
微生物学・免疫学実習	15/27(前期)	1	93	①④⑤⑩
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	93	①②③⑦⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

1 授業改善

授業アンケートは概ね良好であった。授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

① 国家試験が科目の垣根を越えての出題が多くなったこと、連問の出題が増えたことから、広い視野を持って問題が解けるように、関連科目についても講義内容に追加し、さらに分野をまたいでの講義も実施した。

② 対面での双方向型授業（responを取り入れての双方向授業）をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。

③ 理解を定着させるために講義後に課題を出し、自主学習することで記憶力の定着を試みた。

2. 教育効果

2026年2月の国家試験では、薬理と薬物治療の理論問題の多くは連問で、新薬が多く出題された。年々新薬が増え、副作用の問題も大きいこと、さらに科目の垣根を越えて広い視野をもって患者への服薬指導ができるように、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。また、実習で実施した内容も国家試験に出題されていたために、実習内容の吟味は重要であると考える。今年度はできるだけ手を動かして理解させる実習を多く取入れることで理解を深めるようにした。また、昨年も実施したresponを活用し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。ゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。以前使用していた「スグキク」の方が使い勝手はよく感じられるが予算の都合上昨年度から使用していない。次年度は取り入れたいと思う。また、視聴覚教材の活用やトピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。またその日の講義内容の課題をmanabaで出題し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。さらに授業終了後、毎回独自のアンケートを取ることで学生の意見を吸い上げ改善を試みた結果、アンケート総合評価4.8の教科も多くなり、やってよかったと感じた。プリント、プロジェクターを適宜使用することにより、単元ごとに重要ポイントを示した。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出題し、単元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティアート専門学校	衛生管理Ⅱ	30/30(通年)	4	80
福岡ビューティアート専門学校	保健Ⅱ	15/15(前期)	2	75
第一薬科大学	微生物学	15/15(後期)	1.5	4
第一薬科大学	感染症治療学	15/15(後期)	1.5	122

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅲ	3	11	4/17,4/24,4/30
専門演習Ⅰ再	1	5	6/6

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.日本冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索

2.日本冬虫夏草の認知症改善に関する研究

3.ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン（SBL）のリコンビナントタンパク質の作製とその生理活性

4.凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	6	5	5	817万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Structural Characterization of a C1q/TNF-α Domain Containing Lectin OXYL in the Feather Star Anneissia Japonica／2025／Var.Int.J.Interdis.Res(VIJIR)／1(1), 18-321／共著／論文

Aggregation-Induced Luminescent 3-Phenylpyrano[4,3-b]quinolizine Derivatives as Photosensitizers with Anti-Cancer Properties／2025年／Molecules／30(7):1422／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

人工培養した日本産虫草2種のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性／2026年3月／日本薬学会146年会

Purpureocillium atypicola 抽出物による薬剤耐性慢性骨髄性白血病細胞の増殖抑制効果／2026年3月／日本薬学会146年会

日本産虫草のメラニン産生抑制作用と化粧品応用の可能性／2026年3月／日本薬学会146年会

日本産虫草の薬剤耐性多発性骨髄腫に対する増殖抑制効果の検討／2026年3月／日本薬学会146年会

眼アミロイドーシスに対するアルギニンのTTR四量体安定化効果の検討／2026年3月／日本薬学会146年会

RADA16によるアミロイド前駆蛋白質の線維形成促進作用の検討／2025年10月／第12回日本アミロイドーシス学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費　基盤研究C（代表）	日本学術振興会	2023年4月～2026年3月	429万円
共同研究	株式会社モノリス	3年（2023年4月～2026年3月）	360万円
科学研究費　基盤研究C（分担）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	5万円
学長裁量経費	長崎国際大学	2025年5月～2026年3月	3万円
女子中高生の理系進路支援プログラム（分担）	科学技術振興機構	2024年4月～2027年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学入試募集委員会	委員長	オープンキャンパス実施、企画（学部）、出張講義など入試業務全般に関わり、定員充足を目標に寄与した。
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス企画、運営、出張講義、釜山での留学フェアブース開催
薬学部学生委員会	委員	特待（入学時特待、薬学特待）、フレッシュマンセミナー、在学生との交流会開催、卒業式運営
薬学部国家試験・CBT対策委員会	渉外担当	外部講習会実施企画、外部講師テキスト印刷、予備校との連絡、国家試験合格へ向けた演習、補習企画、実施
薬学部地域連携委員会	委員	夏休み体験学習、地域連携センターと連携し、中高生向けイベント企画
薬学部図書選定委員	委員	図書選定

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム	分担	リケフェス in SASEBO 企画・実施 リケフェス2025　企画・実施 オープンキャンパスでのリケジョブース設置（4回）

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

高校ガイダンス/12月12日/沖縄県立宮古高等学校

第2回KISA留学博覧会ブース/2月22日/釜山港国際展示コンベンションセンター

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席

2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第78回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
夏休み子ども科学教室	8/2	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
夏休み高校生理科教室	8/10	長崎国際大学	長崎国際大学薬学部
チャレンジ科学教室	11/15	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
リケフェス in SASEBO	6/14	長崎国際大学	佐賀大学（継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム）
リケフェス2025	9/28	佐賀大学理工学部	佐賀大学（継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム）

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本女性科学者の会	監事	2024年5月～2028年4月	一般社団法人日本女性科学者の会
長崎川棚医療センター地域医療支援病院運営委員会	委員	2025年4月～　現在に至る	長崎川棚医療センター
教育・マスメディア委員会	委員	2024年5月～2027年3月	国際婦人年連絡会委員会
国際開発委員会	委員	2024年5月～2027年3月	国際婦人年連絡会委員会
国連関係特別委員会	委員	2024年5月～2027年3月	国際婦人年連絡会委員会
日本女性科学者の会学術誌編集委員会	委員	2015年～　現在に至る	一般社団法人日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

9月28日　地域の期待に応える実践活動　補助、SGDの学生サポート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム　企画

1. リケフェス in SASEBO

佐世保地区中高生向け理科教室、保護者向けガイダンス/佐賀大学、長崎国際大学合同フェス/6月14日

2. リケフェス2025
佐賀・佐世保地区高校生向け理系イベント/佐賀大学、西九州大学、久留米大学、佐世保高専、
長崎国際大学　5校合同フェス/9月28日
中高生向け理系女子イベントを佐賀、佐世保地区で実施した。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、
1.「継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム」プログラムの2年目であり、分担校としてリケジョプログラム2企画を実施、その中でも長崎国際大学で昨年に引き続きリケフェス in SASEBO を開催した。保護者向けプログラムも入れ、保護者からは昨年同様、大絶賛であった。さらに今年度も5校（佐賀大学、久留米大学、西九州大学、佐世保高専、長崎国際大学）合同でのリケフェス2025で体験学習と学校説明会を担当し、多くの学生が体験学習に参加した。感染制御学研所属の5年生を含め各大学の現役大学生もしくは大学院生に登壇していただき、高校生とのシンポジウムを企画し大盛況であった。また体験学習では「レジンアート」をテーマに標本つくりやアクセサリー作りを実施し、大盛況であった。
2. 研究面では、学生に学会で発表させるべく研究指導をし、日本薬学会第146年会にて5年生3名の発表を実現させた。今年度は科研費3年目、かつ横浜市立大との共同研究での科研費も取得できた（分担）。しかしながら委員会や学部行事等で時間がとられ、少し遅れがあるため、引き続き研究に邁進したいと考えている。
3. 広報、社会活動面では、毎年恒例となっている小中生向けに夏休み子ども科学教室、チャレンジ科学教室を開催し、近隣の小中学生へ理科への興味を抱かせるような取り組みを実施した。またリケフェス2025で進学ガイダンス等を実施し、大学の魅力を伝達した。今年度も昨年と同様にこのガイダンスへの参加者が多く、次年度も大学の魅力、理系の魅力をどんどん次世代に伝えていきたいと思う。
4. 教育面では、授業アンケートも昨年度に引き続き、よい結果を得ることができた。授業後に時間がない中でも学生から多くの質問が寄せられ、自分にとっても大変良い勉強になっている。今後も学生の意見を傾聴し、よりよい授業を組み立てていこうと考えている。
次年度も体調管理には十分気を付けて、精進していきたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 隈　博幸

1．教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	3/23(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	60/60(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	120/120(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
疾病学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	84	①②③
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	2	①③④⑤⑪
ホスピタリティ演習Ⅳ	4/8(前期)	0.5	77	①④⑨⑪⑫
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	78	⑤⑥⑩
臨床生理学実習	21/21(後期)	1	93	①②③⑦⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の主要2科目の授業アンケート結果は、疾病学Ⅰが 4.7、臨床生理学演習 4.0 であった。臨床生理学演習は受講者2名で1名はオール5、もう1名はオール3だったのであまり参考とならない。

例年、基本的には復習を重視し、学生の興味を引く時事的内容を中心に講義を行っており、それが一定の範囲で受け入れられたものと捉えている。

今年度は昨年度に引き続き、配布プリントとスライドの中身を少し違うものとした。その理由はプリント入手で安心せず、授業への出席と聴講を確実にするためであった。多くの学生はこちらの意図を受け入れてくれたが、相変わらず数名の学生からは同じにしてほしいとの要望があった。この点を含め、来年度の講義改善を考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	臨床検査学	15/15(前期)	2	26

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習ⅢA	1	49	2025年5月22日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド３の構造と機能相関の解明
3. プロテインS凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築
4. 凝固制御因子プロテインCの定量的活性測定法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	7	2	2	568万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2026年3月／日本薬学会第146年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法／2026年3月／日本薬学会第146年会

プロテインC蛋白質変異体の作成と活性に関する検討／2026年3月／日本薬学会第146年会

磁気マーカーを用いた新規免疫検査システムの開発／2026年3月／日本薬学会第146年会

粒子吸着によるアフェレシスを目指した磁気検出システムの構築／2026年3月／日本薬学会第146年会

磁気マーカーを用いた新規免疫検査システムの開発／2025年8月／第73回日本臨床検査医学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費（基盤研究C）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	468万円
受託共同研究費	株式会社シノテスト	2025年4月～2026年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国家試験・CBT対策委員会（学部）	委員長	薬学部4年～6年次生に対する国家試験とCBT対策、その他に尽力した。
研究等倫理委員会（学部）	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等を実施した。
自己点検評価委員会（学部）	委員	自己点検評価書の作成を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（2025年7月・8月、2026年3月）

九文高校　高大連携プログラム（2026年3月）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第79回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本臨床化学会	評議員	2019年4月～現在に至る	日本臨床化学会
創発的研究支援事業審査委員会	委員	2020年4月～現在に至る	科学技術振興機構（JST）

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因部門による医療臨床検査
（検査委託元：佐世保共済病院、株式会社シノテスト、杉ウイメンズクリニック、村上病院他）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

新型コロナが5型となって久しいが、インフルエンザが大流行した一年となった。引き続き大学の感染症対策には専門家の一員として協力していく。

その他、大学や学部の運営に適切に携わり、国家試験対策にも一定の成果・評価を得ることができた。しかし、研究活動は行ったが論文にできる成果が無く、研究面では物足りない一年となった。来年度は論文発表をはじめとした研究活動にも一層力を注ぐ必要があると感じた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 黒川　健児

１．教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	2	①②⑨
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	8	①⑨
専門基礎学習Ⅱ	4/9(通年)	0.5	2	②④⑨⑩
専門演習Ⅰ	7/45(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	7/45(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
細胞生物学	8/15(後期)	1.5	3	①②⑨
機能形態・生化学演習	3/12(後期)	0.5	74	①②⑨⑪
薬学英語	2/12(前期)	0.5	87	①⑤⑩
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	80	①②⑨
分子細胞生化学演習	3/12(後期)	0.5	66	②④⑨
ホスピタリティ演習Ⅱ	1/9(前期)	0.5	95	①④⑥⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	4/9(通年)	0.5	96	②④⑨⑪
生化学実習	9/21(後期)	1	84	①②④⑪⑫
細胞生物学	8/15(後期)	1.5	84	①②⑨
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

生化学Ⅱでは毎回の確認試験をmanaba上で行い、また隔週で計6回の小テスト、そして中間試験を実施した。細胞生物学についても担当回について毎回の確認試験をmanaba上で行い、隔週で計3回の小テストを実施後、中間試験を実施するなどして学生による復習と反復学習を誘導した。授業アンケートでも勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は両科目とも4.5を超えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門基礎学習Ⅱ　CAI補習	16	109	4/23,4/30,5/7,5/14,5/21,5/28,6/18, 6/25,10/15,10/22,10/29,11/12, 11/19,11/26,12/17,12/24
機能形態･生化学演習　補講	1	97	12/1
分子細胞生化学演習　補講	2	83	12/9,1/6
生化学Ⅰ　補習	2	39	12/9,1/6

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（1）細菌感染症の予防と治療に関する研究

（2）細菌感染に対する生体防御機構に関する研究

（3）微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
糖尿病性筋萎縮とサルコペニアに共通するリン脂質過酸化の役割解明と治療法の開発	日本学術振興会・科研費	2025年4月～2029年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	研究倫理委員会委員長としての職責を果たした。2025年度は規定の改定を事務方とともに実施した。
教務委員会	委員	教務委員会の薬学部選出の委員としての職責を果たした。
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反マネジメント委員会に、研究倫理委員会選出の委員としての参加した。
研究インテグリ ティ・マネジメン ト委員会	委員	研究インテグリ ティ・マネジメン ト委員会に、研究倫理委員長として参加した。
薬学部・教務委員会	委員長	薬学部・教務委員会の委員長として、所轄事項を遂行した。
薬学部・教育支援センター運営委員会	委員	薬学部・教育支援センター運営委員会に、薬学部･教務委員会委 員長として参加した。

薬学部・事前学習運営委員会	委員	薬学部･事前学習運営委員会に、薬学部･教務委員会委員長とし て参加した。
薬学部・実務実習運営委員会	委員	薬学部・実務実習運営委員会に、薬学部･教務委員会委員長とし て参加した。
薬学部・長崎薬学コンソーシアム	委員	薬学部・長崎薬学コンソーシアムに、薬学部･教務委員会委員長 として参加した。
薬学部・自己点検・評価委員会	委員	薬学部・自己点検・評価委員会に、薬学部･教務委員会委員長と して参加した。
入試・作問委員会	委員	入試問題の作問を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

4回のオープンキャンパスに参加し、参加者と交流し情報提供に努めた。8/24の第3回オープンキャンパスでは細胞生物薬学研究室として体験学習「のぞいてみよう！生命のトリセツ「DNA」」を提供した。福岡県の高校教員と交流し、進学情報を交換した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第80回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
生化学分野教科担当教員会	委員	平成29年度～現在に至る	薬学教育協議会
薬剤師国家試験問題検討委員会	「物理・化学・生物」部会	平成26年度～現在に至る	日本私立薬科大学協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部運営に関する各種の提言を、学部長、入試・募集委員長等に適宜行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

薬学部教務委員長としての二年目であったが、定期試験の成績管理・スケジュール管理、履修の手引の作成、シラバスのチェック、専門演習科目の科目担当者会議など通常業務を行った。全学の倫理委員会委員長として規定の改定を事務方とともに主導した。学部講義においては、生化学Ⅱや細胞生物学の授業アンケートでの満足度評価で目標以上の得点を得るなど一定の評価を得た。科研費に応募したが代表者としては採択されなかったものの、共同研究者としては採択された。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小島　直人

１．教育理念

本学の建学の理念を踏まえ、私は自ら学び、地域社会から求められる医療人の育成を使命としています。化学は医療の礎であり、特に薬剤師にとってはその重要性が顕著です。医師や看護師とは異なり、薬剤師は医薬品の専門家として、化学の知識を体系的に学ぶことが求められます。医療現場では、患者の健康と安全を確保するために正確で効果的な治療法を提供することが求められます。この点で、化学の知識は欠かせません。例えば、特定の薬物と患者の生体内での相互作用や、薬物の安定性や有効性に関する理解は、薬剤師が適切な医薬品を選択し、適切な投与量を計算する際に極めて重要です。

私の教育活動は、学生が化学の基礎を理解し、その知識を実践的な場面で活かすことを促進することを目指しています。講義や実習を通じて、学生が化学的な思考や問題解決能力を身につけ、現場での実践に活かせるようサポートします。また、教育支援センターの専任教員として、学生の学習をサポートし、個々のニーズに合わせた教育プログラムの開発に努めます。

このような取り組みを通じて、全ての学生が化学の視点を持ち、地域社会において高度な薬剤師として貢献できるよう、教育・研究に努めます。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
専門演習Ⅰ	4/82(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	4/82(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	1/36(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
専門演習ⅢA	2/45(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	1/45(後期)	2	77	①⑨
医薬品化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	98	①②③⑨
創薬化学	7/15(前期)	1.5	93	②⑩
化学演習	13/13(前期)	0.5	43	①②③⑧⑨
医薬品化学Ⅱ	10/15(後期)	1.5	60	①②③⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	43	①②③⑥⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	84	①②④⑩
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・基礎の化学（理解度4.6/満足度4.7）

リメディアル科目であるが、成績上位学生のクラスの担当であったため、高校化学の復習に留まらず、それらが薬学での学びにどのように繋がっているかを説明することに重点をおいて展開した。授業アンケートの結果からは、理解度、満足度共に良好であったことから、基本的な講義方法は次年度も踏襲した上で、次年度はより参加型の講義となるような工夫を増やす予定である。

・化学演習（理解度4.6/満足度4.7）

基礎の化学で学習した内容を演習形式で学習する授業であるが、解答に思考力を必要とする問題を出題するように心がけ、参加者の解答内容に沿った解説を行った。その結果、理解度、満足度ともに良好な結果であったことから、次年度も同様の形式にて実施する予定である。

・医薬品化学I（理解度4.6/満足度4.7）

医薬品が生体内でどのように機能するかを、できる限り暗記ではなく、これまでに学修してきた有機化学をベースに説明することを心がけた。その結果、理解度、満足度ともに良好な結果であったことから、次年度も同様の形式にて実施する予定である。

・医薬品化学II（理解度4.5/満足度4.7）

基本的な方針は医薬品化学Iと同じである。理解度、満足度ともに良好な結果であったことから、次年度も同様の形式にて実施する予定である。
・創薬化学（理解度4.4/満足度4.6）
今年度から担当する科目であるが、基本的な方針は医薬品化学Iと同じである。
理解度、満足度ともに良好な結果であったことから、次年度も同様の形式にて実施する予定である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学 補習	10	48	2025年4月22日、5月13日、5月27日、6月3日、6月10日、6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日
薬化学総論 補習	8	65	2025年5月15日、5月22日、5月29日、6月5日、6月12日、6月26日、7月10日、7月24日
有機薬化学Ⅰ 補習	11	53	2025年10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月18日、11月25日、12月2日、12月9日、12月16日、2026年1月6日、1月13日
専門演習ⅢA 補習	1	49	2025年4月16日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. ICTを活用した薬学教育手法の開発
2. 有機合成化学を基盤とする抗がんリード化合物の創製

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	2	2	370万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
Concise and Highly Stereoselective Synthesis of β,β-Disubstituted α,β-Unsaturated Esters／2025年3月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／https://doi.org/10.1248/cpb.c24-00751／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
膠芽腫幹細胞の増殖を阻害する新規チオフェンカルボキサミド誘導体の合成研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2024年4月～2028年3月	360万円
GGCT阻害剤と新規ミトコンドリア阻害薬を併用するがん幹細胞阻害戦略の確立	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2025年4月～2028年3月	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター会議	副センター長	委員会が所轄する通常業務に従事した。
教育基盤センター運営委員会	薬学分室長・学習支援部門長	薬学分室長としては、薬学教育支援センターの管理運営に従事した。学修支援部門長としては、食堂2Fラーニングコモンズの管理運営および離学防止のための学修支援の取り纏めに従事した。
教務委員会（薬学部）	副委員長	編入学試験の受験希望者の単位読替の精査を行った。
自己点検・評価委員会（薬学部）	副委員長	薬学教育評価受審のための報告書作成に携わった。また、評価報告書に対する対応について従事した。
薬学教育支援センター運営委員会（薬学部）	議長	薬学教育支援センターの管理運営に従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

・実務実習（5年生）における事前訪問・中間、終了時訪問を実施し、受入施設情報の収集および面談を実施した（訪問先：パンジー薬局（2025年4月18日、6月16日、7月1日、7月29日）、鹿児島大学病院（2025年4月18日、9月24日、10月16日、11月4日））。

・共用試験OSCEで評価者を担当した（2025年12月14日）。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第1回オープンキャンパス参加（2025年7月20日、本学）

第2回オープンキャンパス参加（2025年8月3日、本学）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第81回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本がん分子標的治療学会	評議員	2024年6月～現在に至る	日本がん分子標的治療学会会長
有機系教科担当教員会議	委員	2025年度～現在に至る	薬学教育協議会
薬剤師国家試験問題検討委員会	「物理・化学・生物」部会委員	2025年度～現在に至る	日本私立薬科大学協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】授業アンケートの結果から、一定の評価を得られたと考えている。更に内容を精査し、生じた時間を使って、より学生参加型の講義を展開していきたい。

【研究】科研費として採択されている新規抗腫瘍活性化合物の創製に関する研究活動を進め、学会発表や論文発表に繋げたい。また、薬学教育に関する研究も実施し、成果発表できるように努める。

【大学運営】割り当てられた委員会にて活動し、大学および薬学部の円滑な運営に貢献できるよう努めた。次年度は、本学の魅力をアピールするイベントの企画・運営に取り組みたいと思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小林　秀光

1．教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期（低学年次）から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物学」、「感染防御学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかり修得することは、「病原微生物学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における直接の出題数としては決して多くはないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といってもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス（特に、微生物学分野における最近の研究等）を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること（アクティブラーンイング）で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーンイングは、研究の最新トピックス等でなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目（学内実習を含む）では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験（随時、定期）を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。これにより、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
微生物学	15/15(後期)	1.5	87	①②
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	97	①⑨⑪
感染防御学	4/15(前期)	1.5	94	①⑧⑨
衛生化学Ⅱ	8/15(前期)	1.5	89	①⑩
微生物学・免疫学実習	6/18(前期)	1	93	①④⑤⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	75	①④⑥⑪⑫
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	78	①⑤⑩
専門演習Ⅰ	6/90(通年)	3	70	①②
専門演習Ⅱ	2/45(通年)	1.5	105	①②
専門演習ⅢA	2/45(前期)	1.5	95	①②
専門演習ⅢB	2/60(後期)	2	77	①②
専門演習Ⅰ	1/90(通年)	3	5	①②
総合演習ⅢＢ	30/30(前期)	2	8	①②
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

いずれも科目も、受講生の総合満足度は良好であった。

微生物学：総合満足度：4.6

病原微生物学：総合満足度：4.7

衛生化学Ⅱ：総合満足度：4.6

自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講したことが伺える。次年度もこの状態をキープできるように努力する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
博多メディカル専門学校	生化学	15/15(前期)	2	56
博多メディカル専門学校	生化学（国家試験対策）	3/3(後期)	0.5	48

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
成績下位者特別補習（前期）	1	40	4月14日
成績下位者特別補習（後期）	1	40	12月4日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 日本産冬虫夏草の生理活性成分に関する研究

② 病原性Candida酵母の細胞壁多糖抗原の免疫化学および構造化学的研究

③ 抗生物質を利用した新しい研究試薬の開発

④出芽酵母の細胞壁にみられる糸状菌型細胞壁多糖構造について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Candidaマンナンに関する研究①／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

Candidaマンナンに関する研究②／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

Candidaマンナンに関する研究③／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

冬虫夏草に関する研究①／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

冬虫夏草に関する研究②／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

冬虫夏草に関する研究③／2026年3月27日／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本産冬虫夏草の性質と機能性に関する研究	株式会社モノリス	2024～2026年（2年目）	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学産学連携委員会	委員	
薬学部教務委員会	委員	地域の期待に応える実践活動
薬学部共通機器管理委員会	委員	
薬学部図書選定委委員会	委員	

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

「NIUきのこ倶楽部」サークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第82回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
進化と味覚（共同）	12月12日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
がん発見のスペシャリスト	12月12日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
薬剤師のやりがい	12月12日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 日本産冬虫夏草の魅力について、中国国内で医師を対象に講演（上海、武漢）

② 冬虫夏草類の生育地域調査（長野県松本市）

③「㈱ 雲仙きのこ本舗」きのこ栽培工場におけるアドバイス（長崎県雲仙市）
④「㈱ TMWジャパン」冬虫夏草栽培工場における生育環境の指導（大阪府大阪市）
⑤「㈱ 美吉野製薬」薬用植物生産工場におけるアドバイス（奈良県吉野郡）
⑥ レストラン「山か雲か」（雲仙市）のメニュー創作（NIUきのこ倶楽部）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
さくら短期留学プログラム	学術交流	12月1日～12月6日	長崎国際大学薬学部	モンゴル薬科大学
日本冬虫夏草の医学的魅力	学術交流（講演、会議）	9月5日	中西医総合医院（武漢）	㈱美吉野製薬

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

博多メディカル専門学校勤続20年表彰

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】前期科目「衛生化学Ⅱ（3年次）」及び後期科目「微生物学（2年次）」のフィードバックアンケートでの学生満足度は双方とも4.6及び4.7であり良好であった。

【研究】今年度の論文業績は学会発表6件に止まったが、一昨年度より大学院生2名（社会人1人を含む）を受け入れ、アグレッシブに研究を継続している。

【社会貢献】2～3年後を見据え、佐世保地域の理系大学への進学率と医療産業への就職率アップを目標として、同地域の初等・中等教育における「理科啓発」と「高大接続」をテーマに活動を継続した（R6年度：学長裁量経費）。

【大学運営】全学委員会では、産学連携委員会の委員として職責を果たした。サークル「NIUきのこ倶楽部」の顧問として活動した。

【学部運営】教務委員会の活動（地域の期待に応える実践活動など）の運営を積極的に行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 佐々木　茂貴

１．教育理念

1) 身近で、親しみやすい、街の中の科学者・化学者として、地域の健康と福祉に貢献する薬剤師を育成する。
2) 科学的思考力を養うため、物事を分析的に解釈し、総合して理解する知識と能力を習得させる。
3) 物質の変化を説明するために化学的な思考力を育成する。
4) 話す相手に適切な態度と言葉で安心感を与えつつ科学・化学を伝える技術を習得させる。
5) 医療従事者としての自覚と責任感を育成する。
6) 病気の治療薬開発に向けた新進気鋭の気概をもつ研究者を育成する。
7) 既存薬の記憶にとどまらず、その創成過程に関心をもつ気風を育てる。
8) 確立した概念に満足せず、さらなる真理への探求心を奨励する。
9) 治療現場の課題や疑問点を基礎科学にフィードバックする能力を育てる。
10) 自発性・積極性を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
構造解析学	2/15(前期)	1.5	1	③⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	③⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	8	③⑨
専門演習Ⅰ	5/45(通年)	3	70	③⑨
専門演習Ⅰ	5/45(通年)	3	5	③⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	③⑨
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	③⑨
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	③⑨
創薬化学	1/15(前期)	1.5	93	③⑨
有機薬化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	85	③⑨
構造解析学	2/15(前期)	1.5	98	③⑪
有機薬化学実習	12/12(後期)	1	84	③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

すべての項目で、担当者の意図は多くの学生に伝わっているが、3評価を付けている学生が1-6名いて、「難しい」「分かりにくい」と感じている。これらの学生は「どこが分かっていないのかもわかっていない」可能性がある。ほとんどの学生に対する指導法はこれまでの方法を継続していくが、さらに少数の学生に対して個別の対応が取れるようにする必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
久留米大学医学部	薬理学講義	1/15(後期)	2	80

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

がん、糖尿病などの生活習慣病、遺伝病など、多くの病気はゲノムの異常によって発生する。当研究室では、病気の原因となるDNAやRNAを標的にする創薬研究を行い、難病の治療法開発にチャレンジする。

①　配列・塩基選択的なRNA化学修飾法の研究と化学的RNA編集への展開

遺伝子の中の、わずか一個の核酸塩基が正常なものと違うだけで重篤な症状を引き起こす。本研究では、mRNAに作用して選択的に化学反応する人工核酸を展開し、遺伝コードを編集するインテリジェント人工核酸の創製を目指す。

②　リピートDNAを標的とする低分子化合物の探索

リピート病では、リピートDNAが原因となって遺伝子発現が異常となることで発症する。本研究では、2本鎖DNAのリピート配列に協奏的に結合し、分子集積体を形成する低分子化合物を基盤として、リピート病治療薬リード化合物の開発を目的とする。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	1	2000万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

174. New Nucleoside Derivatives for Hybridization-Assisted Catalysis of Site-Selective Acetylation of 2′-OH of RNA／2025年5月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／457-466／共著／論文

Sequence-Selective 2′-O-Acetyl Modification of RNA Mediated by Duplex Formation with a Reactive Oligonucleotide Probe Incorporating 4-Thio-dT／2025年12月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／1122-1125／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

RNAのピンポイントAcyl修飾法の開発／2025年9月3日／第19回バイオ関連化学シンポジウム

核酸のピンポイント化学修飾法の開発とその応用／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

分子動力学計算を用いた翻訳終結複合体の分子間相互作用エネルギーの解析／2025年3月27日／日本薬学会第145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
挑戦的研究（開拓）	学術振興会	2024年6月-2027年3月	2000万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	委員	委員として会議に参加した。
グローバル推進協議会	委員	委員として会議に参加した。
全学教育会議	委員	委員として会議に参加した。
情報セキュリティー委員会	委員	委員として会議に参加した。
学務協議会	委員	委員として会議に参加した。
運営会議	委員	委員として会議に参加した。
奨学金変換免除にかかる候補者選考委員会	委員	委員として会議に参加した。
教員資格審査委員会	委員	委員として会議に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和5年度私立大学等改革総合支援事業対策会議ワーキンググループ	委員	活動内容のとりまとめに参加した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第71回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
公開講座「化学を通してくすりについて考える」	２月８日	長崎大学文教スカイホール	長崎県理科・化学教育懇談会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会	顧問	2023年3月25日～現在に至る	日本薬学会
日本薬系学会連合	業務担当理事	2023年7月3日～2025年9月29日	日本薬系学会連合
薬剤師養成問題懇談会	オブザーバー	2023年4月１日～2026年3月26日	厚生労働省
薬学教育評価機構	理事	2023年4月1日～現在に至る	薬学教育評価機構

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日仏医薬精密化学会議　FJS2025 in Sendai	日本側組織委員代表	2025年5月18日ー21日	仙台	日仏医薬精密化学会議

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

学長特別表彰　研究種目　挑戦的研究（開拓）

８．活動全般についての自己点検・評価

１．教育活動については、講義や演習を分担し、各種試験問題の作成を行った。授業評価では、5点中4.4-4.7の評であり、おおむね目的を達成した。

２．研究活動については英語論文発表や学会発表を行った。様々な実験と共同研究を展開し、当初の予想通りに実施できている。

３．大学運営には、全学委員として各種委員会活動に参加した。

４．社会活動では、日本薬学会顧問として活動した。さらに新しく薬系学会連合の設立に関わり、設立時理事として運営に携わった。その他種々の委員会活動を行った。

５．国際活動としては、日本側組織委員長として日仏医薬精密化学会議FJS2025 in Sendai の仙台での開催に尽力した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 平良　文亨

1．教育理念

薬学生が将来社会に貢献できるような人材として自立していくためには、学生時代に学ぶ薬局薬剤師・病院薬剤師・行政薬剤師・研究者等の幅広い視点から学ぶ姿勢が重要であると感じています。環境科学・衛生科学分野に関しましては、身近なところでは、例えば学校薬剤師が各種学校の教室内のCO2濃度を管理するなど、生活環境・衛生管理を担う薬剤師の社会的役割が以前に比べて高まっていますが、人体や周辺環境に及ぼし得るさまざまな環境要因や原因物質の正確な測定・分析・評価を地域に還元する取り組みを担う分野とも言えます。私は、長崎大学原爆後障害医療研究所・福島県立医科大学の教員として各種教育・調査研究に携わり、特に福島第一原子力発電所事故の被災地域では、医系学生、災害・被ばく医療科学専攻の修士学生及び博士学生への環境保健分野における講義・実習・論文指導等を主導してきました。さらに、分析化学などの様々な分野の研究者と連携し、質の高い共同研究に参画するなどし、環境科学的な観点から教育・研究を実践してきました。特に、被災地域の激変する環境下で、環境放射能レベルや大規模工事で発生するPM2.5・PM10などの粉塵レベルを学生とともに詳細に測定・分析・評価し、住民の帰還に繋げるためのデータとして活用するという取り組みを通じて、研究成果を地域の復興・再生に活かすことができたことは、大学教育が実を結んだまさに実学としての成果だと感じています。今後は、地球温暖化や自然災害・原子力災害等を踏まえつつ、目まぐるしく変化する大気・水質環境が生活に及ぼす影響に着目した調査研究を進めていきたいと考えています。具体的には、黄砂・PM2.5関連では、喘息患者を対象とした疫学研究（観察研究）として、黄砂・PM2.5飛来前後の喘息症状の憎悪頻度等について、長崎大学病院等と連携して実践した経験がありますし、行政・公設試験研究機関で培った知識や経験を活かしながら、大気環境の変化に伴う健康影響等に関する調査研究を検討しています。例えば、「環境汚染物質の人体曝露と生体影響に関する研究」等を追求し、得られた研究成果を情報発信することも重要な課題でもあると考えます。その他、環境放射能に基づく健康影響評価をはじめ、バイオドシメトリの新たな視点から原爆被爆者のアーカイブ試料を対象にした新たな内部被ばく線量評価や微量元素分析による被爆当時の時代背景・生活環境評価を行い、原子力災害に伴う人体への健康影響評価の精緻化を目指した複合的分析手法による科学的エビデンスの創出等を検討しています。さらに、佐世保市は玄海原子力発電所のUPZ圏内に位置するとともに、米国原子力戦艦の寄港地でもあることから、大規模災害（自然災害・原子力災害の複合災害）に備えた平常時・緊急時の環境科学が果たすべき役割は大きく、現場における環境放射能のモニタリング活動や被ばく線量評価、あるいは原子力災害医療として甲状腺ブロックのための安定ヨウ素剤の予防服用・緊急配布・事前配布に対応することは、環境科学の研究者・薬剤師として地域社会に大いに貢献できる分野であると考えますので、私のこれまでの知識・技術・経験から、本学において実効性のある教育・研究を体現できるものと考えます。なお、薬事関連業務では、薬局等医薬品販売業の許認可・監視指導、医薬品製造販売業者へのGMP査察（PIC/S対応）、医療用麻薬に関する監視指導・取り締まり（麻薬取締員）、災害緊急時における医薬品・医療機器の安定供給に関する整備・調整、医療経済学的視点によるジェネリック医薬品の使用促進に関する事業展開などの経験も豊富であり、8年前に発生した熊本地震では、医療支援策の1つとして、長崎県内の薬剤師派遣や医薬品・医療ガス・医療機器等の供給などを担当し、行政の薬務主管課、県・郡市薬剤師会、医薬業界、高度被ばく医療センター等の関係機関との調整を図るような立場で仕事をした経験を有しております。また、原子力災害における緊急被ばく医療に関しては、現場でのモニタリング活動や被ばくリスク評価、安定ヨウ素剤の事前配布の実施、緊急配布計画の作成、予防服用の訓練等の技術的助言も果たしてきましたので、環境科学と薬事関係をベースにした「地域における災害時に強い薬剤師」の育成も重要と考えています。以上から、地域密着型の大学教育として、本学の基本理念や薬学的視点に立って社会に貢献できる専門性の高い人材教育を行うことを目指します。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/15(前期)	1.5	2	③
総合演習ⅢＢ	0/15(前期)	2	8	なし
専門演習Ⅰ	1/15(通年)	3	70	③
専門演習Ⅰ	1/15(通年)	3	5	③
専門演習Ⅱ	1/15(通年)	1.5	105	③
卒業研究（５年）	60/60(通年)	2	2	②③
専門演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	95	③
専門演習ⅢB	0/15(後期)	2	77	なし
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	②③⑥

地球環境と倫理	15/15(前期)	1.5	87	②③
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	②③
衛生薬学実習	12/21(前期)	1	94	①②③
地球環境論	15/15(後期)	2	233	②③
環境科学	15/15(前期)	1.5	87	②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

環境関連科目は範囲が広いため、各分野の重要となる部分を整理し、系統立てて知識として長期記憶することができるかどうかが鍵となるため、講義資料では、教科書に沿って重要となる部分を強調するように作成し、講義内で重要である旨を伝えることを意識した。また、manabaを活用して、適宜課題レポートや小テストを学生に提示し、解答・解説を行いフィードバックを心掛けた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢＡ／専門演習ⅢAの補習	1	49	2026年6月2日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の再生・復興過程において、被災地域では、環境中に存在する事故由来の人工放射性核種を取り除く除染作業とともに、町の主要施設や被災住居等の解体作業が大規模に展開しており、廃棄物等の輸送など工事車両の往来が激しいため、それに伴い発生する粉塵（ダスト）によって工事作業者や帰還住民等への健康影響が懸念される。我々のこれまでの研究により、このような被災地域において、事故由来と考えられる137Csが断続的に検出され、粒径が2.5μm以下の微細なダスト（PM2.5）中に一定程度の137Cs（半減期：約30年）が集積する傾向が示唆されている。また、大気環境中に浮遊するPM2.5には、多くの重金属成分が含まれていることが知られており、被災地域の特殊な環境下において発生するダストに含まれるPM2.5等の成分組成を明らかにすることで、繰り返し浮遊するダストの環境毒性評価と粉塵を吸入することによる人への健康リスクを評価することは極めて重要であり、このような自然災害・原子力災害あるいはこれら複合災害による人への健康リスク評価に関する調査研究を進めている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	56	19	22	22	15009万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

21世紀のヒバクシャー世界のヒバクシャと放射線障害研究の最前線ー／共著・編著／2011年3月／株式会社長崎新聞社／62-80

放射性物質と食品・健康リスク-消費者心理にどう答えるかーチェルノブイリ原子力発電所事故に伴う人工放射性物質による健康影響ー／共著・編著／2012年1月／株式会社昭和堂／80-82

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Urinary iodine concentrations in urban and rural areas around Chernobyl Nuclear Power Plant／2008年12月／Endocr J/The Japan Endocrine Society／10.1507/endocrj.k08e-258／共著／原著論文

Urinary iodine concentrations in the high background radiation areas of kanyakumari district, tamilnadu, India／2009年9月／Endocr J/The Japan Endocrine Society／10.1507/endocrj.k09e-209／共著／原著論文

Poor chewing Ability is associated with lower mucosal moisture in elderly individuals／2009年10月／Tohoku J Exp Med/Tohoku University Medical Press／10.1620/tjem.219.263／共著／原著論文

チェルノブイリ原子力発電所訪問と環境放射線レベル／2009年12月／『IsotopeNews』/日本アイソトープ協会／https://www.jrias.or.jp/books/pdf/200912Isotope_news.pdf／共著／原著論文

Current concentrations of radionuclides and estimated radiation doses from 137Cs around the Chernobyl Nuclear Power Plant, the Semipalatinsk Nuclear Testing Site, and in Nagasaki／2010年12月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1269/jrr.10104／共著／原著論文

Suitability of Tartrate-Resistant Acid Phosphatase Type 5b as a screening marker for bone mineral density in community-dwelling elderly individuals／2011年1月／Tohoku J Exp Med/Tohoku University Medical Press／10.1620/tjem.224.105／共著／原著論文

Examination of the accumulative mechanism of an artificial radionuclide in marine life (2008-2010)／2012年3月／『RADIOISOTOPES』/日本アイソトープ協会／https://doi.org/10.3769/radioisotopes.61.145／共著／原著論文

Importance of personal dose equivalent evaluation in Fukushima in overcoming social panic／2012年8月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncr466／共著／原著論文

Evaluation of Environmental Contamination and Estimated Radiation Doses for the Return to Residents' Homes in Kawauchi Village, Fukushima Prefecture／2012年9月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0045816／共著／原著論文

Environmental contamination and external radiation dose rates from radionuclides released from the Fukushima Nuclear Power Plant／2012年9月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncs040／共著／原著論文

Good Stress Management Capability Is Associated with Lower Body Mass Index and Restful Sleep in the Elderly／2013年1月／Tohoku J Exp Med/Tohoku University Medical Press／10.1620/tjem.229.5／共著／原著論文

Vertical distribution and estimated doses from artificial radionuclides in soil samples around the Chernobyl nuclear power plant and the Semipalatinsk nuclear testing site／2013年2月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0057524／共著／原著論文

Evaluation of Environmental Contamination and Estimated Radiation Doses after the Return to Residents' Homes in Kawauchi Village, Fukushima Prefecture／2014年3月／Environ Sci Technol/American Chemical Society／10.1021/es404534y／共著／原著論文

Measurement of individual doses of radiation by personal dosimeter is important for the return of residents from evacuation order areas after nuclear disaster／2015年3月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0121990／共著／原著論文

Radiocesium concentrations in wild mushrooms collected in Kawauchi Village after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant／2015年11月／PeerJ/PeerJ Publishing／10.7717/peerj.1427／共著／原著論文

Communicating radiation risk to the population of Fukushima／2016年9月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncw184／共著／原著論文

Radiocesium concentrations in wild mushrooms after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: Follow-up study in Kawauchi village／2017年7月／Sci Rep/Springer Nature／10.1038/s41598-017-05963-0／共著／原著論文

Radiocesium Contamination and Estimated Internal Exposure Doses in Edible Wild Plants in Kawauchi Village Following the Fukushima Nuclear Disaster／2017年12月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0189398／共著／原著論文

Activities concentration of radiocesium in wild mushroom collected in Ukraine after the 30 years from the Chernobyl Power Plant accident／2018年1月／PeerJ/PeerJ Publishing／10.7717/peerj.4222／共著／原著論文

Seven years post-Fukushima: Overcoming the resident-specialist gap／2018年7月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rry037／共著／原著論文

Thirty-two years post-Chernobyl: Risk perception about radiation and health effects among the young generation in Gomel, Republic of Belarus／2018年9月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rry079／共著／原著論文

Risk perceptions regarding radiation exposure among Japanese schoolteachers living around the Sendai Nuclear Power Plant after the Fukushima accident／2018年11月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0212917／共著／原著論文

Intention to return to the town of Tomioka in residents, seven years after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: A cross-sectional study／2018年11月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rry094／共著／原著論文

Recovery from nuclear disaster in Fukushima: collaboration model／2018年12月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncy150／共著／原著論文

Factors affecting public health nurses' satisfaction with the preparedness and response of disaster relief operations at nuclear emergencies／2019年1月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rry082／共著／原著論文

Evaluation of Environmental Contamination and Estimated Radiation Exposure Dose Rates among Residents Immediately after Returning Home to Tomioka Town, Fukushima Prefecture／2019年3月／Int J Environ Res Public Health/MDPI／10.3390/ijerph16091481／共著／原著論文

Radiation education for nurses working at middle-sized hospitals in Japan／2019年10月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rrz049／共著／原著論文

Eight years post-Fukushima: is forest decontamination still necessary?／2019年10月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rrz047／共著／原著論文

Chemical content and source apportionment of 36 heavy metal analysis and health risk assessment in aerosol of Beijing／2019年12月／Environ Sci Pollut Res/Springer Nature／10.1007/s11356-019-06427-w／共著／原著論文

PET/computed tomography shows association between subjective pain in knee joints and fluorine-18-fluorodeoxyglucose uptake／2020年3月／Nucl Med Commun/Wolters Kluwer Health Inc.／10.1097/MNM.0000000000001143／共著／原著論文

Intention to Return in Residents of Tomioka, Fukushima Prefecture, Japan Stratified by Sex After the Accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station／2020年4月／Prehosp Disaster Med/Cambridge University Press／10.1017/S1049023X20000254／共著／原著論文

Health-related quality of life in Japanese patients with prostate cancer following proton beam therapy: an institutional cohort study／2020年5月／Jpn J Clin Oncol/Oxford University Press／10.1093/jjco/hyaa027／共著／原著論文

Environmental Remediation of the difficult-to-return zone in Tomioka Town, Fukushima Prefecture／2020年6月／Sci Rep/Springer Nature／10.1038/s41598-020-66726-y／共著／原著論文

Radiocesium concentrations in wild boars captured within 20 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant／2020年6月／Sci Rep/Springer Nature／10.1038/s41598-020-66362-6／共著／原著論文

Factors affecting anxiety among administrative officers working within the urgent protective action planning zone of a nuclear power station／2020年8月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0236997／共著／原著論文

Quality of Life and Intention to Return among Former Residents of Tomioka Town, Fukushima Prefecture 9 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Accident／2020年9月／Int J Environ Res Public Health/MDPI／10.3390/ijerph17186625／共著／原著論文

Radiocesium concentrations in mushrooms collected in Kawauchi Village five to eight years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident／2020年9月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0239296／共著／原著論文

Psychological health status among former residents of Tomioka, Fukushima Prefecture and their intention to return 8 years after the disaster at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant／2020年11月／J Neural Transm/Springer Nature／10.1007/s00702-020-02160-8／共著／原著論文

Radiocesium levels in contaminated forests has remained stable, even after heavy rains due to typhoons and localized downpours／2020年11月／Sci Rep/Springer Nature／10.1038/s41598-020-75857-1／共著／原著論文

Intention to Return and Perception of the Health Risk Due to Radiation Exposure Among Residents in Tomioka Town, Fukushima Prefecture, Stratified by Gender and Generation／2020年12月／Disaster Med Public Health Prep/Cambridge University Press／10.1017/dmp.2020.319／共著／原著論文

Risk perception of the pre-distribution of stable iodine to guardians of children living around the Genkai Nuclear Power Plant, Saga Prefecture, Japan／2021年5月／PLoS One/Public Library of Science／10.1371/journal.pone.0250570／共著／原著論文

Experiences of crisis communication during radiation emergency and risk communication for recovery of the community in Fukushima／2021年5月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rraa113／共著／原著論文

Local Levels of Radiation Exposure Doses due to Radiocesium for Returned Residents in Tomioka Town, Fukushima Prefecture／2021年5月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncab049／共著／原著論文

Risk perception regarding implementation of iodine thyroid blocking during a nuclear disaster of mothers living near a nuclear power station in Japan／2021年5月／Endocr J/The Japan Endocrine Society／10.1507/endocrj.EJ20-0627／共著／原著論文

Intention to return in residents of Okuma and its characteristics: the evacuation order was lifted eight years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident／2021年7月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rrab058／共著／原著論文

Awareness of the implementation of stable iodine prophylaxis by parental guardians living in the urgent protective action planning zone of an operating nuclear power plant in Japan／2021年12月／BMC Public Health/Springer Nature／10.1186/s12889-021-12349-5／共著／原著論文

Risk Perception of Health Risks Associated with Radiation Exposure among Residents of Okuma, Fukushima Prefecture／2021年12月／Int J Environ Res Public Health/MDPI／10.3390/ijerph182413208／共著／原著論文

Evaluation of Residents' Timing of Return to or New Settlement in Kawauchi Village, at 10 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident／2022年1月／Int J Environ Res Public Health/MDPI／10.3390/ijerph19010543／共著／原著論文

Life satisfaction and factors affecting satisfaction in Kawauchi village residents at 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident／2022年2月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncab186／共著／原著論文

Risk perception of genetic effects and mental health among residents of Kawauchi village, 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident／2022年3月／J Radiat Res/Oxford University Press／10.1093/jrr/rrab108／共著／原著論文

Assessment of localized and resuspended 137Cs due to decontamination and demolition in the difficult-to-return zone of Tomioka town, Fukushima Prefecture／2022年4月／Integr Environ Assess Manag/Wirey／10.1002/ieam.4625／共著／原著論文

Regional case studies: Environmental radioactivity levels and estimated radiation exposure doses of residents and workers in areas affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident／2023年2月／Radiation Environment and Medicine/Hirosaki University／37-52／共著／原著論文

Calibration experiments for radon in drinking water measurements using portable-type electrostatic-collection radon monitors／2023年11月／Radiat Prot Dosimetry/Oxford University Press／10.1093/rpd/ncad188／共著／原著論文

Temporal variation in environmental radioactivity and radiation exposure doses in therestricted areas around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant／2023年12月／Sci Rep/Springer Nature／10.1038/s41598-023-49821-8／共著／原著論文

Fukushima's Tap and Groundwater a Decade after the Nuclear Accident with Radiocesium, Tritium, and Radon／2025年3月／Environ Sci Technol/American Chemical Society／10.1021/acs.est.4c14601／共著／原著論文

Indoor and outdoor exposure to atmospheric radionuclides in areas affected by the Fukushima nuclear accident／2025年12月／Science of The Total Environment/ScienceDirect／https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2025.181027／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

チェルノブイリ周辺におけるヨード充足状況の評価ー都市部と地方の比較ー／2009年4月／第82回日本内分泌学会学術総会

チェルノブイリ、セミパラチンスク及び長崎における放射線被ばくリスクについて／2010年5月／第80回日本衛生学会学術総会

チェルノブイリ、セミパラチンスク及び長崎における環境放射能レベルについて／2010年10月／日本放射線影響学会第53回大会

福島第一原子力発電所及びチェルノブイリ原子力発電所周辺の環境放射能レベル／2011年11月／日本放射線影響学会第54回大会

福島第一原子力発電所事故後の周辺の環境放射能レベル／2012年3月／第82回日本衛生学会学術総会

福島県川内村における帰村に向けた環境放射能レベルの把握と被ばくリスク評価／2012年9月／日本放射線影響学会第55回大会

チェルノブイリ原子力発電所及びセミパラチンスク核実験場周辺の被ばくリスク評価／2013年3月／第83回日本衛生学会学術総会

福島県川内村における住民帰村後の内部被ばくリスク評価／2013年10月／日本放射線影響学会第56回大会

帰還前後における環境中の放射線量（外部被ばく評価）／2018年1月／福島県民大学

富岡町における避難指示解除後の環境放射能レベル（外部被ばく評価）／2018年3月／第4回福島大学環境放射能研究所成果報告会

福島県富岡町における住居周辺の表層土壌の除染効果／2018年7月／第7回環境放射能除染研究発表会

富岡町における生活空間の環境放射能（外部被ばく線量評価）／2019年2月／ふくしま県民公開大学

福島県富岡町における特定復興再生拠点区域の除染効果／2019年7月／第8回環境放射能除染研究発表会

里山再生に向けた取り組み：山道モニタリング／2020年2月／ふくしま県民公開大学

福島県富岡町における特定復興再生拠点区域の除染効果の検証／2020年9月／第9回環境放射能除染研究発表会

Evaluation of environmental contamination and estimated external and internal exposure dose rates among residents after returning home to Tomioka Town, Fukushima Prefecture／2020年10月／日本放射線影響学会第63回大会

Environmental radioactivity levels and estimated radiation exposure dose rates among residents before and after returning home to areas near Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. Fukushima 10 years: Lessons Learned and Radiological Environmental Impact／2021年3月／Korean Association for Radiation Protection (KARP) and Japan Health Physics Society (JHPS) Joint Symposium

富岡町の特定復興再生拠点区域「夜の森地区」における除染効果／2021年8月／第10回環境放射能除染研究発表会

特定復興再生拠点区域における除染・解体作業に伴うダストに含まれる137Csの環境動態／2022年8月／第11回環境放射能除染研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
食物摂取による低レベル放射線被ばくの健康影響	日本学術振興会	平成21年4月～平成22年3月	52万円
放射性核種を指標とした超閉鎖性水域の健康診断	日本学術振興会	平成23年4月～平成24年3月	50万円
農産物を介した福島原発事故由来の人工放射性核種の環境動態と内部被ばく評価	日本学術振興会	平成25年4月～平成27年3月	170万円
新たな被ばくリスク評価の構築に向けた健康被害評価係数の算定と一般化	日本学術振興会	平成26年4月～平成28年3月	0万円
福島県川内村における帰村後の外部被ばく評価：積算線量による生活空間の長期変動把握	長崎大学原爆後障害医療研究所共同利用・共同研究	平成25年4月～平成27年3月	130万円
イメージングプレートを用いた帰還困難区域及び避難指示解除区域における環境試料中の放射性セシウムの分布解明	福島大学環境放射能研究所	平成30年4月～平成31年3月	37万円
特定復興再生拠点区域（帰還困難区域）における除染・解体作業による放射性セシウムの再浮遊・飛散性の動態把握	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点共同研究	令和元年4月～令和2年3月	16万円
特定復興再生拠点区域（帰還困難区域）における除染・解体作業による放射性セシウムの再浮遊・飛散性の動態把握	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点共同研究	令和2年4月～令和3年3月	15万円
帰還困難区域における建屋に内在する放射性セシウムと解体作業に伴い飛散する放射性セシウムの動態把握	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点共同研究	令和3年4月～令和4年3月	17万円

為的な要因による粉塵の舞い上がり（再浮遊）に伴う放射性セシウムの環境動態	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点共同研究	令和4年4月～令和5年3月	16万円
帰還困難区域における工事車両の往来に伴い再浮遊する粉塵中の137Cs及び重金属の成分特性の解析	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点共同研究	令和5年4月～令和6年3月	20万円
福島県内における放射線に係る健康影響等に関するリスクコミュニケーション事業	環境省	平成29年4月～令和5年3月	7944万円
環境放射能の動態と影響を解明する先端的研究	国立大学法人福島大学	平成30年4月～令和4年3月	800万円
富岡町を基盤とした帰還住民とのコミュニケーションに資する科学的エビデンスの創出	環境省	令和元年4月～令和2年3月	828万円
大熊町、富岡町におけるリスクコミュニケーションとリスク認知、メンタルヘルスの経時的変化との関連について	環境省	令和2年4月～令和5年3月	863万円
浜通り地域を対象とした帰還住民の天然および人工放射性核種からの被ばく線量調査	環境省	令和3年4月～令和6年3月	2742万円
福島第一原子力発電所事故の影響を受けた地域における里山の高度管理と有効活用	福島大学環境放射能研究所	平成30年4月～平成31年3月	396万円
未除染地域に長期間残存する放射性セシウムの環境動態の解析：イメージングプレートによるホットパーティクルの探索と里山の高度管理による有効活用の検討	福島大学環境放射能研究所	令和元年4月～令和2年3月	199万円
森林・河川における放射性セシウムの環境動態の解析：残留放射線が形成するホットパーティクルの解析及び環境放射能レベルの把握	福島大学環境放射能研究所	令和2年4月～令和4年3月	199万円
帰還困難区域に隣接する地域における生活行動の違いによる個人被ばく線量評価	福島大学環境放射能研究所	令和3年4月～令和4年3月	191万円
未除染エリアに残存する放射性セシウムの挙動解明：土壌ー植物系における放射性セシウムの交換性と植物に形成されたホットパーティクルの移動性に関する解析	福島大学環境放射能研究所	令和4年4月～令和5年3月	199万円
特定帰還居住区域等における住民帰還に向けた住居周辺の除染効果の検証	福島大学環境放射能研究所	令和5年4月～令和6年3月	125万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
生涯学習・教育委員会	委員	生涯教育セミナー開催のために、日程調整や演者の選定等を行った。
就職委員会	委員	合同説明会（企業研究セミナー）開催のために、日程調整等を行った。また、長崎県福祉保健部薬務行政室（室長）の訪問を受け、行政薬剤師の新規採用への協力要請がったため、広報誌の閲覧や学生への周知を行った。
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する自己申告書、令和８年度の利益相反マネジメント研修会の計画等について審議した。
レギュラトリーサイエンス分野教科担当教員	教員	医薬品の出荷調整、供給不安など、品質や供給に関わる問題が社会的に話題となる中、レギュラトリーサイエンス教育における医薬品の品質と供給と薬剤師の関わりに関する意見交換した。
衛生薬学教科担当教員	教員	薬学教育に関する最近の話題、感染症の予防・蔓延防止、日本人の食事摂取基準、薬毒物試験法の活用等について意見交換した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第83回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎大学在籍時、当該大学は、福島県双葉郡内の4自治体である川内村（2013年4月20日）、富岡町（2016年9月30日）、大熊町（2020年7月30日）及び双葉町（2021年12月1日）と包括連携協定を締結し、役場内にそれぞれ「復興推進拠点」（サテライト）を設置し、自治体と連携しながら各種活動・調査研究を推進してきたが、その中で「環境放射能調査を通じた被ばく線量評価」については主導的に実施した。川内村では帰村宣言（2012年1月31日）に伴う帰村前後の村内の環境放射能調査・被ばくリスク評価等の実績があり、その際の知見と経験を活かし、富岡町においても2017年4月の避難指示解除前後における町内の環境放射能調査・被ばく線量評価等を継続的に実施するとともに、大熊町・双葉町においても中間貯蔵施設周辺や特定復興再生拠点区域に特化した走行サーベイ（外部被ばく線量評価）や粉塵の核種分析（内部被ばく線量評価）を実施した。得られた情報については、自治体と情報共有するとともに、ウェブサイト（SNS）や広報誌による情報発信や帰還住民等を対象とした戸別訪問や少人数制の車座集会等による放射線リスクコミュニケーションに活用するなど環境科学を通じた被災地域への技術的助言を実践してきたが、これまで培ってきた被災地域との信頼関係を堅持しながら、本学においてもなお、これらの活動を継続する予定である。

7．受賞等

平成25年7月、原子力施設等放射能調査機関連絡協議会会長賞

8．活動全般についての自己点検・評価

着任1年目ということもあり、本学における様々な活動（授業、実習、委員会活動、研究等）に携わることができたが、本学の文化的背景や各種システムを理解しながら（様子を見ながら）仕事を進める場面が少なくなかった。担当している環境分野は範囲が広いため、学生の関心を維持することは容易ではなかったが、各分野に密接につながっている部分が多くあり、環境分野の知識・技術が今後ますます重要となることが予想されることなどから、授業や実習あるいは国家試験対策などにおいて、「広く学ぶ心」を持って関心を維持するよう努めた。時々刻々とグローバルに変化する環境において、今後も時事情報や社会的関心事を取り入れながら、学生と共に環境分野の研鑽に励みたい。また、自身の研究に関しては、他機関との共同研究の推進に向けた体制整備が整いつつあるため、今後さらに進めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 高井　伸彦

１．教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	8	①④⑨⑩⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	4/9(通年)	0.5	2	①
専門演習Ⅰ	2/39(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	2/39(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/40(通年)	1.5	105	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑥⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	2/30(後期)	2	77	①④⑥⑨⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	1	①②③④
放射線医療学	15/15(前期)	1.5	79	①②③④
機器分析学	4/15(後期)	1.5	80	①②③④
日本薬局方概論	3/15(後期)	1.5	75	①②③④
分析化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	88	①②③④
分析化学演習	2/8(前期)	0.5	87	①②③④⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①④⑥⑨
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①④⑥⑨
ホスピタリティ演習Ⅱ	5/9(前期)	0.5	95	①④⑥⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	4/9(通年)	0.5	96	②④⑨⑩
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	69	①②③④
分析化学・放射線化学実習	18/18(前期)	1	87	①②③④⑤⑩
放射線化学	15/15(後期)	1.5	70	①②③④
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①④⑥⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	2/15(後期)	2	4
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義評価における満足度および理解度は、学内平均よりも高く、評価も高い。今後も学生が興味をもてるように情報を更新しながら改善を実施したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析

粒子線治療による脳腫瘍治療の効果的利用を目的とし、脳のRBE（生物学的効果比）指標を早期に見いだすことのできる新たな物理的画像分析法（新規RBE指標）を創出する。それらの結果にもとづき、中枢組織障害ならびに脳機能（認知・記憶・注意力）障害を軽減するQOLの向上に向けた研究を実施し、重粒子線がん治療装置等共同利用研究課題として「重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析」が採択され実施している。これらの研究を発展させ、基盤研究(C)「脳腫瘍の集学的治療時に生じる認知機能障害と脳内毛細血管密度の解析」の獲得に至る。

重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析

放射線照射後に生じる腸管障害と末梢性NMDA受容体の関連性を明らかにし、組織障害の早期診断技術および有効な放射線防護剤の開発を行う。これまでの研究成果から、グルタミン酸受容体阻害剤の１つであるNMDA受容体阻害剤が、腸管障害を軽減することを明らかにしてきた。また脳局所照射実験では、記憶に重要な海馬の特定部位の毛細血管密度が早期から影響を受けることを明らかにしてきた。本研究計画を通して、数種類のグルタミン酸受容体阻害剤を用い、その防護効果をマウス腹部・頭部照射モデルを応用して解析を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	468万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

The Early Diagnosis in Heavy Ion Radiotherapy and Development of Therapeutic Tracers／2025/10/4／第62回放射線影響懇話会

核酸誘導体による重粒子線治療効果の早期評価と線量最適化／2025/11/15-16／第42回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
悪性脳腫瘍の集学的治療に伴う脳壊死ならびに高次脳機能障害機序の解析	基盤研究(C) 科研費	2024-2026	468万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学研究センター委員会	委員長	長崎国際大学論叢の編集および長崎国際大学研究報告会の運営を実施した。
放射線障害予防委員会	委員長	安全管理責任者として、RI実験室を利用する方々に、放射線取扱の教育講演を実施した。

３年生学年主任	主任	進級率の向上のため、CAIを利用した学習について指導している。
図書選定委員会	委員	図書選定
教務委員会	委員	３年学年主任業務
CBT実施委員会	委員	CBT体験受験および本試験の試験準備および試験監督
薬学教育支援センター運営委員会	委員	教育基盤センター紀要の編集および審査
教育基盤センター運営委員会	委員	３年学年主任業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

入試募集が企画した冊子への情報提供および、オープンキャンパスでの体験講義を担当した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第84回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
一般社団法人日本量子医科学会	評議員(役員)	2021/12～	一般社団法人日本量子医科学会
放射線影響懇話会	世話人(理事)	2017/10～	放射線影響懇話会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全学・薬学委員会の2つの委員長業務、5つの委員としての業務を滞りなく実施し、科研費の獲得、学生の指導をおこなっている。

業務を増やすばかりの委員会のあり方や、同じ内容の書類の提出や入力など多くの疑問があり、良い大学として活動するためにも、無駄のない委員会業務の削減や効率化を望む。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 長岡　寛明

１．教育理念

私の教育の理念は，学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく，公衆衛生学・衛生化学，環境科学，毒性・代謝学，レギュラトリーサイエンス等の視点をもって現代社会の問題点，目指すべき方向などについて考えることができる広い視野をもった良い医療人を育てるというものである．良い医療人とは，医学，薬学，社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し，更に，協調性に富み，幅広い視野と豊かな教養を持ち，高い人間性及び倫理観を持ち合わせ，自ら学び続けることができる人材であると考える．

本学の卒業生のほとんどは，病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し，一般社会に接した医療現場で働き，多忙な業務をこなすことになる．学生には，将来，疾病を見るだけでなく，疾病に罹っている患者本人及びその家族，患者が生活する地域，属する組織や社会に対し，目を向けて考えること，自ら行う医療行為について評価することができるようになること，加えて，疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている．

以上のことより，患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり，生涯にわたって，やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている．

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	1/23(通年)	3	70	①⑨
専門演習Ⅰ	1/22(通年)	3	5	①⑨
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	105	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	①④⑤⑪⑫
専門演習ⅢB	1/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	①④⑤⑪⑫
健康薬学	15/15(前期)	1.5	60	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	1/8(後期)	0.5	75	⑧
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	①②⑩
衛生薬学実習	15/21(前期)	1	94	①②④⑤⑦⑪⑫
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	3/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート：授業アンケートはおおむね良い結果であった．

・授業改善と教育効果：

授業方法の改善として，

昨年度資料を冊子体の状態で配布したが，情報量が多くなったため，冊子体による配布を諦め，A4用紙をステープラで留めたものを配布したところ，学生からは好評だった．

Zoomによる講義の映像をYouTubeで配信したため，学生から好評であった．

教育効果として

manabaを用いて，小テストを実施し，学生の理解を深めることに努めた．今年度は，穴埋め式の問題にしたところ，成績の向上がみられた．

manabaにおいて質問やコメントを求めたところ，多くの質問やコメントが寄せられた．これらに対しては，真摯に回答した．

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護学校	公衆衛生学	15/15(前期集中)	2	63

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・医療用医薬品の承認審査に関する研究
・カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量測定法の開発
・茶抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究
・食品中の腐敗アミンの分布及び挙動に関する研究
・大村湾の海洋調査に関する研究
・環境汚染物質の分析およびそれらの生体への影響評価に関する研究
・COVID-19に関する疫学研究
・長崎県の人口動態統計に関する研究
・佐世保市の水道に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
錠剤型食品の崩壊性の追跡調査結果と今後の課題／令和7年9月／フォーラム2025：衛生薬・環境トキシコロジー

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った.
薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として，第14回の卒後教育セミナーの開催（11月9日）した．その他に同委員会の運営に関する業務を行った.

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第85回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	10

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ながさきまなびネット	講師	平成17年2月～現在に至る	長崎県教育庁生涯学習課
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門員	平成18年5月～現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
日本食品化学学会	評議員	平成23年1月～現在に至る	日本食品化学学会
佐世保市開発審査会	委員	令和3年4月～現在に至る	佐世保市
佐世保市建築審査会	委員	令和5年5月～現在に至る	佐世保市
佐世保市水道局運営検討委員会	委員（副委員長）	令和6年7月～現在に至る	佐世保市
長崎県環境審議会	委員	令和6年11月～現在に至る	長崎県
長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県
長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県
長崎県環境審議会　環境計画部会	委員	令和6年12月～現在に至る	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本年度は，講義，実習及び演習の準備等で瞬く間にすぎてしまった1年であった．このため，活動全般では，他の教職員の方々の理解と協力を得て，果たすことができたと考えている．

教育活動においては，自分なりに精一杯努めたつもりではあるが，まだまだ反省し，改善すべき点があると考えている．

研究活動においては、今年度は論文0報，学会発表1回であった．来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい．

委員会活動においては薬学部図書館委員として，図書館の蔵書の充実に寄与した．また，薬学部生涯教育委員会委員長をとして，委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた．来年度も講演会を開催し，本学が知の拠点となる一助としたいと考えている．

佐世保市開発委員会委員，佐世保市建築審査会委員，佐世保市水道運営検討委員会委員（副委員長），長崎県環境審議会委員，長崎県環境審議会環境計画部会委員，長崎県環境審議会環境監視部会委員，長崎県環境審議会環境計画策定部会委員として，長崎県や佐世保市の行政に一役買えたことと思っている．

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 西奥　剛

1．教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。 本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。 それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①②⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	①②⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	①⑨
薬理学Ⅰ（総論）	15/15(前期)	1.5	87	①②③
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）	15/15(後期)	1.5	81	①②③
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	4	⑥⑦⑩
専門基礎学習Ⅰ	15/15(通年)	0.5	82	②④⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	15/15(後期)	0.5	85	②⑦
薬理学実習	21/24(後期)	1	92	①②③④⑥⑩⑪
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	①

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは概ね高評価であった。薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱともに中間試験48%、定期試験48%、小テスト4%として評価した。中間試験で出題した範囲は定期試験では出題しないようにした。これにより、試験範囲が狭くなり、学生の負担が軽減したものと思われ、80%以上の学生が単位を修得した。また、講義の開始直後に小テストを取り入れたことにより遅刻する学生が激減した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	治療論Ⅰ	15/15(通年)	1	56

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ	2	4	2025年4月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・破骨細胞における骨吸収機構と好気的解糖

・カテプシンEによるCD147のプロセッシングを介した関節リウマチの骨破壊機構

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	2	2	518万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

HIF-1α stabilization in osteoclasts induces the expression of aerobic glycolysis-related proteins GLUT1, LDHA, and MCT4／2025年5月／J Pharmacol Sci.／10.1016/j.jphs.2025.05.017／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

モッコウの成分であるコスツノリドによる破骨細胞分化抑制作用／2025年11月／第42回日本薬学会九州山口支部大会

樹状細胞由来破骨細胞におけるLDHAとMCT4の発現／2025年11月／第42回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費　基盤研究（C）	西奥剛	2025年～2028年	468万円
科学研究費　挑戦的研究（開拓）（分担）	佐々木茂貴	2025年～2027年	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学広報委員会	委員長	広報委員会の開催ならびに取りまとめ、学生募集の広報に関する立案、ホームページの改正案、広報催事の企画等に携わった。
CBT実施委員会	委員長	CBTが円滑に行われるよう計画を立て、不正行為が起こらないよう厳密に実行した。
薬学部教務委員会	2年生学年主任	オリエンテーションでの履修指導、3年生との交流会の開催、「専門基礎演習Ⅰ」と「ホスピタリティ演習Ⅰ」の講義担当およびレポート採点、保護者懇談会用冊子の原稿執筆、離学防止対策の提出、定期試験に向けての注意喚起、中間試験の成績不良者との指導、CAI補習を実施等に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

全学広報委員会の活動として、学生募集の広報に関する立案、ホームページの改正案、広報催事の企画等に携わった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外

2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第86回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬剤師のかかりつけ 機能強化のための研修	9月26日	長崎県薬剤師会（長崎市）	長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
学術誌編集委員会	編集委員	2024年～	日本薬学会
学術評議員会	学術評議員	2013年～	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度の研究成果は、学会発表が2件、論文1報である。研究費では、科研費が採択され新規の研究に取りくむことが可能になった。来年度は科研費以外の外部資金にも申請する。

薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱの講義に関しては、授業アンケート結果が概ね高評価であり、単位取得学生も80％を超えた。来年度も引き続き学生の理解度が向上するよう鋭意努力する。

全学の広報委員長として、学生募集、ブランディング等について効率よく配信していく手段を考慮していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 室　高広

１．教育理念

薬学部での教育は、6年制カリキュラム導入を機に「臨床」上必要な知識と技能態度を習得させるためのカリキュラムのウエイトが増した。私は、病院薬剤師として長年臨床現場で勤務してきた経験を活かし、本学の教育理念である①専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成②地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成③異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を行い、これらを基盤とした「臨床現場で必要とされる薬剤師」になるための教育を実践する。実習や講義のみならず、研究においても、臨床現場で研究を行うために必要な研究マインドの育成と、研究手法の指導を行い、「臨床現場で研究できる薬剤師」を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/15(前期)	1.5	2	①②⑧⑨
総合演習ⅢＢ	2/15(前期)	2	8	①②⑧⑨
専門演習Ⅰ	0/15(通年)	3	70	①②⑧⑨
専門演習Ⅰ	0/15(通年)	3	5	①②⑧⑨
専門演習Ⅱ	1/15(通年)	1.5	105	①②⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
実務実習（病院・薬局）	1/274(通年)	20	104	①④⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/15(前期)	1.5	95	①②⑧⑨
専門演習ⅢB	2/15(後期)	2	77	①⑧⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
薬事関係法規演習	5/8(前期)	0.5	44	①⑧⑨
薬事関係法規演習	8/15(前期)	0.5	44	①⑧⑨
薬事関係法規演習	8/15(前期)	0.5	44	①⑧⑨
薬事関係法規演習	15/15(前期)	0.5	44	①⑧⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	95	①④
医薬品情報論	7/15(後期)	1.5	96	①⑧⑨⑩
薬事関係法規	8/15(前期)	1.5	80	①⑧⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①⑪
処方解析	33/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	33/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	33/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	33/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
総合実習	21/21(後期)	1	76	①②③⑪
治験コーディネート論	10/15(前期)	1.5	22	①⑥⑨
ホスピタリティ演習Ⅳ	2/15(前期)	0.5	77	①②③④⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/15(後期)	0.5	75	①②③④⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	①②③④⑥⑩
調剤Ⅰ	32/39(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅰ	32/39(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅰ	32/39(前期)	2	76	①②⑪

調剤Ⅰ	32/39(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅱ	23/36(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅱ	23/36(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅱ	23/36(前期)	2	76	①②⑪
調剤Ⅱ	23/36(前期)	2	76	①②⑪
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期薬事関係法規は前年度よりもアンケート回答の平均値は昨年と同じだった（Q1-13の平均：4.5）。
薬事関係法規は記憶中心の科目であり、授業内容の抜本的な改善は困難であるが、引き続き学生にとってわかりやすい表現で臨床での必要性を交えて講義することを心がける。
医薬品情報論では全体的に昨年度より評価が上昇した（Q1-13の平均：4.5）。特に学生の学習意欲に関する点数が前年度より上昇していた（授業態度の評価であるQ1が4.0から4.3、Q2は4.2から4.5と上昇）。臨床で必要な知識を習得するための教科である点を実例を交え具体的に説明したためだと考える。引き続き、臨床での重要性と学習の意義を具体的に交えた講義を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅲ（6留）	1	3	2025年4月21日
薬事関係法規演習	3	64	2025年4月28日、6月9日、6月23日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ナショナルデータベースを用いた処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査
② NDBと次世代医療基盤法DBの連結における課題抽出と連結DB利用による薬剤有用性・安全性の研究
③ セルフメディケーションにおける医薬品等の使用実態に関する疫学研究
④ 若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
⑤ 新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究
⑥離島における保険薬局薬剤師不足の解消を目的とした薬学部生と離島就労薬剤師に対する横断研究
⑦薬剤師業務に関する各種臨床研究
○外来での化学療法施行患者における適正な体重測定日に関する後ろ向き観察研究
○一包化された分包紙に付す色線の、推奨パターンを決定する研究
○包装される錠剤・カプセル剤の1枚あたりの個数と使用者側の使い勝手に関する調査
○離島の小中学校児童・生徒のメディアコントロールと生活習慣の関連に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	9	2	2	4881万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

薬剤師の視点からみた錠剤・カプセル剤の包装個数に関する意識調査：扱いやすさと調剤過誤リスクを考慮した理想的包装個数の検討／2025年9月／医療薬学51(9)／541-549／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

小学生への薬の知識に対する薬教育の有用性と医薬品使用経験が与える影響／2025年6月／日本医療薬学会第8回フレッシャーズ・カンファランス

安全で安心なセルフメディケーションの実践に向けたOTC医薬品の使用実態調査／2025年9月／第15回レギュラトリーサイエンス学会学術大会

漢方薬を利用したBDNF産生促進食材の探索ならびに健常人の血中BDNF濃度に及ぼす温州ミカンの影響の評価／2025年9月／第84回九州山口薬学大会

保険薬局における後期高齢者（75歳以上）の多剤併用に関する調査研究／2025年9月／第84回九州山口薬学大会

全国レセプトデータを用いた「かかりつけ薬剤師」制度創設前後の処方一元管理状況の比較と一元管理患者の特徴について／2025年11月／第30回日本薬剤疫学会学術総会

NDBを用いた薬局における患者一元管理に関する都道府県や2次医療圏単位での実態調査及び患者の使用薬剤数に及ぼす影響／2025年11月／第30回日本薬剤疫学会学術総会

後期高齢者における老年症候群自覚症状と多剤併用との関連：薬局横断研 究に基づく多変量解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

新型コロナ期の外来標準用量換算人数 ～NDBを用いた観察的時系列研究～／2026年3月／日本薬学会第146年会

コロナ禍が病院薬剤師業務に与えた影響：NDBオープンデータの分割時系列解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究（C）	文部科学省	2025年4月～2028年3月	468万円
令和7年度厚生労働科学研究費補助金　臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業（分担）	厚生労働省	2025年4月～2028年3月	4413万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員長	委員長として学生生活支援に関する企画立案及び実務として学籍移動、各種奨励制度、離学防止対策検討等、審議検討した。
薬学部OSCE実施委員会	副委員長	副委員長としてOSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部事前学習運営委員会	副委員長	副委員長として事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	副委員長として、実務実習支援として学生と実習施設のマッチング作業の確認、実習における問題対策の検討、実習時の交通手段の審議等行った。 また、地域薬剤師会に対するの実習説明会に参加した。
薬学部図書選定委員会	委員	特になし。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（4回）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第87回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬事審議会	委員	令和3年6月から現在	長崎県知事
日本医療薬学会代議員	代議員	令和4年3月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会医療薬学教育委員会	委員	令和6年4月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会会員委員会	委員	令和6年4月から現在	日本医療薬学会
日本医療薬学会第8回フレッシャーズ・カンファランス実行委員会	委員	令和6年4月から令和7年6月	日本医療薬学会
長崎県薬剤師会代議員	代議員	令和5年4月から現在	長崎県薬剤師会
長崎県薬剤師会生涯学習委員会	委員	令和5年4月から現在	長崎県薬剤師会
日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会法規・制度・倫理部会	委員	令和2年4月から現在	日本私立薬科大学協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は昨年度評価が低下していた後期の授業アンケートの評価も改善した。引き続き授業方法等の改善を図っていく。

研究分野では、地域薬局薬剤師の先生との共同研究において、論文執筆指導を行い、無事受理された。長崎県薬剤師会及び日本薬剤師会との共同研究である厚生労働省からの提供データを利用した研究に関して、昨年度末2報、本年度2報の計4報の学会発表を行い、2報の論文執筆中である。現在、別の切り口での解析を進めている。このような地域薬局の薬剤師との共同研究は引き続き実施していく。
また本年度は千葉大学との共同研究が厚労科研に採択された。データ提供申請審査を終え、一部のデータが3月に届いたところである。次年度はこの解析を開始する。
学生の学修意欲向上を目的とした低学年からのインターンシップ実施体制を構築し夏休みに数名で試行した。事例を増やし、後日学会発表予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　拓

1．教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識（疾病学、病態生理学、病理学）、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識（生化学、生理学、解剖学など）を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・卒後の実臨床を念頭において、薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本的知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	70	②③⑨
専門演習Ⅰ	3/40(通年)	3	5	②③⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	②③⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	②③④⑤⑥⑦⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	6	②③⑨
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	70	②③⑨
薬物治療学Ⅲ	9/15(後期)	1.5	85	②③⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅲ	5/8(後期)	0.5	75	①②③④
薬学入門	2/15(前期)	1.5	83	②③⑨
薬理学実習	15/15(後期)	1	92	①②③④⑥⑦⑩⑪
薬物治療学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	92	②③⑨
くすり最前線	1/15(後期)	2	64	②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	4/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演習は薬物治療学、さらに薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では薬剤師を題材にした漫画「アンサングシンデレラ　病院薬剤師 葵みどり（荒井ママレ著）」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患（高血圧症、アナフィラキシー）や救急医療と薬剤（アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン）に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。

前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaを活用した解答情報の提供を行い、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目･分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断･治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaを活用して提供し、薬物療法の理

解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。また、今年度も成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。

一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断･治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校看護専攻	生化学	8/8(前期)	不明	48
和歌山県立医科大学薬学部	薬理学演習Ⅱ（特別講義）	1/15(九州文化学園高等学校看護専攻)	不明	85

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
長崎大学医学部　非常勤講師　～令和8 年3月	3	1	不明

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規作用機序を有する向精神薬、特に抗不安薬および抗うつ薬の候補薬探索に関する神経行動薬理学研究
・発達期に摂取された大麻活性成分による成長後の精神行動異常に関する神経行動薬理学的研究
・脳内カンナビノイドの病態生理学的役割に関する神経行動薬理学的および神経化学的研究
・幼若期ストレスによる成長後の抑うつ様行動に関する神経行動薬理学的研
・注意欠如･多動性障害の発症機序およびADHD治療薬の新規作用機序の解明
・覚醒剤依存症における退薬症状の発症機序に関する神経薬理学研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	1	6	4	4	4124万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Alteration of brain endocannabinoids on restraint stress-induced anxiety-like behaviors in mice.／2026年3月／Physiology & Behavior／https://doi.org/10.1016/j.physbeh.2025.115201／共著／論文（査読有り）

大麻で嘔吐が止まらない：カンナビノイド悪阻症候群の実態とリスク、Editor's Eye／2025年5月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.61.5_391／単著／コラム

ベンゾジアゼピン系睡眠薬を減らすのは難しい、Editor's Eye／2025年10月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.61.10_875／単著／コラム

チルゼパチドは脳活動をコントロールして「食べたい!」を抑える、Editor's Eye／2026年3月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.62.3_183／単著／コラム

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Potential of 5-Aminolevulinic Acid (5-ALA) in Neuropsychiatry: Focusing on Mitochondrial Function, Cognition, Emotion, and Application in Post-COVID Conditions.／2025年10月／5th International Congress of the World Association for Stress Related and Anxiety Disorders WASAD CONGRESS 2025

5-アミノレブリン酸は慢性拘束ストレス負荷マウスに発現する抑うつ様行動を改善する／2025年11月／第78回日本薬理学会西南部会

慢性拘束ストレス負荷マウスにおける情動行動異常に対する5-アミノレブリン酸の改善効果／2025年11月／BPCNPNP2025合同年会（第47回日本生物学的精神医学会年会、第35回日本臨床精神神経薬理学会年会および第55回日本神経精神薬理学会年会・合同年会）

慢性拘束ストレス負荷後に発現する情動行動異常における海馬アナンダミドの関与／2025年11月／第42回日本薬学会九州･山口支部大会

拘束ストレス誘発不安様行動の発現におけるエンドカンナビノイドの脳内変動／2026年3月／第35回神経行動薬理若手研究者の集い

慢性拘束ストレス負荷による海馬アナンダミドの減少／2026年3月／第99回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金基盤研究(C)、（代表）若年者を対象とした大麻乱用予防啓発のための科学的エビデンスの構築	日本学術振興会	2024年度～2027年度	442万円
科学研究費補助金挑戦的研究(開拓)、（分担）精神疾患との共生型社会実現に向けた「病気の視える化」への挑戦	日本学術振興会	2023年度～2025年度	445万円
科学研究費補助金基盤研究(C)、（分担）天然アミノ酸5-ALAで脳機能を守る: ポスト・プレパンデミック時代のメカニズムの解明	日本学術振興会	2025年度～2027年度	2600万円
科学研究費補助金挑戦的研究(萌芽)、（分担）うつ病の早期バイオマーカーの探索と脳神経細胞配列構築の解明	日本学術振興会	2025年度～2027年度	637万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
動物室管理担当者（薬学科）	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会（薬学科）	委員長	薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会（全学）	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会（薬学科）	委員	薬学部における研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会（薬学科）	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
学生実習委員会（薬学科）	委員	薬学部における学生実習の運用および実習関連事項に関わる円滑な遂行に貢献した。
共同機器管理委員会（薬学科）	委員	薬学部における共同実験機器の運用および機器購入に関わる円滑な遂行に貢献した。
教務委員会（薬学科）	委員	2025年度薬学部薬学科4年生の学年主任に関わる業務に貢献した。
2024年度薬学部薬学科4年生学年主任	学年主任（代表）	2025年度薬禹学部薬学科4年生の学力向上を中心とした教務に関わる業務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパス参加、特に学生との交流
・令和７年度保護者懇談会（沖縄会場）
・令和７年度保護者懇談会（本学会場）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第88回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	13

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬物依存の基礎知識（違法薬物乱用防止講話）	2025年4月5日	長崎国際大学・新入生オリエンテーション	長崎国際大学
大学生と教職員のための大麻乱用防止（薬物乱用防止に関する教職員向け講演会）	2025年10月29日	長崎国際大学・教職員研修	長崎国際大学
「１回だけ」を許さない！薬物乱用防止教室（違法薬物乱用防止講話）	2025年11月5日	川棚町立川棚中学校	川棚町立川棚中学校
最近の乱用薬物と「大麻」の正しい知識（違法薬物乱用防止講話）	2026年1月14日	長崎国際大学薬学部・教養セミナー	長崎国際大学
令和７年度「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」に基づく研修会」Ⅱ）医療薬学的知識と技能　１．薬理学と最近の進歩（１）気分障害治療薬の薬理学	2025年7月25日	長崎県薬剤師会館	日本薬剤師会/長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等	外部評価委員	2021年～現在	長崎川棚神医療センター
薬剤師国家試験委員会	委員	2022年～現在	厚生労働省
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004年～現在	日本薬理学会
日本薬理学会代議員会	代議員	2022年～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012年～現在	神経行動薬理若手研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本アルコール・アディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本神経精神薬理学会

日本薬学会ファルマシア委員会	ファルマシア委員	2021年～現在	日本薬学会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	2017年～現在	薬学教育協議会
病態・薬物治教科担当教員会議	委員	2022年～現在	薬学教育協議会
日本薬学会薬理系薬学部会・常任世話人会	常任世話人	2022年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会
日本薬理学会企画教育委員会	常任委員	2022年～現在	日本薬理学会
特別研究員等審査会	特別研究員等審査会審査委員	2025年	日本学術振興会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等において 外部委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。

・厚生労働省（医薬局）から委嘱された薬剤師国家試験委員会 の委員として薬剤師国家試験問題を作問した。

・川棚町立川棚中学校において中学生を対象に特に大麻を中心とした違法薬物の乱用防止に関する講演を行った。

【新聞報道等】

(1)山口　拓、識者見解、薬物×SEXがもたらす甚大な健康被害とは？、週刊SPA!!（扶桑社）、第74巻第3号p41、2025

(2) 山口　拓、識者見解、大学運動部における大麻問題、朝日新聞（朝刊記事）、令和7年7月3日、2025

(3) 山口　拓、識者見解、大学運動部で相次ぐ違法薬物事件、厳しい上下関係も影響か…専門家「善悪の感覚がマヒしがち」、読売新聞（夕刊記事）、令和7年9月24日、2025

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
5th International Congress of the World Association for Stress Related and Anxiety Disorders WASAD CONGRESS 2026	学術発表（1件）	2025年10月23-25日	Munich	ストレス関連および不安障害に関する世界協会

(3) その他特記すべき活動

(1)山口　拓、識者見解、薬物×SEXがもたらす甚大な健康被害とは？、週刊SPA!!（扶桑社）、第74巻第3号p41、2025

(2) 山口　拓、識者見解、大学運動部における大麻問題、朝日新聞（朝刊記事）、令和7年7月3日、2025

(3) 山口　拓、識者見解、大学運動部で相次ぐ違法薬物事件、厳しい上下関係も影響か…専門家「善悪の感覚がマヒしがち」、読売新聞（夕刊記事）、令和7年9月24日、2025

７．受賞等

・NPPR Reviewer Awards 2025 (NPPR: Neuropsychopharmacology Reports)

８．活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、科研費採択継続中の研究課題を遂行し、現地開催の対面による学術発表を実施することができた。これまで継続している研究課題および科研費採択継続中の研究課題を勢力的に遂行し、査読付国際論文に1報受理、現在１報投稿中である。今後も研究成果の論文作成にも注力したいと考えている。また、北海道医療大学薬学部薬理学講座、長崎大学病院精神科、長崎大学大学院歯学研究科歯科薬理学および長崎大学病院薬剤部との共同研究は現在も継続中である。これらの共同研究のうち、分担研究者として科研費研究課題が３件採択された。しかし、学内運営業務および講義・演習の準備に費やす時間が大半を占め、さらに講義等の準備やフォローアップに非常に時間を要さねばならないため、研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。分担協力者として参画している厚生科研課題の「大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた調査研究」では、年次報告書ならびに課題総括報告書を作成した。この厚生科研課題は、本年度で終了であり、その総まとめとして高校生を対象とした大麻予防啓発本を執筆し、次年度以降に刊行予定である。学会活動として、評議員、代議員ならびに常任 委員に就任している学術学会での学術発表、学会優秀賞の審査、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会、常設委員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。

大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、全学学生委員会委員、薬学部学生委員会委員長とし

て、本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。さらに、2025年度4年生の学年主任（代表）として薬学部教務委員会において活動し、薬学部4年生の学力向上のために期末定期試験前の学習準備や学生生活に対する注意喚起（ホームルーム）、 成績不振者への面談等を実施した。

教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。今年度も成績評価の10%に 相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えら れる。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。さらに、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。（公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エデュケーター」の資格継続のためのポイント取得及び資格更新も完了した。この「薬理学エデュケーター」の資格は、研究面および教育面に活かしていきたいと考えている。

社会貢献では、本年度は第111回薬剤師国家試験委員として薬剤師国家試験の作問に参画した。今年度も継続中の日本薬学会学術誌編集委員（ファルマシア委員）として日本薬学会機関誌「ファルマシア」の編纂に貢献した。また、国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等においても外部評価委員として治験薬な どの治験審査、倫理審査を担当した。これらの件においては地域貢献の一環として積極的に参画したいと考えている。さらに、今年度は昨年に引き続き本学の主に1年生を対象に違法薬物乱用防止講習を、本学教職員を対象に「大学生と教職員のための大麻乱用防止」について、川棚町立川棚中学校にて中学生を対象に特に大麻を中心とした違法薬物の乱用防止について講師として講演した。大麻・違法薬物に関して新聞社2件、出版社1件から意見聴取を受け、それぞれ意見聴取の内容が紙面掲載された。今後も違法薬物乱用防止講習の講師や報道関係の意見聴取は積極的に受け入れたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　泰史

１．教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場でほかの職種の方から尊敬（respect）は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
有機薬化学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	1	②⑨
有機薬化学演習	15/15(前期)	0.5	1	②⑨
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪
総合演習ⅢＢ	2/23(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪
専門演習ⅢB	1/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
有機薬化学演習	15/15(後期)	0.5	1	②⑨
有機薬化学演習	15/15(後期)	0.5	73	②⑨
創薬化学	7/15(前期)	1.5	93	②
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	72	②⑨
有機薬化学実習	33/36(後期)	1	84	①②④
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	74	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【総評】

・　前期2科目（薬化学総論）と後期1科目（有機薬化学Ⅰ）のアンケートを実施した。
・　授業に対する満足度の評価結果は、5点満点中、例年と比べ著しく低かった。。
・　その他の項目も、例年と比べ低かった。

【問題点】

・　今年の１年生の成績は例年と比べ、著しく低かった。再試験後の単位未修得者が前後期ともに１０名以上いた年は初めてであった。
・　前後期とも、１３回の補習授業を行ったが、平気で欠席する学生も多く、手の施しようがなかった。
・　定年で退職するが、次年度以降の担当に授業改善をお願いしたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学大学院　医歯薬総合研究科	創薬プロセス特論Ⅲ	1/8(後期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
薬化学総論　前期補習　１年生対象	13	60	木曜日　４時間目
有機薬化学Ⅰ　後期補習　１年生対象	13	60	火曜日　４時間目

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・　アデノシン三リン酸（ATP）をキーワード とする医薬品化学および生物有機化学

・　抗感染症薬を目指す創薬研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学研究科・大講座医療基盤薬学	講座責任者	出講科目の日程と担当者の管理

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第109回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会	委員	・　本学の物理・化学・生物の分野のアンケート結果を集計した。 ・　遠隔（Zoom）で行われた会議に本学代表として参加した。（2025年5月10日）

(3) 課外活動の指導等

・　実務実習（5年生）における事前訪問・中期訪問を行い、と実習を円滑に行うため、受け入れ施設情報交換および個人面談を行った。（木原薬局、長崎県島原病院）

・　共用試験OSCEで評価を担当した。薬剤監査（12月14日）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

7月、8月に実施された3回のオープンキャンパスにおいて、高校生とその保護者と会話を行った。
薬学部受験案内のリーフレットの配布先への依頼および連絡業務を担当した。（長崎県歯科医師会会員800名、長崎県及び佐賀県の予備校等）

智翔館（佐世保市）における講演会とワークショップの企画と司会を担当した。（2025年12月11日）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第89回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
CBT問題管理委員会	委員	2025年度	特定非営利活動法人　薬学共用試験センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。昨年までは、教育の量と質どちらも、一定以上の成果を出せた、と思っていた。しかし、今年度は前後期ともに多くの単位未修得者を出してしまった。今年の入学生の入学試験の成績が著しく低いことと関連がありそうである。1年生の学力不足の学生のため、前期13回と後期13回の補習授業を行った。しかし、結果は思わしくなかった。次年度以降、この科目を引き継ぐ先生に改善をお願いしたい。また、今年度も正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を担当した。本学大学院の講義を15回中1回担当した。学外の教育活動として、長崎大学大学院　医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。（継続の依頼を受けて、講義を行った。）研究活動も継続中である。成果発表できるよう、結果をまとめる。

第110回薬剤師国家試験問題検討委員会（物理・化学・生物分野）のアンケート結果と最終文章をまとめた。5月10日に遠隔で会議が行われ、本学代表として参加した。担当教員として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、実習先訪問および電話での事情聴取を行った。2年の6年生に対し卒業研究指導を行った。

大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。

オープンキャンパスへの貢献、薬学部リーフレットの新規配布先の開拓等、広報募集活動にも参加した。さらに、佐世保市の大手学習塾とタイアップし、講演会とワークショップを企画した（12月11日）。

学会および社会活動では、昨年度に引き続き「薬学共用試験センター　2025年度CBT問題管理委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。（このため、4年生への後期演習授業を減らした）

今年度で定年を迎えることができた。多くの教職員の皆様に感謝したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 太田　一寿

１．教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	2	⑥
総合演習ⅢＡ	1/24(前期)	1.5	2	⑪
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	8	⑪
専門演習Ⅰ	6/82(通年)	3	70	⑪
専門演習Ⅰ	6/122(通年)	3	5	⑪
専門演習Ⅱ	1/40(通年)	1.5	105	⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	⑥
専門演習ⅢA	1/45(前期)	1.5	95	⑪
専門演習ⅢB	1/45(後期)	2	77	⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	⑥
在宅医療概論	1/15(前期)	2	213	⑩
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	89	⑥
医療生命倫理	8/15(後期)	1.5	78	⑤⑦⑩
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	93	②④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当専門科目「疾病学Ⅱ」に関しては平均的な評価をいただいた。同じく「医療生命倫理」においてはスマートフォン等を用いた双方向コミュニケーションでの講義を展開しており、受講生からはポジティブな評価をいただいた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母や大腸菌などのモデル微生物を用いた病態モデルシステム、新規生命現象観察システムの構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
プロテインSと血液凝固第Ⅸ因子の相互作用解析／2026年3月28日／日本薬学会　第146年会
出芽酵母におけるGla化分泌タンパク質の発現・回収の効率化／2026年3月27日／日本薬学会　第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員	副委員長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等
なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第90回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席

2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

全体的な効率化を図り、研究・教育に力を注ぎたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神谷　誠太郎

１．教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。
研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。
自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。
教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
製剤学	15/15(後期)	1.5	1	③⑨
統計学	15/15(前期)	2	23	④⑨⑩
製剤学	15/15(後期)	1.5	98	③⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	⑥⑦⑩
薬剤学実習	21/21(後期)	1	92	③⑪⑫
医療統計学	8/15(後期)	1.5	90	①④⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

統計学4.5となった。昨年度は4.3であったので、0.2ポイント上がっていて素直に喜んでいる。昨年度は２０人以下の少人数であるにもかかわらず低い値で会った。今回は２０人を超えていたが、比較的高い評価を受けたことに満足している。製剤学は4.6と初めて高得点を獲得した。ここ二、三年評価が上がり気味であったので、その方針を維持している。ページを変更するにあたっては必ず今どこのページの話を毎回話すようにした。話すスピードも遅くした。伝えたい内容が全部伝わらないリスクもあったが、実際行ってみると授業内で伝えることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

新規手法によるナノ粒子の調製
ナノ粒子の保存方法
新規投与ルートの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Development and characterization of low molecular weight heparin-triethanolamine cream: Skin permeability and antithrombotic efficacy／2025年11月／J Pharm Sci.／DOI: 10.1016/j.xphs.2025.104078／共著／論文

Oral Ingestion of Bean Sprouts Containing the HASPIN Inhibitor Coumestrol Increased Blood Testosterone Levels in Men／2025年6月／biology／907ページ／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	委員として会議に参加した。年休休暇の取得を積極的に促進した。
図書館委員会	委員	委員として会議に参加した。
安全委員会（薬学）	委員	安全委員会として会議に参加した。
CBT運営委員会（薬学）	委員	４年生の試験のCAI試験の運営を滞りなく行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

2026年1月31日に小学生に理科の楽しさを教える「サイエンス広場で遊ぼう」のイベントを講師として参加した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第91回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	対象外

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は授業評価も高く、研究分野においても論文を執筆することができた。また教科書を執筆しており、来年度には販売の予定だそうです。来年度も授業評価いおよび、論文執筆などを行っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 川嵜　達也

1．教育理念

私の教育理念のキーワードは，1）知の融合・活用 2）数学アレルギーの脱感作 3）学生と授業を作る，である。

1. 学生が薬剤師に成長する上で，科学的思考力の修得は必須である。科学的思考の根底にあるのは自然科学の知識である。学生は種々の科目で日々知識を得ていくが，往々にして各知識間のつながりに気づかず，定着度が低く，活用の仕方がわからない。そのため，（動態と物化生，分析，衛生など）分野間のつながりを意識させることを重視している。また，コロナ禍で培われた非対面実習の経験を活かして，実験研究において知が如何に活用されているか，写真資料で示している。

2. 薬物動態学は，数学に立脚する学問であるが，薬学系の教科書は理論が省略されすぎており，式の暗記に陥りがちである。さりとて数学系の教科書は必要以上に理論が細かく数学に苦手意識を持つ学生が独学することは難しい。そこで，基礎と実学の良いとこ取りを提供し，教科書の行間・背後に隠れている数学的な物事の捉え方，考え方を身につけるために問題演習を実施している。

3. 理解度の様々な学生に対して講義するに当たり，薬学教育モデルコアカリキュラムに規定されている項目を最低限網羅するだけでなく，適宜内容の増減，反復が必要と考える。そこで，講義毎に理解度を確認するための小テストを実施するとともに，自由記述欄を設け講義への要望を記入してもらい，次回講義時にフィードバックしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	10/30(前期)	2	8	①④⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	①②④⑨
専門演習Ⅰ	3/14(通年)	3	5	①②④⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	①
臨床薬物代謝学	7/15(後期)	1.5	92	①⑧⑨
コンピュータ基礎ⅠA	5/15(前期)	1	82	②④⑪
機能形態学実習	21/21(前期)	1	86	①②⑥⑦⑩
薬剤学実習	21/21(後期)	1	92	④⑪
分析化学・放射線化学実習	13/27(前期)	1	87	①②③④⑤⑩
薬物動態学	15/15(前期)	1.5	74	①⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の基礎学力に応じた専門科目(臨床薬物代謝学，薬物動態学)講義内容の改定を目指して，manabaを活用した双方向性講義におけるアンケート結果を収集し適宜講義資料を改善した。薬物動態学では中間試験を導入し，学生の理解度向上を定期試験にて確認した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
6年生 演習 特別補修	4	49	4/15,4/30,5/20,6/3

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・薬物トランスポーターの迅機能解析を目指した構・機能・制御機構に関する研究
・トランスポーターを標的とする食品/薬物-薬物相互作用に関する研究
・抗腫瘍創薬を志向した種々レクチンの機能的異種発現・精製に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	2	2	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The Structural Characterization of a C1q/TNF-α Domain Containing Lectin OXYL in the Feather Star Anneissia Japonica／Varendra University／Varendra International Journal for Interdisciplinary Research／10.64296/vijir.v1i1.03／共著／2

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

グリチルリチン酸誘導体の自己組織化過程の分子動力学シミュレーション／2026/3/29／日本薬学会第146年会

MytiLec-1の糖鎖認識機構の解明に向けた分子改変と相互作用エネルギー解析／2026/3/27／日本薬学会第146年会

九十九島産ナマコ由来レクチンの分子クローニングと機能解析／2026/3/28／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費24K15170基盤研究(C)（研究分担者）	日本学術振興会	2024/4/1-2027/3/31	0万円
科研費23K06190基盤研究(C)（研究分担者）	日本学術振興会	2023/4/1-2027/3/31	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学放射線防護委員会/薬学部RI施設管理委員会	放射線取扱主任者・安全管理担当	RI区画の定期点検・保守管理
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス準備・実習体験補助
薬学部CAI運用活用委員会	委員	単位認定試験実施準備，監督，成績集計
薬学部地域連携委員会	委員	寄附講座採点等
薬学部図書選定委員会	委員	図書選定
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション，物品購入等
薬学部国試･CBT対策委員会	委員	模試・学内試験編集，印刷，実施，および成績解析
全学研究センター委員会	委員	論叢査読依頼等，研究報告会実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・2025年6月14日リケフェス in SASEBO 担当
・2025年9月28日 佐賀大学リケフェス2024 担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第92回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

Scientific ReportsおよびFrontiers in Pharmacology査読担当

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

研究面では，科研費基盤Cに不採択であったが，学内共同研究者の分担2件を通じて，論文受理1報，学会発表3件であった。教育面では，臨床薬物代謝学で中間試験を導入し，学期終了時における学生の理解度向上に繋げた。昨年に引き続き，入試募集に向けてQSP事業における実習体験および進路相談を担当した。放射線防護委員会では，専任放射線取扱主任者として，管理区域の保守管理，定期検診，定期教育訓練を行った。引き続き，研究，教育，学内運営をバランスよく行い大学運営に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神田　紘介

１．教育理念

私は、本学赴任まで、多くの臨床経験と教育経験も積んできた。どのような人材が現場や患者から求められているのか、理解してきたつもりである。薬剤師は、患者に寄り添う存在であり、また、医療人として、自己研鑽だけでなく、後進の育成も行う必要がある。そのため、ホスピタリティーの精神が必須であり、その模範となるべく、自ら実践する。また、現代医療は、エビデンスに基づいた医療が行われており、混合玉石の情報を科学的に正しく評価、取捨選択し、応用することで問題解決していくことが求められている。学生時代に十分にトレーニングしておくことが、今後の薬剤師人生において強い武器となる。卒業研究においては、医療現場に通じる実践的な課題を設定し、科学的問題解決のプロセスを経験させることで、問題解決能力をもち即戦力となりうる人材育成を目指す。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/45(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＢ	7/30(前期)	2	8	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	4/45(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	5/23(通年)	1.5	105	①②③④⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	104	①④⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	2/45(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	7/30(後期)	2	77	①②③④⑧⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
病院薬学	5/15(後期)	1.5	95	①④
医療コミュニケーション	36/36(後期)	2	75	①④⑥⑦
医療コミュニケーション	36/36(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
総合実習	21/21(後期)	1	76	①④⑩
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①④⑥⑩
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①④⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅱ	4/10(前期)	0.5	95	④⑥⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅳ	4/8(前期)	0.5	77	④⑥⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	8/8(後期)	0.5	85	②⑦⑩
ホスピタリティ演習Ⅲ	4/8(後期)	0.5	75	②⑦⑩
調剤Ⅰ	18/51(前期)	2	76	①②④⑥⑪
調剤Ⅰ	18/51(前期)	2	76	①②④⑥⑪
調剤Ⅱ	18/66(前期)	2	76	①②④⑪
調剤Ⅱ	21/66(前期)	2	76	①②④⑪
医薬品安全性学	7/15(前期)	1.5	1	①②④
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	29	①②④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期はホスピタリティ演習Ⅱ、後期は病院薬学について授業アンケートを実施した。

満足度がホスピタリティ演習Ⅱが4.7、病院薬学は4.5→4.6であっ

た。ホスピタリティ演習Ⅱはヒューマニティ科目のため、プロフェッショナリズムの涵養を目指した内容となるよう構成している。また、病院薬学については、予習課題を課すことで問題意識を持ちながら、講義を聴講できるようにした。また、動画を多用し、集中力が途切れないように工夫した。

病院薬学についてはレスポンを活用し、ピ逃げ防止を心がけた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・がん化学療法の副作用軽減に関する研究

悪心・嘔吐の動物評価系を使用し、悪心・嘔吐のみならず食欲改善可能な制吐療法の開発を目指している。

昨年度より、日本副作用データベース（JADER、FAERS）を使用し食欲不振の実態を調査している。

・医療データベース等を活用した医療薬学研究

日本医療機能評価機構が収集している医療事故事例を使用し、薬剤関連医療事故の事例解析を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	6	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

（査）Adverse Events Following COVID-19 Vaccination in Young Japanese People: A Case-Control Study of the Risk of Systemic Adverse Events by A Questionnaire Survey／2022年1月／Archives of Clinical and Biomedical Research／10.1101/2021.10.01.21264393／共著／論文

（査）持参薬関連ヒヤリ・ハット事例の調査と対策の検討／2024年3月／長崎国際大学論叢／135-144／共著／論文

（査）薬局薬剤師を対象としたオンライン服薬指導の現状および教育ニーズに関する調査／2024年5月／薬学教育／https://doi.org/10.24489/jjphe.2024-006／共著／研究ノート

（査）大分県玖珠郡における地域医療の現状／2025年3月／長崎国際大学論叢／105-114／共著／論文

（査）薬局薬剤師のオンライン服薬指導の現状と意識調査／2025年4月／日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌／6-15／共著／論文

（査）膀胱内注入療法に用いる抗がん剤の薬剤部無菌調製への運用変更の評価／2026年3月／日本病院薬剤師会雑誌62(3)／318-324／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

アメリカの有害事象報告データベース（FAERS）を用いた食欲関連の副作用発症に関連する医薬品の不均衡分析／2026年3月／日本薬学会第146回年会

日本の有害事象報告データベースを用いたDOACによる間質性肺疾患の発症に関する不均衡分析／2026年3月／日本薬学会第146回年会

薬局薬剤師のサイバーセキュリティ対策への認識および研修会による変化／2025年11月／第35回日本医療薬学会総会要旨集

薬局におけるサイバーセキュリティ対策に関する現状調査／2025年10月／第58回日本薬剤師会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部事前学習運営委員会	副委員長	OSCEに関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	実務実習に関する企画立案及び実務に従事した
薬学部自己点検評価委員会	委員	薬学部教育についての自己点検評価を行なった。
OSCE実施委員会	副委員長	OSCEに関する企画立案及び実務に従事した。
生涯学習・教育委員会	委員	生涯学習に関する企画立案及び実務に従事した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI課題、週間試験の運用に従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	委員	特になし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第93回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
がん教室	2025年11月20日	九州文化学園中学校	九州文化学園中学校
薬学部進学に向けた高校生セミナー in 佐世保	2026年2月7日	長崎国際大学	長崎県
リケフェスin SASEBO	2025年6月29日	長崎国際大学	佐賀大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師会研修協議会	委員	2020年9月～	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育分野において、ホスピタリティ演習Ⅰ・Ⅱ、医療コミュニケーション実習を科目責任者として担当した。ヒューマニティ教育の重要な部分を担っているため、体系的な教育を行いプロフェッショナリズムや倫理観を備えた薬剤師を育成できるよう授業内容を整理している

研究分野において、卒業研究生6年生6名、5年生4名の研究指導を行い、今年度は2名の学生が日本薬学会第146回年会にて成果発表を行う予定である。論文については、共同研究の論文指導を行い、１報報告することができた。来年度は、論文公表をできるデータがいくつか蓄積しつつあるため、2-3報の投稿を目指す

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 田中　宏光

１．教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実は、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の需要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑪⑫
専門演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	95	①⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	0/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
薬学英語	2/15(前期)	0.5	87	①⑤⑩
基礎の生物学	15/15(前期)	2	53	②③
分子細胞生化学演習	3/8(後期)	0.5	66	②④⑩
分子生物学	8/15(前期)	1.5	97	①⑨
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	82	②④⑨
医療生命倫理	3/15(後期)	1.5	78	⑤⑥
薬学入門	1/15(前期)	1.5	83	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	9/27(前期)	1	93	①⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育活動：前期、分子生物学、ゲノム創薬の授業アンケートの結果の満足度は4.1と3.9であった。分子生物学では難しいとの評価に反し満足度は高かった。定期試験では全員が単位を取得できる到達目標に達することができた。アンケートの結果を反省し、適した資料の作製を心掛け、もう少しゆっくり授業を進めることにしたい。薬学入門、生命倫理をオムニバスで担当することになった。満足度は4.7(2024)であった。学生のレポートを読む限り、生命工学に関しする薬剤師としての課題について伝えることができたと考えている。全学の基礎の生物学は、満足度4,5であった。生物に関する基礎知識を伝えることができたと考え

る。6年生4名卒業研究をまとめ、5年生2名の実務実習、大学院の講義を終えることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生殖細胞分化及び細胞のがん化の分子メカニズムの解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	2	1	2	1	1	390万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

コンパス分子生物学　第4版／共著・編著／2026年4月／南江堂／ISBN978-4-524-40375-2

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Oral Ingestion of Bean Sprouts Containing the HASPIN Inhibitor Coumestrol Increased Blood Testosterone Levels in Men.／2025年6月22日／Biology／DOI: 10.3390/biology14080907／共著／論文

HASPIN阻害剤クメストロールを多く含む豆モヤシの抗がん・抗アルツハイマー効果／2025年7月31日／アグリバイオ／雑誌 01328-07／単著／総説

HASPIN阻害剤クメストロールを含む豆モヤシ経口摂取の抗がん・抗アルツハイマー作用／2025年12月20日／アレルギー、リウマチ性疾患／雑誌 01417-12／単著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

老化促進マウス（SAMP1）を用いたクメストロールを多く含むように栽培した豆モヤシの抗老化作用の解析／2025年6月／日本アンドロロジー学会

老化促進モデルマウス(SAMP1)におけるクメストロールを多く含む豆モヤシの抗老化作用メカニズムについて／2025年8月／SAM学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金 基盤C 代表	文部科学省	2024-2026	390万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
長崎国際大学動物実験委員会	委員長	滞りなく委員を務めた
長崎国際大学倫理委員会	委員	滞りなく委員を務めた
薬学部学生委員会	委員	滞りなく委員を務めた
長崎国際大学薬学部倫理委員会	委員	滞りなく委員を務めた
長崎国際大学薬学部共同機器委員会	委員	滞りなく委員を務めた

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等
全学軽音楽部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
４回のオープンキャンパスそれぞれ参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第94回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）
なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動
●長崎新聞に私たちの研究が紹介された。
●健康産業流通新聞に3回　私たちの研究と私個人の紹介記事が字掲載された。
●長崎国際大学ベンチャー　リプロムから新製品の発表
●長崎国際大学ベンチャー　佐世保食品工房、黒字化

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動　教育に関して、分子生物学の講義に関して学生の評価を得るように、教材研究を進めたい。
広報活動　大学の広報に関しては、テレビ、新聞を通じで長崎国際大学を研究活動を広めることができた。
研究活動　日本アンドロロジー学会の評議員就任2年を終え、長崎国際大学オリジナルの研究成果が広く認められた。
大学運営　動物飼育施設の運営を滞りなくサポートし、その他の委員会を通じで大学運営に貢献できた。
さらに来年も、長崎国際大学発ベンチャー企業の活動を通じて、大学の広報活動、運営に貢献したい

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 出口　雄也

１．教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「（２）情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/30(前期)	1.5	2	なし
総合演習ⅢＢ	0/23(前期)	2	8	なし
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	2	⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	⑪
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	5	⑪
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	105	⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	⑥⑪
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	⑪
専門演習ⅢB	4/30(後期)	2	77	⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥⑪
臨床栄養学	15/15(前期)	1.5	93	①②⑩
衛生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	86	①②③
食品機能学	11/15(前期)	1.5	100	①②③⑧⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	⑪
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	⑪
ホスピタリティ演習Ⅱ	3/8(前期)	0.5	95	⑪
専門基礎学習Ⅱ	5/10(通年)	0.5	96	⑪
物理化学実習	21/21(前期)	1	95	①④⑧⑩
衛生薬学実習	15/21(前期)	1	94	①②④⑤⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は「臨床栄養学」、後期は「衛生化学Ⅰ」でアンケートを実施した。満足度はともに4.7と高い評価が得られたが、理解度はそれぞれ4.3、4.6とばらついた。臨床栄養学では計算問題を多く取り扱っているが、丁寧な解説を心がけ、理解度は数年前の4.2

から近年は4.5へと上昇していた。今年度は理解度で「2」と評価した学生が2名いたことから、さらに丁寧な説明が求められるのかもしれない。数年、理解度の変動もみながら対応していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	34
九州文化学園歯科衛生士学院	衛生学・公衆	15/15(後期)	2	20
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康	16/16(前期)	2	20
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康	17/17(後期)	2	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ（再）	2	5	2025年5月27日、6月17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①食品関連物質の分析に関する研究

②錠剤型食品の崩壊性に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	10万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

錠剤型食品の崩壊性の追跡調査結果と今後の課題／2025年9月10日／フォーラム2025 衛生薬学・環境トキシコロジー

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
カボス搾りかすの安全性評価	レンバス株式会社	2026年1月～5月	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会（全学）	副委員長	定例の委員会での協議・報告内容の事前確認および委員会に出席した
ハラスメント対策委員会（全学）	委員	薬学部の代表として委員会に出席した
就職委員会（薬学）	委員長	12/21実施の薬学部企業研究セミナーの準備、実施を担当した。5年生の就職ガイダンスの開催した（4回）。また、就活の早期化にあわせて4年次2月にも就職ガイダンスを開催した。
CBT実施委員会（薬学）	副委員長	CBTの体験受験、本試験の実施にあたり、PC管理者を担当した。また九州医療科学大学での体験受験のモニター員を担当した。
地域連携委員会（薬学）	副委員長	3年前期に開講されるホスピタリティ演習Ⅱにおいて、寄付講座のサポートを行った。
OSCE実施委員会（薬学）	委員	ST1の副責任者として準備、実施を担当した。

教務委員会（薬学）	委員	3年学年主任としてオリエンテーションの準備、進行を担当した。また教養セミナーでは「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の事例集」について進行と取りまとめを行った。
自己点検・評価委員会	委員	衛生系の代表として会議に出席した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパス（8/3、8/24）で高校生、保護者と懇談した

・大学祭（11/8-9）において薬学部教員有志で出店し、パンフレットを配布した

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第95回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
色付き食塩水で虹をつくろう！／理科教育の早期啓蒙と地域への貢献	11月6日	九州文化学園小学校	学長裁量経費
発泡入浴剤を作ろう！／サイエンス広場で遊ぼう	2月1日	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市環境政策審議会	副会長	令和7年6月21日～令和9年6月20日	佐世保市長
一般廃棄物処理計画部会	部会長	令和7年11月13日～	佐世保市長
佐世保市総合計画審議会	委員	令和7年10月1日～令和9年9月30日	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

4月より就職委員長を拝命し、77の事業所と面会した。卒業生の来訪もあり、日程があえば対応するよう心掛けたが、思っていた以上の面会数であった。また、外部委員として、6月に佐世保市環境政策審議会の委員（2期目）として委嘱され、副会長を務めることとなった。一般廃棄物処理計画部会においても引き続いて部会長を務めることとなった。さらに、10月には佐世保市総合計画審議会の委員として委嘱された。これらの活動を通じて、これまで以上に佐世保市の運営にも関与するようになった。昨年度までの教育・研究に加えて活動の幅が拡がり多忙となったため、学年主任としての活動も補習対応などの時間を確保できなかったことは課題として挙げられる。研究活動ではレンバス株式会社との間で10万と少額ではあるが共同研究を開始することができたが、長期休暇中に取り組む程度となっているのが現状である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 縄田　陽子

1．教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

（実践内容）

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあってこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

（実践内容）

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	6/23(前期)	1.5	2	⑧⑨
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	8	⑧⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/40(通年)	3	5	⑧⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	⑧⑨
専門演習ⅢA	14/45(前期)	1.5	95	⑧⑨
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	①②⑤⑥
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	①②⑤⑥
薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	3	②③⑧⑨
薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	96	②③⑧⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	98	②③⑧⑨
機能形態学実習	18/21(前期)	1	86	④⑤⑩
薬理学実習	24/24(後期)	1	92	④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	3/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

主要担当科目である薬理学ⅢおよびⅣについて記載する。

薬理学Ⅲの授業評価アンケートによる満足度は2025度は4.8ptとなり0.2pt上昇し薬理学Ⅳにおいても4.8ptと0.1pt上昇した。講義途中で適宜配布する復習問題は一定の学習向上効果が得られていると考えている。さらに、新聞記事の配布やそれに基づくレポートの実施は、医療人としての考え方を育む一助になっていると考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園小学校	保健体育（薬物乱用の害）	1/1(後期)	1	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明および神経精神疾患治療薬への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会（全学）	委員	動物実験室の運営・管理担当
学生委員会（全学）	委員	学生生活のサポート全般
学生委員会（薬学）	副委員長	委員長補佐、フレッシュマンセミナー主担当、卒業アルバム主担当、開国祭主担当
国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	総合演習Ⅲ試験編集・実施担当
教務委員会（薬学）	委員	新入生担任配属担当、時間割編成担当
カリキュラム検討委員会（薬学）	委員	５次カリキュラムの検討
生涯学習委員会（薬学）	委員	生涯学習セミナーの企画・開催

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第96回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

レポートや課題を用い学生の興味・理解を促す工夫を施し講義を実施した。学年によって講義の理解力が異なることから、課題の解説を講義内に実施し理解を促した。授業評価は昨年度から安定している。

２．研究活動について

本年度は、論文を投稿したが、受理には至らなかったことから次年度の課題としたい。また、外部資金を申請したが、獲得には至らなかったため、内容を見直し、次年度に再度挑戦する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤井　佑樹

１．教育理念

人間性と専門性を修得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出させるため、薬剤に関する知識、自身で疑問を解決する習慣、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞の構造やはたらきに関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの他の科目、学問と関連していることを意識させ、学問を俯瞰出来る力を修得させる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される問題に対して対応できる力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、自身の研究を簡潔に人に説明できる力を身につけさせる。これは医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立つことが期待される。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことを意識し学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、大学のブランディングとともに社会貢献を行う。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑪
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	①⑨⑪
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	①⑨⑪
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①⑨⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑫
専門演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑪
専門演習ⅢB	0/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	8	④⑤⑥⑫
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	1	①②⑨
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	74	①②⑨⑪
薬学英語	2/12(前期)	0.5	87	①⑤⑩
基礎の生物学	15/15(前期)	2	35	②
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	76	①②⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	4/8(後期)	0.5	75	①④⑥⑪⑫
コンピュータ基礎ⅠA	15/15(前期)	1	82	②④⑪
機能形態学実習	21/21(前期)	1	86	①②⑥⑦⑪
薬剤学実習	18/21(後期)	1	92	④⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

機能形態学IIの授業アンケートで全体の満足度として4.7点の高評価を得ることができた。今後も学生の満足度を維持できるように時代にあった教育方法を取り続けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

糖鎖とレクチンをキーワードに研究活動を行っている。

糖鎖はDNAやタンパク質に次ぐ、第三の生命鎖と呼ばれ、疾患、感染、免疫、発生など多くの生命現象にに関与することで、注目されている。

レクチンは糖鎖に結合するパートナであり、糖鎖の機能解明に必須な分子である。

本教員は海洋資源が豊富な環境に着目し、以海洋生物から発見された糖鎖結合性タンパク質レクチンについて以下のテーマで研究を行っている。

・海洋無脊椎動物からの新規糖鎖結合タンパク質「レクチン」の探索と細胞制御機構の解明
・計算科学と糖鎖生物による人工改変レクチンの創製方法の確立
・ポスト分子標的薬の開発を目指した人工レクチンの創製と機能解析
・海洋無脊椎動物のグライコミクス解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	4	4	1846万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Crystal and Cryo-EM structure of PPL, a novel hexameric R-type lectin from the poisonous mushroom Pleurocybella porrigens／2025年12月／Glycobiology／10.1093/glycob/cwaf082／共著／論文

Novel mannose-binding snail mucus lectins from Lissachatina fulica exhibited antimicrobial, antitumor and insecticidal activities／2025年10月／Fish & Shellfish Immunology／10.1016/j.fsi.2025.110565／共著／論文

The Structural Characterization of a C1q/TNF-α Domain Containing Lectin OXYL in the Feather Star Anneissia Japonica／2025年7月／Varendra International Journal for Interdisciplinary Research／10.64296/vijir.v1i1.03／共著／論文

Unveiling Palmitoyl Thymidine Derivatives as Antimicrobial/Antiviral Inhibitors: Synthesis, Molecular Docking, Dynamic Simulations, ADMET, and Assessment of Protein-Ligand Interactions／2025年5月／Pharmaceuticals／10.3390/ph18060806／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

九十九島産ナマコ由来レクチンの分子クローニングと機能解析／2025年3月28日／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
実験と計算科学の融合による任意の標的ガングリオシドに選択的な人工レクチンの開発	日本学術振興会	2023年4月-2027年3月	468万円
チロシナーゼの翻訳後修飾と分解を基盤とした色調異常症およびメラノーマの治療薬開発	日本学術振興会	2025年4月-2028年3月	468万円
改変レクチンの創製による自己免疫性神経疾患の糖鎖に着目した回復技術の開発	日本学術振興会	2024年4月-2027年3月	468万円
レクチンによる分子認識機構の計算科学的解明と精密な機能改変	日本学術振興会	2024年4月-2027年3月	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	委員長(薬学)	佐世保北中学、高校生薬学体験の企画、運営、実行に携わり、中高生の科学への好奇心を高めることに貢献した。
入試募集委員会	委員	３月１５日に開催されたオープンキャンパスにて、人体の組織について講義をサポートし、組織切片の観察方法について指導した。
国会試験対策委員会	委員	6年生単位認定試験の試験問題の編集や準備を担当し、公正に試験が行われるように、薬学部に貢献した。
教務委員会	委員	オムニバス科目で開催される寄付講座の運営、実行を主担当し、貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学野球サークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

体験学習主催（膵臓の仕組みについて：マウス組織を顕微鏡で見てみよう）/3月15日(日)：オープンキャンパス/長崎国際大学薬学部

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第97回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

A Guest Editor of Special Issue “Marine Glycobiology” (MDPI, Switzerland, Basel, MAY 2025~)

７．受賞等

令和7年度長崎国際大学ベストティーチャー賞プラクティス部門（研究部門）受賞

タイトル「国際共同研究の加速と創薬をめざした海産動物レクチンの研究」

８．活動全般についての自己点検・評価

研究や教育に加え、地域連携委員会では高校生を対象した夏休みの薬学体験を2件、主催することで細胞の組織の形態の学びを通じて、高校生の科学への興味を向上させる取り組みを行うことができた。入入学後の講義内容も充実させ、長崎県内および九州出身の学生、保護者から信頼を勝ち取れる大学になれるように貢献していきたい。国家試験対策にも力をいれ、在学生の学習意欲向上につなげていきたい。採択された科研費（基盤研究C：代表1件、分担1件）の研究テーマの遂行に集中することができた。来年度は国際共同研究を強化させたことで研究をさらに加速させると 共に、査読付き国際雑誌に発表していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤木　司

１．教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	②⑨
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	8	②⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	②⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	②⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	②⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	①⑤⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	②⑨
専門演習ⅢB	2/30(後期)	2	77	②⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	①⑤⑫
薬学英語	2/15(前期)	0.5	87	①⑤⑩
食品機能学	4/15(前期)	1.5	100	②⑨
分子生物学	7/15(前期)	1.5	97	②⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	94	②⑧⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	94	②⑧⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①
微生物学・免疫学実習	9/27(前期)	1	93	④⑨⑩
基礎の生物学	15/15(前期)	2	27	②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Practice on Pharmacotherapeutics	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度の講義と比較して、学習の理解度と満足度を意識した講義内容となるよう に講義スライドおよび説明資料などのコンテンツにおける改善に努めた。特にアクティブラーニングにも配慮した内容で講義を 提供できるよう双方向授業の一部としてrespon の活用や小テストに関する理解を高めてもらえるように細部においてこまめに実施し小テストの結果などの解析をもとに随時改善を行った。一昨年度から開始した新規講義や新規内容での講義に関する資料作成や講義内容に関して、改めて内容につい て再度精査し授業アンケートにおいて指摘があったポイントについて改善を施した。 概ね例年通り学内平均を上回る評価を得る ことができた。1年生の基礎の生物学については理解度の低いクラスということもあり、本年度も補習を実施し学習の補助を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	120万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常線維芽細胞TIG-1におけるCAGE (Cap Analysis of Gene Expression)法による細胞老化関連遺伝子の探索／2025年12月6日／日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
おける高リスク TTXs プロファイリング及び理化学分析のための 標準試料作製検討	日本食品化学研究振興財団	2025年4月1日～2027年3月31日	120万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター運営に関するサポート及びNPSサポート業務
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	渉外、学科内試験、演習、外部模試、遠隔講義実施運営・成績管理
入試・募集委員会(学科)	委員	入試・募集に関わる広報活動及び出張講義
安全管理委員会(学科)	委員	ガスボンベ担当、アルコール担当、劇毒物管理担当
CAI運用・活用委員会(学科)	副委員長	学内CAI試験設定・実施・運営・成績管理
教務委員会(学科)	委員	学科教務に関わる業務、運営、オリエンテーション担当
薬用植物園運営委員会(学科)	委員	薬用植物園運営、維持、管理に関するサポート業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

CHサポートセンター運営委員会帰属ピア・サポート組織NPS研修会の企画、参加、運営など。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第2回オープンキャンパス/8月3日/長崎国際大学 3第3回オープンキャンパス/8月24日/長崎国際大学
出張講義/9月25日/佐賀県立伊万里高等学校

推薦入試A日程/11月22日/本学会場

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第98回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本動物細胞工学会	幹事	2025年4月～2027年3月31日	日本動物細胞工学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

クリーンキャンパス活動/11月21日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2025年度は講義教育面において、授業の成果が評価され授業アンケートでは全体平均以上の評価を得ることができた。対面講義中心のコンテンツや講義スタイルについてより一層の教育効果、満足度が得られるよう取り組んだ。研究面では学術研究論文を投稿できなかったため、現在研究中のデータについて更なる業績を詰めるように努力したい。あわせて外部資金獲得については

共同研究を開始することとなりさらに改善や努力を行っていきたい。同時に各種委員会における活動においても教育の質や効果の向上を目指して精進したいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤本　京子

1．教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講であるが故、医療分野とのつながりが意識できていない学生が少なからず存在している。そのため、本授業では自分自身を構成している細胞と食べることの重要性を説き、細胞から組織、細胞から個体、恒常性の破綻から疾病につながることを連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由自在に変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心をもち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
生化学Ⅲ	15/15(前期)	1.5	1	①⑨⑩⑪
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/23(前期)	2	8	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	1/23(後期)	2	77	①④⑨⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
機能形態・生化学演習	4/15(後期)	0.5	74	①②⑨⑪
コンピュータ基礎ⅠB	11/15(後期)	1	78	②④⑪
分子細胞生化学演習	4/15(後期)	0.5	66	②④⑨
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	71	①⑩⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	⑥⑦⑩
専門基礎学習Ⅰ	6/15(通年)	0.5	82	①
ホスピタリティ演習Ⅰ	6/15(後期)	0.5	85	①
機能形態学実習	18/21(前期)	1	86	①②⑥⑦⑩
生化学実習	21/21(後期)	1	84	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	9/27(前期)	1	93	①④⑤⑩
生化学Ⅲ	15/15(前期)	1.5	80	①⑨⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	3/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは、前期の1年生ホスピタリティセミナー、2年生「生化学Ⅲ」と後期の1年生「生化学Ⅰ」について実施した。

満足度はそれぞれ5.0，4.8と4.6であり、前期２科目は全体平均を上回る結果であったが、後期１科目については、全体平均並みの結果であった。授業では、学生の表情を見ながら進行速度を調整し、質問対応にはリフレクションカードを活用した。さらに、次回の授業冒頭で解説を行うことで理解を深められるよう工夫した。必要に応じて個別対応も行い、すべての質問に真摯に向き合ったことが、良い結果につながったと考えられる。
1年生に対しては、授業中では理解が追い付いていない学生を対象に補習講義を１０回実施した。授業中に何度も伝えている内容をまるで理解できていない学生がいることが把握できた。少人数の利点を活かして個別に細やかな指導を行うように心がけた。今後、このような学生の人数が増えていく状況になることが予測されるので、補習に対応する教員数を増加させるなど次年度以降も学生の学習意欲向上に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学Ｉの補習	10	25	10/14・21・28、11/4・25、12/9・16・23、1/6・13

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 乳酸菌代謝産物がストレス応答にもたらす影響

精神面と腸内環境のつながりは深く、「腸脳相関」という言葉でもよく知られている。心的外傷後ストレス障害（PTSD）を発症している人の腸内環境には異常がみられるとの報告もあることから、腸内環境とストレス応答の関係を明らかにすることを目的としている。

② 妊娠中に摂取した乳酸菌代謝産物が仔に与える影響

妊娠期に母親が摂食したものが、胎児の発達に影響を及ぼすことが知られている。とくに、発酵食品を摂食した場合、子供の身体能力が向上したとの報告もあることから、マウスを用いた実験を行っている。

③ 痩せ菌による痩身効果

太りやすい人と太りにくい人は、腸内細菌叢の違いが影響している。痩せ菌と呼ばれている菌種は、痩身の他にどのような影響を及ぼすのか検証している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	2	2	200万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The expression of Trefoil factor family member 2 in increased at an acidic pH／2024年３月／Oncology Letters／10.3892/ol.2024.14345（査）／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
腸内由来有用菌が持つ生理活性と健康応用可能性の包括的探索	株式会社バイオジェノミクス	令和7年9月1日～令和9年3月31日	100万円
乳酸菌生産物質の生理活性に関する研究	株式会社バイオジェノミクス	令和6年4月1日～令和8年3月31日	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	佐世保市が主催している女性プロジェクトチームの会議に参加し、市内における働きやすい環境を整えている事業所を選定した。
薬学図書選定	委員	薬学部の教育に必要な図書を推薦・選定を行った。
薬学教務	委員	オリエンテーションの資料作成・印刷などの準備・実施を行った。
薬学CBT実施	委員	CBT体験受験や本試験の準備・実施を行った。本試験は、PCが落ちてしまうトラブルがあったものの、無事に終了することができた。
薬学国試・CBT対策	委員	4年生単位認定試験の作問依頼・成績解析を行った。
薬学入試募集	委員	オープンキャンパスの資料準備や運営を行った。
ハラスメント相談員	委員	特に相談を受けることはなかった。
薬学実習（学内）	委員	実習室にある機器が故障していたので、修理を依頼した。
薬学安全管理	委員	研究室内の毒劇物を規則に従って管理した。
薬学部動物管理	委員	動物室の安定的な運用に尽力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

進路ガイダンス　長崎県立大村高等学校　2026年3月6日

開国祭にて、薬学部教員による模擬店を出店　薬学部パンフレットなどを配布した

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	－	第99回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園における理科教育の早期啓発と地域への貢献	2025/12/12	九州文化学園高等学校	学長裁量経費による実施

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

国際協力ワールドビジョンへの寄付を行い、子供たちが自分で生きる力を身につける活動に貢献した。また、地域清掃活動、防災訓練に参加した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部2年生の学年主任として、クラスイベントを企画・実施した。2・3年生合同で開催することにより、学年間の縦のつながりおよび同学年内の横のつながりの強化を目的とした。具体的には、貸し切りクルーズや学内バーベキューを実施し、学生同士の交流を促進した結果、クラス全体の雰囲気の向上に寄与したと考えられる。
大人数を対象としたイベントの企画・運営には調整や安全管理の面で困難も伴ったが、円滑に実施することができ、学生の満足度向上にもつながった。今後も、学年を越えた交流について機会があれば実施していきたい。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は、退職教員の担当科目を引き継いだことにより、授業担当数が増加した。これに対応するため、授業内容の理解促進を目的として復習用問題集を作成・配布した。その結果、授業アンケートでは概ね高い評価を得ることができた。また、学年主任として学生間の横のつながりを強化することを目的にイベントを企画・実施し、参加学生から好評を得た。

研究面では、受託研究費を獲得し、Blautia hansenii菌の痩身効果に関する検証を実施し、痩身効果のみならずLDLやHDLについても良い影響があることを明らかにした。腸内細菌叢の解析は現在進行中である。

委員会活動では、男女共同参画委員会の一員として市主催の女性プロジェクトチームに参加し、他機関の関係者との連携・交流を深めた。さらに、入試募集委員会の活動として高校進路ガイダンスに参加し、本学の特徴や私立大学の利点について広報を行った。一方で、少子化に伴う入学者数の減少が課題となっている。今後は、高校のみならず地域の中学校教員とも連携を図り、継続的な関係構築を進めることが重要であると考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 山田　耕平

１．教育理念

医療、化学技術、社会構造がダイナミックに変化する時代において、社会に貢献する薬剤師の育成には、資格取得に必要な知識・技能の伝達のみならず、取得後も学び続ける姿勢、すなわち成長を楽しむ心の育成と、医療人としての責任感、すなわち人間力の育成が必須である。私はこれらの育成を以下のように実践したい。

(1) 成長を楽しむ心の育成

成長を楽しむ心を醸成できれば、社会貢献の意志とその遂行能力の向上も伴うと考えられるため、重要な素養であると言える。成長を楽しむことができるようになるには、成長を実感し、やればできるという自信をつける必要がある。

(2) 人間力の育成

よりよい社会を創造する人材には学力だけではない、以下の3点の人間力が求められるので、その向上を支援したい。

① チャレンジ精神と行動力、② 他者と協働するコミュニケーション力、③ 高い倫理観

常に学生と向き合い信頼関係を築き、ポテンシャルを引き出す努力を続けたい。学生に対してホスピタリティを尽くすことで建学の理念を体現し、学生にその精神を伝えていく所存である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
構造解析学	8/15(前期)	1.5	1	①②③④⑨
総合演習ⅢＡ	1/15(前期)	1.5	2	①
総合演習ⅢＢ	1/15(前期)	2	8	①
専門演習Ⅰ	3/15(通年)	3	70	①
専門演習Ⅰ	3/15(通年)	3	5	①
専門演習Ⅱ	1/15(通年)	1.5	105	①
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	1/15(前期)	1.5	95	①
専門演習ⅢB	1/15(後期)	2	77	①
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
医薬品化学Ⅰ	7/15(前期)	1.5	98	①②③⑨
有機薬化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	85	①②⑨
ホスピタリティ演習Ⅲ	5/15(後期)	0.5	75	①
構造解析学	8/15(前期)	1.5	98	①②③④⑨
医薬品化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	60	①②③⑨
有機薬化学実習	36/36(後期)	1	84	①②④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期：有機薬化学Ⅱの満足度は4.7、後期：生物有機化学の満足度は4.6となり、比較的高水準で推移していると思う。

授業改善点：宿題の内容を変更した。これまでは問題集の演習のみであったが、解答を写しているだけの学生が相当数いると感じた。提出状況は良いため、よりよい勉強法に切り替えさせる必要性を感じた。そこで演習のみならず、授業のまとめを文章で書くことを追加した。文章にするためには考えて読み込まねばならず、結果として質の良い勉強になったのではないかと考える。実際、例年に比べて中間試験・定期試験ともに平均点は最高点であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
薬化学総論 補習	10	35	2025年5月15日～7月24日
有機薬化学Ⅰ 補習	13	35	2025年10月14日～2026年1月13日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体高分子の精密化学変換を志向した実用的反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	3	3	1510万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Desulfurative borylation enables efficient synthesis of boronoalanine／2025年08月26日／The European Peptide Synthesis Conference 2025

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
小型自動車等機械振興事業に関する補助事業	公益財団法人JKA（代表）	2024年4月~2026年3月	1000万円
基盤C	科学研究費助成事業（代表）	2025年4月~2027年3月	360万円
挑戦的研究（開拓）	科学研究費助成事業（分担）	2024年4月~2027年3月	150万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	副委員長	入試・広報関連資料の作成、オープンキャンパス運営、入試監督、入試採点、高校訪問など、多岐にわたって行った。
安全管理委員会	副委員長	廃棄物管理、廃液管理を主に担当した。実験の手引きの作成を行った。安全管理に関わる学内の掲示物の見直しを行った。
共通機器管理委員会	委員	NMRの管理・運営を主に担当した。
教務委員会	委員	期初のオリエンテーション運営やシラバスチェックリーダーを行った。
就職委員会	委員	主に５年生向け就職勉強会の運営を行った。
自己点検・評価委員会	委員	認証評価に向けた学部運営の点検・見直しを行った。
CAI運用・活用委員会	委員	主に4年生CAI試験の管理・運営を行った。
国試CBT委員会	委員	主に単位認定試験の準備を担当した。。
実習委員会	委員	主に学年主任関連の仕事を行った。

４年生学年主任	主任	3年生向けのイベント等の管理・運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州文化学園における理科教育の早期啓発と地域への貢献	講師	地域社会における理科教育の振興と、理科分野への関心を高めることを目的に、九州文化学園高等学校および小学校の生徒を対象に啓発活動を実施。 九州文化学園高等学校にて高校２年生に対して『薬の構造と仕組み～抗がん剤の歴史と科学者の役割～』というタイトルで講義を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部教員有志にて、開国祭で子供向けのイベント出店を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第100回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	幹事	2024年度～現在	日本薬学会九州支部
薬学教育協議会有機化学系教科担当教員会議	担当教員	2021年度～現在	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県高等学校総合文化祭【自然科学部門】第３１回科学研究発表大会　審査員

2025年11月1日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

講義に関しては、授業のやり方や宿題の出し方を工夫することで学生の自学を促すことができた。実際に学生の授業評価も上々で、【内容がむずかしいが、先生の講義はわかりやすい】というコメントももらえた。今後も切磋琢磨したい。

校務においては、特に入試募集委員会の副委員長として入試関連業務やオープンキャンパス業務に精力的に取り組んだ。入学数が減少しているため、来年度は状況確認、原因究明、対策をしっかりと行っていきたい。

研究活動としては、大いに研究を進めることができたので、アウトプットしていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 石原　知明

１．教育理念

私は、AIやロボットで置き換わることのできない、次世代で活躍することのできる薬剤師を養成することを目指して教育活動に取り組んでいます。

これからの薬剤師には、医師などの医療スタッフと協力して治療に関わることのできる能力がこれまで以上に求められます。そのために、「高度な専門的知識」を持つことはもちろんのこと、それに加えて「問題・課題の発見能力」、「それらを解決するための情報調査能力・論理的思考力」、「それらを適切に伝えるプレゼンテーション力と内容を議論する力」が必要不可欠であると考えます。これらの能力はいわゆる通常の講義形式の授業だけでは習得することが難しいため、研究室での教育活動を通してこれらの能力が習得できるように、一対一での徹底的なトレーニングを行っています。これにより、将来的に活躍が期待される、真に患者さんの治療に貢献することのできる薬剤師の養成が可能になると考え、日々学生さんと向き合っています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/45(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	2/82(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	0/82(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	0/36(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	1/45(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	0/45(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
細胞生物学	6/15(後期)	1.5	3	①②⑨
機能形態・生化学演習	2/12(後期)	0.5	74	①②⑨⑪
薬学英語	2/12(前期)	0.5	87	①⑤⑩
分子細胞生化学演習	3/12(後期)	0.5	66	②④⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	⑥⑦⑩
生化学実習	7/7(後期)	1	84	①②④⑪⑫
細胞生物学	6/15(後期)	1.5	84	①②⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	52	①②⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケートでは、受講学生の満足度は4.6～4.7（5点満点）と高水準で推移しており、質の高い授業を継続的に提供できていると考えられる。さらに、昨年度のアンケート結果に基づき、長崎国際大学ベストティーチャー賞を受賞しており、授業改善の取り組みが高く評価されていると考えている。

小テストの実施や論述問題の添削を通じて、学生がつまずきやすいポイントに対するきめ細やかな指導を行い、理解度の向上につながっていると考えられる。また、多くの学生が苦手とする生体構成成分の構造式については、記述演習を取り入れることで理解の定着を促進している。さらに、薬との関連や最新の研究動向を適宜紹介することにより、生物学への興味・関心の喚起につながっている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学補習	5	25	2025年10月14，21，28日、11月4，25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体内には極めて多様な脂質分子種が存在し、それらの質的・量的な制御は生体恒常性において重要な役割を果たしている。近年の質量分析器の技術革新により、生体内に存在する脂質分子種を包括的に捉えることが可能になっている。このような技術基盤を用いてこれまでに、老化に伴い現れる様々な脂質代謝変動が明らかになりつつある。しかしながら、そのような変動が加齢に伴う生体恒常性の破綻や老化に関連する疾患（認知症、心血管疾患、メタボリックシンドロームなど）においてどのような役割を果たすのか、その因果関係についてはほとんど明らかにされていない。そこで私は現在、加齢に伴う脂質代謝変化を包括的に解析し、その脂質代謝変化のキーとなる代謝酵素を同定することを通し、脂質代謝変化と老化に関連する表現型との因果関係を分子レベルで明らかにすることを目指して研究を進めている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	0	2	2	2535万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Transcriptomic and lipidomic analysis of aging-associated inflammatory signature in mouse liver／2025 May／Inflammation and Regeneration／https://doi.org/10.1186/s41232-025-00377-2／共著／論文

加齢に伴う脂質代謝変容／2025年10月／The Lipid／104-112／共著／総説

Repurposing caspofungin as a smallmolecule inhibitor of Clostridium perfringens α-toxin for treatment of gas gangrene／in press／Communications Medicine／in press／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
老化に伴い増加するビスモノアシルグリセロリン酸によるオートファジー制御機構の解明	基盤研究(C)・代表	2026年4月～2028年3月	650万円
糖尿病性筋萎縮とサルコペニアに共通するリン脂質過酸化の役割解明と治療法の開発	基盤研究(B)・分担	2026年4月～2029年3月	1885万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全管理委員会	委員	感染性廃棄物の廃棄
CBT実施委員会	委員	CBT学内運営および外部モニター
入試募集委員会	委員	オープンキャンパス

学生委員会	委員	新入生歓迎会の運営
広報委員会・薬学部広報受付担当	委員	ホームページの更新・トピックス作成
自己点検・評価委員会	委員	第三者評価対策
地域連携委員会	委員	夏休み高校生向けイベントの運営
研究等倫理委員会	委員	病原微生物・遺伝子組換え実験・ヒトを対象とする研究の審査
学生サポート室	委員	昼休みの相談窓口

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県立佐世保東翔高校　進路ガイダンス・7月17日・「薬学への招待」
鎮西学院高等学校　職業ガイダンス・10月20日・「薬学への招待」
長崎国際大学×智翔館タイアップ企画・12月11日・「キャリアをどう考える？～私の場合～」
大学ホームページ 教員紹介の更新
大学ホームページ トピックスの更新

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第101回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬学への招待	7月17日	佐世保東翔高校	入試募集委員会
薬学への招待	10月20日	鎮西学院高等学校	入試募集委員会
キャリアをどう考える？～私の場合～	12月11日	智翔館	入試募集委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
さくらサイエンスプログラム	モンゴル薬科学大学との国際科学技術交流	2025年11月～12月	JST

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

令和７年度　長崎国際大学ベストティーチャー賞（学生による授業アンケート部門）

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関しては、アンケート結果から受講学生の多くに高い満足度の授業を提供できたと考えている。また、小テストや論述課題の添削、構造式の演習を通じて、学生の理解が不十分なポイントを把握し、それらを補うよう授業内容や進行の改善を行うことで、学修効果の向上に努めた。一方で、学生の「考える力」をさらに醸成するための方策については、引き続き検討が必要であり、次年度の課題として取り組む。

研究活動に関しては、英文論文2報、和文論文1報を公表したほか、新たに英文論文1報が投稿準備中である。現在、新規テーマによる研究にも着手しており、今後も継続的かつ発展的に研究を展開する。

委員会活動においては、離学防止および学生募集強化を目的とした取り組みに積極的に参画した。離学防止対策として、自己点検・評価委員会における検討を通じて学部運営の改善に関与するとともに、新入生と在学生の交流機会を設け、学生生活の満足度向上に貢献した。さらに、募集強化に向けて、入試募集委員会における提案や、広報委員会における大学ホームページ改編に関する検討を推進した。今後もこれらの活動に継続的に関与し、大学の発展に貢献する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 榎本　彩乃

１．教育理念

私の教育理念は、薬剤師に不可欠な自然科学の基礎知識と応用力を確実に修得させることで、問題解決能力を十分に備え、実践で活躍できる薬剤師を育成することにある。これにより、「質の高い健康と福祉を人々に提供する」というSDGsの目標に貢献できる人材を輩出したい。

近年、AIや機械化の発展により、従来に比べて医療スタッフの技量に依存せず、質の高い医療を提供しやすくなると予想されている。この結果、薬剤師の多くの単純業務はAIに代替されると考えられており、人間に求められるのは、対人での議論の中で適切な薬学的知識を確実に提案できる技量である。

そのためには、根本となる基礎知識を基に、点と点を結びつけて考察できる論理的思考力が重要となる。私は、生涯にわたって活用できる確実な知識を、実践と結びつけながら教授し、学生が主体的に学べる環境を提供したいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
薬品物理化学Ⅰ	6/15(前期)	1.5	5	①④⑧⑩
総合演習ⅢＡ	1/27(前期)	1.5	2	①②③④⑧⑨
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	8	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	2/82(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	1/40(通年)	1.5	105	①②③④⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	0/45(前期)	1.5	95	①②③⑤⑧⑨
専門演習ⅢB	0/45(後期)	2	77	①②③⑤⑧⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
薬品物理化学Ⅱ	6/15(後期)	1.5	3	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	6/15(前期)	1.5	77	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	23	②③⑨
基礎の物理学	15/15(前期)	2	17	②③⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	6	⑥⑦⑩
薬品物理化学Ⅱ	6/15(後期)	1.5	80	①④⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	95	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートでは概ね良好な評価を得ることができた。近年は低学力層の増加が見られることを踏まえ、高校数学レベルの内容についても丁寧に解説することを心がけた。また、補習では理解が不十分な学生に対して、補習時間を超過してでも納得できるまで説明を行い、理解の定着を図った。

さらに、練習問題については取り組みやすいレベルに調整し、自学自習が進めやすいよう工夫した。加えて、毎回の講義ビデオをアップロードすることで、授業についていけない学生をできるだけ減らすよう努めた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学　補習	10	65	2025年4月21日～7月14日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

磁気共鳴法による生体情報計測を目的とした機器開発及び計測手法の新規構築

MRIをはじめとした磁気共鳴法では、非侵襲的に生体内の様々な情報を取得することが可能です。特に本研究で利用するオーバーハウザー効果MRI（OMRI）を用いた測定では、生体内の酸素分圧分布やpH分布などを非侵襲的にかつ定量的に取得可能です。これらの情報をより精度よく計測するためには、生体の部位の特徴や疾患に応じた測定機器や手法が必要です。研究では、電子回路設計をはじめとしたハードウェア面から、OMRI装置の高感度化及び生体計測への最適化を行っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	2	2	6672万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Improved sensitivity in 0.15T OMRI using a novel cavity resonator for in vivo detection／2025/10/14／13th International Workshop on EPR in Biology and Medicine

生体適用に向けた低電力OMRI法の開発と最適化／2025/11/23／第64回電子スピンサイエンス学会年会

糖尿病性網膜症早期診断を目指したOMRI による眼内フリーラジカル計測手法の開発／2025/3/28／日本薬学会第145年会

OMRI 法による in vivo フリーラジカル計測の臨床応用に向けた技術開発／2025年 5月29日／量子生命科学会 第７回大会

OMRI 法によるin vivo フリーラジカル計測の臨床応用に向けた技術開発／2025年 6月27日／第5回量子超偏極スタディーグループ

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
臨床用OMRIの技術基盤の構築と実証研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	2021年4月 － 2028年3月	4800万円
内因性抗酸化物質を指標とした非侵襲な脳内酸化ストレス状態定量的評価手法の新規構築	日本学術振興会	2023年4月 － 2026年3月	1872万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	研究費不正使用防止のため、監査担当分の研究費使用状況についてよく確認し、使用者に対してインタビューを行った。
薬学部教務委員会	委員	時間割確認、随時試験調査及び調整を行った。

薬学部学生委員会	委員	各種学生委員会主催イベント（新入生・上級生交流会、保護者会、卒業式など）の準備・受付スタッフとして作業した。卒業式特待生評価のための集計を行った。
薬学部国試CBT対策委員会	委員	各教員の負担を考慮して、印刷業務を割り振りした。また試験問題編集を行った。
CAI運用・活用委員会	委員	各種CAI試験や補習の準備、実施、待機、解析を行った。
薬学部動物室管理委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第102回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	欠席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術振興会科学研究費委員会	専門委員	令和6年～令和8年	日本学術振興会
第13期電子スピンサイエンス学会	代議員	令和7年～現在に至る	電子スピンサイエンス学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

第64回電子スピンサイエンス学会、現地実行委員として活動、主催：電子スピンサイエンス学会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、複数の学会やスタディグループに積極的に参加し、既知の研究者との交流を深めるとともに、新たな研究者とのネットワーク形成にも努めた。その結果、今後の研究展開につながる可能性を広げることができた。現時点で具体的な成果に直結しているものは多くないものの、そのうち一件については、今後の大型予算獲得を見据えた共同研究の計画が進行しており、一定の成果が得られたと考えている。

教育面では、学生の学力低下を踏まえ、基礎の補強に重点を置いた。また、補習では理解が不十分な学生に対し、時間を超過してでも個別に対応し、理解の定着を図った。練習問題は取り組みやすいレベルに調整し、自学自習が進めやすいよう工夫したほか、毎回の講義ビデオをアップロードすることで、授業についていけない学生を減らすよう努めた。その結果、授業アンケートでは比較的良い評価を得ることができた。しかし、学生が「暗記ではなく数式の意味を理解しながら物理を学ぶ」という目標については、十分に達成できたとは言い難く、自己評価としては課題が残ったと感じている。

今後は、数式を提示する際に、できる限り言葉による説明やイメージを先行させ、視覚的・概念的理解を促す工夫が必要であると考えている。また、学生が自ら考え、理解を深められるような教材や演習形式の改善にも取り組みたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 大久保　伸哉

１．教育理念

以前私が病院薬剤師として実務実習に励む薬学部生を指導した際に、長崎国際大学の学生は他大学の学生と比較して、患者のみならず職員に対する気配りも上手で心の優しい学生が多い印象を受けた。これは、長崎国際大学の建学の理念の「人間尊重」の重要性を学生が理解し、「ホスピタリティの探求・実現」を実行しているからだと思う。このことは、長崎国際大学の魅力であると同時に大きなアドバンテージだと実感しており、大学教員となった現在、私もそのような学生を育てる教育を行いたいと考えている。そのために、以下の理念を掲げるとともに以下の手法を用いる。講義においては、病院および薬局での勤務経験を活かし、ひとつの事項に対し病院薬剤師あるいは薬局薬剤師の視点から内容を吟味した講義を実施する。例えば、薬剤師として患者から求められる知識・アドバイスにおいて、病院と薬局で共通する点あるいは異なる点を区別しながら示す。それによって、病院薬剤師と薬局薬剤師の役割や求められる職能の違いを、学生がより具体的にイメージできるようになり、非常に有意義な講義になると考える。演習では、担当する領域（実務）の国家試験過去問題を解かせ、解答の解説に力を注ぎ、確実に点をとれるような演習を実施する。また、本領域においては、薬剤師としての適切な倫理観を問うような問題が多くあるので、正答の選択肢の解説よりも、誤りの選択肢のどこが適切でないのか時間をかけて解説し、学生が誤解なく理解できるような演習にすることを心がける。知識の習得のみならず、人間尊重の理念に基づいた、薬剤師にふさわしい倫理観を構築できるような演習にする。実習では、臨床の現場は作業スピードと正確さを重要視することから、素早いスピードを保ちつつ正確さを損なわないような動き方や考え方を、学生に自ら考えさせるような指導を行う。その際には、ホスピタリティの探求を意識させ、効率を優先するあまり、共に作業にあたる者の気分を害するような動き方になってしまわないよう最大限留意させる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/30(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	0/30(通年)	3	70	①②④⑨
専門演習Ⅰ	2/30(通年)	3	5	①②④⑨
専門演習Ⅱ	1/30(通年)	1.5	105	①②③
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	104	①④⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	1/30(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	1/30(後期)	2	77	①④⑨⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
在宅医療概論	1/15(前期)	2	213	①②⑤⑩⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
薬局管理・経営学	4/15(前期)	1.5	84	②③⑨⑩
処方解析	21/33(後期)	2	75	①②④⑥⑦
処方解析	21/33(後期)	2	75	①②④⑥⑦
総合実習	21/21(後期)	1	76	①④⑪
ホスピタリティ演習Ⅳ	4/8(前期)	0.5	77	①④⑨⑩⑪⑫
調剤学	11/15(前期)	1.5	76	①②⑨
調剤Ⅰ	42/42(前期)	2	76	①②④⑪
調剤Ⅰ	42/42(前期)	2	76	①②④⑪
調剤Ⅱ	36/36(前期)	2	76	①②④⑪
調剤Ⅱ	36/36(前期)	2	76	①②④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

大学教員就任6年度目としては、問題ない評価であったのではないかと感じている。それと同時に、これまでの6年間を通して授業アンケートの評価が悪くなかったことから、私の授業に大きな問題はないと考えられ、現状を維持していくことが重要であると考えている。初年度から『次年度は、本年度の評価を下回ることがないよう、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料含む）のアップデートを行い、説明する際のセリフを磨き、整然とした分かりやすく熱意のこもった授業を実施することを目標とする。』ということを継続して掲げてきた。個人的には、目標に定めた事項を本年度もおおむね実行できたのではないかと考えている。次年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
1年生夏休みCAI課題の補習	3	88	2025年11月5日
1年生夏休みCAI課題の補習の未達成者に対する追加補習	1	16	2025年11月19日
1年生夏休みCAI課題の補習の未達成者に対する追加補習	1	6	2025年11月26日
1年生夏休みCAI課題の補習の未達成者に対する追加補習	1	4	2025年12月3日
1年生夏休みCAI課題の補習の未達成者に対する追加補習	1	1	2025年12月10日
1年生夏休みCAI課題の補習の未達成者に対する追加補習	1	1	2025年12月17日
第12回地域の期待に応える実践活動	3	83	2025年9月28日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『医療用医薬品成分に対するモノクローナル抗体を用いた応用研究』

医療用医薬品として使用される薬用成分に対するモノクローナル抗体を作製し、薬物濃度を測定するためのELISAおよび新規測定法の開発を目標に日々研究に取り組んでいる。最終的には、臨床における血中薬物濃度測定法への適応を目指している。

『オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究』

漢方薬の素材である生薬に着目し、約130種の生薬エキスライブラリーの中からオートファジー制御活性を有する生薬エキスを見出した。続いて、それらに含有される活性成分のオートファジー制御作用および作用機序を検証し、がん細胞のオートファジーを阻害する活性成分を発見しました。今後は、がん細胞がオートファジーを介して獲得する様々な細胞防御機構に対して、見出した活性成分の機能評価を行うことで、オートファジー制御を介した新たな抗がん剤開発の礎となれるような研究を行っていく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

抗ニロチニブ抗体の作製ならびにニロチニブ濃度測定用ELISAの開発／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンの1時間処理による抗がん効果の検証ならびに有用性調査／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

牛蒡子主要成分アルクチゲニンのオートファジー阻害作用の機序解析／2026年3月29日／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
（分担）Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬の高感度簡易濃度測定法の開発	大磯　茂	2025年4月～2026年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
（全学）就職委員会	委員	薬学科代表として、毎月開催される委員会に参加した。
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの際に、キャンパスツアーで見学する模擬薬局・模擬病室・模擬クリーンルームに、実務家系教員を1か所当たり1名以上配置できるよう、実務家系教員のスケジュール調整を行った。
薬用植物園運営委員会	委員	薬用植物園の定期的な巡回、倒れた看板の立て直し等を行った。
薬学部事前学習運営委員会	委員	会議の議事録作成等。
薬学部OSCE実施委員会	委員	会議の議事録作成等。
薬学部実務実習運営委員会	委員	会議の議事録作成、実習終了後のアンケート集計および会議資料の作成。
薬学部生涯学習・教育委員会	副委員長	第14回生涯教育セミナーを企画し、演者の選定や事前準備、当日の運営を行った。加えて、薬剤師の単位取得（研修センター）に関する諸手続きやデバイスの準備、当日の受付や単位認定の申請手続き等を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部企業研究セミナーの実施を担当した。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	薬学部1期生の幹事を兼任しており、適宜、1期生に対する事務連絡等や退職教員による最終講義の案内を行った。
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	外部主催の模試（薬学ゼミナール等）の実施担当者として、事前準備・当日の運営・回答用紙の主催者への郵送および成績の解析などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席

2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第103回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬剤師のお仕事体験	2025年11月17日	祇園小学校訪問・体育館	祇園小学校訪問
漢方の基礎～症状から見た漢方(証)の適用～	2025年9月16日	長崎県薬剤師会会館	長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎国際大学同窓会薬学部門	副会長	令和6年度～現在に至る	長崎国際大学同窓会薬学部門執行部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際査読付き学術誌の論文（英語）査読：4件

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、前期および後期ともに授業アンケートの評価は悪くなかった。また、調剤学において退職教員が担当していた講義6コマをすべて私が引き継ぐことになって、新たに6コマ分の講義を構築する必要に迫られたが、授業アンケートの評価は下がらなかった。今年度の振る舞いを、毎年実施（継続）できるよう尽力する。

研究に関しては、例年に引き続き担当している2名の学生が両名とも学会発表（薬学会年会）を希望したため、魅力的な発表ができるよう、十分な時間をかけて指導を行った。また、学会発表に備えて、データ解析を含めた発表資料作成における助言や研究内容の理解を深めるためのディスカッションを適宜行っているので、万全の状態で発表日を迎えさせることができると思われる。なお、今年度新たに得た結果をもって、次年度こそ論文を執筆し、査読付き国際誌へ投稿する予定である。

最後に1年間の総括として、大学教員6年目になり、担当する業務が非常に多くなった。初の学年主任も担当した。より一層研究

に費やすことのできる時間は少なくなったが、隙間時間を見つけ実験を重ね、納得のいく結果を得ることができた。次年度も現在のモチベーションを維持しながら業務遂行に努め、教育活動と研究活動の両立に努めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 倉岡　卓也

１．教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
衛生化学Ⅱ	9/15(前期)	1.5	6	①⑪
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	8	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	70	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅰ	2/45(通年)	3	5	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	105	①④⑨⑩⑪⑫
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	1/30(後期)	2	77	①④⑨⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合実習	18/21(後期)	1	76	①④⑪
感染防御学	1/15(前期)	1.5	94	⑧⑨
感染防御学	1/15(前期)	1.5	94	⑧⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナー	8/15(後期)	2	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナー	8/15(後期)	2	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティ演習Ⅲ	2/8(後期)	0.5	75	①④⑥⑪⑫
コンピュータ基礎ⅠA	14/15(前期)	1	82	②④⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	76	①②④⑥⑪
調剤Ⅰ	15/51(前期)	2	76	①②④⑥⑪
生化学実習	9/21(後期)	1	84	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	15/27(前期)	1	93	①④⑤⑩
衛生化学Ⅱ	9/15(前期)	1.5	89	①⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

概ね良好な結果となり、今の授業を引き続き行いたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	30/30(前期)	1	47

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（1）抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発：微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られています。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出しました。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を試みています。現在はカンジダ細胞壁マンナンと冬虫夏草の研究を通して、その有用性を検討しています。

（2）冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索：昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体（低分子化合物）の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性の探索に邁進しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	1	1	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

人工培養した日本産虫草2種のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性／2026年3月27日／日本薬学会147年会

新興薬剤耐性酵母Candida norvegensis由来N結合型マンナンに認められる新規長鎖α-1,2結合オリゴマンノシル側鎖／2026年3月27日／日本薬学会147年会

高病原性の新興カンジダ症原因酵母Candida auris 細胞壁マンナンのO-結合型糖鎖について／2026年3月27日／日本薬学会147年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
冬虫夏草の生理活性物質の探索	株式会社モノリス	2024年4月～2026年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試CBT対策委員会	委員	アンケートの集計、国家試験引率、試験管理
CAI運用活用委員会	委員	試験管理
学生委員会	委員	卒業式の準備、フレッシュマンセミナー準備・片付け
同窓会薬学部門支援委員会	副委員長	同窓会に関する案内
OSCE実施委員会	委員	OSCEの運営
地域連携委員会	委員	体験学習の運営

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第104回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

関係各所と連携し、概ね全ての仕事を遂行することができた。来年度も引き続き密に連絡を取りながら進めて行きたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 末廣　真理恵

１．教育理念

薬学教育においては、６年制薬学部を卒業し誕生した薬剤師の現状を点検・評価し、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が進んでいる。その中で、今後臨床系の科目や病院・薬局における実務実習のさらなる充実を図る必要性が強調されている。私は、薬剤師の実務を経験した教員として、臨床の場で働くために必要な知識や考え方を学生に伝え、学生自身が能動的に学習する意欲の向上に貢献していきたい。また、私自身が長崎国際大学薬学部の卒業生で、６年制教育を受けて薬剤師になり、実際に実務実習や国家試験を経験していることから、比較的学生に近い立場の教員として学生の意見を学部の運営にも活かしていけるよう努力していきたい。

これからの薬剤師に求められる資質の１つとして「研究マインドを持った薬剤師」が挙げられる。実際に病院薬剤師として勤務していると、様々な職種の医療スタッフが専門性をそれぞれ発揮する「チーム医療」において「薬剤師の視点」が他の職種から強く求められていると感じることが多くある。薬学部の学生は共用試験や国家試験に合格することにばかり目を向けがちだが、学部の学生のうちに研究に触れておくことは、将来の選択肢を増やすとともに薬剤師として働くために必要な資質や生涯学び続ける姿勢を養う上で非常に大切である。私が実務系の教員とし現場の薬剤師の視点を生かして研究活動を行うことで、今後、薬剤師となっていく学生に「研究」を身近に感じてもらうことができると考えている。さらに研究に興味を持った学生が、将来薬剤師として活躍する中で自分自身の視点で臨床現場における問題点を見つけ発信できるように、そして、1人1人の学生が医療現場で必要とされる存在となれるような指導を行いたいと思っている。その結果として長崎国際大学薬学部を、薬剤師として活躍するために必要不可欠となる「問題解決能力」を醸成する大学としての位置づけを確固としたものとすることに微力を注ぎたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/45(前期)	1.5	2	⑪
総合演習ⅢＢ	2/45(前期)	2	8	⑪
専門演習Ⅰ	2/60(通年)	3	70	⑪
専門演習Ⅰ	2/60(通年)	3	5	⑪
専門演習Ⅱ	1/30(通年)	1.5	105	⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	⑪
実務実習（病院・薬局）	0/60(通年)	20	104	⑪
専門演習ⅢA	1/45(前期)	1.5	95	⑪
専門演習ⅢB	2/45(後期)	2	77	⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑪
薬事関係法規演習	4/8(前期)	0.5	44	①⑪
薬事関係法規演習	7/15(前期)	0.5	44	①⑪
病院薬学	5/15(後期)	1.5	95	①②⑪
薬事関係法規	8/15(前期)	1.5	80	⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	⑪
医療コミュニケーション	33/36(後期)	2	75	⑪
処方解析	33/33(後期)	2	75	⑪
処方解析	33/33(後期)	2	75	⑪
総合実習	19/19(後期)	1	76	⑪
学際連携と地域の理解	1/15(前期)	2	250	②③
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	②③
教養セミナー	8/15(後期)	2	5	②③
ホスピタリティ演習Ⅳ	2/8(前期)	0.5	77	⑫
ホスピタリティ演習Ⅲ	3/10(後期)	0.5	75	⑫

調剤Ⅰ	32/42(前期)	2	76	⑪
調剤Ⅰ	32/42(前期)	2	76	⑪
調剤Ⅱ	29/36(前期)	2	76	⑪
調剤Ⅱ	29/36(前期)	2	76	⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	1/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートにおいては、概ね高い評価が得られていたが、まだまだ改善の余地はありそうなので実際に受講している学生の声を聞きながら細かい改定を行っていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合実習（無菌操作）の補習	6	50	2025/12/7～9
6年成績下位者に対する補講	1	50	2025/5/23
6年成績下位者に対する補講	1	50	2025/6/1
6年留年生に対する補講	1	10	2025/4/28

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 薬剤師業務に関する各種臨床研究
② ケミカルハザードドラッグによる職業曝露を軽減するための研究
③ アスリートのドーピング防止に関する研究
④ 若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
⑤ 新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	10	3	3	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

薬剤師の視点からみた錠剤・カプセル剤の包装個数に関する意識調査：扱いやすさと調剤過誤リスクを考慮した理想的包装個数の検討／2025年／医療薬学、2025 年51 巻9 号／541-549／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

離島における薬剤師不足の解消を目的とした離島就労薬剤師の実状に関する横断研究／2025年 11月／第6回長崎県薬剤師学術大会

セルフメディケーション推進を目的とした医薬品等の使用実態や知識に関するアンケート／2025年 11月／第6回長崎県薬剤師学術大会

NDBを用いた薬局における患者一元管理に関する都道府県や2次医療圏単位での実態調査および患者の使用薬剤数に及ぼす影響／2025年 11月／第30回日本薬剤疫学会学術総会

全国レセプトデータを用いた「かかりつけ薬剤師」制度創設前後の処方一元管理状況の比較と一元管理患者の特徴について／2025年 11月／第30回日本薬剤疫学会学術総会

安全で安心なセルフメディケーションの実践に向けたOTC医薬品の使用実態調査／2025年 9月／レギュラトリーサイエンス学会

保険薬局における後期高齢者(75歳以上)の多剤併用に関する調査研究／2025年 9月／第84回九州山口薬学大会

小学生への薬教育の有用性と医薬品使用経験が与える影響／2025年 6月／フレッシャーズカンファ

新型コロナ期の外来標準用量換算人数 ～NDBを用いた観察的時系列研究～／2026年3月／日本薬学会146年会

コロナ禍が病院薬剤師業務に与えた影響：NDBオープンデータの分割時系列解析／2026年3月／日本薬学会146年会

後期高齢者における老年症候群自覚症状と多剤併用との関連：薬局横断研究に基づく多変量解析／2026年3月／日本薬学会146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NDB と次世代医療基盤法DB の連結における課題抽出と連結DB利用による薬剤有用性・安全性の研究	厚生労働科学研究費補助金令和7年度政策科学総合研究事業（臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業）	2025/4-2028/3	0万円
COVID-19蔓延が地域外来薬物療法に与えた影響に関する深層学習解析	科学研究費助成事業基盤研究(C)	2025/4-2028/3	0万円
セルフメディケーション推進のための実態調査と教育プログラムの構築	科学研究費助成事業若手研究	2025/4-2028/3	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部進学に向けた高校生セミナー in 佐世保

智翔館とのタイアップ企画 ～未来をひらく“まなび”の力～「トップリーダーと学ぶワークショップ2025」
「薬剤師体験教室」

薬事日報掲載2回

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第105回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席

2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県立長崎南高等学校　未来デザインスクール	10月21日	長崎南高等学校	長崎南高等学校
～未来をひらく“まなび”の力～「トップリーダーと学ぶワークショップ2025」	12月11日	智翔館佐世保駅前校	智翔館佐世保駅前校
九州文化学園中学校キャリア学習	12月10日	長崎国際大学	九州文化学園中学校
キッズキャンパス　薬剤師体験教室	11月1日	長崎国際大学	長崎国際大学
東彼大村薬剤師会　こども薬剤師体験	10月26日	長崎中央調剤薬局	東彼大村薬剤師会
長崎県高校生薬剤師セミナー	2月7日	長崎国際大学	長崎県
長崎県薬剤師会学術研究ワークショップ	5月17日	佐世保市薬剤師会	長崎県薬剤師会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

卒業研究学生の指導や昨年度から始めたデータベース研究において学会発表をすることができた。これらの結果を論文化していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 相田　美和

１．教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
裁判化学	15/15(前期)	1.5	1	②⑨
総合演習ⅢＡ	2/27(前期)	1.5	2	②
総合演習ⅢＢ	4/27(前期)	2	8	②
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	②
専門演習Ⅰ	6/40(通年)	3	5	②
専門演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	105	②
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	⑥⑪
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	②
専門演習ⅢB	4/30(後期)	2	77	②
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	⑥⑪
香粧品学	11/15(後期)	1.5	90	②⑨⑩
裁判化学	15/15(前期)	1.5	94	②⑨
毒性学	15/15(後期)	1.5	95	②
衛生薬学実習	5/7(前期)	1	94	②⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの満足度の項目は昨年度よりも向上した。必須科目の裁判化学（前期）と毒性学（後期）の以前より関連付けるような形で授業することで、理解のしやすさが高まったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	組織発生学	10/10(後期)	1	21

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
専門演習Ⅰ	1	5	5/20

３．研究活動

(1) 研究テーマ

気道における匂い成分の生理作用の解明を目指している。匂い成分は鼻などの嗅覚神経細胞に発現する嗅覚受容体に認識されるとその情報が嗅球に送られて匂いとして感知される。揮発性である匂い成分は吸気として呼吸器と接するが、呼吸器に異所性に発現する嗅覚受容体の働きは不明な点が多い。そこで、ヒト正常気道細胞株と発現する嗅覚受容体およびそのアゴニストを用いて、気道における匂い成分の嗅覚受容体を介した生理作用

を解析する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	10万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
生活環境を阻害する微生物の活動抑制に役立つ『バイオ衛生器具』の評価に関する研究	有限会社ホテイ産業研究所	2025年4月1日～2026年3月31日	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学内実習委員会	委員長	実習の円滑な実施のために、純水装置のメンテナンス等を行った。
国家・CBT対策委員会	委員	5年生専門演習Ⅱ単位認定試験の実施・採点を担当した。
研究等倫理委員会	委員	主に動物実験に関わる申請、報告書等の審査を担当した。
薬学部動物室管理	委員	特になし
教務委員会	委員	1年生学年主任
学生サポート室	室員	前期室員として、対象学生の生活面及び学習面のサポートにあたった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席

2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第106回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	令和元年11月～7年10月	佐世保市長
長崎県都市計画審議会	委員	令和5年7月～現在に至る	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について：授業アンケートの結果は少し上昇しており、一定の成果はあった。国家試験、対策としては、傾向の変化により合わせていく必要を感じた。

研究活動について：卒業研究としても実施しているテーマをまとめる方向で進めている。

大学運営について：担当する委員会の活動は、いずれも滞りなく実施できた。今後も状況に合わせて柔軟な対応することで円滑な運営に貢献する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 髙崎　伸也

１．教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出てから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＢ	1/27(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	①⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	5	①⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	①⑨
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
臨床検査学	15/15(後期)	1.5	90	②⑩
基礎の数学	15/15(前期)	2	36	①②④
学際連携と地域の理解	1/15(前期)	2	250	②④
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床医学概論	15/15(前期)	1.5	87	②⑩
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	93	①②③⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期後期ともに、アンケート結果も4.6-4.8とかなりの高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、今までの疾病関連の講義内容が土台となっているため。おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。また、自分で何を勉強すればいいのか分からない学生を狙って定期試験用の練習問題などを5回に分けて公開したのも学生の勉強意欲の向上に貢献したと考える

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学(1年生)	15/15(後期)	2	30
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学国試対策演習(3年生)	2/2(集中)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母を用いた液–液相分離現象の解明および治療への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

出芽酵母タンパク質の天然変性領域の熱安定性、電荷分布およびコンフォメーションの特性／2025年3月27日／日本薬学会台145年会

出芽酵母の天然変性タンパク質の熱または酸変性操作を含む精製／2025年3月27日／日本薬学会台145年会

天然変性領域内のリン酸化修飾による電荷分布と相互作用の変化に関するドライおよびウェット解析／2025年3月28日／日本薬学会台145年会

Stm1タンパク質内の電荷分布およびリン酸化修飾によるその変化が液-液相分離現象に与える影響／2025年3月28日／日本薬学会台145年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会(薬学科)	幹部委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
学生委員会(薬学科)	委員	保護者会、卒業式、学長カフェなどの運営を行った。
国際交流委員会(全学)	委員	国際交流に関わる内容の決定、学際の弁論大会の運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育協議会	委員	薬学教育協議会薬科学担当教員会議　2025年3月28日に参加した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学祭での出店、オープンキャンパスの広報活動を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第107回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

大学外の講義を受託し、社会貢献した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
大学学祭での弁論大会	弁論大会の運営実施	2025年11月	国際交流委員会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部の数学の入試問題の作成および採点を行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も高評価を得ることができ、現状のスタイルでよいと考えている。また、専門でない科目の基礎の数学などの担当も取り組み問題なく行うことができた。他大学での講義も高評価を得ることができている。研究

面では新たに立ち上げた研究分野で多くの結果を出すことができ、自身及び指導した学生3名の学会発表を行うことができた。また、大学運営では、薬学国試対策、学生委員会、入試作問、国際交流委員会など多岐に渡り貢献できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 中村　沙織

１．教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。
よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	2/23(前期)	2	8	①④⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
機器分析学	7/15(後期)	1.5	80	①②③④
基礎の数学	15/15(前期)	2	20	②③⑨
日本薬局方概論	4/15(後期)	1.5	75	①②③④
分析化学演習	4/12(前期)	0.5	87	①②③④⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	9/15(後期)	2	5	⑥⑦⑩
分析化学・放射線化学実習	8/18(前期)	1	87	①②③④⑤⑩
衛生薬学実習	9/18(前期)	1	94	①②④⑤⑦⑪⑫
生薬学実習	18/18(後期)	1	84	①②③④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（機器分析学）満足度は4.4→4.5→4.6→4.5→4.7→4.8と推移している。今年度はこれまでで最も良い評価を得ることができて安心している。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。

（基礎の数学）満足度は4.6→4.7→4.3→4.3→4.7→4.6と推移している。講義中の様子を見ながら時間配分を調整したり、解説を追加したりした結果、学生の理解を多少は深めることができたと感じる。今後さらに個々の学生にも気を配っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
②脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
③動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
ASAP-MS法による化粧品中紫外線吸収剤の一斉分析法の開発／2026年3月／長崎国際大学論叢第26巻／113頁～118頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	心の健康調査 配慮面談等
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション、プレイスメントテスト、履修の手引き編集等
薬学部学生委員会	委員	特待生継続審査、保護者会・卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	国家試験ツアー担当、5年生学内試験担当、摸試・販売・学内試験準備等
同窓会薬学部問支援委員会	委員	地域の期待に応える実践活動等
安全管理委員会	委員	実験の手引き編集等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部広報受付	受付担当	大学HP掲載のための学部受付

(3) 課外活動の指導等
なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）
なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第108回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園小学校理科教育啓蒙授業	2025年11月6日	九州文化学園小学校	学長裁量経費「理科教育の早期啓蒙と地域への貢献」
小学5年生職業体験会	2025年11月17日	祇園小学校	祇園小学校PTA

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県公共事業評価監視委員会	委員	令和3年6月～現在に至る	長崎県土木部建設企画課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛けている。ポートフォリオを活用し、学生の理解度確認や追加の解説、質問に対する返答を行う等、臨機応変に対応している。主に担当している「基礎の数学」、「機器分析学」

の授業アンケートでは、それぞれ満足度4.6、4.8との評価を得た。
研究面では、研究室所属学生の卒業研究をみる傍ら研究を進め、定期的に学会で研究成果を発表するようにし、論文の投稿につなげていきたい。学生には、卒業研究を通して実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝えるよう心掛けている。
大学運営に関しては、昨年度よりCHサポートセンター運営委員会の委員となり、配慮面談等を担当した。薬学部教務委員会（プレイスメントテスト、履修の手引き編集等）、薬学部学生委員会（特待生継続審査、保護者会等）、薬学部国試CBT対策委員会（国家試験ツアー担当等）、薬学部広報受付担当、同窓会薬学部問支援委員会に参加している。また、2015年より入学試験問題の作成にも携わっている。
社会貢献としては、長崎県公共事業評価監視委員会（2021～）の委員を務めている。また、理科教育の啓蒙や薬剤師の職業紹介のため、小学生を対象とした体験学習等に積極的に参加した

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 吉田　達貞

１．教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を教授するだけにとどまらず、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ・複雑さ・面白さを、物理化学的視点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察できる力を育むことにあります。医療・保健・福祉の担い手として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することこそ、私の教育の根幹です。そのため担当授業では、次の二点を特に重視します。

（1）薬学を理解する上で不可欠な基礎物理化学の概念・原理を踏まえ、広範な生命化学現象を理解する能力を身につけること。

（2）医療や生命現象に関わる膨大な実データを、統計学・確率論およびコンピュータを活用して体系的かつ客観的に整理・分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得すること。

薬剤師が担う医療業務は、言うまでもなくすべて科学的根拠に基づいています。現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことのない問題に直面し、自ら考え抜いて答えを導く力が求められます。したがって、学部低学年の段階から論理的かつ厳密な思考力を鍛えることは、将来、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、生涯にわたる大きな財産になると確信しています。

そのため授業では、単なる公式の暗記ではなく、その背後にある科学的根拠や理論を粘り強く理解する姿勢を身につけてほしいと考えています。その学びを支えることが、私の教育者としての責務です。何よりも学生に寄り添う授業運営を心がけ、信頼関係を築きながら、一人でも多くの学生が高い学習意欲を維持できるよう努めてまいります。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑫
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	70	①⑨⑩
専門演習Ⅰ	6/45(通年)	3	5	①⑨⑩
専門演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	105	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑫
専門演習ⅢB	3/30(後期)	2	77	①⑨
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
物理学演習	12/12(後期)	0.5	29	②③⑨
基礎の物理学	15/15(前期)	2	25	②③⑨
ホスピタリティセミナー	15/15(前期)	2	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー	15/15(後期)	2	5	⑥⑦⑩
専門基礎学習Ⅰ	7/7(通年)	0.5	82	②④⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	5/5(後期)	0.5	85	②⑦
物理化学実習	21/21(前期)	1	95	①④⑧⑩
薬学統計学	15/15(前期)	1.5	80	①②⑨⑩
医療統計学	15/15(後期)	1.5	90	①④⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2	6

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

下記のとおり、担当科目に関する授業アンケートの結果、概ね好評価を得ることができました。しかしながら、今年度も受講者の若干名が単位を取得することができなかったことが非常に残念でなりません。次年度も今年度の配布資料等を見直し、講義動

画の主要部分を抜粋したものを予習教材として反転学習的にmanabaで事前公開し、学生に供して参ります。
・基礎の物理学：満足度4.6, 理解度4.4
・物理学演習：満足度4.6, 理解度4.4
・薬学統計学：満足度4.8, 理解度4.7

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
「基礎の物理学【薬A】」の補習	10	10	2025/4/21, 4/28, 5/12, 5/26, 6/2, 6/9, 6/16, 6/23, 7/7, 7/14
「物理学演習【薬A】」の補習	1	7	2025/12/16

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①レクチンによる分子認識機構の計算科学的解明と精密な機能改変
②分子動力学計算を用いた翻訳終結複合体の分子間相互作用エネルギーの解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	1	1	442万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Three new terpenoids from the fruit peels of Citrus Hassaku Yu.Tanaka.／2025年12月／Journal of natural medicines／10.1007/s11418-025-01983-7／共著／論文

Aggregation-Induced Luminescent 3-Phenylpyrano[4,3-b]quinolizine Derivatives as Photosensitizers with Anti-Cancer Properties.／2025年3月／Molecules／10.3390/molecules30071422／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

MytiLec-1の糖鎖認識機構の 解明に向けた分子改変と 相互作用エネルギー解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

九十九島産ナマコ由来レクチンの分子クローニングと機能解析／2026年3月／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究（C）	日本学術振興会	2024年4月～2027年3月	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター会議	委員	卒業生アンケート、大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」、文部科学省「全国学生調査」の実施に協　力し、その集計結果より、学部内における課題の抽出と対策 の提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	2025年度教育基盤センター紀要にIRセンター部門として薬学部の状況報告を行った。

CAI運用・活用委員会（学科）	委員長	国家試験およびCBT対策としてCAIシステムの運用と整備に従事した。1年生向けのリメディアル科目の登録問題数を1,585問まで拡充した。従前どおりに週 間試験および単位認定試験問題の追加登録も進めた。各学年の学内CAI試験（全52回+付随の追試験10回）の準備とその円滑な実施に努めるとともに、長期休みや実務実習中の課題、留年生向けの課題等の管理を行った。また、メールでの疑義照会の受付に通年対応した。
国試・CBT対策委員会（学科）	委員	4～6年生の各総合演習／専門演習において、CAIを用いた単位認定試験および週間試験、補習を含む課題の準備と円滑な実施、成績集計・解析による今後の動向予測を担当した。
CBT実施委員会（学科）	委員	本学のCBT体験受験、本試験、再試験において、管理者として試験の厳正かつ円滑な実施に従事した。
入学前・初年次教育委員会（学科）	委員	物理・数学系の担当として、入学者の教育教材の選定ならびに入学前教育の一環として課題の添削・フィードバック指導、入学前のオンラインスクーリングを担当した。
図書選定委員会（学科）	委員	専門研究分野の計算科学、情報科学分野に関連した図書選定に携わった。
教務委員会（学科）	委員	新入生に対するmanabaおよび生涯メールの設定補助に従事した。
自己点検・評価委員会（学科）	委員	4次カリキュラム適用入学者の入試形態毎の入学後の学業成績（プレイスメントテストなど）、留年・退学率の比較による入試形態の見直しを実施した。
薬学部内LAN受付担当（学科）	委員	新任教員の先生方のPCおよびWi-fiネットワーク設定のサポートに従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

日本薬学会第146年会（大阪／2026年3月26-29日）における研究成果のポスター発表を所属研究室5年生2名に対して指導した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパス・体験学習主担当/2025年7月20日/本学
②オープンキャンパス・参加/2025年8月3日、8月24日、2026年3月15日/本学
③高校生薬学体験・実験サポート/2025年8月10-11日/本学
④佐世保北中学生薬学体験・実験サポート/2025年7月4日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第109回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学内クリーンキャンパス運動に参加／2025年6月6日、2025年11月22日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学・学長特別表彰／2025年4月1日

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：　2年生の学年主任として初めて担当講義もありましたが、担当の学部講義の授業アンケートの結果は概ね満足のいくものでした。研究室配属の6年生1名が国家試験に合格し、第一希望先に薬剤師として就職できたことに安堵いたしました。その一方、17名の担任学生のうち、4名が原級留置となったことを真摯に受け止め、今後より一層の学修・大学生活面でのサポートをして参ります。

研究活動：　継続中の科研費に加え、分担1件に採択され、実験環境を整備・増強することができました。これを活用し、来年度はさらに研究を発展させて参ります。科研費以外の外部資金の申請にも関連分野の公募があれば、より積極的に挑戦して参ります。

大学運営活動：　CAI運用・活用委員会委員長を拝命してから6年が経過し、属人化していた多くの業務内容を委員の先生方と共有することができました。次年度は任期の区切りになるため、現行のCAIシステムからR8年度導入予定の新システムへの設問移行に注力し、学内試験の引き継ぎが円滑に進むよう努めます。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 大神　正次

１．教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/27(前期)	1.5	2	①②③⑧⑨
総合演習ⅢＢ	0/27(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	0/45(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	0/40(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
専門演習ⅢA	0/23(前期)	1.5	95	①②③⑧⑨
専門演習ⅢB	0/30(後期)	2	77	①⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	59	①③⑥⑨
化学演習	13/13(前期)	0.5	19	①②③⑧⑨
医療コミュニケーション	12/36(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	12/36(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
処方解析	12/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
処方解析	12/33(後期)	2	75	①④⑥⑦
総合実習	21/21(後期)	1	76	①④⑪
基礎の化学	15/15(前期)	2	21	①②③⑥⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	84	①②④⑩
分析化学・放射線化学実習	27/27(前期)	1	87	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

満足度はどの教科でも全体平均と同程度かそれ以上の高い評価を得ており、昨年度よりも改善が見られた。初回の授業後にアンケートを取り、高校までの化学の履修状況や理解度を確認し、学生層に合わせた内容（きわめて基礎的なレベルから応用も踏まえて）で実施したことが良かったように思われる。自由記述欄にも否定的なコメントや改善要求はなく、満足度の高い授業・演習であったと思われる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	基礎科学実習	2/30(前期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
１年生補習（前期）化学演習・基礎の化学	10	30	2025/4/22,5/13,5/27,6/3,6/10,6/17,6/24,7/1,7/8,7/15
１年生補習（前期）薬化学総論	10	40	2025/5月ー7月
１年生補習（後期）有機薬化学１	10	40	2025/10月ー1月
モチベーションアップセミナー	24	30	2025/4月,5月,6月,7月,10月,11月,12月,2026/1月,2月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１）脳由来神経栄養因子の産生促進作用を機序とする新規薬剤の開発

２）薬学教育における学修支援の在り方についての探索的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	7	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Renal BDNF mRNA downregulation in a mouse model of adenine-induced chronic kidney disease／2025年12月／Journal of Oleo Science／74(12):1139-1143, 2025／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

野菜・果物を対象としたBDNF産生促進効果を有する機能性食材の探索／2025年9月14日／第84回九州山口薬学大会

老化促進モデルマウスSAMP10の血清BDNF濃度は加齢に伴い低下する／2025年8月29日／第40回老化促進モデルマウス（SAM）学会学術大会

カンキツを基原とする生薬を含有する漢方薬のうつモデル動物における血中BDNF濃度低下抑制効果／2025年8月24日／第42回和漢医薬学会学術大会

中枢性疾患予防・改善薬シーズの探索に向けたin vitroおよびin vivoに おける赤ビーツのBDNF産生促進効果の検討／2026年3月27日／日本薬学会第146年会（大阪）

アデニン誘発性慢性腎臓病モデルマウスにおける腎BDNF遺伝子発現量の減少／2026年3月28日／日本薬学会第146年会（大阪）

新規抗うつ薬シーズの発見を目指した地域特産カンキツのin vitroに おけるBDNF産生促進効果の検討／2026年3月28日／日本薬学会第146年会（大阪）

スイートオレンジ類の脳由来神経栄養因子BDNF産生促進効果の検討／2026年3月28日／日本薬学会第146年会（大阪）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員	委員	ホスピタリティセミナー主担当（とりまとめ）、プレイスメントテスト化学担当、オリエンテーション準備等
国試・CBT対策委員会	委員	4年生CAI週間試験管理・結果解析等担当、4留生ノートチェック等担当、6留生出欠管理・ノートチェック等管理担当、6留生単位認定試験その他実力試験準備等
CAI運用・活用委員会	委員	4留生CAIチャレンジ実施状況管理、CAI疑義・質問対応、問題精査

教育支援センター運営委員会	委員	教育支援センター環境整備、学生使用状況確認・監督、留年生モチベーションアップ講座実施、モチベーションアップセミナー開催、留年生学生面談、留年生学生対応、学生相談
入学前・初年次教育	委員	入学前教育課題（化学）採点、新入生対象オンライン・スクーリング、新入生対象教育オリエンテーション（4月）
教育支援センター：SA	管理担当	オリエンテーション説明、SA学生募集、SA実施管理・対応窓口
薬学部RI施設管理	施設管理担当者	RI施設管理、安全管理、

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティセミナー ワーキンググループ	委員	薬学科とりまとめ調整役（日程や教室の調整、ビブリオバトル等の実施要領作成、教員および学生への案内）

(3) 課外活動の指導等

薬学部サッカーサークル　顧問及び監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（3回）

R8年度オンライン・スクーリング

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第110回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
エネルギー施設見学会およびワークショップ「どう考える？これからの日本のエネルギー」	9月17日	玄海町次世代エネルギーパーク「あすぴあ」、玄海原子力発電所	経済産業省 資源エネルギー庁・九州経済産業局

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。

大学運営面においては、国試CBT対策委員会、初年次教育などで貢献できていると考えている。特に教育支援センター専任教員として主に留年生の学習面や生活面でのサポートに尽力した。薬学部のSA管理においては、学生間のマッチングや各種連絡事項の伝達、勤務状況の管理などをおこなった。SA/SSともに登録者数および利用実績は前年度に比べて増加した。

研究面では、医療薬学研究室の中島助教と共同して、脳由来神経栄養因子（BDNF）の産生促進作用を機序とする物質の探索研究を進め、研究結果を報告することができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 北川　翔大

１．教育理念

長崎国際大学が建学の理念に掲げている「人間尊重」を基盤とし、確かな知識と豊かな人間性を持つ薬剤師を育成することを目指している。そのために講義や研究活動では、薬剤師国家試験の合格だけでなく、薬剤師として活躍するために必要な能力を身に着けてもらうことを常に念頭においた教育を行う。特に研究活動では、他者と協力して研究を進めていく上で社交性や道徳感を育んでもらうとともに、得られた結果について考察を重ねることで思考力および問題解決能力等も習得して欲しいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	70	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	5	①②③④⑧⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①②③⑧⑨
専門演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	0/30(後期)	2	77	①⑨
化学演習	7/13(前期)	0.5	11	①⑧⑨
基礎の化学	7/15(前期)	2	14	①⑧⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	84	①②④⑩
衛生薬学実習	15/24(前期)	1	94	①②④⑤⑦⑪⑫
生薬学実習	21/21(後期)	1	84	①②③④⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に関するアンケートの結果、授業満足度は4.6～4.9と前年度と同程度の高評価を受けることが出来た。基礎の化学、化学演習では授業の途中にブレイクタイムを挟むことで学生の集中力を高めるように努めた。また、前年度と同様に授業終わりには授業スライドと取り組んだ問題およびその解説をポートフォリオで公開することで、学習効果を高める工夫を行った。

生薬学実習では前年度の経験を活かして、事前説明および実習中の対応をスムーズに行うことができたため、全体的な満足感の向上に繋がったと考えている。

来年度も引き続き、学生の理解度および満足度の向上を目指し、ポートフォリオ上のアンケートを利用したフィードバックに励んでいく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	基礎化学実習	2/30(前期)	1	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学補習	9	88	2025年4月22日、2025年5月13日、2025年5月27日、2025年6月3日、2025年6月10日、2025年6月17日、2025年6月24日、2025年7月1日、2025年7月8日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

天然物からの医薬品シーズの探索研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	10	5	2	2	453万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ファルマシア トピックス『高山植物から見つけた美白のちから』／単著／2025年8月／公益社団法人 日本薬学会／770頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Chemical Structures and Cell Death Inducing Activities of Constituents Isolated from?Hibiscus tiliaceus.／2022年6月／HETEROCYCLES／10.3987/com-22-14679／共著／論文

Anti-Proliferative Effects of Iridoids from?Valeriana fauriei?on Cancer Stem Cells.／2022年11月／International Journal of Molecular Sciences／10.3390/ijms232214206／共著／論文

Azaphilones produced by?Penicillium maximae?with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell.／2023年1月／Genes and Environment／10.3987/com-23-14816／共著／論文

One-Pot Synthesis of Carbazoles by a Domino Reaction Using Microwave Heating and Antiproliferative Activities of Constituents from?Murraya?Plants Against Cancer Stem Cells.／2023年2月／HETEROCYCLES／10.1186/s41021-023-00261-w／共著／論文

Chemical Structures and Cell Death Inducing Activities of the Metabolites of?Aspergillus terreus.／2023年3月／HETEROCYCLES／10.3987/com-23-14814／共著／論文

Cytotoxic activities of alkaloid constituents from the climbing stems and rhizomes of?Sinomenium acutum?against cancer stem cells.／2024年1月／Journal of Natural Medicines／10.1007/s11418-023-01744-4／共著／論文

Chemical structures and cell-death-inducing activities of metabolites produced by?Penicillium maximae.／2024年1月／Tetrahedron Letters／10.1016/j.tetlet.2023.154851／共著／論文

Linderapyrone analogue LPD-01 as a cancer treatment agent by targeting importin7.／2024年1月／Journal of Natural Medicines／10.1007/s11418-023-01774-y／共著／論文

Antihypertensive and Angiotensin I-Converting Enzyme-Inhibitory Effects of the Leaves of Sesamum indicum and Bioactive Compounds.／2024年12月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／10.1248/cpb.c24-00565／共著／論文

Antioxidant and anti-glycation properties of Rehmannia glutinosa leaves.／2025年7月／Journal of Oleo Science／10.5650/jos.ess25126／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ミチヤナギ葉の抗糖化作用と活性成分の探索／2025年9月／日本生薬学会　第71回年会

ヒト角化細胞におけるカシエキスおよび含有タンニン類による抗炎症能とその作用機序解析／2025年11月／第42回日本薬学会九州山口支部大会

ミチヤナギ Polygonum aviculare 葉の抗糖化活性と活性成分の探索／2025年11月／第42回日本薬学会九州山口支部大会

カシエキスおよび含有タンニン類の JAK/STAT 経路活性化阻害による炎症性サイトカイン産生抑制作用／2026年3月／日本薬学会　第146年会

抗糖化活性を示す生薬エキスの探索とコウボクに含まれる抗糖化成分の解析／2026年3月／日本薬学会　第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
特別研究員奨励費	日本学術振興会 科学研究費助成事業	2023年4月 － 2025年6月	180万円
研究活動スタート支援	日本学術振興会 科学研究費助成事業	2024年7月 － 2026年3月	273万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	年度内で4回開催されるオープンキャンパスにスタッフとして従事し、資料配布、ハーブティーの提供などの業務を行った。また、うち1回では高校生および保護者に向けて共同機器に関する説明を行った。
薬用植物園運営委員会	主任	年内に複数回、薬草園の整備作業を実施した。本活動は、オープンキャンパスに向けた環境整備を目的とするとともに、学生が薬用植物に直接触れ、その形態や特性を実地で学ぶ機会を提供することを目的として行った。整備により園内の視認性および安全性が向上し、来訪者に対して良好な見学環境を提供した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第111回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

さくらサイエンスプロジェクトの一環として、将来的な国際共同研究に向けた相互理解と信頼関係の構築のため、モンゴル薬科学大学との交流を行った。本学薬学部の研究環境を最大限活用し、薬用植物の活性成分単離および構造決定、各種活性評価の見学・体験を通じて招聘者の科学的探究心を喚起するとともに、基礎的研究力の育成を図った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関しては、基礎の化学が1年次科目であることを踏まえ、講義の冒頭で前回内容の復習を行うことを徹底している。今年度はこれに加え、計算に用いる基礎的な用語や単位についても丁寧に説明することを心掛け、学生の理解向上に努めた。また、生薬学実習においては、前年度の経験を踏まえて円滑な進行を意識して対応した結果、学生がより実習に集中しやすい環境を整えることができたと考えている。

研究活動に関しては、前年度と同程度の回数の学会発表を行うとともに、科研費の申請も行った。また、共著者として原著論文1報を公表したほか、現在、筆頭著者として1報を執筆中である。さらに、本研究室では所属学生に対して学会発表を目標とした研究指導を行っており、今年度はポスター発表3件、口頭発表1件を実施してもらった。来年度以降も、原著論文の執筆、科研費をはじめとする外部資金の獲得、および学生の学会発表を目指し、継続して研究活動を進めていく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 中島　健輔

1．教育理念

学生一人ひとりの主体性と多様性を尊重し、学ぶ意欲と探究心を育む教育を重視する。知識の習得だけでなく、自ら考え行動できる力を養い、社会で自立して活躍できる人材の育成を目指す。また、対話を通じて互いに学び合う環境を整え、継続的な成長を支援する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	2/15(前期)	1.5	2	②
総合演習ⅢＢ	2/15(前期)	2	8	②
専門演習Ⅰ	2/15(通年)	3	70	②
専門演習Ⅰ	2/15(通年)	3	5	②
専門演習Ⅱ	2/15(通年)	1.5	105	②
実務実習（病院・薬局）	2/15(通年)	20	104	②
専門演習ⅢA	2/15(前期)	1.5	95	②
専門演習ⅢB	2/15(後期)	2	77	②
医療コミュニケーション	11/11(後期)	2	75	②
医療コミュニケーション	11/11(後期)	2	75	②
医療コミュニケーション	11/11(後期)	3	2	②
処方解析	12/12(後期)	2	75	②
処方解析	12/12(後期)	2	75	②
処方解析	12/12(後期)	3	2	②
総合実習	6/6(後期)	1	76	②
ホスピタリティ演習Ⅳ	1/15(前期)	0.5	77	②
調剤学	4/15(前期)	1.5	76	②
調剤Ⅰ	15/15(前期)	2	76	②
調剤Ⅰ	15/15(前期)	2	76	②
調剤Ⅰ	15/15(前期)	3	2	②
調剤Ⅱ	12/12(前期)	2	76	②
調剤Ⅱ	12/12(前期)	2	76	②
調剤Ⅱ	15/15(前期)	3	2	②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケート結果を基に授業内容や指導方法を自己点検し、改善を図った。学生の理解度向上や学習意欲の変化を教育効果として確認した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

末梢組織を作用点とする中枢性疾患治療薬の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
実務実習運営委員会	委員	特になし
OSCE実施委員会	委員	特になし
共同機器委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席

2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第112回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究活動および教育活動ともに満足のいく成果を上げることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 波多江　日成子

１．教育理念

・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/27(前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/27(前期)	2	8	①⑨
専門基礎学習Ⅱ	9/9(通年)	0.5	2	②④⑨⑩
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	70	①②④⑨
専門演習Ⅰ	1/45(通年)	3	5	①②④⑨
専門演習Ⅱ	0/23(通年)	1.5	105	①②③
専門演習ⅢA	1/27(前期)	1.5	95	①④⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	1/30(後期)	2	77	①⑨
コンピュータ基礎ⅠB	11/15(後期)	1	78	②④⑪
化学演習	7/12(前期)	0.5	11	①⑧⑨
総合実習	18/21(後期)	1	76	①④⑪
ホスピタリティ演習Ⅱ	3/8(前期)	0.5	95	①④⑥⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	9/9(通年)	0.5	96	②④⑨⑩
基礎の化学	8/15(前期)	2	14	①⑨
物理化学実習	21/21(前期)	1	95	①④⑧⑩
調剤Ⅱ	12/66(前期)	2	76	①②④⑪
調剤Ⅱ	12/66(前期)	2	76	①②④⑪
臨床生理学実習	21/24(後期)	1	93	①②③⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、課題提出で復習する習慣をつけさせた。更にCAIでも課題を出し、CAIを使った勉強方法を浸透させた。また授業外での補講では、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。アンケートも平均的であった。

臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、独自のアンケートの結果も良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。また、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

コンピュータ基礎IBでも、質問に丁寧に対応し学生の技術向上に努めた結果、アンケートの結果も良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	基礎化学実習	4/30(前期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習　補習	10	48	4/22,5/13,27,6/3,10,17,24,7/1,8,15

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「新規プロテインC活性測定法の開発」

血液凝固抑制因子であるプロテインCは、様々な遺伝子多型が存在し、発現量が低下する変異体や、活性が低下する変異体などがある。現在主流となっているプロテインC活性測定法は、合成基質を用い、活性化プロテインCのプロテアーゼ活性を測定することしかできないため、そこに至るまでの障害を見つけることができない。そこで我々の研究室では、生体内の凝固カスケードを模した測定法で、多くの変異を検出できる測定法を開発している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	7	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

磁気マーカーを用いた新規免疫検査システムの開発／2025年8月30日／第72回日本臨床検査医学会学術集会

プロテインC蛋白質変異体の作成と活性に関する検討／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

磁気マーカーを用いた新規免疫システムによるCRPの検出／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトランの定量的濃度測定法の開発／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

粒子吸着によるアフェレシスを目指した磁気検出システムの構築／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2026年3月28日／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科）	委員	オリエンテーション、3年学年主任
国試・CBT対策委員会（学科）	委員	試験準備、試験監督割り当て
CAI運用・活用委員会（学科）	委員	CAI利用試験の問題確認、修正、3年生の春・夏休み課題の設定、CAI試験設定
CBT実施委員会（学科）	委員	CBTの実施
入試募集委員会（学科）	委員	オープンキャンパス
OSCE実施委員会（学科）	委員	OSCEの実施

同窓会薬学部門支援委員会（学科）	委員長	国試ツアーでの支援物資、学会発表における発表学生への支援金補助、各種花束贈呈

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	欠席
2025/7/10	206	-	第113回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。

研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、プロテインCの変異体発現、精製の条件を検討中である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 福森　良

1．教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	8	①⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	70	①④⑥⑨
専門演習Ⅰ	14/45(通年)	3	5	①④⑥⑨
専門演習Ⅱ	9/23(通年)	1.5	105	①⑨
専門演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	95	①②③④⑧⑨
専門演習ⅢB	10/30(後期)	2	77	①⑨
コンピュータ基礎ⅠB	9/15(後期)	1	78	②④⑪
医療コミュニケーション	31/33(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
医療コミュニケーション	31/33(後期)	2	75	①②④⑥⑦⑨
総合実習	18/21(後期)	1	76	①②④⑥⑦⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	6/15(前期)	1.5	98	①②⑨
機能形態学実習	18/21(前期)	1	86	①②⑥⑦⑩
薬理学実習	21/24(後期)	1	92	①②③④⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「薬理学Ⅲ」「コンピューター演習ⅠB」「コンピューター演習ⅡA」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は薬理学Ⅲ「4.6」、コンピューター演習ⅠB「4.6」の評価であり、昨年度より満足度が上昇し、一定の評価を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患（認知症や統合失調症など）の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに情動・意欲・認知機能におけるエンドカンナビノイドの働きに着目して、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。さらに、精神疾患における新規治療薬の可能性を探索しています。このように、精神疾患発症のメカニズムについて、脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Alteration of brain endocannabinoids on restraint stress-induced anxiety-like behaviors in mice.／2026年3月／Physiol Behav／doi: 10.1016/j.physbeh.2025.115201.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

慢性拘束ストレス負荷後に発現する情動行動異常における海馬アナンダミドの関与／2025年11月／第42回日本薬学会九州山口支部大会

慢性拘束ストレス負荷マウスにおける情動行動異常に対する5-アミノレブリン酸の改善効果／2025年11月／BPCNPNP2025合同年会

Reduction of the hippocampal anandamide in mice exposed to chronic restraint stress.／2026年3月／第99回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	高校での進路ガイダンス及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器・動物室の管理運用を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画・運営を行った。
薬学部CAI運用活用委員会	委員	4年生の週間試験の運用を行った。
薬学部動物管理委員会	委員	薬学部動物室の適切な運営・管理を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、管理・監督を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第114回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育面においては、「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は「4.6」の評価であり、昨年度より上昇して一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

・大学運営面においては、薬学部委員として、就職ガイダンスや薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努めた。また、薬学部入試募集委員として高等学校に直接伺い「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。

・研究面においては、筆頭論文が1報にアクセプトされた(Physiology & Behavior., in press)。さらに、１報の投稿に向けて準備を進めており、今年早い時期での投稿を目指して作成している。また、４件の学会で口頭・ポスター発表を行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 李　政洙

１．教育理念

有機化学は「手を動かして学ぶ学問」だと考えている。教科書の知識だけではなく、実験を通じて反応がどのように進むのかを自分の目で確かめることが、理解を深めるために大切な段階だと思う。実験の中で試薬の変化を観察したり、思いがけない結果に直面したりすることで、知識がより実感を伴ったものになると考えている。

実習では、単に決められた手順をこなすのではなく、「なぜこの操作が必要なのか」「どんな工夫ができるのか」を考えることを大切にしている。反応条件を少し変えるだけで結果が大きく変わることもあり、それを実際に体験することで有機化学の奥深さを感じてもらいたいと思っている。

また、研究室での実験指導では、実験が思い通りに進まないことも学びの一部であることを伝えている。失敗したときこそ、その原因を探ることで新しい発見につながることもある。有機化学は、繰り返し実験を重ねることで理解が深まる学問であることから、学生が自ら試行錯誤しながら学び、実験の楽しさを実感できるような環境を作ることが、私の教育の大切な役割だと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数（開講時期等）	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業を持ってない為、該当なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数（開講時期等）	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ペプチドにおける脱硫黄的ホウ素化反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Desulfurative borylation enables efficient synthesis of boronoalanine／2025年8月／The European Peptide Synthesis Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会(薬学部)	委員	会議参加、OSCE実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①江南SKY語学院・リードウィン大学説明会参加/2025年11月/韓国(ソウル・天安)

②第2回KISA日本留学フェア参加/2025年2月/韓国(釜山)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	-	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	-	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	-	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	-	第115回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

［江南SKY語学院夏研修］薬学実習体験の韓国語資料作成及び授業通訳、授業準備、補助を行った(2025年8月)。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

助教就任2年目として、有機化学実習、生薬学実習、実務実習事前学習における補助および学生指導を担当するとともに、試験監督やOSCEの実施などの大学業務にも従事した。研究活動においては海外学会での発表を行うことができ、今後の研究発展に向けた一歩を踏み出すことができた。また、韓国人対象の体験学習への参加に加え、韓国における大学広報活動にも携わり、韓国人教員としての役割を果たした。今後も多様な活動に積極的に取り組み、教育・研究の両面においてさらに成長していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 小櫻　竜騎

１．教育理念

長崎国際大学の掲げる「人間尊重」とホスピタリティの理念に基づき、専門知識と技能のみならず、知性・感性・人間性を兼ね備えた人材の育成を重視している。教育においては、学生一人ひとりの個性を尊重し、主体的に学び、課題を発見・解決する力を養うことを目標としている。また、少人数教育の特性を活かし、対話を通じて理解を深めるとともに、他者を思いやる姿勢や協働する力の涵養に努めている。

さらに、地域社会および国際社会に貢献できる人材の育成を意識し、専門教育とともに幅広い視野の獲得を促す指導を行えるように努めている。特に薬学教育においては、高い倫理観と責任感を備え、患者中心の視点を持ってチーム医療に貢献できる人材の育成を重視している。そのため、知識の修得にとどまらず、臨床現場を意識した実践的思考力の育成にも力を入れている。今後も、学生の成長を支援しながら、社会の変化に対応できる医療人の育成に貢献していきたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は授業担当がなかったため、授業アンケートの実施および直接的な授業評価の対象とはなっていない。しかし、教育補助や研究指導を通じて学生との関わりを持つ中で、学生の理解度や反応を把握し、説明方法や指導内容の改善に努めている。今後、授業を担当する際には、授業アンケート等を活用しながら継続的な授業改善と教育効果の向上に取り組みたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1994年に日本国内で開始された重粒子線治療は、これまでに43,000人以上のがん患者に対して実施されており、「がん研究10か年戦略（第5次）」でも、粒子線治療の臨床的有用性の確立が重点課題として位置づけられている。

重粒子線治療は、従来のX線やガンマ線などの光子線治療と比較して、物理的な線量集中性および高LETによる高い生物学的効果（RBE：Relative Biological Effectiveness）を有しており、特に腺がん系や肉腫系のような放射線抵抗性腫瘍において局所制御率や5年生存率の向上が報告されている。一方で、がんの病態の多様性や複雑性のため、効果予測因子に基づいた適応や照射条件の最適化は依然として困難であり、照射効果や正常組織障害を個別に予測・制御する手法は確立されていない。そのため、照射後の正常組織や腫瘍の反応を非侵襲的に評価し、個々の患者に応じた最適な照射線量や治療計画を導き出すための診断技術の確立が求められている。

私たちは、腫瘍のDNA合成能や放射線感受性を反映しうる核医学的トレーサーを用いて、正常組織障害および治療効果を外部から早期に可視化・定量化し、重粒子線治療における個別最適な照射線量設定の可能性を検討している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

The optimization of radiation dose by understanding normal tissue damage and tumor characteristics caused by nucleic acid derivatives／2025年9月3日／若手支援技術講習会

重粒子線治療における早期診断と治療効果を示すトレーサーの開発／2025年10月4日／第62回放射線影響懇話会

核酸誘導体による重粒子線治療効果の 早期評価と線量最適化／2025年11月15日／第42回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	出席
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	出席
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	欠席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第116回新着人教員研修会	出席
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	欠席

2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は助手として着任間もないこともあり、活動の中心は研究に置き、主に学会発表を通じて研究成果の発信に取り組んだ。一方で、教育活動や大学運営活動、社会活動、国際交流等への関与は限定的であり、今後の課題として認識している。日常の業務を通じて、教育・研究・運営が相互に関連しながら大学活動を支えていることを理解し、各分野にバランスよく貢献していく必要性を実感した。

今後は、委員会活動への参加を通じて大学運営への関与を深めるとともに、研究面では論文作成や海外学会発表に積極的に取り組み、研究成果の質および発信力の向上を図りたい。また、教育活動にも主体的に関わり、学生指導力の向上に努めることで、大学全体の教育・研究水準の向上に貢献していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 7（2025）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 福成　温

１．教育理念

私は本学の特徴的な教育である、他者を思いやる気持ち「ホスピタリティ」を有し、高度な薬学的専門性を生かし医療現場で活躍できる薬剤師を育てることに重点をおいている。薬剤師免許を有する薬学研究者として大学での教育活動や研究活動に従事し、学生の国家試験合格を念頭に置いた教育の実践を心がける。大学で学ぶことのできる論理的思考力の身に付け方や最先端の薬学研究に触れることによる研究者としての薬学・医療へのアプローチ方法を伝授する。長崎の佐世保という地方から、世界へ羽ばたく人材育成を目標に、国家試験合格のアドバイスや学生生活の悩みにも対応できる教員として学生へ真摯に向き合っていく所存である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業を実施していないため、なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

アミロイドーシスの病態解析と治療法の開発　健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

RADA16によるアミロイド前駆タンパク質の線維形成促進効果の検討／2025年10月／第12回日本アミロイドーシス学会学術集会

Purpureocillium atypicola 抽出物による薬剤耐性慢性骨髄性白血病細胞の増殖抑制効果／2026年3月／日本薬学会第146年会

日本産虫草の薬剤耐性多発性骨髄腫に対する増殖抑制効果の検討／2026年3月／日本薬学会第146年会
眼アミロイドーシスに対するアルギニンのTTR四量体安定化効果の検討／2026年3月／日本薬学会第146年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部　就職委員会	委員	会議への参加、就職説明会の実施
薬学部　地域連携委員会	委員	会議への参加、高校生薬学体験の実施
薬学部　同窓会会薬学部門支援委員	委員	同窓会への事務連絡
薬学部　入試募集委員会	委員	会議への参加、オープンキャンパス運営
薬学部　OSCE実施委員会	委員	会議への参加、OSCEの実施

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2024/4/1	199	1	新着任対象SD・FD	対象外
2025/4/2	200	－	第1回新着任教員研修会	対象外
2025/4/22	201	－	ICT活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2025/4/30	202	2	修学上の配慮が必要な学生に関するSD・FD	出席
2025/4/30	203	3	ハラスメント防止に関するSD・FD	出席
2025/5/12	204	4	研究倫理	出席
2025/6/25	205	－	科研費申請に関する勉強会	出席
2025/7/10	206	－	第117回新着人教員研修会	対象外
2025/7/10	207	5	コンプライアンス（研究費の不正使用防止）について	出席
2025/7/30	208	6	令和6(2024)年度決算の報告と説明	出席
2025/9/2	209	7	利益相反マネジメント　大学における安全保障貿易管理	出席
2025/11/4	210	8	やさしい日本語	出席
2025/11/4	211	9	大学生の自殺予防	出席
2026/1/28	212	10	学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方（第3回新着任教員研修会）	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

第12回日本アミロイドーシス学会　日本アミロイドーシス学会賞　受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

助手3年目としての教育活動と研究活動の両立に努めた。教育活動に関しては実習の補助を主たる業務とし学生の質問対応や手技の評価、フィードバックを行った。研究活動に関しては、得られた研究成果をまとめ学会発表を4件行うことができた。論文が学会賞を受賞し、優秀演題賞の受賞も経験ができた。今後もアミロイドーシスに関する知識や研究に関する新たな実験手技の取得に励みたい。